

向日市地域防災計画

【資料編】

向日市地域防災計画（資料編）目次

1 共通資料

資料 1-1	向日市防災会議条例	1- 1
資料 1-2	向日市防災会議委員・幹事名簿	1- 3
資料 1-3	向日市災害対策本部条例	1- 4
資料 1-4	災害弔慰金の支給等に関する条例	1- 5
資料 1-5	向日市災害見舞金等給付規則	1- 8
資料 1-6	乙訓二市一町(向日市、長岡京市、大山崎町)消防防災相互応援協定	1-10
資料 1-7	淀川水系の情報共有に関する協定書	1-11
資料 1-8	災害時等の応援に関する申し合わせ	1-14
資料 1-9	京都府広域消防相互応援協定書	1-16
資料 1-10	京都市・乙訓消防組合・向日市消防相互応援協定	1-28
資料 1-11	災害対策基本法に基づく通信設備の利用等に関する協定	1-29
資料 1-12	災害対策基本施行令第 22 条に基づく協定	1-30
資料 1-13	緊急警報放送の要請に関する覚書	1-31
資料 1-14	市町村における緊急警報放送の放送要請手続について	1-33
資料 1-15	災害時における相互援助協定	1-34
資料 1-16	災害時等における医療救護活動についての協定書	1-35
資料 1-17	災害時における物資の供給協力に関する協定書	1-39
資料 1-18	災害時応急工事等の協力に関する業務基本協定書	1-42
資料 1-19	災害時における仮設トイレの設置協力に関する協定	1-43
資料 1-20	災害時における向日市と向日市内郵便局間の相互協力に関する覚書	1-44
資料 1-21	分水協定書	1-45
資料 1-22	日本水道協会京都府支部水道災害相互応援に関する覚書	1-46
資料 1-23	水道施設の災害に伴う応援協定書	1-48
資料 1-24	災害時におけるエルピーガス等の供給に関する協定	1-49
資料 1-25	災害発生時における物資の供給に関する協定書	1-53
資料 1-26	災害発生時における物資の供給に関する協定書	1-58
資料 1-27	災害時における棺等葬祭用品の供給に関する協定	1-60
資料 1-28	災害時における飲料の供給等協力に関する協定書	1-64
資料 1-29	災害時における飲料の供給等協力に関する協定書	1-67
資料 1-30	災害時における輸送車両提供の協力に関する協定	1-68
資料 1-31	災害時における支援協力に関する協定書	1-72
資料 1-32	災害時における地図製品等の供給等に関する協定書	1-76
資料 1-33	災害時における霊柩自動車輸送の協力に関する協定	1-80
資料 1-34	災害時における避難所の相互利用に関する協定書	1-84
資料 1-35	災害時における輸送業務に関する協定	1-87
資料 1-36	京都南部都市災害時相互応援協定書	1-89
資料 1-37	災害時における避難所等施設利用に関する協定	1-91
資料 1-38	災害発生時における福祉避難所の設置運営に関する協定	1-93
資料 1-39	向日市自治会等自主防火防災用器具設置事業補助規則	1-95
資料 1-40	福祉避難所の開設・運営に関する申し合わせ	1-97

資料 1-41	京都市及び向日市「新市街地ゾーン」地域防災に関する協定	1-99
資料 1-42	水害時における一時避難場所としての使用に関する協定	1-103
資料 1-43	向日市浸水防除に係る資機材貸与及び活動費助成要綱	1-105
資料 1-44	自主防火防災組織規約	1-106
資料 1-45	向日市防災協力農地登録制度実施要綱	1-109
資料 1-46	向日市災害ボランティアセンターの設置及び運営に関する協定書	1-112
資料 1-47	災害時における物資の供給に関する協定書	1-114
資料 1-48	災害時における福祉避難所の設置運営に関する協定書	1-118
資料 1-49	災害時等における緊急放送に関する協定書	1-122
資料 1-50	災害時における復旧活動に要する用地の使用に関する協定書	1-123
資料 1-51	災害時における情報提供に関する協定書	1-128
資料 1-52	向日市避難行動要支援者名簿情報の提供に関する覚書	1-131
資料 1-53	災害時における福祉用具等の供給等の協力に関する協定書	1-139
資料 1-54	災害時等における無人航空機の運用に関する協定書	1-142
資料 1-55	特設公衆電話の設置・利用に関する協定書	1-145
資料 1-56	災害時における物資の供給に関する協定書	1-147
資料 1-57	災害発生時における福祉避難所の設置運営に関する協定書	1-149
資料 1-58	災害時における帰宅困難者の受入れ等に関する協定書	1-152
資料 1-59	災害時における情報発信等に関する協定書	1-154
資料 1-60	水害時における一時避難場所としての使用に関する協定書	1-156
資料 1-61	大規模災害時における災害査定業務支援に関する協定	1-158
資料 1-62	大規模災害時における災害復旧支援に関する協定	1-162
資料 1-63	災害時における放送等に関する協定	1-166
資料 1-64	大規模災害時における停電復旧の連携等に関する基本協定	1-168
資料 1-65	災害時における物資の供給等に関する協定書	1-170
資料 1-66	損害調査結果の提供及び利用に関する協定書	1-175
資料 1-67	災害時における物資の供給に関する協定書	1-177
資料 1-68	災害時における物資の供給に関する協定書	1-180
資料 1-69	災害時における応急対策業務に関する協定書	1-183
資料 1-70	災害時における車両貸与等に関する応援協定書	1-188

2 別表

資料 2-1	向日市内官公署等所在地一覧表	2- 1
資料 2-2	府下市町村の電話番号及び所在地	2- 3
資料 2-3	消防本部の所在地及び電話番号	2- 4
資料 2-4	指定行政機関・指定公共機関等一覧表	2- 5
資料 2-5	災害対策本部の業務分掌	2- 8
資料 2-6	指定緊急避難場所・指定避難所・一時避難場所一覧	2-11
資料 2-7	被害程度の認定基準	2-16
資料 2-8	災害救助法による救助の方法、程度、期間等	2-19
資料 2-9	乙訓消防組合職員動員計画	2-23
資料 2-10	京都府衛星通信系防災情報システム構成図	2-28
資料 2-11	防災系非常通信経路	2-29
資料 2-12	「いろは呑龍トンネル」貯留管情報連絡系統図	2-30
資料 2-13	小畑川水防警報・水位情報の連絡系統図	2-30
資料 2-14	桂川下流洪水予報・桂川水防警報・日吉ダム放流情報の連絡系統図	2-31
資料 2-15	主な災害用備蓄物資	2-32
資料 2-16	向日市上下水道協同組合加盟業者	2-33
資料 2-17	向日市財政援助団体	2-33
資料 2-18	応急復旧工事用備蓄資材	2-33
資料 2-19	じん芥収集車台数	2-33
資料 2-20	し尿収集車業者保有台数	2-33
資料 2-21	乙訓環境衛生組合処理施設の現況	2-34
資料 2-22	消防職員	2-34
資料 2-23	向日市消防団	2-34
資料 2-24	消防車両	2-35
資料 2-25	公用車保有状況	2-35
資料 2-26	災害応急対策関係の標識等	2-36
資料 2-27	災害対策基本法施行規則に定める通行規制標識	2-37
資料 2-28	消防警鐘信号	2-38
資料 2-29	水防信号	2-39

3 様式

資料 3-1	概略情報報告書	3- 1
資料 3-2	災害報告及び対策処理票	3- 2
資料 3-3	災害概況即報書（災害対策本部用）	3- 3
資料 3-4	災害概況即報書（京都府提出用）	3- 4
資料 3-5	被害状況報告（1）	3- 7
資料 3-6	被害状況報告（2）	3- 8
資料 3-7	災害危険箇所調査票	3- 9
資料 3-8	緊急車両等確認申請書	3-10
資料 3-9	標章及び緊急通行車両確認証明書	3-11
資料 3-10	緊急通行車両等事前届出書	3-12
資料 3-11	自衛隊災害派遣要請様式	3-13
資料 3-12	自衛隊災害撤収要請様式	3-14

資料 3-13	土砂災害等の被害状況報告	3-15
資料 3-14	河川災害状況報告	3-15
資料 3-15	通行規制報告	3-16
資料 3-16	被災宅地危険度判定関係様式	3-17
資料 3-17	災害等廃棄物処理事業及び廃棄物処理施設の被害状況報告	3-24
資料 3-18	り災証明関係書類	3-25
資料 3-19	救援物資管理表	3-29
資料 3-20	避難情報報告書	3-30
資料 3-21	避難情報伝達様式	3-31

1 共通資料

向日市防災会議条例

昭和 40 年 7 月 24 日

条例 第 9 号

(目的)

第 1 条 この条例は、災害対策基本法（昭和 36 年法律第 223 号）第 16 条第 6 項に基づき、向日市防災会議（以下「防災会議」という。）の所掌事務及び組織を定めることを目的とする。

(所掌事務)

第 2 条 防災会議は、次に掲げる事務をつかさどる。

- (1) 向日市地域防災計画を作成し、及びその実施を推進すること。
- (2) 市長の諮問に応じて市の地域に係る防災に関する重要事項を審議すること。
- (3) 前号に規定する重要事項に関し、市長に意見を述べること。
- (4) 前 3 号に掲げるもののほか、法律又はこれに基づく政令によりその権限に属する事務

(会長及び委員)

第 3 条 防災会議は、会長及び委員をもって組織する。

- 2 会長は、市長をもって充てる。
- 3 会長は、会務を総理する。
- 4 会長に事故があるときは、あらかじめその指名する委員がその職務を代理する。
- 5 委員は、次に掲げる者をもって充てる。
 - (1) 指定地方行政機関の職員のうちから市長が委嘱する者
 - (2) 京都府の知事の部内の職員のうちから市長が委嘱する者
 - (3) 京都府警察の警察官のうちから市長が委嘱する者
 - (4) 市長がその部内の職員のうちから任命する者
 - (5) 教育長
 - (6) 消防団長
 - (7) 乙訓消防組合の職員のうちから市長が委嘱する者
 - (8) 指定公共機関又は指定地方公共機関の職員のうちから市長が委嘱する者
 - (9) 自主防災組織を構成する者又は学識経験のある者のうちから市長が委嘱する者
 - (10) 防災会議を円滑にするため、市長が必要と認め委嘱又は任命する者
- 6 委員の定数は、25 人以内とする。
- 7 第 5 項第 8 号から第 10 号までの委員の任期は、2 年とする。ただし、補欠の委員の任期は、その前任者の残任期間とする。
- 8 前項の委員は、再任されることができる。

(専門委員)

第 4 条 防災会議に、専門の事項を調査させるため、専門委員を置くことができる。

- 2 専門委員は、関係地方行政機関の職員、京都府の職員、市の職員、乙訓消防組合の職員、関係指定公共機関の職員、関係指定地方公共機関の職員及び学識経験のある者のうちから、市長が委嘱又は任命する。
- 3 専門委員は、当該専門の事項に関する調査が終了したときは、解任されるものとする。

(幹事)

第 5 条 防災会議に幹事を置くことができる。

- 2 幹事は、防災会議の委員の属する機関等の職員のうちから市長が委嘱又は任命する者。
- 3 幹事は、防災会議の所掌事務について、委員および専門委員を補佐する。
(議事等)

第6条 前各条に定めるもののほか、防災会議の議事その他防災会議の運営に関し必要な事項は、会長が防災会議にはかつて定める。

附 則

この条例は、公布の日から施行する。

附 則 (昭和 47 年 9 月 29 日条例第 20 号)

この条例は、昭和 47 年 10 月 1 日から施行する。

附 則 (昭和 52 年 3 月 31 日条例第 2 号)

この条例は、昭和 52 年 4 月 1 日から施行する。

附 則 (平成 12 年 3 月 30 日条例第 8 号)

この条例は、平成 12 年 4 月 1 日から施行する。

附 則 (平成 13 年 3 月 21 日条例第 4 号) 抄

(施行期日)

- 1 この条例は、平成 13 年 4 月 1 日から施行する。

附 則 (平成 25 年 3 月 25 日条例第 3 号)

この条例は、公布の日から施行する。

資料 1-2

向日市防災会議委員・幹事名簿

1 向日市防災会議委員

○会長 向日市長

条 例	職 名	備 考
第2号	京都府山城広域振興局副局長兼乙訓調整監 京都府乙訓保健所長 京都府乙訓土木事務所長	
第3号	京都府向日町警察署長	
第4号	向日市副市長	
第5号	向日市教育長	
第6号	向日市消防団長	
第7号	乙訓消防組合 消防長 乙訓消防組合 向日消防署長	
第8号	N T T 西日本（株）京都支店設備部長 西日本旅客鉄道（株）長岡京駅長 関西電力送配電（株）京都本部京都配電営業所長 大阪ガスネットワーク（株）京滋事業部長 日本郵便（株）向日町郵便局長	
第9号	自主防災組織代表	
第10号	市議会議長 市議会建設環境常任委員長 区長会長 農家組合長会長 乙訓医師会理事 市民代表 向日市社会福祉協議会会長	

2 向日市防災会議幹事名簿

所 属	職 名	備 考
日本郵便（株）向日町郵便局	総務部長	
京都府山城広域振興局	乙訓地域総務防災課長	
京都府乙訓保健所	企画調整課長	
京都府乙訓教育局	局次長	
京都府乙訓土木事務所	河川砂防課長	
京都府向日町警察署	警備課長	
向日市教育委員会	教育部長	
乙訓消防組合消防本部	警防課長	
乙訓消防組合向日消防署	副署長	
向日市役所	ふるさと創生推進部長	
〃	総務部長	
〃	環境産業部長	※ 幹事長
〃	市民サービス部長	
〃	都市整備部長	
〃	教育部長	
〃	危機管理監	
西日本旅客鉄道（株）長岡京駅	副駅長	
関西電力送配電（株）京都本部	京都本部コミュニケーション副長	
大阪ガスネットワーク（株）京滋事業部	導管計画チームマネジャー	
N T T 西日本（株）京都支店	災害対策室次長	

向日市災害対策本部条例

昭和 40 年 7 月 24 日

条例 第 10 号

(目的)

第 1 条 この条例は、災害対策基本法(昭和 36 年法律第 223 号)第 23 条の 2 第 8 項の規定に基づき、向日市災害対策本部に関し必要な事項を定めることを目的とする。

(組織)

第 2 条 災害対策本部長は、災害対策本部の事務を総括し、所部の職員を指揮監督する。

2 災害対策副本部長は、災害対策本部長を助け、災害対策本部長に事故あるときは、その職務を代理する。

3 災害対策本部員は、災害対策本部長の命を受け、災害対策本部の事務に従事する。

(部)

第 3 条 災害対策本部長は、必要と認めるときは、災害対策本部に部を置くことができる。

2 部に属すべき災害対策本部員は、災害対策本部長が指名する。

3 部に部長を置き、災害対策本部長の指名する災害対策本部員がこれに当る。

4 部長は、部の事務を掌理する。

(雑則)

第 4 条 前各条に定めるもののほか、災害対策本部に関し必要な事項は、災害対策本部長が定める。

附 則

この条例は、公布の日から施行する。

附 則 (昭和 47 年 9 月 29 日条例第 20 号)

この条例は、昭和 47 年 10 月 1 日から施行する。

附 則 (平成 8 年 3 月 29 日条例第 3 号)

この条例は、公布の日から施行する。

附 則 (平成 25 年 3 月 25 日条例第 3 号)

この条例は、公布の日から施行する。

災害弔慰金の支給等に関する条例

昭和 49 年 3 月 30 日

条例 第 16 号

目次

第 1 章 総則（第 1 条・第 2 条）

第 2 章 災害弔慰金の支給（第 3 条―第 8 条）

第 3 章 災害障がい見舞金の支給（第 9 条―第 11 条）

第 4 章 災害援護資金の貸付け（第 12 条―第 15 条）

第 5 章 補則（第 16 条）

第 1 章 総則

（目的）

第 1 条 この条例は、災害弔慰金の支給等に関する法律（昭和 48 年法律第 82 号。以下「法」という。）及び同法施行令（昭和 48 年政令第 374 号。以下「令」という。）の規定に準拠し、暴風、豪雨等の自然災害により死亡した市民の遺族に対する災害弔慰金の支給を行い、自然災害により精神又は身体に著しい障がいを受けた市民に災害障がい見舞金の支給を行い、並びに自然災害により被害を受けた世帯の世帯主に対する災害援護資金の貸付けを行い、もって市民の福祉及び生活の安定に資することを目的とする。

（定義）

第 2 条 この条例において、次の各号に掲げる用語の定義は、それぞれ当該各号に掲げるところによる。

- (1) 災害 暴風、豪雨、豪雪、洪水、地震その他異常な自然現象により被害が生ずることをいう。
- (2) 市民 災害により被害を受けた当時、本市の区域内に住所を有した者をいう。

第 2 章 災害弔慰金の支給

（災害弔慰金の支給）

第 3 条 市は、市民が令第 1 条に規定する災害（以下この章及び次章において単に「災害」という。）により死亡したときは、その者の遺族に対し、災害弔慰金の支給を行うものとする。

（災害弔慰金を支給する遺族）

第 4 条 災害弔慰金を支給する遺族の範囲は、法第 3 条第 2 項の遺族の範囲とし、その順位は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 死亡者の死亡当時において、死亡者により生計を主として維持していた遺族（兄弟姉妹を除く。以下この項において同じ。）を先にし、その他の遺族を後にする。
- (2) 前号の場合において、同順位の遺族については、次に掲げる順序とする。

ア 配偶者

イ 子

ウ 父母

エ 孫

オ 祖父母

- (3) 死亡者に係る配偶者、子、父母、孫又は祖父母のいずれもが存しない場合であって兄弟姉妹がいるときは、その兄弟姉妹（死亡した者の死亡当時その者と同じくしていた者に限る。）に対して、災害弔慰金を支給するものとする。

2 前項の場合において、同順位の父母については、養父母を先にし、実父母を後にし、同順位の祖

父母については、養父母の父母を先にし、実父母の父母を後にし、父母の養父母を先にし、実父母を後にする。

3 遺族が遠隔地にある場合その他の事情により、前2項の規定により難しいときは、前2項の規定にかかわらず、第1項の遺族のうち、市長が適当と認める者に支給することができる。

4 前3項の場合において、災害弔慰金の支給を受けるべき同順位の遺族が2人以上あるときは、その1人に対してした支給は、全員に対しなされたものとみなす。

(災害弔慰金の額)

第5条 災害により死亡した者1人当たりの災害弔慰金の額は、その死亡者が死亡当時においてその死亡に関し災害弔慰金を受けることができることとなる者の生計を主として維持していた場合にあっては、5,000,000円とし、その他の場合にあっては2,500,000円とする。ただし、死亡者がその死亡に係る災害に関し既に次章に規定する災害障がい見舞金の支給を受けている場合は、これらの額から当該支給を受けた災害障がい見舞金の額を控除した額とする。

(死亡の推定)

第6条 災害の際現にその場にいた者についての死亡の推定については、法第4条の規定によるものとする。

(支給の制限)

第7条 弔慰金は、次の各号に掲げる場合には支給しない。

- (1) 当該死亡者の死亡が、その者の故意又は重大な過失により生じたものである場合
- (2) 令第2条に規定する場合
- (3) 災害に際し、市長の避難の指示に従わなかったことその他の特別の事情があるため、市長が支給を不適当と認めた場合

(支給の手続)

第8条 市長は、災害弔慰金の支給を行うべき事由があると認めるときは、規則で定めるところにより支給を行うものとする。

2 市長は、災害弔慰金の支給に関し遺族に対し、必要な報告又は書類の提出を求めることができる。

第3章 災害障がい見舞金の支給

(災害障がい見舞金の支給)

第9条 市は、市民が災害により負傷し、又は疾病にかかり、治ったとき（その症状が固定したときを含む。）に法別表に掲げる程度の障がいがあるときは、当該市民（以下「障がい者」という）に対し、災害障がい見舞金の支給を行うものとする。

(災害障がい見舞金の額)

第10条 障がい者1人当たりの災害障がい見舞金の額は、当該障がい者が災害により負傷し、又は疾病にかかった当時においてその属する世帯の生計を主として維持していた場合にあっては2,500,000円とし、その他の場合にあっては1,250,000円とする。

(準用規定)

第11条 第7条及び第8条の規定は、災害障がい見舞金について準用する。

第4章 災害援護資金の貸付け

(災害援護資金の貸付け)

第12条 市は、令第3条に掲げる災害により、法第10条第1項各号に掲げる被害を受けた世帯の市民である世帯主に対し、その生活の立て直しに資するため、災害援護資金の貸付けを行うものとする。

2 前項に掲げる世帯は、その所得について法第10条第1項に規定する要件に該当するものでなければならない。

(災害援護資金の限度額等)

第 13 条 災害援護資金の 1 災害における 1 世帯当たりの貸付限度額は、災害による当該世帯の被害の種類及び程度に応じ、それぞれ次の各号に掲げるとおりとする。

- (1) 療養に要する期間がおおむね 1 月以上である世帯主の負傷（以下「世帯主の負傷」という。）があり、かつ、次のいずれかに該当する場合。
 - ア 家財についての被害金額がその家財の価額のおおむね 3 分の 1 以上である損害（以下「家財の損害」という。）及び住居の損害がない場合 1,500,000 円
 - イ 家財の損害があり、かつ、住居の損害がない場合 2,500,000 円
 - ウ 住居が半壊した場合 2,700,000 円
 - エ 住居が全壊した場合 3,500,000 円
- (2) 世帯主の負傷がなく、かつ、次のいずれかに該当する場合
 - ア 家財の損害があり、かつ、住居の被害がない場合 1,500,000 円
 - イ 住居が半壊した場合 1,700,000 円
 - ウ 住居が全壊した場合（エの場合を除く。） 2,500,000 円
 - エ 住居の全体が滅失若しくは流失した場合 3,500,000 円
- (3) 第 1 号のウ又は前号のイ若しくはウにおいて、被災した住居を建て直すに際しその住居の残存部分を取り壊さざるを得ない場合等特別の事情がある場合には、「2,700,000 円」とあるのは「3,500,000 円」と、「1,700,000 円」とあるのは「2,500,000 円」と、「2,500,000 円」とあるのは「3,500,000 円」と読み替えるものとする。

2 災害援護資金の償還期間は、10 年とし、据置期間はそのうち 3 年（令第 7 条第 2 項かつこ書きの場合は、5 年）とする。

(保証人及び利率)

第 14 条 災害援護資金の貸付を受けようとする者は、保証人を立てることができる。

- 2 援護資金は、保証人を立てる場合は無利子とし、保証人を立てない場合は、据置期間中は無利子とし、据置期間経過後はその利率を延滞の場合を除き年 1.5 パーセントとする。
- 3 第 1 項の保証人は、災害援護資金の貸付けを受けた者と連帯して債務を負担するものとし、その保証債務は、令第 9 条の違約金を包含するものとする。

(償還等)

第 15 条 災害援護資金は、年賦償還、半年賦償還又は月賦償還とする。

- 2 償還方法は、元利均等償還の方法とする。ただし、貸付金の貸付けを受けた者は、いつでも繰上償還をすることができる。
- 3 償還金の支払猶予、償還免除、報告等、一時償還及び違約金については、法第 13 条、第 14 条第 1 項及び第 16 条並びに令第 8 条、第 9 条及び第 12 条の規定によるものとする。

第 5 章 補則

(災害弔慰金等支給審査委員会の設置)

第 16 条 市に、災害弔慰金及び災害障害見舞金の支給に関する事項を調査審議するため、災害弔慰金等支給審査委員会（以下「支給審査委員会」という。）を置く。

- 2 支給審査委員会の委員は、医師、弁護士その他市長が必要と認める者のうちから、市長が委嘱し、又は任命する。
- 3 前項に定めるもののほか、支給審査委員会に関し必要な事項は、市長が定める。

(規則への委任)

第 17 条 この条例の施行に関し必要な事項は、規則で定める。

向日市災害見舞金等給付規則

昭和 50 年 12 月 25 日

規則 第 47 号

(目的)

第 1 条 この規則は、向日市内において暴風、豪雨、洪水、地震、落雷その他異常な自然現象又は火災による被害（以下「災害」という。）を受けた者に対し、災害見舞金等を給付し、自立更生の助長促進の一助とすることを目的とする。

(給付の種類等)

第 2 条 災害見舞金等の種類は、次のとおりとし、災害の程度に応じ、別表に定めるところにより給付するものとする。

- (1) 災害弔慰金
- (2) 災害見舞金
- (3) 災害見舞品

2 別表に規定する災害の程度（死亡及び重傷を除く。）は、官公署等の資料に基づきその程度を決定するものとする。

(給付の対象)

第 3 条 前条に規定する給付は、現に向日市に居住し、かつ、住民基本台帳法（昭和 42 年法律第 81 号）の規定により本市の住民基本台帳に記録されている者が、向日市内において、別表に定める程度の災害を受けた場合を対象とする。

2 前項の規定にかかわらず市長が特別の理由があると認めたときは、災害見舞金等を支給することができる。

3 災害弔慰金は、災害を受けた者の遺族に対し給付し、災害見舞金及び災害見舞品にあつては、世帯主（重傷に係る災害見舞金にあつては本人）に対し給付するものとする。

(給付を受ける遺族)

第 4 条 災害弔慰金の給付を受けることのできる遺族は、配偶者（婚姻の届出をしていないが、本人の死亡当時、事実上の婚姻関係にあつた者を含む。以下同じ。）、子、父母、孫、祖父母及び兄弟姉妹とする。

2 災害弔慰金の給付を受ける遺族の順位は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 死亡者の死亡当時において、死亡者と生計を同じくしていた遺族を先にし、その他の遺族を後にする。
- (2) 前号の場合において、同順位の遺族については、配偶者、子、父母、孫、祖父母、兄弟姉妹の順とする。
- (3) 前 2 号の場合において、同順位の父母については、養父母を先にし、実父母を後にし、同順位の祖父母については、養父母の父母を先にし、実父母の父母を後にし、父母の養父母を先にし、実父母を後にする。

3 前項に定めるところにより同順位の遺族が 2 人以上ある場合は、当該遺族が選任した 1 人に対して給付するものとする。

(給付の制限)

第 5 条 災害救助法（昭和 22 年法律第 118 号）の適用を受けた場合は、同法の規定により救助が行われた災害に係る見舞金等は、支給しない。

2 災害弔慰金の支給等に関する条例（昭和 49 年条例第 16 号）の規定により、同条例に定める災害弔慰金又は災害障害見舞金の支給を受けることができる者には、死亡及び重傷に係る災害見舞金等は、支給しない。

3 災害の発生につき、本人の故意又は重大な過失が認められる場合は、災害見舞金等の全部又は一部を支給しない。

(給付の返還)

第 6 条 市長は、虚偽その他不正な手段により災害見舞金等の給付をうけた者があるときは、その給

付の全部又は一部を返還させることができる。

(その他)

第7条 この規則に定めるもののほか、必要な事項は市長が別に定める。

附 則

この規則は、昭和51年1月1日から施行する。

附 則 (平成6年5月24日規則第19号)

この規則は、公布の日から施行する。

附 則 (平成18年12月1日規則第46号)

この規則は、公布の日から施行する。

附 則 (平成24年7月6日規則第23号)

この規則は、平成24年7月9日から施行する。

別表

災害見舞金等給付基準表

	災害の程度	給付額等	給付単位
災害弔慰金	死亡	20万円	1人当り
災害見舞金	重傷 (療養に要する日数が1月以上)	7万円	1人当り
	家屋が全焼、全壊、流失した場合	自家13万円 借家7万円	1世帯当り
	家屋が半焼、半壊、土砂竹木等のたい積等により一時的に居住することができない等の場合	自家7万円 借家4万円	1世帯当り
	家屋が床上浸水等の場合	2万円	1世帯当り
	上記の災害の程度にいたらない場合で、市長が特別の事由があると認めたとき	2万円以内	1世帯当り
災害見舞品	災害により家財道具の損失等により応急の日常必需品を欠く場合	災害の実情に応じて給付	1世帯当り

※ 家屋とは、現実に居住のために使用されている建物(併用住宅を含み、応急仮設住宅を除く。)をいう。

乙訓二市一町（向日市、長岡京市、大山崎町）消防防災相互応援協定

（趣旨）

第1条 この協定は、消防組織法（昭和22年法律第226号）第21条の規定に基づき、向日市、長岡京市、大山崎町（以下「協定市町」という。）の消防防災相互応援について定めるものとする。

（応援の対象）

第2条 相互応援は、火災その他災害及び消防訓練を対象とする。

（応援要領）

第3条 応援は、次に掲げる場合において、消防団等（以下「応援隊」という。）を派遣されるものとする。

- （1）災害発生地の市町村長等から要請されたとき
- （2）協定市町の境界線付近の火災等を認知したとき
- （3）協定市町合同の消防訓練に出動するとき

（指揮）

第4条 応援隊の指揮は、消防長又は消防署長が行う。

（経費の負担）

第5条 応援に要した経費は、次に掲げる区分によって負担するものとする。

- （1）応援側の負担

ア 応援隊が使用した消防機械器具の小破損の修理、機関の燃料、消防団員の諸手当及び被服補償等についての諸経費

イ 応援隊員の死傷に伴う公務災害補償、消防賞じゅつ金（応援市町において定める公務災害補償金及び消防賞じゅつ金とする。）及び弔慰金等の諸経費

ウ 交通事故等における一般人の死傷に伴う損害賠償その他の諸経費

- （2）受援側の負担

応援活動のため、やむを得ない理由により、応援隊が建物施設等に必要な措置を講じた場合の損失補償及び消防機械器具の重大な破損の修理に要する諸経費

- 2 前各号に掲げる経費以外の負担については、そのつど協定市町が協議の上、定めるものとする。（協議）

第6条 この協定に定めのない事項または疑義を生じた事項については、協定市町が誠意をもってそのつど協議の上、定めるものとする。

（実施の細目）

第7条 この協定に定めるものを除くほか、この協定の実施に関し必要な事項は、協定市町が協議の上、定めるものとする。

（有効期間）

第8条 この協定の有効期間は、平成13年4月1日から平成14年3月31日までとする。

- 2 前項の期間満了の1カ月前に、協定市町のいずれからこの協定の改正又は廃止の意思表示がないときは、さらに1年間有効期限を延長するものとし、事後この例による。
- 3 この協定の有効期間中であっても協定市町が協議の上この協定を改正することができる。

この協定の成立を証するため本書3通を作成し、協定市町長記名押印の上各自1通を保有する。

平成13年4月1日

向日市長 ㊟

長岡京市長 ㊟

大山崎町長 ㊟

淀川水系の情報共有に関する協定書

国土交通省近畿地方整備局淀川河川事務所長（以下「甲」という。）と向日市長（以下「乙」という。）は、水文情報、映像情報及び河川管理施設情報など淀川水系に関する情報（以下「水系情報」という。）を甲と乙との間で共有することについて、次のとおり協定する。

（目的）

第1条 この協定は、甲及び乙が収集・処理した水系情報を甲と乙との間で共有し、相互に利用することにより、また必要に応じて住民等に提供することにより、災害による被害の軽減と淀川水系の円滑な管理に資することを目的とする。

（共有する水系情報）

第2条 共有する水系情報は、別紙のとおりとする。ただし、その詳細については、甲及び乙の今後の施設の整備等を踏まえ、その都度調整するものとする。

2 情報共有は常時行うものとする。

3 共有した水系情報は、第1条の目的に使用するものとし、それ以外の目的には使用しないものとする。

4 甲及び乙は、提供する水系情報が適切でないと判断した場合には、その一部又は全部の提供を停止することができる。

5 本協定の締結後に提供する水系情報に変更が生じる場合には、適宜甲及び乙で協議を行い、別紙の内容を見直すものとする。

（共有した情報の第三者への提供）

第3条 共有した水系情報を住民等の第三者に提供する場合には、情報提供元の下承を得るものとする。

2 第三者への情報提供の責任は、情報を提供する者が有する。

（共有した情報の責任）

第4条 甲及び乙は、情報共有によって入手した情報に起因する支障について、乙又は甲の責任を問わない。

2 甲から乙に提供される情報は、リアルタイムデータが主であり、近畿地方整備局で用いる公称値とは異なり、かつ後日、値を修正することがある。

（設備の設置・維持管理）

第5条 本協定に基づく施設の設置・維持管理の責任分界点は、別図のとおりとする。

2 責任分界点から甲側の設備の設置は甲が、乙側の設備の設置は乙が行うものとし、設置及び維持・管理に要する費用は施設を設置した者が負担するものとする。

3 甲及び乙は、互いの相手方及び第3者に損害を与えないよう、本協定に基づく設備の設置、維持管理を行うものとする。

万一、相手方及び第三者に損害を与えた場合は、甲又は乙の責任において一切を解決するものとする。

4 甲又は乙の敷地内に設置する設備の設置場所を提供するための費用及び設備を運用するための費用（電気料金等）は、設備の設置されている敷地管理者の負担とする。

（セキュリティ対策）

第6条 甲及び乙は、双方の情報資産を不正なアクセス等から保護するため、情報資産へアクセス制御、ネットワーク制御、ネットワーク管理、ファイヤーウォールの設置等の必要な対策を実施するものとする。

(設備の障害時等の取り扱い)

第7条 甲及び乙は、設備の障害等を発見した場合、情報セキュリティ侵害を発見した場合又は維持管理のために設備の一時停止を行う場合には、事前に相手方に連絡するものとする。ただし、緊急の場合は、事後報告で良いこととする。

(意見交換)

第8条 甲及び乙は、この協定の趣旨に鑑み、共有した情報及びその活動状況等について随時意見交換を行うとともに、必要に応じ共有する情報及びそのあり方について見直しを図るものとする。

(協議事項)

第9条 本協定書に記載のない事項が発生した場合及び記載内容に疑義が生じた場合には、甲及び乙で協議を行うものとする。

(協定の改廃等)

第10条 本協定の有効期限は、平成27年3月31日までとする。ただし、甲及び乙のいずれからでも、本協定の改廃について申し出がないときは、さらに1年継続するものとし当該期間が満了したときも同様とする。

以上協定締結の証として、本書2通を作成し、甲、乙各自その1通を保有するものとする。

平成26年7月1日

甲 国土交通省近畿地方整備局淀川河川事務所長

乙 向日市長

別紙 共有する情報（協定書第2条関係）

◇淀川河川事務所が提供する情報

【河川管理用水文情報】

- ・テレメータ雨量データ、テレメータ水位データ
- ・テレメータダム諸量
- ・レーダ雨量データ

【河川管理用映像情報】

- ・河川管理用カメラ映像の内、配信可能なもの

【河川管理施設情報】

- ・樋門データの内、配信可能なもの

◇向日市から提供する情報

【河川管理用水文情報】

- ・テレメータ雨量データ、テレメータ水位データ

【河川管理用映像情報】

- ・河川管理用カメラ映像の内、配信可能なもの

【河川管理施設情報】

- ・樋門データの内、配信可能なもの

災害時等の応援に関する申し合わせ

国土交通省近畿地方整備局長（以下「甲」という。）と向日市長（以下「乙」という。）は、災害時等において、甲が乙に対する応援が円滑に行われるよう、次のとおり申し合わせを行う。

（目的）

第1条 この申し合わせは、乙が代表する地方公共団体の区域において、災害が発生または、災害が発生する恐れがある場合に、被害の拡大と二次災害防止に資するために、甲が被災直後等の緊急的な対応（以下、「応援」という。）を実施することにより、国民の安全、安心を確保し、民生の安定を保持することを目的とする。

（応援の実施時期）

第2条 甲が応援を行う時期は、次のとおりとする。

- 1 向日市内で重大な災害の発生または、発生する恐れがある場合
- 2 向日市災害対策本部が設置された場合
- 3 その他甲または乙が必要とする場合

（応援の内容）

第3条 災害時等の応援は、次の各号に掲げる内容とする。

- 1 情報の収集・提供（リエゾン [情報連絡員]含む。）
- 2 近畿地方整備局等職員の派遣（緊急災害対策派遣隊含む。）
- 3 災害に係る専門家の派遣
- 4 甲が保有する車両、災害対策用機械等の貸し付け
- 5 甲が保有する通信機械等の貸し付け及び操作員の派遣
- 6 通行規制等の措置
- 7 その他必要な事項

（リエゾンの派遣）

第4条 第2条の各号のいずれかに該当し、乙の要請があった場合または甲が必要と判断した場合に、甲は、乙の災害対策本部等にリエゾンを派遣する。

なお、甲及び乙は、相互の連絡窓口を明確にしておき派遣に関して事前に調整を図るものとする。

（リエゾンの受け入れ）

第5条 乙は、甲から派遣されるリエゾンの活動場所として災害対策本部等に場所等を確保するものとする。

（緊急災害対策派遣隊の派遣）

第6条 第2条の各号のいずれかに該当し、乙の要請があった場合または甲が必要と判断した場合は、甲は、乙が代表する地方公共団体の区域に緊急災害対策派遣隊を派遣する。

なお、甲及び乙の相互連絡は、甲から派遣されるリエゾンを通じて行うものとする。

（緊急災害対策派遣隊の受け入れ）

第7条 乙は、甲から派遣される緊急災害対策派遣隊の活動において必要となる資料（図面等）について、提供の協力をするものとする。

（緊急災害対策派遣隊の報告）

第8条 甲は、派遣した緊急災害対策派遣隊からの調査結果等の報告があった場合は、速やかに乙にその内容を提供するものとする。

（平素の協力）

第9条 甲及び乙は、必要に応じ情報交換に関する防災訓練及び防災に関する地図等の資料の整備に協力するものとする。

（その他）

第10条 この申し合わせに定めのない事項、疑義に関しては、その都度甲及び乙が協議するものとする。

平成 26 年 7 月 7 日

甲 近畿地方整備局長

乙 向日市長

京都府広域消防相互応援協定書

(趣旨)

第1条 この協定は、消防組織法（昭和22年法律第226号。以下「法」という。）の規定に基づき、大規模災害及び特殊災害等が発生した場合における京都府内の市町村及び消防一部事務組合（以下「市町村等」という。）が行う消防の相互応援に関し、必要な事項を定めるものとする。

(対象とする災害)

第2条 この協定の対象とする災害は、法第1条に規定する水火災又は地震等の災害で、災害の発生した市町村等の消防力及び当該市町村等と消防相互応援協定を締結している隣接市町村等の消防力をもってしても、防御困難な災害とする。

(応援の要請)

第3条 応援の要請は、災害の発生した市町村等（以下「要請市町村等」という。）の長又は消防長（以下「要請市町村等の長」という。）が、次に掲げる事項を明確にして他の市町村等の長又は消防長に対し、行うものとする。

- (1) 災害の種別
- (2) 災害発生の日時、場所及び状況
- (3) 必要とする人員、車両、回転翼航空機（以下「ヘリコプター」という。）及び資器材等の種別並びに数量
- (4) その他必要な事項

2 応援の要請を受けた市町村等（以下「応援市町村等」という。）の長又は消防長（以下「応援市町村等の長」という。）が要請を受諾した場合、要請市町村等の長は、次の各号に掲げる事項を明確にして応援市町村等の長に通報するものとする。

- (1) 応援の場所及び集結場所
- (2) 現場最高指揮者の職、氏名及び無線局名
- (3) その他必要な事項

(応援隊の派遣)

第4条 応援市町村等の長は、当該市町村等区域内の警備に支障のない範囲において必要な応援を行うものとする。

2 応援市町村等の長は、応援を行う消防隊等（以下「応援隊」という。）を派遣するときは、応援に関し必要な事項を遅滞なく要請市町村等の長に通報するものとする。

3 応援市町村等の長は、応援の要請に応じることができない場合は、その旨を遅滞なく要請市町村等の長に通報するものとする。

(応援隊の誘導)

第5条 要請市町村等の長は、所属の消防職員又は消防団員を誘導員として応援隊の集結場所に待機させ、応援隊の誘導を行うものとする。

(応援隊の指揮)

第6条 応援隊の指揮は、要請市町村等の長が、応援隊の長に対して行うものとする。

(報告)

第7条 要請市町村等の長は、災害活動の終了後、災害の概要を応援市町村等の長に報告するものとする。

2 応援市町村等の長は、応援活動の終了後、応援活動の結果を要請市町村等の長へ報告するものとする。

(費用負担)

第8条 応援に要した費用については、次の区分により負担するものとする。ただし、ヘリコプターによる応援に係る費用については、別に定めるものがある場合、それによることができるものとする。

- (1) 応援市町村等が負担する経費
 - ア 応援隊員の出動にかかる諸手当、車両等の燃料費その他の経常的経費
 - イ 応援隊員の死傷による公務災害補償費
- (2) 要請市町村等が負担する経費
 - ア 現地で調達した、車両等の燃料費及び化学消火薬剤等の資器材費
 - イ 応援活動中に第三者に損害を与えた場合の賠償費
- (3) 前2号に定める経費以外の経費については、その都度応援市町村等と要請市町村等が協議のうえ、決定するものとする。

(代表消防機関等)

第9条 この協定の円滑な運用を図るため、市町村等を別表に掲げるブロックに区分し、代表消防機関及び各ブロックにブロック幹事消防本部（以下「代表消防機関等」という。）を定めるものとする。

- 2 代表消防機関等は、必要に応じて市町村等間の応援に係る連絡調整を行うものとする。

(代表消防機関等への通報)

第10条 要請市町村等の長は、応援の要請を行ったときは速やかに当該要請市町村等が属するブロックのブロック幹事消防本部の消防長及び京都府へその旨を連絡するものとする。

- 2 前項により連絡を受けたブロック幹事消防本部の消防長は、遅滞なく代表消防機関の消防長へその旨を連絡をするものとする。

(実施細目)

第11条 この協定の実施に関し必要な事項は、別に定めるものとする。

(疑義)

第12条 この協定に定めのない事項又は疑義を生じた事項については、市町村等がその都度協議のうえ、これを決定するものとする。

(改廃)

第13条 この協定の改廃は、市町村等が協議のうえ、行うものとする。

(協定書の保管)

第14条 この協定を証するため、市町村等は、締結合意書に記名押印のうえ、この協定を締結した者（以下、この条において「締結者」という。）の数と同数のこの協定書の正本を作成し、各締結者で各1通を保管するものとする。

附 則

- 1 この協定は、令和2年4月1日から施行する。
- 2 この協定の施行に伴い、平成19年3月12日に締結した「京都府広域消防応援協定書」は廃止する。

令和2年3月27日

京都市長 福知山市長 舞鶴市長 綾部市長 宇治市長 宮津市長 亀岡市長 城陽市長
向日市長 長岡京市長 八幡市長 京田辺市長 京丹後市町 南丹市長 木津川市長 大山
崎町長 久御山町長 井手町長 宇治田原町長 笠置町長 和束町長 精華町長 南山城村
長 京丹波町長 伊根町長 与謝野町長 京都中部広域消防組合管理者 宮津与謝消防組合
管理者 乙訓消防組合管理者 相楽中部消防組合管理者

別表（第9条関係）

ブロック		市町村等
北部 ブロック		・舞鶴市（○舞鶴市消防本部） ・福知山市（福知山市消防本部） ・綾部市（綾部市消防本部） ・宮津市、伊根町、与謝野町（宮津与謝消防組合消防本部） ・京丹後市（京丹後市消防本部）
		・京都市（◎京都市消防局）
南部 ブロック	第1 ブロック	・宇治市（○宇治市消防本部） ・城陽市（城陽市消防本部） ・八幡市（八幡市消防本部） ・京田辺市、井手町、宇治田原町（京田辺市消防本部） ・久御山町（久御山町消防本部）
	第2 ブロック	・向日市、長岡京市、大山崎町（○乙訓消防組合消防本部） ・亀岡市、南丹市、京丹波町（京都中部広域消防組合消防本部） ・木津川市、笠置町、和束町、南山城村（相楽中部消防組合消防本部） ・精華町（精華町消防本部）

備考 ◎は代表消防機関を、○はブロック幹事消防本部を表す。

京都府広域消防相互応援協定実施細目

(趣旨)

第1条 この実施細目は、京都府広域消防相互応援協定書（以下「協定」という。）第11条の規定に基づき、協定の実施に関し必要な事項を定めるものとする。

(応援の要請前の事前連絡)

第2条 協定第3条第1項に規定する応援要請のうち、ヘリコプターによる応援の要請が必要となる場合は、別表第1に掲げる事前連絡基準に基づき、京都市消防局消防航空隊に対して、電話により事前連絡するものとする。

(応援の要請)

第3条 協定第3条第1項に規定する応援の要請は原則として電話により行うものとし、事後速やか第1号様式の応援要請書をファクシミリにより送付するものとする。

2 ヘリコプターによる応援を要請する場合における通報は、協定第3条第2項第1号及び第2号に定めるほか、次の各号に掲げる事項により行うものとする。

- (1) 離発着可能な場所
- (2) 給油体制
- (3) 離発着場における資器材の準備状況
- (4) 他機関の航空機及びヘリコプターの活動状況
- (5) 他の消防本部に対する応援ヘリコプターの要請状況
- (6) 気象状況
- (7) 誘導方法

3 第1項の応援の要請を行う場合で、ヘリコプターによる救急搬送が必要となるときは、当該要請と併せて第2号様式のヘリコプターによる救急搬送連絡票（以下「連絡票」という。）を京都市消防局消防航空隊及び同局指令センターにファクシミリにより連絡するものとする。この場合において、連絡票は、参考資料に基づき作成するものとする。

(応援隊の派遣)

第4条 協定第4条第2項の規定に基づく通報は、次の各号に掲げる事項により行うものとする。

- (1) 出発時刻
- (2) 派遣人員
- (3) 車両、資器材等の種別及び数量
- (4) 応援隊の長の職・氏名
- (5) 到着予定時刻
- (6) その他必要な事項

(報告)

第5条 協定第7条に規定する報告は、次の各号に掲げる事項により行うものとする。

- (1) 要請市町村等の長が、応援市町村等の長に対して行う災害報告は、第3号様式及び第4号様式により行うものとする。
- (2) 応援市町村等の長が、要請市町村等の長に対して行う活動結果報告は、第5号様式により行うものとする。

(応援要請連絡一覧表)

第6条 応援の要請を迅速かつ的確に行うため市町村等を管轄する消防本部は、別表第2によりあらかじめ相互に連絡するものとし、記載内容に変更が生じたときは速やかに他の市町村等を管轄する消防本部に連絡するものとする。

(代表消防機関)

第7条 協定第9条第2項に規定する代表消防機関の役割は、次の各号に掲げるものとする。

- (1) 市町村等との連絡調整
- (2) 京都府との連絡調整及び情報交換
- (3) 応援時における協議等
 - ア 要請市町村等との応援要請に関する協議
 - イ 応援市町村等との協議
 - ウ 要請市町村等と応援市町村等間の連絡調整
 - エ その他必要な事項
- (4) その他必要な事項

(連絡会議)

第8条 市町村等は、協定の適正な運用を図るため必要の都度連絡会議を開くものとする。

(その他)

第9条 この実施細目の実施に関して必要な事項は、市町村等が協議して運用する。

附 則

この実施細目は、令和２年４月１日から施行する。

号
年 月 日

殿

向日市長 印

応 援 要 請 書

京都府広域消防相互応援協定書第 3 条の規定に基づき下記のとおり応援を要請します。

記

① 災害種別	① 火災	② 救急	③ 救助	④ その他
② 災害発生日時	午前 年 月 日 時 分 午後			
③ 災害発生場所				
④ 災害の状況				
⑤ 応援の内容				
⑥ 必要とする人員並びに 車両、資機材等の種別及 び数量				
⑦ 応援の場所及び終結場 所				
⑧ 現場最高指揮者の職・ 氏名				
⑨ 無線局(主運用波)呼出 し名称	基地局		現場指揮者	
⑩ 離発着可能な場所	第 1 順位			
	第 2 順位			

⑪ 給油体制	給油の可否	可 ・ 否
	給油の方法	
	体制作りの 所要時間	
⑫ 離発着場所における資 機材の準備状況		
⑬ 他機関の航空機及びヘ リコプターの活動状況		
⑭ 他の消防本部に対する 応援ヘリコプターの要請 状況		
⑮ 気象状況	天候 風向 風力 M/S 視界 M	
⑯ 誘導方法		
⑰ その他		

注 1 ⑩～⑯については、ヘリコプターによる応援を要請する場合のみ記載すること。

2 災害発生場所の地水利図等、必要な図書を添付すること。

第2号様式（第3条関係）

要請日時 年 月 日 午前・午後 時 分

ヘリコプターによる救急搬送連絡票

(発信先) 京都市消防局消防航空隊 FAX: 075-621-1683 京都市消防局消防指令センター FAX: 075-252-1190 [担当:]	(発信元) 担当課: TEL: 担当者: FAX:
--	---------------------------------

1 ヘリ搬送の理由

--

2 傷病者情報

氏 名		性別	年齢	生年月日	年 月 日
		男・女			
住 所					
傷病名		バイタルサイン			
		意識			
		呼吸	回/分		
医療処置		脈拍	回/分		
		血圧	/mmHg		
		SpO ₂	-%		
特記事項	※ヘリ搬送中、容態変化の可能性があれば必要な対策について記載				

3 ヘリ活動情報

☐ 機体名	あたご (ユーロコプターAS365N)	コールサイン	きょうしょう ヘリ 1
☐ 機体名	ひえい (ユーロコプターAS365N)	コールサイン	きょうしょう ヘリ 2
搬送元 着陸場所	主運用波 1 開局無線 (コールサイン:)		
搬送先 着陸場所	主運用波 1 開局無線 (コールサイン:)		
【持込み医療機器】 ※ 器材名, 重量, 寸法, 駆動方式を記載すること。 ※ 機内に AC 電源有り。			
搬送元 病院情報		搬送先 病院情報	
病院名: (科目:)		病院名: (科目:)	
☎ (連絡員:)		☎ (連絡員:)	
担当医:		担当医:	
【ヘリ搭乗者氏名】 ※ 転院搬送は必ず医師 1 名を搭乗させる。 ※ 原則傷病者の関係者は搭乗させない。		【その他】	

第 3 号様式（第 5 条関係）

災害報告 ー 1（概要表）		
No.	項 目	内 容
1	災害発生場所	
2	災害発生日時	年 月 日 時 分頃
3	災 害 概 要	
4	被 害 状 況	人的被害 死者 行方不明者 負傷者 名 名 名
		物的被害
5	出動車両及び人員	計 台（機）
		計 名
6	活動台数及び人員	計 台（機）
		計 名
7	活 動 概 要	

第4号様式（第5条関係）

災害報告 ー 2（応援活動概要）						
No.	項 目	内 容				
1	災害発生場所					
2	災害発生日時	年	月	日	時	分
3	応援要請日時	年	月	日	時	分
4	応援消防機関					
5	応援開始日時	出動	年	月	日	時 分
		集結場所到着		月	日	時 分
	応援終了日時	引揚	年	月	日	時 分
		帰署（所）		月	日	時 分
6	応 援 車 両 等 { 日別、種別、 数量 }	(活動台数) 計 台 (機)				
7	応 援 人 員 { 日別、部隊別 }	(活動人員) 計 名				
8	応 援 資 機 材 { 種別、数量 }					
9	応援活動概要					
10	特 記 事 項					

第5号様式（第5条関係）

災害報告 ー 3（応援活動概要）						
No.	項 目	内 容				
1	応援開始日時	出動	年	月	日	時 分
		集結場所到着		月	日	時 分
	応援終了日時	引揚	年	月	日	時 分
		帰署（所）		月	日	時 分
2	出 動 車 両 等 { 種別、数量 }	(活動台数) 計 台（機）				
3	応 援 人 員 { 隊 別 }	(活動人員) 計 名				
4	使 用 資 機 材 { 種別、数量 }					
5	活 動 概 況					
6	特 記 事 項					
7	消防機関名及び 指揮者名					

消防（防災）ヘリコプターの要請に係る事前連絡基準

【事前連絡基準作成の目的】

消防ヘリは要請を受けてから出動するまでに10～30分（飛行ルート確認、関係機関への通報、燃料補給、必要器材の選定・積み込み等）要するため、現場到着までの時間をできるだけ短縮できるよう、事案発生段階での各消防本部から消防航空隊への連絡基準を構築しておくもの。

区分		活動内容	事前連絡基準
消防分野	建物火災	・情報収集 (赤外線映像含む)	●建物火災で隣棟へ延焼拡大の恐れがあるとき ●建物火災で飛火警戒が必要なとき ●炎上火災で上空から情報収集がひつようなとき ●延焼建物が以下に該当する場合 →到底用途防火対象物、興業、学校、建物密集地
	林野火災	・情報収集 (赤外線映像含む) ・空中消火	●林野火災を受信（怪煙通報を含む）したとき 受信段階で即連絡を！！
	救助 (山岳等)	・捜索 ・搬送 ・ピックアップ	●災害発生場所から判断して、長時間の搬送やピックアップ活動が予想されるとき (過去に長時間活動を実施した場所である場合など) ●通報内容に以下のキーワードがある場合 →「遭難」、「下山困難」
	救助 (水難)	・捜索 ・搬送 ・ピックアップ	●河川や海岸部等で発生の水難事故を受信したとき ●通報内容に以下のキーワードがある場合 →「流された」、「河川転落」
	救急	・搬送	●ドクターヘリでは対応できない転院搬送等 ●ドクターヘリの養成基準に該当するが、対応出来ない（出動中、夜間など）とき ※ただし、消防ヘリも夜間の活動には、一定制限有り

防災分野	自然	・情報収集 ・人員及び物資搬送	●孤立地域の情報を入手したとき ●洪水による浸水地域が発生したとき ●土砂災害が発生したとき ●地震による複数の火災又は建物の倒壊が発生したとき ●その他、各消防本部で必要と認めるとき（雪害含む） ※必要に応じて航空隊から情報収集活動等の実施を打診することがある
------	----	--------------------	--

※上記以外にも必要と判断される事案は、消防航空隊まで御連絡ください。

<連絡事項の例>

●事故状況 ●事故発生場所 ●負傷者の状況 ●消防隊情報 ●活動障害 ●気象状況

【連絡先】

・京都市消防局消防航空隊：075-621-1834（TEL）

075-621-1683（FAX）

・京都府消防保安課：075-414-4471（TEL）

（京都府への連絡は防災分野で消防ヘリが出動したときのみ）

京都市・乙訓消防組合・向日市消防相互応援協定

京都市長（以下「甲」という。）、乙訓消防組合管理者（以下「乙」という。）及び向日市長（以下「丙」という。）は、消防組織法の規定に基づく京都市、乙訓消防組合及び向日市の消防相互応援に関し、次のように協定する。

（相互応援）

第1条 京都市、乙訓消防組合及び向日市は、京都市及び向日市のそれぞれ他方の区域内において、火災又は救急事故若しくは救助事故（以下「災害」という。）が発生したときは、次の各号に定めるところにより相互に応援するものとする。

- (1) 京都市と向日市との境界付近で災害が発生した場合において、これを覚知したとき、又は応援の要請を受けたときは、当該災害の状況に応じ、必要と認める数の消防隊、救急隊若しくは救助隊（以下「消防隊等」という。）又は消防分団を派遣する。
- (2) 前号に掲げる地域以外の地域で災害が発生した場合において、災害の規模その他特別の事情により応援の要請を受けたときは、当該要請に応じ、必要と認める数の消防隊等を派遣する。

（応援隊の指揮）

第2条 前条の規定により派遣された消防隊及び消防分団（以下「応援隊」という。）の火災防御活動、救急活動及び救助活動の実施については、受援側の消防長が指揮するものとする。

（経費の負担）

第3条 応援に要した経費の負担は、次の各号に定めるところによる。

- (1) 応援隊員の諸手当、車両等の燃料費その他の経常的な経費及び応援隊員の公務災害に係る諸経費は、応援側の負担とする。
- (2) 受援地において発生した一般人の死傷及び建物、工作物の破損等の事故に対する補償費その他の経費は、原則として受援側の負担とする。
- (3) 前2号に掲げる経費のほか、必要な経費の負担については、甲乙丙協議のうえ、そのつど定めるものとする。

（有効期間）

第4条 この協定の有効期間は、平成13年4月1日から平成14年3月31日までとする。

- 2 前項の期間満了の1箇月前までに、甲乙丙いずれからも改定又は廃止の意思表示がないときは、1年間期間を延長するものとし、以降も同様とする。

（その他）

第5条 この協定について疑義又は変更の必要が生じたときは、甲乙丙協議のうえ、そのつど決定するものとする。

この協定を証するため、本書3通を作成し、甲乙丙記名押印のうえ、各自1通を保有する。

平成13年4月1日

甲 京都市長 ㊟

乙 乙訓消防組合管理者 ㊟

丙 向日市長 ㊟

資料 1-11

災害対策基本法に基づく通信設備の利用等に関する協定

災害対策基本法第 57 条に規定する通信設備の利用等に関して京都府知事と西日本旅客鉄道株式会社社長は、同法施行第 22 条の規定に基づき次のとおり協定する。

なお、同法第 79 条の規定に基づく通信設備の使用に関する事務の取扱いについても、本協定を準用する。

昭和 62 年 6 月 1 日

京都府知事 ㊟

西日本旅客鉄道株式会社
代表取締役社長 ㊟

災害対策基本施行令第 22 条に基づく協定

(目 的)

第 1 条 この協定は、災害対策基本法（以下「法」という。）第 57 条の規定に基づき京都府知事が西日本旅客鉄道株式会社（以下「西日本会社」という。）の通信を使用する場合に適用する。

(通信の種類)

第 2 条 京都府知事は、この協定に基づき利用することができる通信の種類は、鉄道電報及び鉄道電話とする。

(申し込み及び承認)

第 3 条 京都府知事が、この協定による鉄道電報又は鉄道電話を使用する場合は、西日本会社の通信設備設置箇所の長に対して、次の事項を申し出て承認を受けるものとする。

(1) 使用する理由

(2) 通信の内容

(3) 発信者及び受信者

第 4 条 西日本会社の通信設備設置箇所の長は、前号による申し込みの内容が法第 57 条の規定に適合し、西日本会社通信で到達可能と認めたとき、その使用を承認するものとする。

(取扱順位)

第 5 条 受け付けた通信の取扱順位は、当該通信の緊急性、通信の内容及び受付時刻の先後等を考慮して、西日本会社において決定するものとする。

第 6 条 西日本会社通信の非常通話及び非常報と当該通信とが競合した場合は、西日本会社通信が優先するものとする。

(通信の利用方)

第 7 条 京都府知事が、西日本会社の通信を利用するときは、原則として、発、受信者とも、も寄駅（駅員無配置駅は除く。）の駅長事務室へ出向して行うものとする。

(免 責)

第 8 条 西日本会社の取扱いにより生じた当該通信の通信上の事故については、西日本会社はその責任を負わないものとする。

(準用及びその周知)

第 9 条 京都府内の市町村長が法第 57 条の規定に基づき当社の通信を使用する場合についても本協定を準用するものとし、その周知は、市町村長については、京都府知事で、駅長については西日本会社社長において、それぞれ行うものとする。

附 則

1. この協定は昭和 62 年 6 月 1 日から昭和 63 年 3 月 31 日まで有効とする。ただし、期間満了の 1 ヶ月前までに相方いずれからも別段の意志表示がないときは、次の 1 ヶ年間この協定は継続するものとする。その後においてもこの例による。
2. この協定の証として、協定書 2 通を作成し、双方がおのおの記名なつ印して、各自その 1 通を保管する。
3. 京都府知事と日本放送協会京都放送局長および株式会社京都放送社長との間に締結された「災害対策基本法に基づく放送要請に関する協定」第 5 条の規定により、必要な事項について、当該放送機関に放送を要請する。

昭和 41 年 5 月 10 日

甲 京都府知事 ㊟

乙 日本放送協会京都放送局長 ㊟

株式会社 京都放送局長 ㊟

緊急警報放送の要請に関する覚書

災害対策基本法に基づく放送要請に関する協定（昭和 41 年 5 月 10 日締結、以下「協定」という。）第 6 条に基づき、京都府知事（以下「甲」という。）と日本放送協会京都放送局長（以下「乙」という。）は、電波法施行規則第 2 条第 1 項第 84 の 2 号に定める緊急警報信号により災害に関する放送（以下「緊急警報放送」という。）を要請する場合の協定の実施について、必要な事項を次のとおり定める。

（緊急警報放送要請の要件）

第 1 条 災害対策基本法第 57 条に基づく緊急警報放送の放送要請は、災害が発生し、又は発生する恐れがある場合で多くの人命、財産を保護するため、避難勧告、警戒区域の設定等、緊急に住民に対して周知する必要がある場合とする。

なお、緊急警報放送中に、次に掲げる事項について、放送要請することができるものとする。

- (1) 職員の動員命令の伝達
- (2) 災害時の混乱を防止するための指示等
- (3) 前各号のほか知事が特に必要と認めるもの。

（緊急警報放送要請の手続）

第 2 条 一時に多数の市町村からの放送要請にともなう混乱を防止するため、市町村（京都市長を除く。以下同じ。）からの緊急警報放送の要請については、原則として京都府知事から行うものとする。

2. 前項の例外措置として、市町村と府との通信途絶など特別の事情がある場合は、市町村長は放送機関に対して直接要請することができるものとする。

この場合市町村長は、事後速やかに知事に報告すると共に、放送機関においては、市町村長の放送要請についてできる限り対応するものとする。

3. 緊急警報放送の要請をするときは、甲は、乙に対して予め電話等により放送要請の予告をした後、文書（別紙様式）により行うものとする。

ただし、緊急を要し、文書による要請をするいとまのない場合は、電話等により別紙に定める事項を明らかにして要請し、事後において速やかに文書を提出するものとする。

（施行期日等）

第 3 条 この覚書は、昭和 61 年 2 月 1 日から施行する。

この覚書の証として、本書 2 通を作成し、双方記名押印のうえ各自 1 通を保有するものとする。

昭和 61 年 2 月 1 日

甲 京都府知事 ㊟

乙 日本放送協会京都放送局長 ㊟

番 号
平成 年 月 日

京都府知事 様

向日市長 ㊟

緊急警報放送の放送要請について

災害対策基本法第 57 条の規定により、次のとおり放送を要請します。

1. 放送を求める理由

- (1) 避難勧告・指示のため
- (2) 各種予警報等の通知のため
- (3) その他 ()

2. 放送内容

3. 希望する放送日時

- (1) 即時
- (2) 日 時 分

4. 災害等の状況（災害の態様、日時、場所等）

5. その他

発信者 職 名
氏 名

連絡先

市町村における緊急警報放送の放送要請手続について

市町村長が、電波法施行規則第2条第1項第84の2号に定める緊急警報信号による災害に関する放送（以下「緊急警報放送」という。）を要請する場合の手続は、次によるものとする。

1. 市町村長が、緊急警報放送の放送を要請する場合は、京都府知事と日本放送協会京都放送局長とが締結した緊急警報放送の要請に関する覚書（昭和61年2月1日締結、以下「覚書」という。）によるところとするが、放送要請に関する連絡の確実、円滑を図るため、次のとおり連絡責任者を定める。

京都府の連絡責任者	京都府総務部消防防災課長
市町村の連絡責任者	あらかじめ京都府知事に届出した者

2. 京都府知事は、市町村の連絡責任者の届出があった場合は放送機関に通知するものとする。
3. 市町村長が緊急警報放送の放送を要請するときは、予め電話等による放送要請の予告をした後、文書（別紙様式）により行うものとする。
ただし、緊急を要し、文書による要請をするいとまのない場合は、電話等により別紙に定める事項を明らかにして要請し、事後において速やかに文書を提出するものとする。
4. 覚書2条第2項に基づき、市町村長から直接放送機関に要請する場合は、前記3に準じた手続によるものとする。

災害時における相互援助協定

(趣旨)

第1条 この協定は、災害時における応急対策の万全を期し、大阪府摂津市と京都府向日市が物資等の相互援助を行うことについて定めるものとする。

(要請)

第2条 災害の発生により援助の要請をすることが必要であると認めるときは、文書をもって次に掲げる事項を明らかにして要請するものとする。ただし、緊急を要する場合は、電話等をもって要請し事後文書を提出するものとする。

- (1) 災害の状況及び要請理由
- (2) 食料、飲料水及び生活必需物資並びに必要とする資器材等の種類、数量
- (3) 必要とする時間
- (4) 希望する場所
- (5) その他必要事項

(業務の実施)

第3条 援助の要請を受けた市は、これを実施するものとする。

(維持管理)

第4条 援助のために要請した資器材等の維持管理については、援助を要請した市が行うものとする。

(経費)

第5条 第3条の業務実施及び前条の維持管理に要した費用は、援助を要請した市が負担するものとする。

(連絡責任者)

第6条 第2条に掲げる要請に関する事項の連絡の確実及び円滑を図るため、次のとおり連絡責任者を置く。

- (1) 摂津市総務部総務課長
- (2) 向日市民生活部環境政策課長

(その他)

第7条 この協定の実施に関して必要な事項、及びこの協定に定めのない事項は双方が協議して定めるものとする。

(有効期間)

第8条 この協定の有効期間は、平成7年8月1日から平成10年7月31日までとする。

- 2 前項の期間満了の1か月前までに、双方からこの協定改正の意思表示がないときはさらに1年間延長するものとし、以後同様とする。

平成7年 8月 1日

摂津市長 ㊟

向日市長 ㊟

他都市との協定締結状況

締 結 市	締 結 日	連 絡 責 任 者
兵庫県豊岡市	平成7年 8月1日	豊岡市企画総務部総務課長
滋賀県近江八幡市	平成7年 9月18日	近江八幡市総務部総務課長
奈良県桜井市	平成7年 9月13日	桜井市市長公室企画課長
和歌山県有田市	平成7年 9月20日	有田市民生部福祉事務所長
福井県敦賀市	平成7年 10月23日	敦賀市総務部総務課長
岐阜県羽島市	平成8年 1月10日	羽島市総務部総務課長

災害時等における医療救護活動についての協定書

向日市、長岡京市、大山崎町及び乙訓消防組合（以下「甲」という。）と一般社団法人乙訓医師会（以下「乙」という。）は、災害時及び事故等における医療救護活動について、次のとおり協定を締結する。

（趣旨）

第1条 この協定は、向日市地域防災計画、長岡京市地域防災計画、大山崎町地域防災計画（以下「地域防災計画」という。）及び救急救助業務に基づき、災害時等における医療救護の万全を期するため、甲が行う医療救護活動に対する乙の協力に関し、必要な事項を定めるものとする。

（医療救護計画）

第2条 乙は、前条の規定による医療救護活動を円滑に実施するため、災害時等医療救護計画を別途策定し、これを甲に報告するものとする。

2 前項の災害時医療救護計画には、次の事項を定めておくものとする。

（1）医療救護班の編成・出動体制

ア 班の医師、看護師その他職種別構成

イ 班の地域別編成・出動体制

（2）地区医師会その他関係機関との連絡体制

（3）医薬品等の備蓄体制

（4）日常訓練

（5）その他必要な事項

（医療救護班の派遣）

第3条 甲は、地域防災計画等に基づき、必要に応じて、乙に医療救護班の派遣を要請するものとする。

2 前項の要請は、次の事項を示した文書又は必要に応じ電話等により行うものとする。

（1）災害発生時の日時及び場所

（2）災害の原因及び状況

（3）派遣を要する班数及び医薬品等

（4）派遣の期間

（5）その他必要な事項

3 乙は、第1項の規定により甲から要請を受けた場合は、速やかに前条に定める医療救護計画に基づき、医療救護班を派遣するものとする。ただし、事故等により医療救護班を派遣できない場合、又は、救護班の活動に際し、班員の安全の確保が著しく困難であると認められる場合においては、この限りではない。

（医療救護班の業務）

第4条 乙が派遣する医療救護班は、甲又は京都府が災害現場等に設置する救護所において医療救護活動を行う。

2 医療救護班の業務は、次のとおりとする。

（1）傷病者等に対する応急処置及び必要な医療等

（2）傷病者等の医療機関への転送の要否及び転送順位の決定

（3）死亡の確認

（医療救護班に対する指揮）

第5条 甲が行う乙が派遣する医療救護班に対する指揮は、乙の長を通じて行う。

(医薬品等の供給)

第6条 乙が派遣する医療救護班が使用する医薬品等は、当該医療救護班が携行するものとする。

(収容医療機関の指定)

第7条 乙は、甲が傷病者の収容医療機関を指定しようとするときは、これに協力するものとする。

(医療費)

第8条 救護所における医療費は無料とする。

- 2 収容医療機関における医療費は、原則として患者負担とする。ただし、収容医療機関において、医療救護に係る医療費の未収が生じたときは、甲は乙と協議し、解決のための適切な措置を講じるものとする。

(医事紛争の処理)

第9条 医療救護班が救護所において行った業務において患者との間に医事紛争が生じた場合又は転送した患者の診療について診療した収容医療機関と患者との間に医事紛争が生じた場合は、乙はただちに甲に連絡するものとする。

- 2 甲は、前項の連絡を受けたときは、速やかに調査し、乙と協議し、解決のための適切な措置を講じるものとする。

(費用弁償等)

第10条 甲の要請に基づき、乙が派遣した医療救護班に係る次の経費は、甲が負担する。

- (1) 医療救護班の派遣に対する報償として、別表第1で定める額
- (2) 医療救護班が携行した医薬品等を使用した場合の実費弁償として別表第1で定める額
- (3) 医療救護班員が医療救護活動に従事したことにより負傷し、疾病にかかり又は死亡した場合(以下「業務災害」という。)の補償として別表第2で定める額

- 2 前項に定める経費の請求については、医療救護活動に関する業務の終了後、別に定める第1号様式により、乙が甲に請求するものとする。

- 3 甲は、前項の規定により請求を受けた場合は、その内容を確認し適当と認められたときは、これを乙に支払うものとする。

(報告)

第11条 乙は、医療救護活動に関する業務実績を、別に定める第2号様式により、甲に報告するものとする。

- 2 乙は、業務災害が発生したときは、別に定める第3号様式により甲に報告するものとする。

(京都府及び京都府医師会との調整)

第12条 甲は、地域防災計画に基づく医療救護活動について、京都府地域防災計画及び京都府と京都府医師会の間で締結された「災害時における医療救護に関する協定」との整合性を図り、その円滑な実施を確保することができるよう京都府と必要な調整を行うものとする。

- 2 乙は、前項による甲の医療救護活動の円滑な実施が確保されるよう、京都府医師会等と必要な調整を行うものとする。

(有効期間)

第13条 この協定の有効期間は平成25年6月1日から平成26年5月31日までとする。ただし、この協定の有効期間満了の日の1月前までに、甲乙いずれからも何ら意思表示がないときは、有効期限満了の日の翌日から起算して1年間この協定は延長され、以後同様とする。

(協議)

第14条 この協定に定めのない事項又はこの協定に関し疑義が生じたときは、甲乙協議してこれを定めるものとする。

(雑則)

第15条 この協定は、締結の日から施行する。なお、平成13年6月1日締結した「災害時等における医療救護活動についての協定書」については、廃止する。

この協定の締結を証するため、この協定書を5通作成し、甲乙両当事者記名押印の上、各自1通を保有する。

平成25年6月1日

甲 向日市長
長岡京市長
大山崎町長
乙訓消防組合管理者

乙 一般社団法人乙訓医師会長

別表第 1（第 10 条関係）

(1) 医療救護班員に対する報償

救護班員	報 償 の 額
医 師 及 び 看 護 師 等	京都府災害救助法施行細則（昭和 38 年京都府規則第 26 号）第 11 条に定める額に準ずる

- (2) 医療救護班が携行した医薬品等を使用した場合の実費弁償
健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法（昭和 33 年厚生省告示第 177 号）
に基づく使用薬剤の購入価格（薬価基準）

別表第 2（第 10 条関係）

救護班員	区 分	補 償 内 容
医 師 及 び 看 護 師 等	業 務 災 害 の 補 償	各市町消防団員等公務災害補償条例に定める額

第 1 号様式～第 3 号様式 略

災害時における物資の供給協力に関する協定書

向日市内に大地震、暴風雨等による災害（以下「災害」という。）が発生し、又は発生するおそれがある場合に対処するため、向日市（以下「甲」という。）と向日市商工会（以下「乙」という。）は、別表に掲げる供給要請物資（以下「物資」という。）の供給協力に関し、次のとおり協定を締結する。

（協力の要請）

第1条 甲は、向日市に災害が発生し、又は発生するおそれがある場合において、物資を調達する必要があると認めるときは、乙に対し物資の供給協力を要請することができる。

（供給協力の実施）

第2条 乙は、前条の規定により甲から供給協力の要請を受けたときは、物資の優先的供給及び運搬の協力を積極的に努めるものとする。

（要請の手続）

第3条 甲は、乙に対し、物資の供給協力の要請をしようとするときは、文書をもって行うものとする。ただし、文書をもって要請するいとまがないときは口頭で要請し、その後すみやかに文書を提出するものとする。

（連絡責任者）

第4条 要請に関する事項の連絡の確実及び円滑を図るため、次のとおり連絡責任者を置く。

甲 向日市市民部環境対策課長

乙 向日市商工会事務局長

（価格の決定）

第5条 物資の取引価格は、災害発生直前時における適正な価格（引き渡しまでの運賃を含む。）を基準として、甲、乙協議して決定するものとする。

（物資の引渡）

第6条 物資の引き渡し場所は、甲が指定するものとし、甲は当該場所に職員を派遣し、物資の品目、数量等を確認のうえ引き渡しを受けるものとする。

（代金の支払い）

第7条 甲は、乙から供給を受けた物資の代金を、乙の請求に基づき支払うものとする。

（供給可能数量の報告）

第8条 乙は、この協定の成立の日及び毎年4月1日現在の物資の供給可能数量を別紙「物資供給可能数量報告書」により甲に報告するものとする。

（協 議）

第9条 この協定に定めのない事項については、その都度、甲、乙協議して定める。

（有効期限）

第10条 この協定は、平成8年2月23日から効力を有するものとし、甲又は乙が文書をもって協定の終了を通知しない限り、その効力を持続する。

この協定の成立を証するため、本協定書2通を作成し、双方記名押印のうえ、各自1通を保有する。

平成10年11月 2日

甲 向日市長 ㊟

乙 向日市商工会会長 ㊟

(別 表) 供給要請物資一覧表

主 食	米、粉乳、パン
副 食	漬物、梅干、つくだに、缶詰
そ の 他 食 料	弁当、インスタント食品、ペットボトル入り水・茶
衣 料 等	毛布、テント、シャツ、下着類、作業衣、タオル、軍手、靴下
日 用 品 等	雨具、紙おむつ、生理用品、石けん、飲料水用ポリタンク、洗剤、ちり紙、 なべ・はんごう、やかん、皿、茶わん、はし、スプーン、 ほ乳びん、マッチ、ライター、懐中電灯、乾電池各種、運動靴、 家庭用医薬品セット
燃 料 等	カセットコンロ、カセットボンベ、炭、七輪

(別 紙)

物資供給可能数量報告書

(平成 年 月 日現在)

災害時における物資の供給協力に関する協定書により、当（社、店、組合）の物資供給可能数量を下記のとおり報告します。

平成 年 月 日

向日市長

様

所在地

名称

代表者

電話番号

記

品 名	数 量	参 考 事 項

- (注) 1. 品名については、別表の物資のうち、取扱品名を記入する。
2. 数量には、単位を付する。なお、単位は供給要請時の単位とする。
3. 物資が多数であるときは概数でさしつかえない。
4. 参考事項には、供給に必要な時間や日数、単位の説明、その他供給上参考となる事項を記入する。
5. 弁当等の保存できない物資は、1日当たりの供給可能数量とし、その旨を参考事項に記入する。

災害時応急工事等の協力に関する業務基本協定書

向日市（以下「甲」という。）と向日市商工会（以下「乙」という。）とは、「向日市地域防災計画」に基づき大地震、暴風雨等（以下「災害」という。）の発生が予想される場合の被害の未然防止及び災害が発生した場合の応急措置に係る工事等（以下「災害応急工事等」という。）の実施に関し、次のとおり協定を締結する。

（目 的）

第1条 この協定は、災害時における民間協力の一環として、道路、河川等の公共施設の機能の確保及び回復並びに倒壊家屋居住者の生活の安定を図るため応急仮設住宅の建設について、甲、乙間において基本的事項を定め、もって災害に対し迅速かつ的確に対応することを目的とする。

（協力要請）

第2条 甲は、災害応急工事等を実施する必要があると認めるときは、乙に対し協力を要請するものとする。

2 乙は、前項の協力要請を受けたときは、乙の会員で向日市建設工事入札参加資格者名簿に登載されている業者から災害応急工事等に必要の人員、機械等を出動させ、甲が実施する災害応急措置に協力するものとする。

3 甲が、乙に対して第1項の規程に基づき、協力の要請をする場合は市民部環境対策課が行うものとする。ただし、緊急を要する場合は、環境対策課以外の課等からも乙に対し協力を要請することができるものとする。

（費用の負担）

第3条 甲の要請により、乙が災害応急工事等を実施した場合に要する費用は、甲が負担するものとする。

（被害が生じたときの措置）

第4条 災害応急工事等の実施に伴い、第三者に被害が生じたときは甲、乙に協議して、その処理解決に当たるものとする。

（災害補償）

第5条 第2条の規定により、災害応急工事等に従事した者が、そのため死亡し、負傷し、若しくは疾病にかかり、又は障害の状態になったときのその者又はその者の遺族若しくは被扶養者に対する災害補償については、労働者災害補償保険法（昭和22年法律第50号）を適用するものとする。

（実施細目）

第6条 この協定に関する実施細目は、甲、乙協議して別に定めるものとする。

（協 議）

第7条 この協定に定めない事項又は疑義が生じた事項については、甲、乙協議して定めるものとする。

（有効期間）

第8条 この協定の有効期間は、協定締結の日から平成12年3月23日までとする。

2 前項の期間満了の1月前までに、双方からこの協定改正の意思表示がないときは、さらに1年間延長するものとし、以後同様とする。

この協定の締結を証するため、本協定書2通を作成し、甲、乙双方記名押印のうえ、各自1通を保有するものとする。

平成10年11月 2日

甲 向日市長 ㊟

乙 向日市商工会会長 ㊟

災害時における仮設トイレの設置協力に関する協定

向日市内に大地震、暴風雨等による災害（以下「災害」という。）が発生した場合に対処するため、向日市（以下「甲」という。）と株式会社京都衛生開発公社（以下「乙」という。）は、仮設トイレの設置協力に関し、次のとおり協定を締結する。

（協力の要請）

第1条 甲は、向日市内に災害が発生した場合において、仮設トイレを設置する必要があると認めるときは、乙に対し仮設トイレの優先的な設置協力を要請することができる。

2 乙は、前項の規定により甲から設置協力の要請を受けたときは、その要請に積極的に協力するものとする。

（要請の手続き）

第2条 甲は、乙に対し、仮設トイレの設置協力の要請をしようとするときは、文書をもって行うものとする。ただし、文書をもって要請するいとまがないときは口頭で要請し、その後すみやかに文書を提出するものとする。

（費用の負担）

第3条 仮設トイレの設置及び維持管理に要する費用は、甲が負担するものとする。

（設置場所）

第4条 乙は、甲が指定する場所に仮設トイレを搬送、設置するものとする。

（協 議）

第5条 この協定に定めのない事項については、その都度、甲、乙協議して定める。

（有効期間）

第6条 この協定は、平成9年3月28日から効力を発揮するものとし、甲、乙は乙が文書をもって協定の終了を通知しない限り、その効力を持続する。

この協定の締結を証するため、本協定書を2通作成し、甲、乙双方記名押印のうえ、各自1通を保有するものとする。

平成9年3月28日

甲 向日市長 ㊟

乙 株式会社 京都衛生開発公社 ㊟

災害時における向日市と向日市内郵便局間の相互協力に関する覚書

向日市（以下「甲」という。）及び向日市内郵便局（以下「乙」という。）は、災害によって向日市内に甚大な被害が生じた場合において、甲及び乙が相互に協力し、応急対策等に必要な対応を円滑に遂行するため、次のとおり覚書を締結する。

（用語の定義）

第1条 この覚書において、「災害」とは、災害対策基本法(昭和 36 年法律第 223 号)第2条第1号に定める被害をいう。

（協力要請）

第2条 甲及び乙は、向日市内に災害が発生し、次の事項について必要が生じた場合は、相互に協力を要請することができる。

- (1) 災害救助法適用時における郵便、為替貯金及び簡易保険の郵政事業に係わる災害特別事務取扱い
- (2) 甲又は乙が管理する施設及び用地の提供
- (3) 甲又は乙が収集した被災市民の避難先及び被災状況の情報の相互提供
- (4) 避難場所に臨時郵便差出箱の設置
- (5) その他前各号に定めのない事項で、協力できる事項

（協力の実施）

第3条 甲及び乙は、前条の規定による要請を受けたときは、その重要性に鑑み、協力するよう努めなければならない。

（経費の負担）

第4条 第2条に規定する協力要請に対して、協力をした側が要した経費については、法令その他に別段の定めがあるものを除くほか、それぞれ要請した側が適正な方法により算出した金額を負担する。

- 2 前項の負担につき、疑義が生じたときは、両者が協議をし、負担すべき額を決定する。

（災害情報等連絡体制の整備）

第5条 甲及び乙は、被災者の安否等災害情報等の連絡体制を整備するため、その方策について協議するものとする。

（防災訓練等への参加）

第6条 乙は災害発生に備え、甲が実施する防災訓練等に参加することができる。

（情報の交換）

第7条 甲及び乙は、相互の防災計画の状況及び協力要請事項に関し、必要に応じて情報の交換を行う。

（連絡担当部局及び連絡責任者）

第8条 この覚書に関する連絡責任者は、甲においては向日市市民生活部環境政策課長、乙においては向日町郵便局総務課長とする。

（協 議）

第9条 この覚書に定めのない事項及びこの覚書に関し疑義が生じたときは、両者が協議し決定する。

この覚書の締結を証するため、この書面7通を作成し、甲乙両者が記名押印の上、各1通を保有する。

平成 10 年 9 月 1 日

(甲)	向日市長	㊟
(乙)	向日町郵便局長	㊟
	向日町駅前郵便局長	㊟
	向日町寺戸郵便局長	㊟
	向日森本郵便局長	㊟
	向日物集女郵便局長	㊟
	向日上植野郵便局長	㊟

分 水 協 定 書

京都市（以下「甲」という。）と向日市（以下「乙」という。）とは、災害その他非常の場合における分水等に関し、次のとおり協定を締結する。

第1条 甲は、乙の水道施設が地震、風水害、落雷又はその他の事故により被害を受け、給水に支障を来す恐れが予想されるときは、甲の区域の給水に支障のない限り乙に分水することができる。

第2条 分水の開始は、要請書（第1号様式）により行う。ただし、緊急又はやむをえない事情があると認められるときは、乙からの電話、ファクシミリ又は口頭（通信ができないときに限る。）による要請により行い、後日、速やかに要請書を提出するものとする。

2 分水は、乙が分水終了依頼書（第2号様式）を甲に提出することにより終了する。

第3条 分水は、別表記載の箇所において、甲乙双方が布設したそれぞれの配水管に、乙が準備した水道メーターを接続しておき、第1条に規定する事態が発生したそのつど、甲が仕切弁を開栓することにより行うものとする。

第4条 分水に必要な設備のための工事は、甲の区域内は甲が施行し、乙の区域内は乙が施行するものとする。この場合において、甲の施行に要する費用は、すべて乙の負担とする。

2 前項の規定は、布設替等分水を行うに当たり必要な設備の更新を行うときに準用する。

第5条 甲乙双方は、それぞれが設置した設備を、それぞれが管理するものとする。

第6条 第3条に規定する水道メーターを設置するとき又は取外すとき若しくは仕切弁を開閉するときは、甲乙立会いのうえ行うものとする。

2 前項の立会いに要した費用は、乙が負担する。ただし、地震等の自然災害を原因とする被害に基づく分水のため仕切弁を開閉するときは、この限りでない。

3 甲の第1項の立会いに要した費用の額は、甲が別に定めた特別給水の料金算定要綱第2項の規定を準用して算定した額とする。

第7条 甲乙双方は、仕切弁を開く前及び閉じた後水道メーターの指示水量を確認し、分水量を決定する。

第8条 乙は、分水に係る料金を甲が指定する期日までに納入しなければならない。

2 前項の料金は、分水契約書第4条第2項の規定を準用して算定する。

第9条 乙は、この協定に関連して乙の区域内に設置した甲の水道施設について、その占用に係る費用を徴しない。

第10条 この協定の有効期間は、協定締結日から平成15年3月31日までとする。

2 前項の規定による期間満了までに、甲乙いずれかの意思表示がないときは、期間満了の日の翌日から1年間有効期間を延長するものとし、以後これに準ずる。

3 甲及び乙は、この協定の有効期間中であっても、疑義があるときは、双方協議のうえこの協定を改定することができる。

上記協定の証として本書3通を作成し、それぞれがその1通を保有する。

平成14年3月26日

甲 京都市上下水道事業者 ⑩

乙 向日市長 ⑩

向日市水道事業管理者 ⑩

日本水道協会京都府支部水道災害相互応援に関する覚書

(趣旨)

第1条 この覚書は、地震その他の災害並びに異常渇水及び大規模断水（以下「災害等」という。）が発生した場合において、日本水道協会京都府支部（以下「支部」という。）の会員のうち末尾に押印する府、市及び町（以下「正会員」という。）が、水道事業遂行のために相互間で行う応援活動について必要な事項を定めるものとする。

(応援内容)

第2条 正会員が相互間で行う応援活動は、おおむね次のとおりとし、他の正会員から次条の応援要請を受けた場合は、その能力の範囲において協力に努めるものとする。

- (1) 応急給水作業
- (2) 応急復旧作業
- (3) 応急復旧用資機材の供出

(応援の要請)

第3条 災害等を受けた正会員（以下「被災正会員」という。）が、他の正会員の応援を必要とするときは、次の各号に掲げる事項を明らかにし、電話又はメール等により要請し、事後において応援の要請を承諾した正会員（以下「応援正会員」という。）に文書を提出するとともに、その写しを支部長へ提出するものとする。

- (1) 災害等の日時、場所及び状況
- (2) 応援を必要とする職種別人数並びに機械、器具、車両、資材等の種類及び数量
- (3) 応援場所及び日時
- (4) その他応援に必要な事項

(応援正会員)

第4条 前条に基づき、応援正会員が応援業務に従事する職員（以下「応援職員」という。）を派遣するときは、災害等の状況に応じて必要な食糧、被服等を携行させるものとする。

2 応援職員は、応援正会員を表示する腕章等の標識を着用し、その身分を明らかにするものとする。

(連絡担当部課等の調査)

第5条 正会員は、応援活動を円滑に行うため、次の各号に掲げる事項を毎年4月30日までに支部長に報告するものとする。

- (1) 連絡担当部課等調査表 (様式第1号)
 - (2) 応急給水用具調査表 (様式第2号)
 - (3) 応急備蓄資材調査表（緊急時用応急資材等の保有状況） (様式第3号)
 - (4) 災害発生直後に応援に従事できる職員調査票 (様式第4号)
 - (5) 備蓄資材保管場所 (様式第5号)
- 2 支部長は、前項の調査を京都府に委託し、調査票の取りまとめ及び整理を行ったうえで京都府から各正会員に送付するものとする。

(費用の負担)

第6条 この覚書に基づく応援に要する費用は、法令その他別段の定めがあるものを除くほか、原則として被災正会員が負担するものとする。ただし応援職員に係る人件費及び旅費の負担については別途定める。

- 2 応援職員が応援活動により負傷し、疾病にかかり又は死亡した場合における災害補償は、被災正会員の負担とする。
- 3 応援職員が第三者に損害を加えた場合における賠償責任は、応援活動中に生じたものについては被災正会員が、被災正会員への往復途中に生じたものについては応援正会員が負うものとする。
- 4 前3項の定めにより難いときは、関係正会員が協議して定めるものとする。

(応援体制の組織編成)

第7条 応援体制については、正会員をブロック分けした組織編成とし、支部内において災害等が発生した場合は、組織編成に基づき相互応援すると共に、平常時においても連携を図ることに努めるものとする。

(協議)

第8条 この覚書の実施に関し必要な事項又はこの覚書に定めのない事項については、その都度協議して定めるものとする。

(付則)

この覚書は、平成6年10月1日から適用する。

(付則)

この覚書は、平成11年11月1日から井手町が加入する。

(付則)

変更 平成15年9月1日

(付則)

この覚書の峰山町、大宮町、網野町、丹後町は、合併により削除し、京丹後市が平成16年4月1日から加入する。

(付則)

この覚書の園部町・八木町は、合併により削除し南丹市が、岩滝町は、合併により削除し与謝野町が、及び木津町・加茂町・山城町は、合併により削除し木津川市が平成19年4月1日から加入する。

(付則)

この覚書は、平成30年9月1日から京丹波町が加入する。

この文書の成立は証するため本書23通を作成し、それぞれ記名押印のうえ各自1通を保有するものとします。

平成30年9月1日

京都府企業局長	㊟	福知山市ガス水道事業管理者	㊟
京都市公営企業管理者上下水道局長	㊟	舞鶴市水道事業管理者職務代理者	㊟
宇治市水道事業管理者	㊟	綾部市長	㊟
城陽市公営企業管理者職務代理者	㊟	宮津市水道事業	㊟
亀岡市長	㊟	京丹後市長	㊟
向日市水道事業管理者職務代理者	㊟	大山崎町水道事業	㊟
長岡京市水道事業管理者	㊟	久御山町長	㊟
八幡市水道事業管理者	㊟	井手町水道事業管理者	㊟
京田辺市水道事業管理者	㊟	宇治田原町水道事業管理者	㊟
木津川市水道事業管理者職務代理者	㊟	精華町長	㊟
南丹市長	㊟	与謝野町水道事業管理者	㊟
京丹波町長	㊟		

様式第1号～第3号様式 略

水道施設の災害に伴う応援協定書

向日市水道事業（以下「甲」という。）と向日市指定上下水道協同組合加盟業者（以下「乙」という。）は、次のとおり協定する。

（目的）

第1条 この協定は、甲が管理する水道施設が地震災害、風水害その他の災害（以下「災害」という。）発生時に給水機能を早期に回復するため、乙の応援を得て、応急復旧工事等を実施することを目的とする。

（協力要請）

第2条 前条の目的を達成するため、甲が主宰する水道施設災害対策会議に乙の参加を要請する。

2 甲は、応急復旧工事等を実施する必要があると認めたときには、乙に出動を要請する。

（要請手続）

第3条 甲は、第2条第1項、第2項の規定により、乙の会議の参加要請及び出動要請を行う場合は、電話により行うものとする。ただし、電話連絡が不可能なときは、職員を派遣し要請する。

（復旧活動）

第4条 乙は、第2条の出動要請又は派遣要請があったときは、乙の組合員の中から施工業者を選抜し甲に報告するものとする。

2 施工業者は、甲が現場に派遣した職員の指示に従い、応急復旧工事等を実施する。

（着工報告）

第5条 施工業者は、応急復旧工事等に着手したときは、その状況を速やかに甲に報告する。

（完了報告書）

第6条 施工業者は、応急復旧工事等を完了したときは、甲に完了報告書を提出する。

（費用の立替え）

第7条 第5条の規定により生じた費用は、施工業者が一時立て替えておくものとする。

（費用の支払い）

第8条 前条の規定により施工業者が一時立て替えた費用の支払いについては、甲が定める単価により積算し、施工業者と協議の上支払うものとする。

（連絡責任者）

第9条 甲及び乙は、災害情報の伝達を正確に行うため、連絡責任者を定める。

（報告事項）

第10条 乙は、応急復旧工事等を円滑に実施するため、必要な資材、機材及び人員の把握に努め、甲からの要請により報告するものとする。

（疑義等の解決）

第11条 この協定に定める事項に疑義を生じたとき、又はこの協定に定めのない事項については、その都度甲乙協議の上解決するものとする。

平成 20 年 5 月 26 日

甲 向日市長

㊟

乙 向日市指定上下水道協同組合 理事長 ㊟

災害時におけるエルピーガス等の供給に関する協定

災害対策基本法（昭和 36 年法律第 223 号）第 2 条第 1 号に規定する災害が京都南部都市広域行政圏（宇治市・城陽市・向日市・長岡京市・八幡市・京田辺市・久御山町・宇治田原町・井手町・大山崎町）において発生し、多数の市民が避難所に避難した場合のエルピーガス等の供給に関し、京都南部都市広域行政圏推進協議会（以下「甲」という。）と社団法人京都府エルピーガス協会（以下「乙」という。）は次のとおり協定を締結する。

（総則）

第 1 条 この協定は、災害時に避難所等に多数の市民が避難した場合の甲が行うエルピーガス等の供給及び附帯する業務に対する乙の協力に関し、必要な事項を定めるものとする。

（協力要請）

第 2 条 甲は、災害時においてエルピーガス等を市民が避難している避難所へ供給する必要があるときは、乙に対し、協力を要請するものとする。

（要請事項の措置等）

第 3 条 乙は、前条の規定に基づく甲からの要請を受けたときは、甲の指示により甲の構成市町が指定する避難所等へエルピーガス等の供給及び附帯する業務について速やかに措置するものとする。

（緊急要請）

第 4 条 甲は、第 2 条の規定による協力要請において、やむをえない事情により乙と連絡を取れない場合は、直接乙の組合員に対し協力を要請することができるものとする。

（搬送体制の確保）

第 5 条 エルピーガス等の搬送については、乙が行うものとする。ただし、乙の搬送経路の確保等について、甲は必要な措置を講じるものとする。

（報告）

第 6 条 乙は、第 3 条の規定に基づき甲の要請を受けてエルピーガス等の供給及び附帯する業務を実施したときは、実施内容を甲に報告するものとする。

（費用負担）

第 7 条 甲の要請に基づき乙から供給されたエルピーガス等の費用については、供給を受けた甲の構成市町がその費用を負担するものとする。

（支払いの請求）

第 8 条 乙は、組合員の供給実績を集計し、甲の構成市町毎にその支払いを請求するものとする。

（費用の支払い）

第 9 条 甲の構成市町は、前条の規定に基づき乙から費用の支払いの請求があった場合は、速やかに乙に支払うものとする。

（価格の決定）

第 10 条 甲が負担する費用の価格は、災害発生時の直前における適正価格を基準として甲乙協議のうえ決定するものとする。

（訓練及び情報の交換）

第 11 条 乙は、この協定に基づく供給が円滑に行なわれるよう、甲が行う訓練等に参加するように努めるとともに、甲及び乙は、平常時から必要に応じて情報の交換を行うものとする。

（実施細目）

第 12 条 この協定を実施するために必要な事項については、甲乙協議のうえ実施細目で定めるもの

とする。

(協議)

第 13 条 この協定に定めのない事項及びこの協定の解釈に疑義が生じた場合については、前条の規定による実施細目に定めるもののほか甲乙協議のうえ決定するものとする。

この協定の締結を証するため、本書を 2 通作成し、甲乙記名押印のうえ、各自その 1 通を保有する。

平成 17 年 7 月 6 日

甲 向日市長

乙 社団法人 京都府エルピーガス協会会長

災害時におけるエルピーガス等の供給に関する協定実施細目

(趣旨等)

第1条 この実施細目は、災害時におけるエルピーガス等の供給に関する京都南部都市広域行政圏推進協議会と社団法人京都府エルピーガス協会との協定（以下「協定」という。）第12条の規定に基づき、協定の実施に関し必要な手続きその他の事項を定めるものとする。

2 この実施細目における用語の意義は、協定の例による。

(エルピーガス等の範囲)

第2条 協定第2条に規定する甲が供給を要請するエルピーガス等の範囲は次のとおりとする。

- (1) エルピーガス
- (2) エルピーガス用のコンロ等
- (3) その他必要なもの

(要請手続)

第3条 協定第2条の規定による甲の要請は、甲の会長が構成市町での必要品目、必要量等をまとめ、乙の会長に対して行うものとする。

2 甲から乙への要請にあたっては、次に掲げる事項を口頭又は電話等の方法で行うものとし、事後、要請書（様式1）により乙に提出するものとする。

- (1) 要請を行った者の職、氏名
- (2) 供給を受ける市町名及び供給場所
- (3) 要請するエルピーガス等の品目、数量
- (4) 履行の期日及び場所
- (5) 供給場所への職員の派遣（供給を受ける市町の職員とする）
- (6) その他必要な事項

(組合員名簿)

第4条 乙は、協定第3条に規定する業務に協力するために、事前に乙の組合員の名簿を甲に届け出るものとする。

(報告)

第5条 乙は、協定第6条に規定する乙の甲への報告に当たっては、次に掲げる事項を速やかに口頭又は電話等の方法で行うものとし、事後、報告書（様式2）により甲に提出するものとする。

- (1) 供給したエルピーガス等の品目、数量
- (2) 供給した市町名・供給場所
- (3) 従事者の氏名
- (4) その他必要な事項

(支払いの請求方法)

第6条 乙は、協定第8条に規定する費用の請求を、積算根拠を示す業務実績表を添付した請求書により行うものとする。

附 則

この細目は、協定の締結日から効力を生ずるものとする。

様式 1

第 年 月 日 番

社団法人京都府エルピーガス協会
会長 様

向日市長

災害時におけるエルピーガス等の供給に関する協力要請書（第 報）

災害時におけるエルピーガス等の供給に関する協定第 2 条に基づき、次のとおり協力を要請します。

電話等による連絡日時	年 月 日 時 分
要請するエルピーガス等の 数量、履行期日	用品名及び数量 期日 年 月 日
供給市町名及び供給場所	市町名 場 所
連絡担当者及び電話番号	電 話
備 考	

様式 2 略

災害発生時における物資の供給に関する協定書

災害対策基本法（昭和 36 年法律第 223 号）第 2 条第 1 号に規定する災害が京都南部都市広域行政圏（宇治市・城陽市・向日市・長岡京市・八幡市・京田辺市・久御山町・宇治田原町・井手町・大山崎町）において発生し、応急措置のため緊急に物資の必要が生じた場合、その供給について京都南部都市広域行政圏推進協議会（以下「甲」という。）と株式会社平和堂（以下「乙」という。）は次のとおり協定を締結する。

（総 則）

第 1 条 この協定は、甲の地域防災計画（広域編）及び構成各市町の地域防災計画に基づき、生活救援対策等に必要な物資（別紙 1）の供給を円滑に行うため、乙との協力について必要な事項を定めるものとする。

（物資の確保）

第 2 条 乙は、甲が災害発生時に必要となる物資の供給に協力するものとする。

（供給手続）

第 3 条 甲が物資の供給を受けようとする時は、災害緊急物資供給要請書（様式 1）をもって、乙に要請するものとする。

ただし、緊急を要するときは電話等により要請できるものとし、事後速やかに要請書を提出するものとする。

（物資の引渡し）

第 4 条 前条の規定により要請を受けた乙は、物資が必要となった甲の構成市町に対し、直ちに適正な価格で優先的に物資を供給するものとする。

（費 用）

第 5 条 前条の規定により乙が供給した物資の代金については、災害復旧後、供給を受けた市町が負担するものとする。

（期 間）

第 6 条 この協定の有効期間は、協定締結の日から 3 ケ年とする。ただし、有効期間満了の 1 ケ月前までに、甲・乙のいずれからも異議の申し立てのない限り、自動的に継続するものとする。

（協 議）

第 7 条 この協定の内容に疑義が生じた場合及び、この協定に定めのない事項については、その都度、甲・乙協議するものとする。

この協定の成立を証するため、本協定書 2 通を作成し、甲・乙記名押印の上、各自 1 通を保有する。

平成 16 年 4 月 27 日

甲 京都府宇治市宇治琵琶 33
京都南部都市広域行政圏推進協議会
会長 宇治市長

乙 滋賀県彦根市小泉町 31
株式会社 平和堂
代表取締役社長

生活救援対策等に必要な物資

1. 食糧品
2. 衣類
3. 寝具類
4. 生活用消耗品
5. 育児用品
6. 医薬品
7. 食器類
8. その他生活救援に必要な物資

年 月 日

{ 株式会社 平和堂
代表取締役 様
株式会社 ユタカファーマシー
代表取締役 様
近畿コカ・コーラボトリング株式会社
代表取締役社長 様
樋口鉱泉株式会社
代表取締役社長 様
}

京都南部都市広域行政圏推進協議会
会長 宇治市長

災 害 緊 急 物 資 供 給 要 請 書

災害発生時における物資の供給に関する協定書（平成 16 年 4 月 27 日付、平成 16 年 12 月 10 日付、平成 19 年 3 月 27 日付）（災害時における飲料の供給等協力に関する協定書（平成 19 年 3 月 27 日付））に基づき、次の物資の供給を要請する。

記

1. 物資名（数量等）
2. 供給時期
3. 供給場所
4. その他必要事項

災害発生時における物資の供給に関する協定書実施細目

京都府南部都市広域行政圏推進協議会（以下「甲」という。）と株式会社平和堂（以下「乙」という。）は、平成 16 年 4 月 27 日に締結した「災害発生時における物資の供給に関する協定書」（以下「協定書」という。）に基づき、次のとおり実施細目を定める。

1. 緊急連絡先

①「甲」緊急連絡先

第 1 連絡先 宇治市企画管理部防災対策課長

電 話 0774-22-3141（代）

F A X 0774-39-9422

第 2 連絡先 向日市市民生活部環境政策課長

電 話 075-931-1111（代）

F A X 075-922-6587

第 3 連絡先 八幡市総務部市民自治安全課長

電 話 075-983-1111（代）

F A X 075-982-7988

②「乙」の連絡先

株式会社 平和堂 総務部総務課長 電 話 0749-26-9610（代）

F A X 0749-23-3118

衛星携帯電話(本部)090-7362-5019

(宇治東)090-7360-5238

2. 物資の確保

協定書第 2 条の災害時に必要となる物資及び数量については概ね別記 1 のとおりとする。

3. 物資の引渡し場所

協定書第 4 条に基づき「乙」から「甲」に物資の引渡しを行う際の引渡し場所については、別記 2 の物資を必要とする市町の配送予定場所の中から「甲」が指定するものとする。

4. 引渡し価格

協定書第 4 条の「適正な価格」とは、「乙」が災害発生直前まで販売していた小売価格を基本に決定するものとする。

5. 代金の支払い

協定書第 5 条の物資の代金については、物資の供給を受けた市町に「乙」が請求し、請求を受けた市町は応急復旧終了後、すみやかに支払うものとする。

6. 各市町の担当課

「甲」の各市町の担当課は別記 3 の通りとする。

この細目の締結を証するため、本書 2 通を作成し、甲乙記名押印の上、各自 1 通を保有する。

平成 16 年 12 月 13 日

甲 京都府宇治市宇治琵琶 33
京都府南部都市広域行政圏推進協議会
会長 宇治市長

乙 滋賀県彦根市小泉町 31
株式会社 平和堂
代表取締役

別記 1

必要物資及び数量

〔食糧等〕

おにぎり	100,000個	アルファ米	50,000個
飲料水（2 L）（お茶）	110,000個	米	10,000kg
パン（乾パン）	175,000個	缶詰（副食）	20,000個
カップめん	60,000個	粉ミルク	5,000人分

〔衛生用品〕

包帯	1,000本	哺乳瓶	5,000個
紙おむつ（大人用）	15,000セット	ティッシュペーパー	10,000個
紙おむつ（乳児用）	15,000セット	石鹼	50,000個
生理用品	10,000袋	ごみ袋	100,000枚
※ その他ラップ、トイレットペーパータオルなど			

〔薬〕

消毒薬（水害時等に使用する乳剤）、風邪薬、胃腸薬、傷消毒薬等一般的な家庭医薬品

〔その他生活用品〕

毛布	40,000枚	懐中電灯	1,000個
ビニール・シート	20,000枚	水袋	50,000袋
カセットコンロ	3,000セット	ポリタンク	5,000個
肌着（子供用）	30,000セット	応急テント	500張
肌着（大人用）	30,000セット		

〔その他の日用品〕

バケツ、ライター、鍋、やかん、食器、携帯ラジオ、洗剤等

別記 2、別記 3 略

災害発生時における物資の供給に関する協定書

災害対策基本法（昭和 36 年法律第 223 号）第 2 条第 1 号に規定する災害が京都南部都市広域行政圏（宇治市・城陽市・向日市・長岡京市・八幡市・京田辺市・久御山町・宇治田原町・井手町・大山崎町）において発生し、応急措置のため緊急に物資の必要が生じた場合、その供給について京都南部都市広域行政圏推進協議会（以下「甲」という。）と株式会社ユタカファーマシー（以下「乙」という。）は次のとおり協定を締結する。

（総 則）

第 1 条 この協定は、甲の地域防災計画（広域編）及び構成各市町の地域防災計画に基づき、生活救援対策等に必要な物資（別紙 1）の供給を円滑に行うため、乙との協力について必要な事項を定めるものとする。

（物資の確保）

第 2 条 乙は、甲が災害発生時に必要となる物資の供給に協力するものとする。

（供給手続）

第 3 条 甲が物資の供給を受けようとする時は、災害緊急物資供給要請書（様式 1）をもって、乙に要請するものとする。

ただし、緊急を要するときは電話等により要請できるものとし、事後速やかに要請書を提出するものとする。

（物資の引渡し）

第 4 条 前条の規定により要請を受けた乙は、物資が必要となった甲の構成市町に対し、直ちに適正な価格で優先的に物資を供給するものとする。

（費 用）

第 5 条 前条の規定により乙が供給した物資の代金については、災害復旧後、供給を受けた市町が負担するものとする。

（期 間）

第 6 条 この協定の有効期間は、協定締結の日から 3 ケ年とする。ただし、有効期間満了の 1 ケ月前までに、甲・乙のいずれからも異議の申し立てのない限り、自動的に継続するものとする。

（協 議）

第 7 条 この協定の内容に疑義が生じた場合及び、この協定に定めのない事項については、その都度、甲・乙協議するものとする。

この協定の成立を証するため、本協定書 2 通を作成し、甲・乙記名押印の上、各自 1 通を保有する。

平成 16 年 4 月 27 日

甲 京都府宇治市宇治琵琶 33
京都南部都市広域行政圏推進協議会
会長 宇治市長

乙 岐阜県大垣市林町 10
株式会社ユタカファーマシー
代表取締役社長

生 活 救 援 対 策 等 に 必 要 な 物 資

1. 生活用消耗品
2. 育児用品
3. 医薬品
4. 食糧品
5. その他生活救援に必要な物資

※「様式1」は株式会社 平和堂のものを準用

災害時における棺等葬祭用品の供給に関する協定

災害対策基本法（昭和 36 年法律第 223 号）第 2 条第 1 号に規定する災害が京都南部都市広域行政圏（宇治市・城陽市・向日市・長岡京市・八幡市・京田辺市・久御山町・宇治田原町・井手町・大山崎町）において発生し、多数の死者が出た場合における棺等葬祭用品の供給に関し、京都南部都市広域行政圏推進協議会（以下「甲」という。）と京都中央葬祭業協同組合（以下「乙」という。）は次のとおり協定を締結する。

（総則）

第 1 条 この協定は、災害時に多数の死者が発生した場合の甲が行う棺等葬祭用品の供給及び附帯する業務に対する乙の協力に関し、必要な事項を定めるものとする。

（協力要請）

第 2 条 甲は、災害時において棺等葬祭用品を市民へ供給する必要があるときは、乙に対し、協力を要請するものとする。

（要請事項の措置等）

第 3 条 乙は、前条の規定に基づく甲からの要請を受けたときは、甲の指示により甲の構成市町が設置する遺体収容所等への棺等葬祭用品の供給及び附帯する業務について速やかに措置するものとする。

（緊急要請）

第 4 条 甲は、第 2 条の規定による協力要請において、やむをえない事情により乙と連絡を取れない場合は、直接乙の組合員に対し協力を要請することができるものとする。

（搬送体制の確保）

第 5 条 棺等葬祭用品の搬送については、乙が行うものとする。ただし、乙の搬送経路の確保等について、甲は必要な措置を講じるものとする。

（報告）

第 6 条 乙は、第 3 条の規定に基づき甲の要請を受けて棺等葬祭用品の供給及び附帯する業務を実施したときは、実施内容を甲に報告するものとする。

（費用負担）

第 7 条 甲の要請に基づき乙から供給された棺等葬祭用品の費用については供給を受けた甲の構成市町がその費用を負担するものとする。

（支払いの請求）

第 8 条 乙は、組合員の供給実績を集計し、甲の構成市町毎にその支払いを請求するものとする。

（費用の支払い）

第 9 条 甲の構成市町は、前条の規定に基づき乙から費用の支払いの請求があった場合は、速やかに乙に支払うものとする。

（価格の決定）

第 10 条 甲が負担する費用の価格は、災害発生時の直前における適正価格を基準として甲乙協議のうえ決定するものとする。

（実施細目）

第 11 条 この協定を実施するために必要な事項については、甲乙協議のうえ実施細目で定めるものとする。

（有効期間）

第 1 2 条 この協定の有効期間は、協定締結の日から 1 年間とする。ただし、期間満了の 2 ヶ月前までに、甲又は乙から書面による解約の申し出のない時は、なお 1 年間効力を有するものとし、以降も同様とする。

(協議)

第 1 3 条 この協定に定めのない事項及びこの協定の解釈に疑義が生じた場合については、前条の規定による実施細目に定めるもののほか甲乙協議のうえ決定するものとする。

この協定の締結を証するため、本書を 2 通作成し、甲乙記名押印のうえ、各自その 1 通を保有する。

平成 17 年 3 月 25 日

甲 京都府宇治市宇治琵琶 33
京都南部都市広域行政圏推進協議会
会長 宇治市長

乙 京都府中京区烏丸通六角上ル饅頭屋町 608 番地
京都中央葬祭業協同組合
理事長

災害時における棺等葬祭用品の供給に関する協定実施細目

(趣旨等)

第1条 この実施細目は、災害時における棺等葬祭用品の供給に関する京都南部都市広域行政圏推進協議会と京都中央葬祭業協同組合との協定（以下「協定」という。）第11条の規定に基づき、協定の実施に関し必要な手続きその他の事項を定めるものとする。

2 この実施細目における用語の意義は、協定の例による。

(葬祭用品等の範囲)

第2条 協定第2条に規定する甲が供給を要請する棺等葬祭用品の範囲は次のとおりとする。

- (1) 内張り棺（衣装、納棺セット等を含む。）
- (2) 骨つぼその他納骨に必要な物
- (3) ドライアイス
- (4) 線香・ロウソク・お花等焼香セット
- (5) 棺覆い（白布）

(要請手続)

第3条 協定第2条の規定による甲の要請は、甲の会長が構成市町での必要品目、必要量等をまとめ、乙の理事長に対して行うものとする。

2 甲から乙への要請にあたっては、次に掲げる事項を口頭又は電話等の方法で行うものとし、事後、要請書（様式1）により乙に提出するものとする。

- (1) 要請を行った者の職、氏名
- (2) 供給を受ける市町名及び供給場所
- (3) 要請する棺等葬祭用品の品目、数量
- (4) 履行の期日及び場所
- (5) その他必要な事項

(組合員名簿)

第4条 乙は、協定第3条に規定する業務に協力するために、事前に乙の組合員の名簿を甲に届け出るものとする。

(報告)

第5条 乙は、協定第6条に規定する乙の甲への報告に当たっては、次に掲げる事項を速やかに口頭又は電話等の方法で行うものとし事後、報告書（様式2）により甲に提出するものとする。

- (1) 供給した棺等葬祭用品の品目、数量
- (2) 供給した市町名・供給場所
- (3) 従事者の氏名
- (4) その他必要な事項

(支払いの請求方法)

第6条 乙は、協定第8条に規定する費用の請求を、積算根拠を示す業務実績表を添付した請求書により行うものとする。

附 則

この細目は、協定の締結日から効力を生ずるものとする。

発 番
年 月 日

京都中央葬祭業共同組合理事長 様

京都南部都市広域行政圏推進協議会
会長 宇治市長

災害時における棺等葬祭用品の供給に関する協力要請書（第 報）

災害時における棺等葬祭用品の供給に関する協定第 2 条に基づき、次のとおり協力を要請します。

電話等による連絡日時	年 月 日 時 分
要請する棺等葬祭用品の数量、履行期日	用品名及び数量 期 日 年 月 日
供給市町名及び供給場所	市町名 場 所
連絡担当者	電 話
備 考	

災害時における飲料の供給等協力に関する協定書

災害対策基本法（昭和 36 年法律第 223 号）第 2 条第 1 号に規定する災害が京都南部都市広域行政圏（宇治市・城陽市・向日市・長岡京市・八幡市・京田辺市・久御山町・宇治田原町・井手町・大山崎町）において発生し、応急措置のため緊急に飲料の必要が生じた場合、その供給等について京都南部都市広域行政圏推進協議会（以下「甲」という。）と近畿コカ・コーラボトリング株式会社（以下「乙」という。）は、次のとおり協定を締結する。

（趣旨）

第 1 条 この協定は、甲の地域防災計画（広域編）及び構成各市町の地域防災計画に基づき、京都南部都市広域行政圏域で地震等による大規模災害が発生（以下「災害時」という。）し、被災者に飲料等の供給等を円滑に行うため、乙との協力について必要な事項を定めるものとする。

（協力の内容）

第 2 条 甲は、乙に対し、次の事項について、協力を要請することができる。

- （1） 災害時に被災者の応急救助が必要となった場合、甲乙協議のうえ決定した物流拠点における飲料を供給すること。
- （2） 乙が設置した災害対応型自動販売機の機内飲料を提供すること。

2 甲及び乙は、前項に定めのない事項について、相互に協力を要請することができる。

（支援の要請手続き）

第 3 条 前条の規定による要請は、災害緊急物資供給要請書（様式 1）をもって行うものとする。ただし、緊急を要するときは、口頭又は電話等をもって要請し、事後、速やかに文書を提出するものとする。

（連絡体制等）

第 4 条 甲及び乙は、緊急時の連絡体制及び連絡方法等について協議し、予め定めておくものとする。

（経費の負担）

第 5 条 第 2 条第 1 項第 1 号及び第 2 項に規定する事項に要した経費は、供給を受けた甲の構成市町がその費用を負担とし、同条第 1 項第 2 号に規定する事項に要した経費は無償とする。

（情報の交換）

第 6 条 甲及び乙は、この協定が円滑に運用されるよう、必要に応じて、情報の交換を行うものとする。

（協定の有効期間）

第 7 条 この協定の有効期間は、平成 19 年 4 月 1 日から平成 20 年 3 月 31 日までとする。

2 前項の規定にかかわらず、有効期間満了の日の 30 日前までに甲及び乙が協議し、異議のないときは、期間満了の日から起算して引き続き 1 年間効力を有するものとし、以後期間満了のときも同様とする。

（補足、協議）

第 8 条 この協定に定めのない事項又はこの協定に関して疑義が生じたときは、甲及び乙が協議の上、これを定めるものとする。

この協定の締結を証するため、本書 2 通を作成し、甲、乙が記名押印の上、各自 1 通を保有する。

平成 19 年 3 月 27 日

甲 宇治市宇治琵琶 33
京都南部都市広域行政圏推進協議会
会長 宇治市長

乙 大阪府摂津市千里丘 7-9-31
近畿コカ・コーラボトリング株式会社
代表者 代表取締役社長

※「様式 1」は株式会社 平和堂のものを準用

災害発生時における飲料の供給等協力に関する協定細目

京都府南部都市広域行政圏推進協議会（宇治市・城陽市・向日市・長岡京市・八幡市・京田辺市・久御山町・宇治田原町・井手町・大山崎町）（以下「甲」という。）、及び近畿コカ・コーラボトリング株式会社（以下「乙」という。）が締結した、「災害発生時における飲料の供給等協力に関する協定」（以下「協定」という。）については、次のとおり運用するものとする。

第1 甲が乙に対し供給協力を要請した場合、乙は、要請時点において保有する飲料について最大限努力し、供給するよう協力するものとする。

第2 乙は、飲料の供給協力について、災害発生後、迅速・的確に実施できるよう体制整備を図るものとする。

第3 要請等の手続きに係る甲、及び乙の協定に関する連絡責任者は、窓口については、次のとおりとする。

①「甲」緊急連絡先

第1 連絡先 宇治市市長公室危機管理課長

電 話 0774-39-9421

F A X 0774-39-9422

第2 連絡先 向日市市民生活部環境政策課長

電 話 075-931-1111（代）

F A X 075-922-6587

第3 連絡先 八幡市総務部市民自治安全課長

電 話 075-983-1111（代）

F A X 075-982-7988

②「乙」の連絡先

第1 連絡先 近畿コカ・コーラボトリング株式会社 市場開発部

電 話 06-6330-2104

F A X 06-6368-2381

第2 連絡先 近畿コカ・コーラボトリング株式会社 市場開発部京都担当

携帯電話 090-2191-7198

2 前項の窓口に変更があった場合は、その都度、相互に文書で報告するものとする。

第4 協定第2条第1項第1号の規定による甲から乙に対する要請は、京都府及び京都市並びに近畿コカ・コーラボトリング株式会社が締結している「災害時における飲料の提供等協力に関する協定」により物流拠点飲料の提供要請をしていないときに限る。要請するときは、京都府と協議の後要請するものとする。

第5 災害時に災害対応型自動販売機の機内飲料を提供する場合については、甲から乙に支援の要請をした上で、甲が遠隔操作するものとする。

第6 災害時に災害対応型自動販売機のメッセージボードを活用する場合については、必要に応じて、甲が操作し、災害情報等を表示させるものとする。

2 平常時については、甲において、時事ニュース等を表示させるものとし、必要に応じて、行政情報の提供等に活用するものとする。

第7 甲、乙は協定の運用が円滑に行われるよう、必要に応じて、協議を実施するものとする。

附 則

この要領は、平成19年4月1日から施行する。

災害時における飲料の供給等協力に関する協定書

災害対策基本法（昭和 36 年法律第 223 号）第 2 条第 1 号に規定する災害が京都南部都市広域行政圏（宇治市・城陽市・向日市・長岡京市・八幡市・京田辺市・久御山町・宇治田原町・井手町・大山崎町）において発生し、応急措置のため緊急に飲料の必要が生じた場合、その供給等について京都南部都市広域行政圏推進協議会（以下「甲」という。）と樋口鉱泉株式会社（以下「乙」という。）は、次のとおり協定を締結する。

第 1 甲が乙に対し供給協力を要請した場合、乙は、要請時点において保有する飲料について最大限努力し、供給するよう協力するものとする。

第 2 乙は、飲料の供給協力について、災害発生後、迅速・的確に実施できるよう体制整備を図るものとする。

第 3 要請等の手続きに係る甲、及び乙の窓口については、次のとおりとする。

①「甲」緊急連絡先

第 1 連絡先 宇治市市長公室危機管理課長

電 話 0774-39-9421

F A X 0774-39-9422

第 2 連絡先 向日市市民生活部環境政策課長

電 話 075-931-1111（代）

F A X 075-922-6587

第 3 連絡先 八幡市総務部市民自治安全課長

電 話 075-983-1111（代）

F A X 075-982-7988

②「乙」の連絡先

樋口鉱泉株式会社

電 話 0774-22-1332

F A X 0774-24-7051

2 前項の窓口に変更があった場合は、その都度、相互に文書で報告するものとする。

第 4 第 2 条第 1 項第 1 号の運搬については、甲の要請があった場合、乙が行うよう努める。

第 5 災害時に災害対応型自動販売機の機内飲料を提供する場合については、甲から乙に支援の要請をした上で、乙が予め災害対応型自動販売機設置する施設の管理者に鍵等を保管手渡し、甲の連絡により操作するものとする。

第 6 災害対応型自動販売機は、平常時防災の啓発をするものとする。

第 7 甲及び乙は、協定の運用が円滑に行われるよう、必要に応じて、協議を実施するものとする。

附 則

この要領は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。

災害時における輸送車両提供の協力に関する協定

災害対策基本法（昭和 36 年法律第 223 号）第 2 条第 1 号に規定する災害が京都南部都市広域行政圏（宇治市・城陽市・向日市・長岡京市・八幡市・京田辺市・久御山町・宇治田原町・井手町・大山崎町）において発生し、緊急的に災害応急対応や復興時に人員や物資輸送のため、車両が必要となった場合における車両の提供について、京都南部都市広域行政圏推進協議会（以下「甲」という。）と F レンタリース（以下「乙」という。）は次のとおり協定を締結する。

（総則）

第 1 条 この協定は、甲の地域防災計画（広域編）及び構成各市町の地域防災計画に基づき、京都府南部都市広域行政圏で地震等による大規模災害が発生（以下「災害時」という。）し、緊急応急対策や災害復興時に甲が車両を必要とする場合、乙の車両提供協力に関し、必要な事項を定めるものとする。

（協力要請）

第 2 条 甲は、災害時の応急対応や災害復興のための車両を必要とする時は、乙に対して車両（貸与）提供の協力を要請するものとする。

（要請手段）

第 3 条 前条の規定による甲の要請は甲の会長が行う。ただし、災害の状態により甲の副会長又はこれに相当する者からも要請を行うことができる。

2 甲が乙に要請するに当たっては、次に掲げる事項を口頭又は電話等をもって連絡するものとし、事後、甲は実施細目で定める車両提供の協力要請書を乙に提出するものとする。

- (1) 要請を行った者の職名・氏名と担当者名
- (2) 車両の提供を必要とする市町名及び場所
- (3) 要請の理由
- (4) 要請する車種及び台数
- (5) 履行の期日及び場所
- (6) その他必要な事項

（提供）

第 4 条 甲の要請により乙は速やかに必要車両を整え、優先的に提供するものとする。

2 乙は、要請に基づき、実施細目に定める場所又は甲の指示する場所へ車両を搬送するものとする。

（実績報告）

第 5 条 乙は、前条の規定により車両の提供を実施した場合は、次に掲げる事項を口頭又は電話等をもって甲に報告するものとし、事後、乙は実施細目で定める災害時における輸送車両提供の協力実績報告書を甲に提出するものとする。

- (1) 提供した車両及び車両登録番号
- (2) 履行の市町名及び場所
- (3) 提供した日数及び走行距離
- (4) その他必要な事項

（費用の負担）

第 6 条 甲の要請に基づき乙が実施した車両提供に係る費用については、無償提供とする。但し、提供 4 日目以降は提供を受けた甲の構成市町がその費用を負担するものとする。

（費用の請求）

第 7 条 乙は、実施した車両の提供の協力実績を集計し、甲の構成市町毎にその支払いを請求するも

のとする。

(費用の支払い)

第8条 甲の構成市町は、前条の規定に基づき乙から費用の支払いの請求があった場合は、速やかに乙に支払うものとする。

(費用の決定)

第9条 甲が負担する費用については、災害発生時の直前における適正価格を基準として甲乙協議のうえ決定するものとする。

(通知)

第10条 甲は、災害時における円滑な輸送の協力が図られるよう、参集場所等に関して重要な変更が生じた時は、その都度乙に通知するものとする。

(実施細目)

第11条 この協定を実施するために必要な事項については、甲乙協議のうえ、実施細目で定めるものとする。

(実施日)

第12条 この協定は、協定締結の日から実施する。

(有効期間)

第13条 この協定の有効期間は、協定締結の日から1年間とする。ただし、期間満了の2ヶ月前までに、甲又は乙から書面による解約の申し出がない時は、なお1年間効力を有するものとし、以降も同様とする。

(協議)

第14条 この協定に定めのない事項及びこの協定の解釈に疑義が生じた場合については、実施細目に定めるもののほか甲乙協議のうえ決定するものとする。

この協定の締結を証するため、本書を2通作成し、甲乙記名押印のうえ、各自その1通を保有する。

平成17年7月6日

甲 京都府宇治市宇治琵琶 33
京都南部都市広域行政圏推進協議会
会長 宇治市長

乙 京都府京田辺市三山木見尊田 16
F レンタリース株式会社
代表取締役会長

災害時における輸送車両提供の協力に関する協定実施細目

(趣旨等)

第1条 この実施細目は、災害時における輸送車両提供の協力に関する協定京都南部都市広域行政圏推進協議会とFレンタリース株式会社との協定(以下「協定」という。)第11条の規定に基づき、協定の実施に必要な手続きその他の事項を定めるものとする。

2 この実施細目における用語の意義は、協定の例による。

(要請手続)

第2条 協定第3条第2項に規定する甲が乙に提出する災害時における輸送車両提供の協力要請書(以下「要請書」という。)は、様式1のとおりとする。

(要請連絡先)

第3条 要請等の手続きに係る甲、及び乙の窓口については、次のとおりとする。

①「甲」緊急連絡先

第1連絡先 宇治市市長公室危機管理課長

電 話 0774-39-9421

F A X 0774-39-9422

第2連絡先 向日市市民生活部環境政策課長

電 話 075-931-1111 (代)

F A X 075-922-6587

第3連絡先 八幡市総務部市民自治安全課長

電 話 075-983-1111 (代)

F A X 075-982-7988

②「乙」の連絡先

第1連絡先 Fレンタリース株式会社本社

電 話 0120-37-8735

F A X 0774-68-2526

第2連絡先 神戸空港営業所

電 話 078-306-1134

F A X 078-306-1144

第3連絡先 名古屋東営業所

電 話 0561-55-3357

F A X 0561-55-3257

(参集場所)

第4条 協定第4条に規定する参集場所は、要請書に掲げる場所又は災害時に甲の指定する場所とし、要望書に変更があった時は、甲はその都度これを乙に届け出ることとする。

(車両提供実績報告書)

第5条 協定第5条に規定する乙が甲に提出する災害時における輸送車両提供の協力実績報告書は、様式2のとおりとする。

(支払いの請求方法)

第6条 乙は、協定第7条に規定する費用の請求を、実績一覧表を添付した請求書により行うものとする。

(実施日)

第7条 この細目は、協定締結の日から効力を生ずるものとする。

様式 1

発 番
年 月 日

F レンタリース株式会社
代表取締役会長 様

京都南部都市広域行政圏推進協議会
会長 宇治市長

災害時における輸送車両提供の協力に関する協定第 3 条第 2 項に基づき、次のとおり車両の提供協力を要請します。

要請を行った者の職名・氏名と担当者名及び連絡先	電話 () —
口頭・電話による連絡日時	年 月 日 時 分
業務の提供を必要とする市 町 名 及 び 場 所	市町名 場 所
要 請 理 由	
要 請 す る 車 種	
要 請 す る 車 両 台 数	
履 行 の 期 日 及 び 場 所	(期日) 年 月 日 ～ 年 月 日 (日間) (場所)
備 考	

様式 2 略

災害時における支援協力に関する協定書

向日市（以下「甲」という。）とイオンリテール株式会社 近畿カンパニー（以下「乙」という。）とは、次のとおり災害時等における支援協力に関する協定を締結する。

（目的）

第1条 この協定は、災害対策基本法（昭和36年法律第223号）に規定する災害（以下「災害」という。）が発生し、又は発生する恐れがある場合において、甲から乙に対して行う支援協力の要請に関し、その手続き等について定め、もって、災害応急対策及び災害復旧対策が円滑に実施されることを目的とする。

（物資協力要請）

第2条 甲は災害時における応急措置のため、緊急に物資等を調達する必要があると認めるときは、乙の保有する物資等の供給を要請できるものとする。

（協力の実施）

第3条 乙は、甲から前条の要請を受けたときは、保有又は調達可能な物資を速やかに供給する。

（物資の範囲）

第4条 甲が乙に要請する物資等は、次の各号に掲げるもののうち、乙が保有又は調達可能な物資とする。

- (1) 別表に掲げる物資
- (2) その他、甲が指定する物資

（要請の方法）

第5条 甲が前条に掲げる物資の供給を受けようとする時は、出荷要請書（様式第1号）をもって乙に要請するものとする。但し、緊急を要するときは、口頭でもって申し出を行い、事後に出荷要請書を提出するものとする。

（物資の引渡し）

第6条 物資の運搬は、甲の指定する場所に、乙において搬送するものとし、甲は職員を派遣し、調達物資を確認のうえ、これを引き取るものとする。

2 甲は、物資を確認後、速やかに納品確認書（様式第2号）を乙に提出するものとする。

（費用の負担）

第7条 乙が供給した物資の代金及び運搬費用は、乙の請求に基づき、甲が負担するものとする。

2 甲は、前項の請求があったときは、その日から起算して30日以内に支払わなければならない。ただし、甲において予算上の措置を必要とする場合は、この限りではない。

（物資の価格）

第8条 物資の価格は、災害が発生する直前における適正な価格とする。

（改正又は廃止）

第9条 この協定の改正又は廃止は、甲又は乙が文書をもって1か月前以前に相手側に通知をしない限り、その効力を持続するものとする。

（平時における協力）

第10条 甲、乙は、平常時においても連携を密にし、乙は、甲が実施する防災訓練等へ業務に支障をきたさない範囲で参加・協力するものとする。

（協議）

第 1 1 条 この協定の解釈に疑義が生じた場合及びこの協定に定めのない事項については、その都度、甲乙、協議して定めるものとする。

この協定の成立を証するため本書を 2 通作成し、甲乙それぞれ記名押印のうえ、各自 1 通を保有する。

平成 30 年 6 月 14 日

甲：京都府向日市寺戸町中野 20 番地

向日市長

乙：大阪府大阪市福島区海老江 1 丁目 1 番 23 号
イオンリテール株式会社近畿カンパニー
専務執行役員

支 社 長

別表

■ 災害時の主な必要物資一覧表

災害発生直後に必要な物資 (概ね発災～3 日間程度)	その後に必要な物資
食料品 おにぎり、パン類、カップ麺、飲料水、 粉ミルク、缶詰(イージーオープン)	食料品 精米、即席麺、パン類、レトルト食品、 調味料、菓子類、果物、離乳食、飲料
生活必需品 毛布、紙おむつ、生理用品、哺乳瓶、 ラジオ、乾電池、懐中電灯、箸、スプーン、 使い捨て食器類、ラップ、固形燃料、 ウェットティッシュ、ゴミ袋、医薬品、 衛生用品 蚊取り線香(夏季) 使い捨てカイロ(冬季)	生活必需品 タオル、肌着、履物、作業服、軍手、 鍋、炊飯用具、簡易コンロ、カセットボンベ、 石鹸、歯ブラシ、ティッシュペーパー、 トイレットペーパー、防水シート、

年 月 日

イオンリテール株式会社近畿カンパニー
支社長 様

出荷要請書

向日市長

災害時における支援協力に関する協定書第 5 条に基づき、次のとおり物資の供給を要請します。

納入場所	向日市			
納品希望日時	年	月	日 () 午前・午後	時 分

	物 資	数 量		備考
	品目・規格・寸法	単位	数 量	
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
1 0				

<特記事項>

年 月 日

イオンリテール株式会社近畿カンパニー
支社長 様

納品確認書

向日市長

災害時における支援協力に関する協定書第 6 条第 2 項に基づき、納品を受けた物資について次のとおり確認しました。

納入場所	向日市			
納品日時	年	月	日 ()	午前・午後 時 分
納入者				
受取者				
	物 資		数 量	備考
	品目・規格・寸法		単位	数 量
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
1 0				

<特記事項>

災害時における地図製品等の供給等に関する協定書

向日市（以下「甲」という。）と株式会社ゼンリン（以下「乙」という。）とは、第1条第(1)号に定める災害時において、乙が、乙の地図製品等（第2条に定義される）を甲に供給すること等について、以下のとおり本協定を締結する。

第1条（目 的）

本協定は、以下各号の事項を目的とする。

- (1) 甲の区域内で災害対策基本法第2条第1号に定める災害が発生し、又はそのおそれがある場合において、甲が災害対策基本法第23条の2に基づく災害対策本部（以下「災害対策本部」という。）を設置したときの、乙の地図製品等の供給及び利用等に関し必要な事項を定めること。
- (2) 甲乙間の平常時からの防災に関する情報交換を通じ、甲及び乙が連携して、防災・減災に寄与する地図の作成を検討・推進することにより、市民生活における防災力の向上に努めること。

第2条（定 義）

本協定において以下の用語はそれぞれ以下の意味を有するものとする。

- (1) 「住宅地図」とは、向日市全域を収録した乙の住宅地図帳を意味するものとする。
- (2) 「広域図」とは、向日市全域を収録した乙の広域地図を意味するものとする。
- (3) 「ZNET TOWN」とは、乙の住宅地図インターネット配信サービス「ZNET TOWN」を意味するものとする。
- (4) 「ID 等」とは、ZNET TOWN を利用するための認証 ID 及びパスワードを意味するものとする。
- (5) 「地図製品等」とは、住宅地図、広域図及び ZNET TOWN の総称を意味するものとする。

第3条（地図製品等の供給の要請等）

1. 乙は、甲が災害対策本部を設置したときは、甲からの要請に基づき、可能な範囲で地図製品等を供給するものとする。
2. 地図製品等の搬送にかかる費用は、乙が負担するものとする。
3. 甲は、地図製品等の供給を求めるときは、別途定める物資供給要請書（以下「要請書」という。）を乙に提出するものとする。但し、緊急を要する場合は、甲は、電話等により乙に対して要請できるものとし、事後、速やかに要請書を提出するものとする。
4. 乙は、地図製品等を供給するときは、甲に、別途定める物資供給報告書を提出するものとする。
5. 本条に基づく地図製品等の供給にかかる対価は、甲乙別途協議のうえ決定するものとする。

第4条（地図製品等の貸与及び保管）

1. 乙は、第3条第1項の規定に基づく地図製品等の供給とは別途、本協定締結後、甲乙別途定める時期、方法により乙が別途定める数量の住宅地図、広域図及び ID 等を甲に貸与するものとする。なお、当該貸与にかかる対価については無償とする。
2. 甲は、前項に基づき乙が貸与した住宅地図、広域図及び ID 等を甲の事務所内において、善良なる管理者の注意義務をもって保管・管理するものとする。なお、乙が、住宅地図及び広域図の更新版を発行したときは、乙は、甲が保管している旧版の住宅地図及び広域図について、甲から当該住宅地図及び広域図を引き取りかつ更新版と差し替えることができるものとする。尚、引き取りをした旧版の住宅地図及び広域図については、乙により、適切に処理をするものとする。

3. 乙は、必要に応じ、甲に対して事前に通知したうえで、甲による住宅地図の保管・管理状況を確認することができるものとする。

第5条（地図製品等の利用等）

1. 甲は、第1条第(1)号に基づき災害対策本部を設置したときは、災害応急対策及び災害復旧・復興にかかる資料として、第3条又は第4条に基づき乙から供給又は貸与された地図製品等につき、以下各号に定める利用を行うことができるものとする。
- (1)災害対策本部設置期間中の閲覧
- (2)災害対策本部設置期間中、甲乙間で別途協議のうえ定める期間及び条件の範囲内での複製
2. 甲は、前項に基づき住宅地図の利用を開始したときは、速やかに別途定める乙の報告先に報告するものとする。また、当該住宅地図の利用を終了したときは、速やかに従前の保管場所にて保管・管理するものとする。
3. 甲は、第1項にかかわらず、災害時以外の平常時において、防災業務を目的として、甲の当該防災業務を統括する部署内において、広域図及びZNET TOWNを利用することができるものとする。なお、甲は、本項に基づき広域図を複製利用する場合は、別途乙の許諾を得るものとし、ZNET TOWNを利用する場合は、本協定添付別紙のZNET TOWN利用約款に記載の条件に従うものとする。

第6条（情報交換）

甲及び乙は、平常時から防災に関する情報交換を行うとともに、相互の連携体制を整備し、災害時に備えるものとする。

第7条（有効期間）

本協定の有効期間は、本協定末尾記載の締結日から1年間とする。但し、当該有効期間満了の3ヶ月前までに当事者の一方から相手方に対し書面による別段の意思表示がない限り、本協定は更に1年間同一条件にて更新されるものとし、以後も同様とする。

第8条（協 議）

甲乙間で本協定の解釈その他につき疑義又は紛争が生じた場合には、両当事者は誠意をもって協議し解決に努めるものとする。

以上、本協定の成立を証するため、本書2通を作成し、甲乙それぞれ記名押印のうえ各1通を保有する。

平成28年3月7日

甲) 京都府向日市寺戸町中野20番地
向日市長

乙) 株式会社ゼンリン
神戸市中央区御幸通4丁目2番20号
三宮中央ビル1階
株式会社ゼンリン 関西第二エリア統括部長

ZNET TOWN 利用約款

第1条（定 義）

本約款で次の各号に掲げる用語は、それぞれ当該各号に定める意味で用いるものとします。

(1) 「ID 等」

本サービスを利用するための認証 ID 及びパスワードをいいます。

(2) 「アクセス権者」

対象機器を使用する甲の職員であり、かつ、ID 等を使って本システムにアクセスする者をいいます。

(3) 「対象機器」

甲の庁内 LAN に接続された端末機器及び庁内業務での利用に限った端末機器をいいます。

(4) 「本サービス」

乙がアクセス権者からの要求に応じて本システムから対象機器に対して本データを送信するサービスをいいます。

(5) 「本システム」

本サービスを提供するための乙が第三者に管理・運用を委託する WWW サーバ、回線、周辺機器等の一連のシステムをいいます。

(6) 「本データ」

本サービスにおいて乙から提供される住宅地図データ、道路地図データ、別記データ、一般種アイコン、その他各種データをいいます。

第2条（本約款の適用）

本約款は、本協定書の内容の一部を構成するものとし、本サービスを甲が利用することに関する一切に適用されるものとします。

第3条（本サービスの内容）

乙は、本サービスの内容を任意に、甲に事前通知することなく変更することができるものとします。

第4条（本サービスの中断・中止）

1. 乙は、本サービスの改善などの理由により、甲に対する事前の通知なく本サービス内容の変更、追加、削除を行うことができるものとします。
2. 乙は、乙の事情により本サービスを中止する場合は、甲に事前に通知するものとします。
3. 乙は、甲が本約款に違反したときは、事前の催告を要することなく、本サービスの提供を中止することができるものとします。

第5条（本データの使用許諾）

乙は、甲に対して、本データについて、以下の権利を非独占的に許諾します。

(1) 対象機器上で閲覧すること。

(2) 本サービスにおいて予め備えられた機能を用いて、対象機器に PDF 形式でダウンロードし、当該ダウンロードした対象機器に保存し、当該保存した本データを甲の防災業務内で使用すること。

(3) 本サービスにおいて予め備えられた機能を用いて、前号所定の対象機器が設置された部署内における防災業務の目的において紙媒体に印刷出力すること（本号に基づき印刷出力した本データを以下「印刷地図」という。）。

第6条（甲の遵守事項）

甲は、以下の事項を遵守するものとします。

- (1) アクセス権者に限り、乙に本データの送信を求めさせること。
- (2) ID等を、善良なる管理者の注意をもって保管・管理するものとし、第三者に使用又は利用させないこと。
- (3) 乙の指定する利用環境を確保・維持すること。
- (4) 本条第(1)号のために、アクセス権者の認証にあたり、その仕組み、システム等について現時点で取り得る技術的な対応等必要な措置を講ずること。
- (5) 本約款で明示的に許諾される場合を除き、本データの一部でも複製、加工、改変、出力、抽出、転記、送信その他の使用及び利用をしないこと。
- (6) 本約款で明示的に許諾される場合を除き、本データ（形態の如何を問わず、その全部又は一部の複製物、出力物、抽出物その他の利用物を含む。）の一部でも有償無償を問わず、又は譲渡・使用許諾、送信その他いかなる方法によっても第三者に使用させないこと。
- (7) 本データを印刷出力するにあたり以下の事項を遵守すること。但し、事前に乙の許諾を得た場合はこの限りではないものとします。
 - イ) 印刷地図を第5条第(3)号所定の目的以外の目的で使用又は利用しないこと。
 - ロ) 乙の指定する著作権表示等を印刷地図上に表示させること。
 - ハ) 印刷地図を製本、冊子、ファイリング等のまとめた形態又は印刷地図同士を貼り合わせた形態にして使用及び利用しないこと。
 - ニ) 印刷地図を第三者に配布しないこと。
 - ホ) 印刷地図のサイズはA3判以下とすること。
- (8) 本サービスの利用状況の記録（対象機器の台数、設置場所、アクセス権者の数等）を作成し、かつ、乙が要請した場合には、これを閲覧又はコピーさせること。

第7条（不保証及び免責）

1. 乙は、本サービス又は本データが完全性、正確性、非侵害等を有することを保証するものではないものとします。
2. 乙は、甲の本サービスの利用に伴い、甲又は第三者が被った損害について免責されるものとします。

第8条（権利の帰属）

本サービス及び本データに関する知的財産権は乙又は乙に権利を許諾した第三者に帰属するものとします。

第9条（その他）

甲は、乙の書面による事前の承諾なくして、本約款に基づく本サービスの利用権を他に譲渡し又は担保に供してはならないものとします。

以 上

災害時における霊柩自動車輸送の協力に関する協定

災害対策基本法（昭和 36 年法律第 223 号）第 2 条第 1 項に規定する災害が京都南部都市広域行政圏（宇治市・城陽市・向日市・長岡京市・八幡市・京田辺市・久御山町・宇治田原町・井手町・大山崎町）において発生し、多数の死者が集中的に出た場合における遺体の搬送について、京都南部都市広域行政圏推進協議会（以下「甲」という。）と社団法人全国霊柩自動車協会（以下「乙」という。）は次のとおり協定を締結する。

（総則）

第 1 条 この協定は、災害時に多数の死者が発生した場合の甲が行う遺体搬送について、乙の輸送業務の協力に関し、必要な事項を定めるものとする。

（協力要請）

第 2 条 甲は、災害時の遺体搬送のための車両を必要とする時は、乙に対して輸送業務の協力を要請するものとする。

（要請手段）

第 3 条 前条の規定による甲の要請は甲の会長が行う。ただし、災害の状態により甲の副会長又はこれに相当する者からも要請を行うことができる。

2 甲が乙に要請するに当たっては、次に掲げる事項を口頭又は電話等をもって連絡するものとし、事後、甲は実施細目で定める霊柩自動車輸送の協力要請書を乙に提出するものとする。

- (1) 要請を行った者の職名・氏名と担当者名
- (2) 輸送業務の提供を必要とする市町名及び場所
- (3) 要請の理由
- (4) 要請する車両台数
- (5) 履行の期日及び場所
- (6) その他必要な事項

（輸送業務）

第 4 条 甲の要請により乙は速やかに輸送体制を整え、遺体の輸送業務にあたるものとする。

2 乙の協会員は、要請に基づき、実施細目に定める参集場所又は甲の指示する参集場所へ参集するものとする。

（輸送協力実績報告）

第 5 条 乙は、前条の規定により輸送業務を実施した場合は、次に掲げる事項を口頭又は電話等をもって甲に報告するものとし、事後、乙は実施細目で定める霊柩自動車輸送の協力実績報告書を甲に提出するものとする。

- (1) 従事した車両及び車両登録番号
- (2) 輸送業務の従事者の氏名
- (3) 履行の市町名及び場所
- (4) 従事した日数及び走行距離
- (5) その他必要な事項

（費用の負担）

第 6 条 甲の要請に基づき乙が実施した輸送業務に係る費用については、業務の提供を受けた甲の構成市町がその費用を負担するものとする。

（費用の請求）

第 7 条 乙は、協会員の実施した輸送業務の協力実績を集計し、甲の構成市町毎にその支払いを請求

するものとする。

(費用の支払い)

第8条 甲の構成市町は、前条の規定に基づき乙から費用の支払いの請求があった場合は、速やかに乙に支払うものとする。

(費用の準定)

第9条 甲が負担する費用については、災害発生時の直前における近畿運輸局長への届出運賃を基準として甲乙協議のうえ決定するものとする。

(職員の同乗等)

第10条 甲は、必要に応じ、乙の輸送車両に職員を同乗させることができるものとする。

2 乙が輸送業務を実施しようとする時は、必要に応じ、甲に職員の同乗を要請することができる。

(通知)

第11条 甲は、災害時における円滑な輸送の協力が図られるよう、参集場所等に関して重要な変更が生じた時は、その都度乙に通知するものとする。

(実施細目)

第12条 この協定を実施するために必要な事項については、甲乙協議のうえ、実施細目で定めるものとする。

(実施日)

第13条 この協定は、協定締結の日から実施する。

(有効期間)

第14条 この協定の有効期間は、協定締結の日から1年間とする。ただし、期間満了の2ヶ月前までに、甲又は乙から書面による解約の申し出がない時は、なお1年間効力を有するものとし、以降も同様とする。

(協議)

第15条 この協定に定めのない事項及びこの協定の解釈に疑義が生じた場合については、実施細目に定めるもののほか甲乙協議のうえ決定するものとする。

この協定の締結を証するため、本書2通を作成し、甲乙記名押印のうえ、各自その1通を保有する。

平成17年3月25日

甲 京都府宇治市宇治琵琶 33
京都南部都市広域行政圏推進協議会
会長 宇治市長

乙 大阪市城東区関目 1-21-19
社団法人全国霊柩自動車協会
近畿支部連合会会長

災害時における霊柩自動車輸送の協力に関する協定実施細目

(趣旨等)

第1条 この実施細目は、災害時における霊柩自動車輸送の協力に関する京都南部都市広域行政圏推進協議会と社団法人全国霊柩自動車協会との協定（以下「協定」という。）第12条の規定に基づき、協定の実施に必要な手続きその他の事項を定めるものとする。

2 この実施細目における用語の意義は、協定の例による。

(要請手頃き)

第2条 協定第3条第2項に規定する甲が乙に提出する霊柩自動車輸送の協力要請書（以下「要請書」という。）は、様式1のとおりとする。

(協会員の名簿)

第3条 乙は協定第4条に規定する業務に協力するために、事前に指定する乙の協会員名簿を甲に届け出ることとし、変更があった場合もその都度これを甲に届け出ることとする。

(参集場所)

第4条 協定第4条に規定する参集場所は、要請書に掲げる場所又は災害時に甲の指定する場所とし、要請書に変更があった時は、甲はその都度これを乙に届け出ることとする。

(輸送協力実績報告書)

第5条 協定第5条に規定する乙が甲に提出する霊柩自動車輸送の協力実績報告書は、様式2のとおりとする。

(支払いの請求方法)

第6条 乙は、第7条に規定する費用の請求を、積算根拠を示す輸送業務実績一覧表を添付した請求書により行うものとする。

(実施日)

第7条 この細目は、協定締結の日から効力を生ずるものとする。

霊柩自動車輸送の協力要請書

(社) 全霊協 近畿支部連合会
会長 様

京都南部都市広域行政圏推進協議会
会長 宇治市長

災害時における霊柩自動車輸送の協力に関する協定第 3 条第 2 項に基づき、次のとおり遺体の輸送
協力を要請します。

要請を行った者の職名・ 氏名と担当者名及び連絡先	電話 () -
口頭・電話による連絡日時	年 月 日 時 分
業務の提供を必要とする 市 町 名 及 び 場 所	市町名 場 所
要 請 理 由	
要 請 す る 車 種	
要 請 する 車両 台 数	
履行の期日及び場所	(期日) 年 月 日 ~ 年 月 日 (日間) (場所)
備 考	

災害時における避難所の相互利用に関する協定書

向日市（以下「甲」という。）と長岡京市（以下「乙」という。）は、向日町南山急傾斜地崩壊危険区域で、土砂災害、地震、風水害等の災害が発生し、又は発生するおそれがある場合（以下「災害時」という。）において、甲又は乙がその地域防災計画に基づき開設する一時避難所（以下「避難所」という。）を付近の住民の避難所として相互利用するため、次のとおり協定を締結する。

（相互利用する避難所）

第1条 甲及び乙は、この協定に定めるところにより、次に掲げる避難所を相互利用するものとする。

(1) 甲が開設する避難所

ア 向日市立向陽小学校

イ 向日市向日コミュニティセンター

(2) 乙が開設する避難所 長岡京市立滝ノ町保育所

（利用の要請）

第2条 甲又は乙は、災害時において前条に掲げる避難所のうち他の一方が開設する避難所の利用を一時的に必要とするときは、避難所の開設及び利用について協議し、次に掲げる事項を記載した避難所利用要請書（様式）により要請するものとする。

(1) 災害の状況

(2) 利用を要請する日時

(3) 利用を要請する避難所の名称及び収容人員

(4) 甲又は乙が派遣する職員の職及び氏名

(5) その他避難所の開設及び利用に必要な事項

2 前項の規定にかかわらず、避難所利用要請書により要請する暇がないときは、口頭により要請することができる。この場合において、甲又は乙は、可及的速やかに、避難所利用要請書を提出するものとする。

（利用の承認）

第3条 甲又は乙は、前条の規定による要請を受けたときは、特別の理由がない限り、他の一方がその責任において避難所を利用することを承認するものとする。

（避難所の運営）

第4条 この協定書に基づき、甲又は乙が他の一方が開設する避難所に収容することができる避難住民は、災害時において住居を失い、又は失うおそれがある者とする。

2 甲及び乙は、災害のおそれがなくなり、又は避難住民の移動が可能となったときは、他の一方が開設した避難所に収容している避難住民を当該避難住民の居住地の避難所に移動させ、収容するものとする。

（経費の負担）

第5条 避難所の開設に係る光熱水費、人件費その他の経費は、当該避難所を開設する市が負担するものとする。

（協議）

第6条 この協定に定めのない事項及び疑義が生じた事項については、その都度甲乙協議の上定めるものとする。

（有効期間）

第7条 この協定は、平成18年10月20日から甲又は乙が文書をもって解除を申し入れるまで、その効力を有する。

この協定の締結を証するため、本書2通を作成し、甲乙記名捺印の上、各自1通を保有するものとする。

平成18年10月20日

(甲) 向日市寺戸町中野20番地
向日市長

(乙) 長岡京市開田一丁目1番1号
長岡京市長

第 年 月 日 号

〇〇〇〇市長 〇〇〇 〇〇〇 様

〇〇〇〇市長 〇〇〇 〇〇〇

避難所利用施設要請書

災害時における避難所の相互利用に関する協定書第2条の規定に基づき、次のとおり避難所の利用を要請します。

1 災害の状況

2 利用を要請する日時（避難日時）

年 月 日（ ） 時 分

～

年 月 日（ ） 時 分

3 避難所の名称及び収容人員

名称	甲が開設する避難所	向日市立向陽小学校	名
		向日コミュニティセンター	名
	乙が開設する避難所	長岡京市立滝ノ町保育所	名

4 派遣職員

（所属）.....（職）.....（氏名）.....

5 その他必要事項

市担当者： （所属）.....（職）.....
（氏名）.....（電話）.....

災害時における輸送業務に関する協定

向日市（以下「市」という。）と都タクシー株式会社（以下「都タクシー」という。）との間において、災害時における人員等の輸送について、次のとおり協定を締結する。

（目的）

第1条 この協定は、向日市内において、災害等が発生し、または発生するおそれがある場合（以下「災害時」という。）に、市から都タクシーに対して行う支援協力の要請に関し、その手続きを定め、災害応急対策を円滑に遂行することを目的とする。

（協力の要請）

第2条 市は、災害時において、都タクシーに対して次に掲げる事項について協力を要請することができる。

（1）一般貸切旅客自動車（以下「事業用自動車」という。）による災害時要配慮者等の輸送業務

・災害時要配慮者の定義

協定における事業用自動車の旅客の対象者である災害時要配慮者とは、災害時に、その状況に応じて適切かつ迅速に行動することができない市民のうち、病人、負傷者、妊産婦、障がい者及び高齢者等とする。

2 都タクシーは、市から要請を受けたときは、公共輸送機関としての責務を十分に自覚し、やむを得ない事由のない限り、通常業務に優先して輸送業務等の協力を行うものとする。

3 1項の要請により人員を輸送する避難所等は、向日市地域防災計画に定める指定避難所のほか、市が指定する避難場所とする。

（要請の方法）

第3条 前条の要請は、文書（第1号様式）により行うものとする。ただし、緊急を要する場合は、電話等により支援要請し、事後速やかに文書を提出するものとする。

（事業用自動車の供給手続）

第4条 市は、都タクシーから事業用自動車供給の協力を受け事業用自動車を運行したときは、供給の協力が完了した後、速やかに使用状況について事業用自動車使用確認通知書（第2号様式）により都タクシーに通知するものとする。

2 都タクシーは、市から要請を受け事業用自動車を運行し、前項の通知を受けたときは、事業用自動車使用報告書（第3号様式）により、市に報告するものとする。

（経費の負担）

第5条 市は、市の使用に係る事業用自動車の経費（燃料費及び人件費等の実費負担額）を負担する。

2 都タクシーは、前項の規定により、実費負担額が確定したときは、経費明細書等を作成し、市から通知された事業用自動車使用確認通知書を添付のうえ、経費を請求するものとする。

3 市は、前項の請求があったときは、その日から起算して30日以内に、経費を支払わなければならない。ただし、経費の支払いに予算上の措置を必要とする場合は、この限りではない。

（事故等）

第6条 都タクシーの供給した事業用自動車故障その他の理由により運行の継続が困難な場合は、都タクシーは、速やかに当該事業用自動車を交換のうえ、引き続き供給協力を行うものとする。

2 都タクシーは、その事業用自動車の運行に際し、事故が発生したときは、市に対し、事業用自動車事故報告書（第4号様式）により速やかにその状況を報告するものとする。

（旅客及び第三者に対する責任等）

第7条 都タクシーは、第2条により要請された業務の運行に際し、都タクシーの責に帰する理由により、旅客及び第三者に損害を与えたときは、その賠償の責を負うものとする。また、その際に生じた業務従事者に対する災害補償も都タクシーが負うものとする。

(損害賠償)

第8条 市は、その責めに帰する理由により、使用中の事業用自動車を損傷し、又は滅失したときは、都タクシーに対しその損害を賠償する。

(災害補償)

第9条 この協定に基づいて協力業務に従事した都タクシーが雇用する運転者が、本業務において負傷し、若しくは疾病にかかり、又は死亡した場合の災害補償については、都タクシーが対応するものとする。

(車両の通行)

第10条 市は、都タクシーが第2条により要請された業務の運行に際し、車両を緊急又は優先車両として通行できるように可能な範囲で支援するものとする。

(防災訓練等への参加)

第11条 都タクシーは、平常時においても市が実施する防災訓練等へ業務に支障をきたさない範囲で参加するものとする。

(期間及び改廃)

第12条 この協定は、協定締結の日から効力を有するものとし、市または都タクシーが、この協定を改正し、または廃止しようとするときは、その3か月前までに相手方に文書をもって通知しなければならない。

2 協定の終了を通知しない限り、その効力は継続するものとする。

(協議)

第13条 この協定に定めのない事項及びこの協定に関し疑義が生じたときは、両者が協議し決定する。

この協定の締結を証するため、本書2通を作成し、市、都タクシー両者押印の上、各1通を保有する。

平成28年2月19日

京都府向日市寺戸町中野20番地

京都府向日市長

京都市南区上鳥羽塔ノ本30番地2

都タクシー株式会社

代表取締役社長

京都南部都市災害時相互応援協定書

(主旨)

第1条 この協定は、宇治市、城陽市、向日市、長岡京市、八幡市、京田辺市、久御山町、宇治田原町、井手町、大山崎町（以下「協定市町」という。）において災害が発生し、災害を受けた市町（以下「被災市町」という。）独自では十分な応急対策及び復旧対策が実施できない場合に、災害対策基本法（昭和36年法律第223号）第67条第1項の規定に基づく市町相互の応援（以下「応援」という。）を円滑に実施するために必要な事項を定めるものとする。

(連絡体制)

第2条 協定市町は、あらかじめ相互応援のための連絡窓口を定め、災害が発生した場合には、速やかに必要な情報を相互に連絡するものとする。

(応援の内容)

第3条 応援の内容は、次の各号に掲げるものとする。

(1) 物資等の提供及び斡旋並びに人員の派遣

ア 食料、飲料水及び生活必需品並びにその供給に必要な資機材の提供及び斡旋

イ 被災者の救出、医療、防疫、施設の応急復旧等に必要な資機材の提供及び斡旋

ウ 応援及び救助活動に必要な車両、舟艇等の提供及び斡旋

エ 救援及び応急措置に必要な医療職、技術職、技能職員の派遣

(2) 被災者の一時収容のための施設の提供及び斡旋

(3) 清掃、防疫その他保健衛生のために必要な車両、施設の提供及び斡旋

(4) 緊急離発着場等の救護拠点の相互利用、緊急輸送路の共同啓開等必要な措置

(5) 前各号に掲げるもののほか、特に要請がある事項

(応援要請の手続き)

第4条 応援を要請しようとする被災市町は、次の事項を明らかにし、他の協定市町と十分な連絡調整を行い、第8条に定める連絡担当部局を通じて、電話又は電信により応援を要請するものとする。
この場合において、被災市町は必要事項を記載した文書を後日、速やかに協定市町に送付しなければならない。

(1) 被害の状況

(2) 前条第1号から第3号までに掲げる応援を要請する場合にあつては、物資等の品名、数量等

(3) 応援場所及び応援場所への経路

(4) 応援の期間

(5) 前各号に掲げるもののほか、必要な事項

(応援の実施)

第5条 応援を要請された協定市町は、法令その他特別に定めがある場合を除くほか、極力これに応じ応援活動に努めるものとする。

2 激甚な災害が発生し、通信の途絶等により被災市町との連絡がとれない場合には、被災市町以外の協定市町相互が連絡調整し、自主応援活動を行うことができる。

3 応援を行うとする協定市町は、他の協定市町と十分な連絡調整を行うものとする。

(応援経費の負担)

第6条 応援に要した経費は、原則として被災市町の負担とする。ただし、これによりがたい場合は、被災市町と協定市町が協議して別に定めるものとする。

2 被災市町が負担すべき費用を支弁するいとまがない場合は、応援した協定市町が一時繰替支弁す

るものとする。

(自主的な応援)

第7条 被災市町との連絡が取れない場合又は甚大な被害が予想される場合には、被災市町以外の協定市町は、自主的に職員を派遣し、被災市町の被害状況等の情報を収集するとともに、当該情報に基づいて必要な応援を行うことが出来るものとする。

2 前項の応援については、被災市町から応援の要請があったものとみなす。この場合において、被災市町の情報収集に要した経費については、前条の規定にかかわらず自主的に職員を派遣した協定市町の負担とする。

(連絡担当部局)

第8条 協定市町は、あらかじめ相互応援のための連絡担当部局を定め、災害が発生したときは、速やかに情報を相互に交換するものとする。

(京都南部都市広域防災連絡会の設置)

第9条 協定市町は、この協定に基づく応援の推進及び円滑な実施のため、京都南部都市広域防災連絡会（以下「連絡会」という。）を設置する。

2 連絡会の所掌事務は、規約により定める。

3 連絡会は、会長、副会長及び委員をもって組織する。

(その他)

第10条 この協定の実施に関し必要な事項は、別に定める。

2 この協定に定めのない事項については、協定市町が協議して定めるものとする。

附 則

1 この協定は平成22年4月1日から施行する

2 この協定を証するため、本協定書10通を作成し、各協定市町は記名押印のうえ、各一通を保管するものとする。

3 この協定は、京都南部都市広域行政圏推進協議会広域防災連絡会の一部を引き継ぐものとする。

平成22年4月1日

宇 治 市 長 ㊞	京 田 辺 市 長 ㊞
城 陽 市 長 ㊞	久 御 山 町 長 ㊞
向 日 市 長 ㊞	宇 治 田 原 町 長 ㊞
長 岡 京 市 長 ㊞	井 手 町 長 ㊞
八 幡 市 長 ㊞	大 山 崎 町 長 ㊞

災害時における避難所等施設利用に関する協定

向日市（以下「甲」という。）と京都府立向陽高等学校（以下「乙」という。）は、災害発生時において、避難場所及び避難所（以下「避難所等」という。）としての施設利用に関して、次のとおり協定を締結する。

（目的）

第1条 この協定は、災害時において甲が乙の管理する施設の一部を、避難所等として利用することについて、必要な事項を定めることを目的とする。

（避難所等の使用施設）

第2条 甲は、災害時において避難所等として開設する必要がある場合、乙の指定した場所を開設することができる。ただし、乙が被災し、避難所等として使用不能となったときはこの限りではない。

（使用の態様）

第3条 前条に定める避難所等としての使用は、地方自治法（昭和22年法律第67号）第238条の4第7項に定める目的外使用とし、次の各号に定める場合に、乙はその使用について特段の支障のない限りにおいて了承するものとする。

- (1) 甲が災害対策基本法（昭和36年法律第223号）（以下「災対法」という。）第60条1項に定める避難勧告又は避難の指示を発したとき。
- (2) 甲が災害対策本部を設置し、住民を保護する必要があると判断したとき。
- (3) 甲が災対法第86条の8第3項及び第86条の9第5項に基づき被災住民を受け入れるとき。

2 前項の使用については、特段の理由のない限り、京都府行政財産使用料条例（昭和39年京都府条例第38号）第3条第1号及び第3号により、使用料を免除するものとする。

（開設の通知）

第4条 甲は、前条に基づき避難所等を開設する際、事前に乙に対しその旨を、文書または口頭で通知するものとする。

2 甲は、避難所等の開設に緊急を要するときは、前項の規定にかかわらず、乙の承認した施設を避難所等として開設することができるものとする。ただし、できるだけ早い時期に、甲は、乙に対し開設した旨通知するものとする。

（避難所等の管理）

第5条 甲は、前条に定める使用をしようとするときは、施設の開錠及び避難所等の管理運営のための要員を直ちに派遣しなければならない。

- 2 避難所等の管理運営は、甲の責任において行うものとする。
- 3 避難所等の管理運営については、乙は甲に協力するものとする。

（開設期間）

第6条 避難所等の開設期間は、原則として災害発生の日から7日以内とし、被災者が自宅に帰宅するまで又は甲が指定する施設に移動するまでの期間とする。ただし、状況により期間を延長する必要がある場合は、甲乙協議のうえ決定するものとする。

（避難所等解消への努力）

第7条 甲は、乙が早期に教育活動を再開できるよう配慮するとともに、当該避難所等の早期解消に努めるものとする。

（避難所等の終了）

第8条 第3条に定める使用が終了したときは、甲は乙の敷地、施設、設備、備品等すべて原状に復したうえで、乙に返還しなければならない。

(鍵等の事前管理)

第9条 乙は、甲と協議の上、必要に応じて第2条に定める施設の鍵を貸与し、甲は、これを善良なる管理者の注意義務をもって管理するものとする。

2 甲は、前項の規定により管理者を定めたときは、乙に対し、速やかに報告するものとする。

3 第1項に要する経費は、甲の負担とする。

4 第1項に定める事前管理のため、乙は、鍵等を変更した場合は速やかに甲に連絡するものとする。また、甲は、毎年1回以上、乙に対し変更等について確認することとする。

(協定の期間)

第10条 この協定の有効期間は、協定締結の日から平成26年3月31日までとする。ただし、有効期間終了の日の1月前までに、甲又は乙いずれからも何ら意思表示がないときは、有効期間終了の日の翌日から起算して1年間この協定は延長され、以後同様とする。

(その他)

第11条 この協定に定めのない事項で、必要があるときは、甲乙協議のうえ対処するものとする。

この協定の締結を証するため、正本2通を作成し、甲及び乙が各1通を保持するものとする。

平成26年3月28日

(甲) 向日市寺戸町中野20番地
向日市長

(乙) 京都府立向陽高等学校

災害発生時における福祉避難所の設置運営に関する協定

向日市（以下「市」という。）と【施設管理者】（以下「施設管理者」という。）は、福祉避難所の設置及び運営に係る協力について、次のとおり協定を締結する。

（目的）

第1条 この協定は、向日市内に災害対策基本法（昭和36年法律223号）第2条第1号の災害が発生した場合において、市が施設管理者に対して福祉避難所の設置運営に関する協力を要請するにあたり必要な事項を定めるものとする。

（福祉避難所）

第2条 福祉避難所とは、災害発生時において、通常の避難所では避難生活が困難な援護を要する状態にある者（以下「要援護者」という。）のために開設する避難所をいう。

2 福祉避難所の業務内容は、福祉避難所の設置及び運営並びに受け入れた要援護者に対する日常生活上の支援（相談等を含む。）とする。

（対象者）

第3条 この協定による援護の対象者は、福祉施設又は医療機関に入所又は入院するに至らない在宅の要援護者で、一般の避難所生活において何らかの特別な配慮を必要とする者とする。

（協力の要請）

第4条 市は、災害時において、対象者の存在を把握した場合は、施設管理者に対し、当該対象者の受入れを要請するものとする。

2 施設管理者は、市からの要請に可能な範囲内で応じるよう努めるものとする。

（要援護者等の受入れ等）

第5条 施設管理者は、前条の規定による市の要請を受け入れることが可能と判断したときは、速やかに要援護者の受入体制を整え、受け入れることができる要援護者の人数等を市に報告するものとする。

2 市は、前項の報告を受けた場合は、福祉避難所に避難させる要援護者を特定し、これを施設管理者に通知するものとする。

3 福祉避難所に受け入れた要援護者の状況報告、必要な処遇の協議等は、市及び施設管理者が連携して行うものとする。ただし、緊急の場合においては、この限りではない。

4 要援護者を介助する者については、当該要援護者とともに福祉避難所に避難させることができるものとする。

（開設期間等）

第6条 福祉避難所の開設期間は、災害発生の日から7日以内とする。ただし、期間の延長が必要な場合は市及び施設管理者は協議の上、延長することができるものとする。

2 施設管理者は、前項の開設期間中は、福祉避難所の施設管理のため可能な範囲で当直者を配置するものとする。

3 前項の当直者を施設管理者が配置できない場合については、市は適切な者を選定し、その職にあたらせるものとする。

（対象者の移送）

第7条 市の要請に基づき、施設管理者が受入れを了承した場合、福祉避難所への対象者の移送は、当該対象者の家族若しくは支援者が行い、又は当該福祉避難所の従事者が消防団、警察、福祉タクシー事業者等の協力を得て実施する。

（必要な物資の調達及び人的支援）

第8条 市は、避難した要援護者に係る必要な物資の調達に努めるものとする。

2 施設管理者は、前項に定める物資の調達について、市と連携の上、可能な範囲で協力するものとする。

3 施設管理者は、要援護者の生活支援、相談等を実施できるよう、介護支援者等の確保及び配置に努めるものとする。

4 市は、前項に定める介護支援者等の確保及び配置を支援するものとする。

(経費の負担)

第9条 市は、施設管理者に対し、福祉避難所の設置及び運営管理に係る経費について、災害救助法（昭和22年法律第118号）その他関連法令等の定めるところにより、所要の実費を負担するものとする。

(福祉避難所の早期閉鎖への努力)

第10条 市は、施設管理者が早期に本来目的の活動を再開できるよう配慮するとともに、福祉避難所の早期閉鎖に努めるものとする。

(個人情報の保護)

第11条 施設管理者は、福祉避難所の設置運営を行う場合において知り得た要援護者又はその家族等の固有の情報を第7条に規定する場合のほか、市以外の者に漏らしてはならない。

2 前項に規定する個人情報の取扱いについては、別記「個人情報取扱特記事項」を遵守しなければならない。

(権利義務の譲渡等の制限)

第12条 施設管理者は、この協定により生ずる権利又は義務を第三者に譲渡し、若しくは承継させ、又はその権利を担保に供してはならない。

(関係書類の保管)

第13条 施設管理者は、この協定に関する書類等を事業所に整備するほか、事業実施後5年間はこれを保管しなければならない。

(協定の解除)

第14条 市は、施設管理者がこの協定に基づく指示に違反したことにより、この協定の目的を達成することができないと認めるときは、これを解除できるものとする。

(協定締結期間)

第15条 この協定の締結期間は協定締結後1年間とし、市、施設管理者いずれかより異議の申し出がない限り、毎年自動更新されるものとする。

(協議)

第16条 この協定に定める事項その他業務上の必要な事項について疑義が生じた場合は、市と施設管理者が協議の上、解決に努めるものとする。

この協定の締結を証するため、本書2通を作成し、市、施設管理者双方記名押印の上、各自1通を保有するものとする。

平成25年11月1日

向日市

社会福祉法人向陽福祉会

社会福祉法人向日春秋会

向日市自治会等自主防火防災用器具設置事業補助規則

(目的)

第1条 この規則は、向日市補助金等交付規則（平成 20 年規則第 9 号）及びこの規則の定めるところにより、火災、地震等の災害に備え、市民による自主防火防災組織の活動を推進するための防火防災用器具を設置する者に対し、補助金の交付を行い、もって市民の防火防災意識の高揚及び普及を図ることを目的とする。

(対象者)

第2条 補助金交付の対象者は、次の各号のいずれかに該当する地域で組織する自主防火防災組織とする。

- (1) 戸数が 10 以上の自治会、町内会又は隣組
- (2) 前号に掲げる地域のほか、市長が特に必要と認めた地域

(対象事業)

第3条 この規則により補助を行うことのできる事業は、次のとおりとする。

- (1) 別表に掲げる防災用器具の設置事業（以下「防災用器具設置事業」という。）
- (2) 消火器の設置又は格納箱の設置事業（住戸内に設置する場合及び共同住宅、寄宿舍又はこれらに準ずる建物の所有者が、当該共同住宅、寄宿舍又はこれらに準ずる建物に設置する場合を除く。以下「消火器設置事業」という。）
- (3) 消火訓練によって消火薬剤を使用した消火器の薬剤の詰め替え事業（以下「消火薬剤詰替事業」という。）

(補助金の額)

第4条 補助金は、予算の範囲内で交付するものとし、その額は、次の各号に掲げる事業の区分により当該各号に定めるところによる。

- (1) 防災用器具設置事業 当該事業に要する費用の 2 分の 1 以内とし、年間 200,000 円を限度とする。
- (2) 消火器設置事業 当該事業に要する費用の 2 分の 1 以内
- (3) 消火薬剤詰替事業 当該事業に要する費用のうち消火薬剤の材料費に相当する額

(交付申請)

第5条 補助金の交付を受けようとする者は、代表者を定め、自主防火防災用器具設置事業補助金交付申請書（様式第 1 号）に自主防火防災組織規約を添えて市長に提出しなければならない。

(交付決定)

第6条 市長は、前条の申請があったときは、交付の可否及び補助金の額を決定し、自主防火防災用器具設置事業補助金交付決定（却下）通知書（様式第 2 号）により申請者に通知しなければならない。

(自主防火防災用器具の設置)

第7条 前条の補助金交付の決定を受けた者は、防火防災用品販売業者と契約し、設置するものとする。

- 2 前項の設置が完了したときは、自主防火防災用器具設置完了届出書（様式第 3 号）を、市長に提出しなければならない。

(補助金の交付)

第8条 市長は、前条の完了届出書の提出があったときは、直ちに検査を行い、検査合格後、補助金を交付するものとする。

(委任)

第9条 この規則で定めるもののほか、必要な事項は、市長が別に定める。

附 則

(施行期日)

1 この規則は、平成8年4月1日から施行する。

(向日市消火器設置事業補助規則の廃止)

2 向日市消火器設置事業補助規則（昭和49年規則第3号。以下「旧規則」という。）は、廃止する。

(旧規則の廃止に伴う経過措置)

3 この規則の施行の際、現に旧規則第5条の規定による交付申請をしている者の補助金の交付決定及び額については、なお従前の例による。

附 則（平成13年3月30日規則第11号）

この規則は、平成13年4月1日から施行する。

附 則（平成24年3月19日規則第6号）

この規則は、平成24年4月1日から施行する。

別表（第3条関係）

補助の対象となる防火防災用器具一覧表

水バケツ

ヘルメット

メガホン

携帯マイク

ライト

担架（二つ折）

防水シート

一輪車

スコップ（剣先）

ツルハシ

バール

ノコギリ

器具保管庫

その他 特に市長が必要と認めるもの

福祉避難所の開設・運営に関する申し合わせ

乙訓福祉施設事務組合（以下「組合」という。）と向日市、長岡京市、大山崎町（以下「2市1町」という。）は、災害対策基本法（昭和36年法律第223号）及び災害救助法（昭和22年法律118号）に基づく福祉避難所の開設・運営について、次のとおり申し合わせる。

（開設要請）

第1条 災害時、2市1町は、組合に対して、組合の管理運営する次の施設（以下「各施設」という。）に福祉避難所を開設することをそれぞれ要請できるものとする。

施設名	所在地
乙訓若竹苑	京都府長岡京市井ノ内西ノ口17-8
乙訓ポニーの学校	京都府長岡京市井ノ内西ノ口17-8

2 前項による要請があった場合、組合はこれに応じるものとする。

（避難者の受入）

第2条 各施設の避難者収容人数は、原則、次のとおりとする。

施設名	収容人数	備考
乙訓若竹苑	70名	左記人数には要配慮者に付き添う家族等の人数も含む。
乙訓ポニーの学校	50名	

※収容人数は1人約2～4㎡を基準として算出

2 各施設における2市1町から受入可能な避難者数の目安は、各市町の人口割合（直近の10月1日現在住民基本台帳の人口）に応じるものとする。

3 2市1町からの避難者数が前項に定める目安を上回る場合は、各市町の被災の状況に応じて、組合と2市1町が別途調整する。

（対象避難者）

第3条 各施設の受入対象避難者は、原則、障がいのある者で、障がいの特性により一般の避難所では生活困難な者（要配慮者）及び当該要配慮者に付き添う家族等とする。

2 2市1町が、前項に定める者以外の避難者を各施設に避難させる場合は、あらかじめ組合に当該避難者（要配慮者）が必要とする支援の態様を伝え、時期・方法等について調整するものとする。

3 医療的支援の必要な避難者（要配慮者）については、付き添う家族等が対応できる者は受け入れるものとする。

（運営）

第4条 2市1町は、各施設における福祉避難所の開設及び閉鎖を決定し、対象者の入退所の調整など必要な管理を行うものとする。

2 組合は、避難者の生活に必要な援助（食事の提供、生活必需品の給貸与などを含む。）を行い、福祉避難所を運営するものとする。なお、具体的な運営方法については、組合と2市1町が別途協議して定めるものとする。

3 組合は、災害時に福祉避難所を円滑に運営することができるよう訓練を実施するとともに、必要最小限の物資の備蓄に努めるものとする。

4 2市1町は、各施設における福祉避難所の運営に必要な物資の支援を行うものとする。

（費用負担）

第5条 福祉避難所の開設・運営に関する費用は、2市1町が、原則、各市町からの延べ避難者数に応じて、負担するものとする。

(その他)

第6条 この申し合わせに定めるもののほか、福祉避難所の開設・運営に関して必要な事項は、組合と2市1町が協議の上、別途定めるものとする。

この申し合わせを証するため、本書4通を作成し、管理者・各市町長が記名押印の上、それぞれ1通を保有する。

平成27年1月30日

乙訓福祉施設事務組合管理者

向日市長

長岡京市長

大山崎町長

京都市及び向日市「新市街地ゾーン」地域防災に関する協定

イオンモール株式会社（以下「甲」という。）と京都市（以下「乙」という。）及び向日市（以下「丙」という。）は、甲が所有するイオンモール京都桂川が、乙及び丙の「新市街地ゾーン」に立地することから、当該地域における地域防災の推進に資するため、次のとおり協定を締結する。

1. 協定の目的

甲及び乙・丙は、甲がイオンモール京都桂川を置く「新市街地ゾーン」における防災意識及び防災性の向上を図るために連携し、相互に協力することを確認する。

2. 甲の役割

甲は、当該地域における防災意識及び防災性の向上を図るため、乙・丙が実施する防災啓発活動や防災訓練などの各種防災施策に協力するよう努めるものとする。

3. 乙・丙の役割

乙・丙は、「新市街地ゾーン」の住民及び来街者等の生命及び身体、財産を災害から保護するため、乙・丙が連携して各種防災施策を積極的に推進し、関係団体等と調整の上、甲と協力して地域の防災対策の強化を図るものとする。

この協定の締結を証するため、本書3通を作成し、甲及び乙・丙署名押印の上、各1通を保有するものとする。

平成26年10月17日

（甲）イオンモール株式会社
代表取締役社長

（乙）京都市長

（丙）向日市長

京都市及び向日市「新市街地ゾーン」地域防災に関する協定

オムロンヘルスケア株式会社（以下「甲」という。）と京都市（以下「乙」という。）及び向日市（以下「丙」という。）は京都市及び向日市の「新市街地ゾーン」の形成にあたり、当該地域における地域防災の推進に資するため、次のとおり協定を締結する。

1. 協定の目的

甲及び乙・丙は、甲が本社をおく「新市街地ゾーン」における防災意識及び防災性の向上を図るために連携し、相互に協力することを確認する。

2. 甲の役割

甲は、当該地域における防災意識及び防災性の向上を図るため、乙・丙が実施する防災啓発活動や防災訓練などの各種防災施策に協力するよう努めるものとする。

3. 乙・丙の役割

乙・丙は、「新市街地ゾーン」の住民及び来街者等の生命及び身体、財産を災害から保護するため、各種防災施策を積極的に推進し、関係団体等と調整の上、甲と協力して地域の防災対策の強化を図るものとする。

この協定の締結を証するため、本書3通を作成し、甲及び乙・丙署名押印の上、各1通を保有するものとする。

平成 26 年 12 月 11 日

（甲）オムロンヘルスケア株式会社
代表取締役社長

（乙）京都市長

（丙）向日市長

京都市及び向日市「新市街地ゾーン」地域防災に関する協定

学校法人真言宗洛南学園（以下「甲」という。）と京都市（以下「乙」という。）及び向日市（以下「丙」という。）は京都市及び向日市の「新市街地ゾーン」の形成にあたり、当該地域における地域防災の推進に資するため、次のとおり協定を締結する。

1. 協定の目的

甲及び乙・丙は、甲が洛南高等学校附属小学校を置く「新市街地ゾーン」における防災意識及び防災性の向上を図るために連携し、相互に協力することを確認する。

2. 甲の役割

甲は、当該地域における防災意識及び防災性の向上を図るため、乙・丙が実施する防災啓発活動や防災訓練などの各種防災施策に協力するよう努めるものとする。

3. 乙・丙の役割

乙・丙は、「新市街地ゾーン」の住民及び来街者等の生命及び身体、財産を災害から保護するため、各種防災施策を積極的に推進し、関係団体等と調整の上、甲と協力して地域の防災対策の強化を図るものとする。

この協定の締結を証するため、本書3通を作成し、甲及び乙・丙署名押印の上、各1通を保有するものとする。

平成 27 年 2 月 18 日

（甲）学校法人真言宗洛南学園
学園長

（乙）京都市長

（丙）向日市長

京都市及び向日市「新市街地ゾーン」地域防災に関する協定

株式会社京都銀行（以下「甲」という。）と京都市（以下「乙」という。）及び向日市（以下「丙」という。）は、甲が所有する金融大学校桂川キャンパスが、乙及び丙の「新市街地ゾーン」に立地することから、当該地域における地域防災の推進に資するため、次のとおり協定を締結する。

1. 協定の目的

甲及び乙・丙は、甲が金融大学校桂川キャンパスを置く「新市街地ゾーン」における防災意識及び防災性の向上を図るために連携し、相互に協力することを確認する。

2. 甲の役割

甲は、当該地域における防災性の向上を図るため、乙・丙が実施する防災啓発活動や防災訓練などの各種防災施策に甲が取り組んでいる京都BCPの推進において対応可能な範囲で連携するよう努めるものとする。

3. 乙・丙の役割

乙・丙は、「新市街地ゾーン」の住民及び来街者等の生命及び身体、財産を災害から保護するため、乙、丙が連携して各種防災施策を積極的に推進し、関係団体等と調整の上、甲の対応可能な範囲での協力も得て、地域の防災対策の強化を図るものとする。

この協定の締結を証するため、本書3通を作成し、甲及び乙・丙署名押印の上、各1通を保有するものとする。

平成27年3月9日

（甲）京都銀行株式会社
代表取締役

（乙）京都市長

（丙）向日市長

水害時における一時避難場所としての使用に関する協定

向日市（以下「市」という。）と三菱電機株式会社京都製作所（以下「事業所」という。）は、集中豪雨などにより桂川の水位が上昇し、越水や堤防の決壊等による大規模な浸水が市内に発生するおそれがある場合（以下「水害時」という。）における避難者の一時受入れ等について、次のとおり協定を締結する。

（趣旨）

第1条 この協定は、水害時に避難が必要になった者に対し、市が、第3条に規定する施設を一時避難場所（以下「避難場所」という。）として利用することについて、必要な事項を定めるものとする。

（避難場所開設の要請）

第2条 市は、水害時において避難場所を開設する必要があると認めるときは、事前に事業所に対し、様式第1号により、避難場所開設を要請するものとする。ただし、文書を持って要請することができない場合は、口頭により要請し、その後速やかに文書を提出するものとする。

（協力）

第3条 事業所は、市から前条の規定により避難場所開設の要請があったときは、特段の理由がない限り、以下の施設を市の責任において使用することを承認するものとする。なお、開設時期については、原則として市又は事業所の職員の体制が整ってからとする。

避難場所として使用する施設及び付帯設備

京都府長岡京市馬場岡所1番地

三菱電機株式会社京都製作所内

（避難場所の運営）

第4条 この協定に基づく避難場所の運営は、次のとおりとする。

- (1) 避難場所における避難者については、市が市の現場責任者を通して支援するものとする。
- (2) その他避難場所の運営について必要な事項は、市と事業所が協議の上、市が実施するものとする。

（受入れ場所）

第5条 避難場所として開設する施設は、以下のとおりとし、他の施設については使用しないものとする。

社員食堂棟の2階

但し、食堂2階の机・椅子・エアコン・水道・食堂1階トイレ等の付帯設備については使用を認める事とする。

（開設期間）

第6条 避難場所の開設期間は、第2条の開設から気象警報等が解除され被害の恐れがなくなるまでの間とする。

（避難場所解消への努力）

第7条 市は、事業所の業務に支障を来たさないようにするため、早期に事業所の業務が再開できるよう、避難場所の早期解消に努めるものとする。

（避難場所の終了）

第8条 市は、避難場所の運営を終了するときは、事業所に対し様式第2号により、その旨を報告するものとする。

(経費の負担)

第9条 避難場所を開設したことに伴い発生した経費については、平常時の費用等を参考にしながら、市と事業所が協議のうえ、市は水害に起因する経費分を事業所に支払うものとする。

2 所要経費の算出に当たっては、避難場所開設時の当該地域での物価指数などを基準とし、市と事業所が協議の上決定するものとする。

(損害賠償)

第10条 第4条の規定による避難場所の開設、運営上において生じた施設、設備及び器物の破損等の損害は、事業所の報告によりその損害に応じた費用を市が負担するものとする。

2 避難者の施設内で発生した事故等に対する責任を事業所は負わないものとする。

(有効期間)

第11条 この協定の有効期間は、協定締結の日から平成29年3月31日までとする。ただし、有効期間終了の日の1箇月前までに、市又は事業所いずれからも何ら意思表示がないときは、有効期間終了の日の翌日から起算して1年間この協定は延長され、以後同様とする。

(その他)

第12条 この協定に定めのない事項又は疑義の生じた事項については、市と事業所が協議の上定めるものとする。

この協定の締結を証するため、正本2通を作成し、市及び事業所が記名押印の上、各自1通を保有する。

平成28年 1月 5日

京都府向日市寺戸町中野20番地
向日市長

京都府長岡京市馬場図所1番地
三菱電機株式会社京都製作所所長

向日市浸水防除に係る資機材貸与及び活動費助成要綱

(趣旨)

第1条 この要綱は、地域における浸水防除対策の推進を図るため、浸水防除に係る組織に対し、予算の範囲内で浸水防除用資機材を貸与すること及び活動費を助成することについて必要な事項を定めるものとする。

(貸与及び助成の対象)

第2条 資機材貸与及び活動費助成の対象となる組織は、地域住民が風水害等の災害に対処するためにおおむね50戸以上の世帯で組織した団体であって、市長に組織結成の届出をしたものとする。

2 前項の届出には、当該組織の規約及び会員名簿を添付しなければならない。

3 当該組織の規約及び会員に変更が生じた場合は、すみやかに変更の届出をしなければならない。

(貸与資機材)

第3条 貸与資機材は、浸水防除に必要な物品とし、別表に定めるところによる。

(貸与資機材の申請)

第4条 資機材の貸与を受けようとする組織は、浸水防除用資機材貸与申請書(様式第1号)を市長に提出しなければならない。

(活動助成金)

第5条 活動助成金は、予算の範囲内で交付することができる。

2 活動助成金の額は、当該組織の活動運営に要する費用(食糧費は除く。)の2分の1以内とする。

(活動助成金の申請)

第6条 活動助成金の交付を受けようとする組織は、浸水防除活動助成金交付申請書(様式第2号)に、年度事業計画書等の書類を添えて当該年度の4月30日までに市長に提出しなければならない。

(貸与等の決定)

第7条 市長は、第4条及び前条の申請があったときは、これを審査し、貸与の可否及び交付額を決定し通知するものとする。

(資機材の管理責任)

第8条 貸与を受けた組織は、資機材を責任をもって管理、保管しなければならない。

(補 則)

第9条 この要綱に定めるもののほか、必要な事項は別に市長が定める。

附 則

この要綱は、平成5年4月1日から施行する。

附 則

この告示は、平成8年6月18日から施行する。

別表(第3条関係)

貸 与 資 機 材 表

区 分	品 名
水害排除用具	水中ポンプ、土のう袋、スコップ、つるはし、掛矢、ロープ
運搬用具	一輪車、石み
照明用具	懐中電灯
情報関係用具	トランシーバー、トランジスターラジオ
安全用具	ヘルメット、合羽、長靴、救急セット
その他	市長が認めるもの

自主防火防災組織規約

〇〇会自主防火防災会規約

(名 称)

第1条 この会は、〇〇会自主防火防災会（以下「本会」という。）と称する。

(事務所の所在地)

第2条 本会の事務所は、〇〇に置く。

(目 的)

第3条 本会は、〇〇会の住民が連帯共同して、火災、地震その他の災害（以下「地震等」という。）による被害を未然に防止し、又は被害を軽減することを目的とする。

(事 業)

第4条 本会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 防火防災に関する知識の普及に関すること。
- (2) 地震等に対する災害予防に関すること。
- (3) 地震等の発生時における警戒、情報の収集伝達、初期消火、救出救護、避難誘導等応急対策に関すること。
- (4) 防火防災訓練等の実施に関すること。
- (5) 防火防災用資機材等の整備に関すること。
- (6) その他本会の目的を達成するために必要な事項。

(会 員)

第5条 本会は、〇〇会内にある世帯をもって構成する。

(役 員)

第6条 本会に会長、副会長、幹事、会計、監査を置く。

- 2 役員は、会員の互選による。
- 3 役員の任期は、〇年とする。ただし、再任することができる。

(役員の任務)

第7条 会長は、本会を代表し、会務を総括し、地震等の発生時における応急活動の指揮を行う。

- 2 副会長は、会長を補佐し、会長の事故あるときはその職務を代行する。
- 3 幹事は、会務の運営にあたる。
- 4 会計は、会の会計事務をつかさどる。
- 5 監査は、会の会計を監査する。

(会 議)

第8条 本会に、役員会その他の会議を置く。

(防災計画)

第9条 本会は、地震等による被害の防止及び軽減を図るため、防災計画について協議する。

- 2 協議事項は、次のとおりとする。
 - (1) 地震の発生時における防災組織の編成及び任務分担に関すること。
 - (2) 防災知識の普及に関すること。
 - (3) 防災訓練に関すること。
 - (4) 地震等の発生時における警戒、情報の収集伝達、出火防止、初期消火、救出救護及び避難誘導に関すること。
 - (5) その他必要な事項

附 則

この規約は、〇年〇月〇日から実施する。

別表第 1

〇〇自主防災会編成表（例）
（ 本 部 組 織 ）

区	分	住	所	・	氏	名
会	長					
副	会	長				
役	員					
(幹事、会計監査等)						

（ 組 織 ）

〇 〇 〇 〇 自主防災部長		
応 急 活 動 班	情 報 班	
	消 火 班	
	救 出 救 護 班	
	避 難 誘 導 班	
	給 食 給 水 班	
構 成 人 員		

〇〇自主防災会の編成と任務（例）

会 長		① 火災等の災害予防に関すること ② 防災知識の普及に関すること ③ 防災訓練の実施に関すること ④ 災害応急対策に関すること ⑤ その他 〔上記事項の計画策定と推進〕
副 会 長		
役 員		
(幹事、会計監査等)		
応急救護活動班	○ ○ ○ ○ 自 主 防 災 部 長	
	情 報 班	災害情報の収集と関係先などへの通報連絡、広報活動
	消 火 班	出火等の災害発生防止、初期消火などの防ぎょ活動
	救出救護班	負傷者の救出救護活動
	避難誘導班	人員の把握と避難誘導活動
	給食給水班	水、食料の配布、炊き出し等の給食・給水活動

向日市防災協力農地登録制度実施要綱

(趣旨)

第1条 この制度は、災害発生時における緊急避難場所及び仮設住宅建設用地並びに復旧用資材置場等として活用できる農地をあらかじめ登録しておくことにより、災害時の市民等の安全確保と復旧活動の円滑化を図るための用地を確保するとともに、農地が農作物の生産の場だけでなく、環境面、防災面からも重要なオープンスペースであることを市民に理解してもらうことにより、農家と地域住民相互の協力のもとでの、「防災のまちづくり」を推進することを目的とする。

(定義)

第2条 この要綱において、次の各号に掲げる用語の定義は、当該各号に定めるものとする。

- (1) 防災協力農地とは、本要綱に基づき、登録された農地をいう。
- (2) 緊急避難場所とは、市民等が災害のため住家に被害を受け、居住の場所を失った者又は被害を受けるおそれがある者が一時的（7日以内をいう。以下同じ。）に避難する場所をいう。
- (3) 仮設住宅建設用地とは、災害救助法第23条第1項第1号の応急仮設住宅を建設する用地をいう。
- (4) 復旧用資材置場等とは、応急仮設住宅資材、鋼材、材木、袋詰めセメントその他の災害復旧工事に必要と認められる資材及びこれらに準ずるもので農地の原形復旧に支障とならないものを仮置きする場所をいう。
- (5) 災害とは、災害対策基本法第2条第1号に定めるもので、向日市災害対策本部が設置された災害をいう。

(防災協力農地の用途)

第3条 防災協力農地の用途は、緊急避難場所、仮設住宅建設用地、復旧用資材置場等とする。

(登録)

第4条 自己の所有する農地を防災協力農地として登録しようとする者は、防災協力農地登録申請書（様式第1号）を市長に提出するものとする。

- 2 前項の農地に小作権等が設定されている場合、農地の所有者は借手の同意を得るものとする。
- 3 市長は、防災協力農地登録申出書の提出があった場合は、その記載に重大な誤りがある場合を除き、これを防災協力農地登録簿（様式第2号）に記載するものとする。

(登録証の交付)

第5条 市長は、農地を防災協力農地として登録したときは、その申し出をした所有者に速やかに登録証（様式第3号）を交付するものとする。

(登録の期間)

第6条 防災協力農地の登録期間は、登録日から2年を経過した最初の3月31日までとする。ただし、市長が当該農地を防災協力農地として必要がないと認めた場合又は登録をした所有者（以下「登録者」という。）が登録を継続しない旨の意思表示をした場合を除き、期間満了毎に自動的に3年間登録を継続するものとする。

- 2 前条の登録証は、登録の継続に際しても、登録者に交付するものとする。
- 3 登録期間中、登録の抹消をしようとする登録者は、登録抹消届出書（様式第4号）により、市長に届け出るものとする。

(標識の設置)

第7条 市長は、必要に応じて、防災協力農地に、これを表示する標識を設置するものとする。

(使用)

第8条 市長は、災害が発生した場合、防災協力農地を登録者の許諾なく、緊急避難場所として一時的に使用することができる。

2 市長は、災害が発生した場合に、防災協力農地を8日以上緊急避難場所として使用しようとする場合又は仮設住宅建設用地若しくは復旧用資材置場等として使用しようとする場合は、登録者にその使用を要請するものとする。

3 使用の要請は文書をもって行う。ただし、緊急やむを得ない場合は、口頭その他の文書以外の方法によって行うことができる。

4 使用の要請を受けた農地の登録者は、特段の支障のない限り、要請に応じるものとする。

(使用期間)

第9条 前条第2項に係る防災協力農地の使用期間は2年以内とする。ただし、市長が必要と認めた場合は、登録者の同意を得て、これを延長することができる。

(補償及び土地使用料等)

第10条 防災協力農地を使用した場合の補償及び土地使用料等については、市長が別に定める。

(原形復旧)

第11条 防災協力農地の使用が終了したときは、市長は速やかにこれを農地として原形復旧し、所有者に返還しなければならない。

(その他)

第12条 この要綱の施行について必要な事項は、市長が別に定める。

付 則

この要綱は、平成10年9月9日から施行する。

防災協力農地登録届出書

年 月 日

向日市長 様

届出者住所
(所有者)氏名
電話

印

次の農地を向日市の防災協力農地として、登録することを申し出ます。

農地の所在地	現況 地目	面 積	市街化区域		市 街 化 調整区域	借手（小作）の同意
			生産緑地	宅地化農地		借手（小作）名

(注) 農地に小作権等を設定している場合は、借手の同意欄に借手が署名捺印して下さい。

向日市災害ボランティアセンターの設置及び運営に関する協定書

向日市（以下「甲」という。）と社会福祉法人向日市社会福祉協議会（以下「乙」という。）は、次のとおり向日市災害ボランティアセンター（以下「センター」という。）の設置及び運営に関する協定を締結する。

（目的）

第1条 この協定は、向日市地域防災計画に基づき、災害が発生した場合におけるセンターの設置運営等に関し、必要な事項を定めることを目的とする。

（用語の定義）

第2条 この協定において、「災害」とは災害対策基本法（昭和36年法律第223号）第2条第1号に定める被害をいう。

（運営）

第3条 甲は、災害が発生し、ボランティアによる活動が必要と認めたときは、乙に対しセンターの設置を要請する。

2 乙は、前項の要請があった場合には、すみやかにセンターを設置し、運営を担う。

（設置場所）

第4条 乙は、センターを向日市福祉会館に設置する。ただし、当該施設が被災し、設置することが困難な場合は、甲乙協議の上、適切な設置場所を確保するものとする。

（業務）

第5条 センターが行う業務は、次のとおりとする。

- (1) 災害ボランティアの受入れ及び活動依頼等に関すること
- (2) その他、災害ボランティア活動を支援するために必要な業務

（要請手続）

第6条 甲は、乙にセンターの運営を要請するときは、センターの設置の日時、場所及び運営に必要な事項を明記し、文書により行うものとする。ただし、特に緊急を要する場合は、甲は、口頭等により要請し、後日文書をもって処理するものとする。

（関係団体との協力体制）

第7条 甲及び乙は、各種ボランティア、地域住民及び地域の自主防災組織、消防関係団体と情報交換、防災訓練等を行い、平常時からこれら団体との連携に努めるものとする。

（資機材等の確保）

第8条 甲及び乙は、センターの運営に必要な資機材を協力して確保するものとする。

（センターの閉鎖）

第9条 センターの閉鎖は、災害復旧状況を考慮し、甲乙協議の上、甲が決定する。

（研修等の実施）

第10条 甲と乙は、平常時から協力して、災害時におけるボランティア活動に関する研修・講習会を実施し、人材育成に努めるものとする。

（平常時の取り組み）

第11条 乙は平常時より、災害時に備えたセンターの機能を整備するものとし、甲は、乙に対して整備に関する必要な支援に努めるものとする。

（費用負担）

第12条 要請に基づき、乙が協力した事項に要した費用のうち、甲が認めた費用については、甲が負担するものとする。ただし、当該災害ボランティア活動に係る支援募金、助成金等の収入があるときは、これらの収入を当該費用に充てるものとする。

2 乙は、前条に規定する費用の内訳について、甲が説明を求めたときは、これに応じなければならない

ない。

3 第1項に規定する費用の支払方法は、甲乙協議して別に定める。

(損害賠償等)

第13条 乙は、災害時のボランティア活動中の事故に備え、災害発生時のボランティア活動開始時に、活動参加者を保険に加入させることとし、災害応急・復旧活動に関し、ボランティアが被った損害に対する賠償等は、保険により対応するものとする。

(報告)

第14条 甲は、乙に対し、センターの運営状況について報告を求めることができる。

(協議)

第15条 この協定に定めのない事項及びこの協定に関する疑義については、甲乙協議の上、決定する。

この協定の締結の証として、本協定書を2通作成し、甲乙それぞれ記名押印の上、各自その1通を保有する。

平成27年3月31日

甲 向日市市長

乙 社会福祉法人
向日市社会福祉協議会会長

災害時における物資の供給に関する協定書

向日市（以下「甲」という）とレンゴー株式会社新京都事業所（以下「乙」という）は災害時における支援協力に関し、次のとおり協定を締結する。

（趣旨）

第1条 この協定は、向日市内で地震、風水害その他の災害が発生し、または発生する恐れがある場合に、甲が被災者等への物資供給と避難所における生活環境の整備を円滑に行うため、乙との協力について必要な事項を定めるものとする。

（物資の範囲）

第2条 甲が乙に対して供給を要請することができる物資は次のとおりとする。

- (1) 段ボール製品（段ボールシート及び段ボールケース）
- (2) 段ボール製簡易ベッド
- (3) その他乙の取り扱う商品

（協力要請及び手続）

第3条 甲は災害時に、物資等を確保する必要があると認めたときは、乙に対し、前条に定める物資の供給を要請することができるものとする。

- 2 前項の要請は文書にて行うものとする。ただし、緊急を要する場合は口頭により要請し、その後速やかに文書を提出するものとする。
- 3 乙は、第1項の要請を受けたときには可能な範囲で応じるものとする。なお、当該の要請に応じることが困難な場合は、その旨を申し出るとともに、要請のあった物資の供給の見込みについて、甲に通知するものとする。

（物資の引渡し）

第4条 乙は前条第2項により甲が指定した場所に物資を運搬し、甲の職員に引き渡すものとする。

- 2 甲は、乙が物資の運搬に使用する車両が優先車両として通行できるよう配慮するものとする。
- 3 乙は、物資の引き渡し後、速やかに文書にて甲に報告するものとする。

（費用の負担）

第5条 乙の物資供給にかかる費用は、甲が負担するものとする。

- 2 前項の費用は、災害発生の直前における価格を基準として、甲と乙が協議の上、算定するものとし、物資引渡しまでの運搬にかかる費用その他の経費を含むものとする。
- 3 甲は、前項の請求があったときは、その日から起算して30日以内に乙に対し、経費を支払わなければならない。ただし、経費の支払いに予算上の措置を必要とする場合は、この限りではない。

（平時からの協力）

第6条 乙は、甲が実施する防災訓練等へ業務に支障をきたさない範囲で参加するなど、平時から協力体制を構築するものとする。

（期間及び改廃）

第7条 この協定は、協定締結の日から効力を有するものとし、甲又は乙が、この協定を改正し、または廃止しようとするときは、その3か月前までに相手方に文書をもって通知しなければならない。

- 2 協定の終了を通知しない限り、その効力は継続するものとする。

（協議）

第8条 この協定に定めのない事項及びこの協定に関し疑義が生じたときは、両者が協議し決定す

る。

この協定の締結を証するため、本書２通を作成し、甲乙両者記名押印の上、各１通を保有する。

平成２８年１２月２０日

甲 京都府向日市寺戸町中野２０番地
向日市長

乙 京都府長岡京市勝竜寺八反田１番地
レンゴー株式会社新京都事業所
事業所長

<様式第1号>

年 月 日

レンゴー株式会社新京都事業所 御中

物資供給要請書

向日市長

災害時における物資の供給に関する協定書第3条第2項に基づき、次のとおり物資の供給を要請します。

<物資の概要>

- ・品目
- ・数量
- ・引渡場所（納入場所）
- ・引渡日時（納期）

<備考欄>

<様式第2号>

年 月 日

向日市長 様

物資供給報告書

レンゴー株式会社新京都事業所

災害時における物資の供給に関する協定書第4条第3項に基づき、次のとおり物資の供給について報告します。

<物資の概要>

- ・品目
- ・数量
- ・引渡場所（納入場所）
- ・引渡日時（納期）

<備考>

災害発生時における福祉避難所の設置運営に関する協定書

向日市（以下「市」という。）と社会福祉法人向陵会（以下「施設管理者」という。）は、福祉避難所の設置及び運営に係る協力について、次のとおり協定を締結する。

（目的）

第1条 この協定は、向日市内に災害対策基本法（昭和36年法律223号）第2条第1号の災害が発生した場合において、市が施設管理者に対して福祉避難所の設置運営に関する協力を要請するにあたり必要な事項を定めるものとする。

（福祉避難所）

第2条 福祉避難所とは、災害発生時において、通常の避難所では避難生活が困難な援護を要する状態にある者（以下「要援護者」という。）のために開設する避難所をいう。

2 福祉避難所の業務内容は、福祉避難所の設置及び運営並びに受け入れた要援護者に対する日常生活上の支援（相談等を含む。）とする。

（対象者）

第3条 この協定による援護の対象者は、福祉施設又は医療機関に入所又は入院するに至らない程度の在宅の要援護者で、一般の避難所生活において何らかの特別な配慮を必要とする者とする。

（協力の要請）

第4条 市は、災害時において、対象者の存在を把握した場合は、施設管理者に対し、当該対象者の受入を要請するものとする。

2 施設管理者は、市からの要請に可能な範囲内で応じるよう努めるものとする。

（要援護者等の受入れ等）

第5条 施設管理者は、前条の規定による市の要請を受け入れることが可能と判断したときは、速やかに要援護者の受入体制を整え、受け入れることができる要援護者の人数等を市に報告するものとする。

2 市は、前項の報告を受けた場合は、福祉避難所に避難させる要援護者を特定し、これを施設管理者に通知するものとする。

3 福祉避難所に受け入れた要援護者の状況報告、必要な処遇の協議等は、市及び施設管理者が連携して行うものとする。ただし、緊急の場合においては、この限りではない。

4 要援護者を介助する者については、当該要援護者とともに福祉避難所に避難させることができるものとする。ただし、この場合通常の避難所の対象者として取り扱うものとする。

（開設期間等）

第6条 福祉避難所の開設期間は、災害発生の日から7日以内とする。ただし、期間の延長が必要な場合は市及び施設管理者は協議の上、延長することができるものとする。

2 施設管理者は、前項の開設期間中は、福祉避難所の施設管理のため当直者を配置するものとする。

（対象者の移送）

第7条 市の要請に基づき、施設管理者が受入を了承した場合、福祉避難所への対象者の移送は、当該対象者の家族若しくは支援者が行い、又は当該福祉避難所の従事者が消防団、警察、福祉タクシー事業者等の協力を得て実施する。

（必要な物資の調達及び人的支援）

第8条 市は、避難した要援護者に係る必要な物資の調達に努めるものとする。

2 施設管理者は、前項に定める物資の調達について、市と連携の上、可能な範囲で協力するものとする。

3 施設管理者は、要援護者の生活支援、相談等を実施できるよう、介護支援者等の確保及び配置に努めるものとする。

4 市は、前項に定める介護支援者等の確保及び配置を支援するものとする。
(経費の負担)

第9条 市は、施設管理者に対し、福祉避難所の設置及び運営管理に係る経費について、災害救助法（昭和22年法律第118号）その他関連法令等の定めるところにより、所要の実費を負担するものとする。

(福祉避難所の早期閉鎖への努力)

第10条 市は、施設管理者が早期に本来目的の活動を再開できるよう配慮するとともに、福祉避難所の早期閉鎖に努めるものとする。

(個人情報の保護)

第11条 施設管理者は、福祉避難所の設置運営を行う場合において知り得た要援護者又はその家族等の固有の情報を第7条に規定する場合のほか、市以外の者に漏らしてはならない。

2 前項に規定する個人情報の取扱いについては、別記「個人情報取扱特記事項」を遵守しなければならない。

(権利義務の譲渡等の制限)

第12条 施設管理者は、この協定により生ずる権利又は義務を第三者に譲渡し、若しくは承継させ、又はその権利を担保に供してはならない。

(関係書類の保管)

第13条 施設管理者は、この協定に関する書類等を事業所に整備するほか、事業実施後5年間はこれを保管しなければならない。

(協定の解除)

第14条 市は、施設管理者がこの協定に基づく指示に違反したことにより、この協定の目的を達成することができないと認めるときは、これを解除できるものとする。

(協定締結期間)

第15条 この協定の締結期間は協定締結後1年間とし、市、施設管理者いずれかより異議の申し出がない限り、毎年自動更新されるものとする。

(協議)

第16条 この協定に定める事項その他業務上の必要な事項について疑義が生じた場合は、市と施設管理者が協議の上、解決に努めるものとする。

この協定の締結を証するため、本書2通を作成し、市、施設管理者双方記名押印の上、各自1通を保有するものとする。

平成26年4月18日

市 向日市寺戸町中野20番地
向日市長

施設管理者 向日市上植野町五ノ坪11番地の1
社会福祉法人向陵会 理事長

個人情報取扱特記事項

(基本的事項)

第1 施設管理者は、この協定による業務を行うに当たり、個人の権利利益を侵害することのないよう個人情報を適正に取り扱わなければならない。

(秘密の保持)

第2 施設管理者は、この協定による業務に関して知り得た個人情報を他人に知らせ、又は不当な目的に使用してはならない。この協定が終了し、又は解除された後においても同様とする。

(収集の制限)

第3 施設管理者は、この協定による業務を行うために個人情報を収集するときは、当該業務の目的を達成するために必要な範囲内で、適法かつ公正な手段により行わなければならない。

(漏えい、滅失及びき損の防止)

第4 施設管理者は、この協定による業務に関して知り得た個人情報について、漏えい、滅失及びき損の防止その他個人情報の適切な管理のために必要な措置を講じなければならない。

(業務従事者への通知)

第5 施設管理者は、この協定による業務に従事している者に対し、在職中及び退職後においても当該協定による業務に関して知り得た個人情報を他人に知らせ、又は不当な目的に使用してはならないことなど、個人情報の保護に必要な事項を周知するものとする。

(個人情報の目的外利用・外部提供の禁止)

第6 施設管理者は、市の指示がある場合を除き、この協定による業務に関して知り得た個人情報を当該協定の目的以外の目的に利用し、又は市の承諾なしに第三者に提供してはならない。

(複写又は複製の禁止)

第7 施設管理者は、この協定による業務を遂行するために市から引き渡された個人情報が記録された資料等を複写し、又は複製してはならない。ただし、市の指示に基づく場合は、この限りでない。

(作業場所の特定及び保管場所)

第8 施設管理者は、個人情報が記録された資料等を市の承諾なしに所定の場所から搬出してはならない。

2 施設管理者は、個人情報が記録された資料等を市又は施設管理者の従業員だけが立入ることのできる場所に設置された施錠のできる保管施設に保管しなければならない。

(再委託等の禁止)

第9 施設管理者は、この協定による業務を遂行するための個人情報を自ら取り扱うものとし、当該業務を他に委託し、又は請け負わせてはならない。

ただし、書面により市の承諾を得たときは、この限りでない。

(資料等の返還)

第10 施設管理者は、この協定による業務を遂行するために、市から提供を受け、又は施設管理者自らが収集し、若しくは作成した個人情報を記録した資料等は、この協定の完了後直ちに市に返還し、又は引き渡すものとする。ただし、市が別に指示したときは当該方法によるものとする。

(調査)

第11 市は、施設管理者がこの協定による業務を行うにあたり取り扱っている個人情報の状況について、随時調査することができる。

(事故発生時における報告)

第 12 施設管理者は、個人情報の漏えい、滅失、き損、改ざん等の事故が生じ、又は生じるおそれのあることを知ったときは、漏えい、滅失、き損、改ざん等のあった個人情報の項目、内容、数量、事故の発生場所、発生状況等を詳細に記載した書面をもって速やかに市に報告し、市の指示に従うものとする。

災害時等における緊急放送に関する協定書

災害時緊急放送の実施について、向日市（以下「甲」という。）と一般社団法人FMおとくに（以下「乙」という。）との間に次のとおり協定を締結する。

（目的）

第1条 この協定は、向日市に災害等が発生し、または発生するおそれがある場合に、災害等の情報について緊急放送を行うことにより、災害等による被害の軽減を図り、市民生活の安全確保に寄与することを目的とする。

（協力要請）

第2条 甲は災害情報等について市民への緊急放送が必要な場合は、乙に対し協力を要請することができる。

2 乙は、前項の要請を受けたときは、特別な理由がない限り協力するものとする。

（協力の内容）

第3条 乙の甲に対する協力の内容は、次のとおりとする。

- (1) 地震、台風、大雨、大規模火災、武力攻撃事態、その他非常事態による災害等が発生し、又は発生するおそれがある場合の災害情報及び避難情報の提供
- (2) その他人命の保護等に係る緊急、重大な情報の提供

（要請方法）

第4条 甲の乙に対する要請は、次に掲げる事項を文書又は口頭で行うものとする。

- (1) 要請の理由
- (2) 要請の内容
- (3) その他必要な事項

（費用負担）

第5条 乙がこの協定に基づく放送を行った場合に要する費用は、甲と乙が協議の上、別に定めるものとする。

（協定の期間）

第6条 この協定の期間は、協定締結の日から平成31年3月31日までとする。ただし、前項の期間満了の日の3ヵ月前までに、甲乙いずれからも相手方に対して協定の解除、又は変更の申し出がないときは、この期間を更に1年間延長するものとし、以降も同様とする。

（疑義の解決）

第7条 この協定について疑義が生じた場合及びこの協定に定めのない事項で必要がある場合は、甲乙協議の上、定めるものとする。

この協定の締結を証するため、本書2通を作成し、甲乙署名の上、各自1通を保有するものとする。

平成30年12月2日

（甲）向日市寺戸町中野20番地
向日市長

（乙）向日市寺戸町七ノ坪141 SU・BA・CO4階
一般社団法人 FMおとくに 代表理事

災害時における復旧活動に要する用地の使用に関する協定書

向日市（以下「甲」という。）及び大阪ガス株式会社（以下「乙」という。）は、向日市内で地震、風水害その他の大規模な災害が発生した場合（以下「災害時」という。）における、復旧活動に要する用地（以下「用地」という。）の使用に関して、次のとおり協定を締結する。

（目的）

第1条 この協定は、災害対策基本法 第八十条 第二項に基づき、乙の所掌業務に係る応急措置が円滑に実施されるよう、災害時における用地の使用に関する事項を定めることを目的とする。

（使用対象）

第2条 使用対象は、別表に掲げる用地内の一部区域とする。

（使用申請）

第3条 乙が用地を使用する場合は、様式第1号により、甲に申請を行うものとする。ただし、緊急を要するときは、口頭、電話等により申請し、後日速やかに書面を提出するものとする。

2 甲は、前項の規定による使用申請があった場合には、用地の使用状況や住民避難状況、広域的支援部隊の展開状況等を踏まえ、支障が無い範囲で使用を認め、様式第2号により許可を与えるものとする。

3 甲は、前項の規定による許可を与えた場合、各用地に関係する条例等で規定した「行為の許可」について、乙の手続きは不要とする。

（使用料の免除）

第4条 甲は、前条による許可を与えた場合、乙の用地使用にかかる使用料及び占用料を免除とする。

（用地の使用）

第5条 乙は、所掌業務に係る応急措置を実施するための設備を用地内に設置する場合には、甲と協議の上、自己の責任と負担において設置する。

2 乙は、用地を使用する際、同用地を使用している他の機関と相互に調整を行うものとする。

（原状回復）

第6条 乙は、用地の使用期間終了後、前条第1項による設備の撤去も含め、自己の責任と負担において原状回復を行うものとする。

（損害賠償）

第7条 乙は、用地の使用に際し、自己の責めに帰すべき事由により、甲又は第三者に損害を及ぼしたときは、自己の責任と負担において解決するものとする。

（許可の取り消し）

第8条 甲は、第3条第2項に基づく許可に関わらず、本来の用途に使用する必要がある場合又は使用の許可を継続しがたいと判断した場合は、これを取り消すことができる。

2 第1項により取り消しがあった場合についても、乙は、第6条の規定を遵守しなければならない。

（有効期間）

第9条 本協定の有効期間は、協定締結日から1年間とする。ただし、有効期間の満了の日の1ヶ月前までに、甲、乙のいずれかより文書による申し出がない限り、引き続き1年間有効とし、以後も同様の措置とする。

（疑義等の決定）

第10条 この協定に定めのない事項及びこの協定に関し疑義の生じた事項については、必要に応

じ、甲及び乙で協議の上、決定するものとする。

この協定の締結を証するため、本書２通を作成し、甲及び乙の記名押印の上、各自１通を保有するものとする。

令和元年５月１４日

甲 京都府向日市寺戸町中野２０番地
向日市長

乙 京都府京都市下京区中堂寺栗田町９３
大阪ガス株式会社 ネットワークカンパニー
京滋導管部長

別表

使用対象の用地一覧表

No.	名 称	所 在 地	面 積 (㎡)	使用可能区域
1	市民ふれあい広場	向日市鶏冠井町十相地内	2,100	グラウンド
2	第5 向陽小学校	向日市上植野町五ノ坪1	7,600	グラウンド
3				
4				
5				

年 月 日

様

申請者
住 所
名 称
印

災害時における復旧活動に要する用地使用申請書

「災害時における復旧活動に要する用地の使用に関する協定書」第3条第1項の規定により、下記のとおり使用を申請します。

記

1 使用期間

年 月 日 ～ 年 月 日

2 使用申請用地

No.	名 称	所 在 地	面 積 (㎡)	備 考

3 担当者名及び連絡先

年 月 日

様

印

災害時における復旧活動に要する用地使用許可書

年 月 日付けの用地使用申請については、「災害時における復旧活動に要する用地の使用に関する協定書」第3条第2項の規定により、下記のとおり使用を許可します。

記

1 使用期間

年 月 日 ～ 年 月 日

2 使用許可用地

No.	名 称	所 在 地	面 積(㎡)	備 考

3 許可条件など

災害時における情報提供に関する協定書

向日市（以下「甲」という。）及び大阪ガス株式会社（以下「乙」という。）は、向日市内において地震、風水害その他の大規模な災害が発生した場合（以下「災害時」という。）において、乙から甲に提供される災害時における情報（以下「情報」という。）に関して、次のとおり協定を締結する。

（目的）

第1条 この協定は、都市ガス供給を停止した住民への、都市ガス供給の復旧についての円滑な情報提供に関する事項を定めることを目的とする。

（対象者）

第2条 情報の提供対象は、甲の運用するウェブサイトの閲覧者とする。

（情報提供の手段）

第3条 情報は平常時に予め乙から甲にデータ形式で提供する。

2 甲は災害時にこれを甲の運用するウェブサイトに掲載する。この際、乙に掲載可否の確認は必要としない。

（情報の内容）

第4条 乙は甲に「マイコンメーター復帰手順の情報」及び「ガス復旧状況の情報」を提供する。詳細は別紙1に記載する。

2 乙は情報の内容が変更された場合、速やかに甲に連絡の上、最新の情報提供を行う。

（有効期間）

第5条 本協定の有効期間は、協定締結日から1年間とする。ただし、有効期間の満了の日の1ヶ月前までに、甲及び乙のいずれかより文書による申し出がない限り、引き続き1年間有効とし、以後も同様の措置とする。

（疑義等の決定）

第6条 この協定に定めのない事項及びこの協定に関し疑義の生じた事項については、必要に応じ、甲及び乙で協議の上、決定するものとする。

この協定の締結を証するため、本書2通を作成し、甲及び乙の記名押印の上、各自1通を保有するものとする。

令和元年5月14日

甲 京都府向日市寺戸町中野20番地
向日市長

乙 京都府京都市下京区中堂寺栗田町93
大阪ガス株式会社 ネットワークカンパニー
京滋導管部長

(別紙1)

1. マイコンメーター復帰手順の情報

以下の情報データを掲載。

ガスが使えない場合は

マイコンメーターが大きな揺れなどを感知して、安全のためガスを遮断している場合があります。
その場合は以下の手順で復帰操作をしてください。

Step ①

まずは、全てのガス機器を止めて、ガス臭くないかを確認

ガスもれに気づいたら、すぐ窓や戸を開けて、ガスもれ専用電話にご連絡いただき、屋外に避難してください。

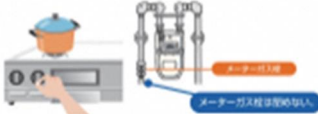
Step ②

ガス臭くない場合は、メーターの赤いランプの点滅を確認

点滅がなくガスが使えない場合は、大阪ガスお客さまセンターにご連絡ください。

Step ③

全てのガス機器の器具栓、
ガス栓が閉まっているかを確認する。
屋外の機器も忘れずに。



Step ④

復帰ボタンのキャップを手で左に回して外す

復帰ボタンのキャップがない場合やメーターの種類
形状が異なる場合や復帰ボタンの位置がわからない
場合は大阪ガスホームページにてメーターの種類
に応じた操作手順をご覧ください。



Step ⑤

復帰ボタンを奥までしっかり押し
ランプの点灯を確認したら手をはなす。
点灯後、またランプの点滅が始まります。



Step ⑥

ガスを使わず3分間待つ

ランプの点滅が消えるとガスが使えます。



上記の操作方法を実施してもガスが出ない場合、方法に不明な点がある場合は、大阪ガスお客さまセンターにご連絡ください。

大きな地震などでは、その区域全体のガス供給を停止する場合があります。
その場合は各戸のガスメーターで復帰操作を行ってもガスが出ないことがあります。

■ガス供給再開後の使用時の注意点■

使用前に、排気口にこわれ・はずれなどの異常がないかをご確認いただき
設備に異常のあるガス器具はご使用にならないでください。

2. ガス復旧状況の情報

ガス管の復旧進捗状況を HP で確認できる大阪ガスの「復旧見える化システム」を掲載。

【リンク先】 <http://www.osakagas.co.jp/area-exhibition/>

*大規模災害発生時などに、大阪ガスホームページトップの緊急用画面に掲載します

「復旧見える化システム」

地域毎にガスの復旧進捗状況などを掲載した一覧リストと、ガスの復旧進捗状況毎に色分けしたマップが、大阪ガスのホームページトップ画面から閲覧可能です。「供給停止（閉栓中）」、「道路面のガス管検査中」、「道路面のガス管修理中」、「お客さま宅のガス設備検査・開栓実施中」、「お客様宅への訪問・開栓一巡完了」の5区分を明示します。

① 一覧リスト

お客さまがお住まいの地域をお調べになりやすいよう、町名入力による絞り込み検索機能を設け、地域毎（町丁単位）に復旧完了見込み日、復旧進捗状況を表示します。

（イメージ）

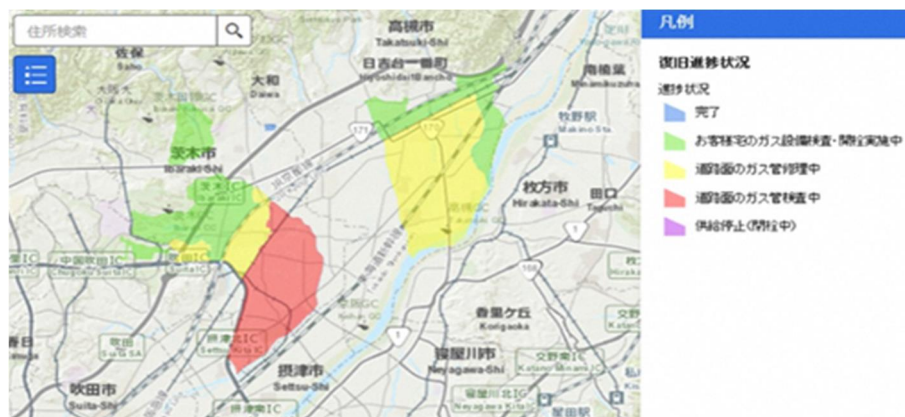
行政区名	復旧完了見込み	復旧進捗				地図
		【ステップ1】 閉栓	【ステップ2】 道路面のガス管検査中	【ステップ3】 道路面のガス管修理中	【ステップ4】 お客様宅のガス設備検査・開栓実施中	
大阪府 大阪市 中央区 安堂寺町 1丁目	2018/3/7 ～ 2018/3/14	●	○	○		地図1
大阪府 大阪市 中央区 安堂寺町 2丁目	2018/3/2 ～ 2018/3/5	●	●	●	○	地図1 地図2
大阪府 大阪市 中央区 瓦屋町 1丁目	2018/3/1	●	●	●	●	地図1 地図2 地図3 地図4
大阪府 大阪市 中央区 瓦屋町 2丁目	2018/3/2 ～ 2018/3/5	●	●	●	○	地図1 地図2 地図3
大阪府 大阪市 中央区 瓦屋町 3丁目	2018/3/10 ～ 2018/3/17	●	○			地図1 地図2 地図3 地図4 地図5

現場状況により、復旧完了見込みが変更になる場合があります。あらかじめご了承ください。

② マップ

復旧進捗状況毎に色分けして表示し、お客さまがお住まいの地域を選択すると復旧完了見込み日を表示します。 町名入力による絞り込み検索機能も設けています。

（イメージ）



向日市避難行動要支援者名簿情報の提供に関する覚書

向日市（以下「市」という。）と乙訓消防組合（以下「消防組合」という。）は、避難行動要支援者の名簿情報の提供にあたり、次のとおり覚書を締結する。

（目的）

第1条 この覚書は、災害対策基本法第49条の10の規定により作成した避難行動要支援者名簿に記載し、又は記録された情報（以下「名簿情報」という。）を同法第49条の11の規定により、市が消防組合に提供するにあたり、その名簿情報の取扱いについて定めるものとする。

（名簿情報の提供）

第2条 市は、避難行動要支援者（以下「要支援者」という。）の避難支援等（災害対策基本法第49条の10第1項に規定する避難支援等をいう。以下同じ。）を実施するため、年1回、名簿情報を消防組合に提供する。

2 市が消防組合に提供する名簿情報は、紙に印字された文書の形式とする。

3 消防組合は、名簿情報を受領した際は、避難行動要支援者名簿情報受領書（様式第1号）を市に提出するものとする。

4 市は、更新した名簿情報を提供する際は、消防組合から既に提供した名簿情報の返却を受けるものとする。

（名簿情報管理責任者及び名簿情報取扱者）

第3条 消防組合は、提供された名簿情報を管理する者（以下「名簿情報管理責任者」という。）を定め、名簿情報管理責任者及び名簿情報の保管場所等について、名簿情報管理責任者等登録届（様式第2号）により市へ届け出るものとする。

2 消防組合は、提供された名簿情報の閲覧、複写の所持その他必要な措置を実施する者（以下「名簿情報取扱者」という。）を定め、名簿情報取扱者登録届（様式第3号）により市へ届け出なければならない。

3 消防組合は、名簿情報管理責任者若しくは名簿情報取扱者に変更が生じたとき、又は名簿情報の保管方法に変更が生じたときは、速やかに名簿情報管理責任者等変更届（様式第4号）により市へ届け出なければならない。

（名簿情報の利用制限）

第4条 消防組合は、提供された名簿情報を、要支援者の避難支援等以外の目的に利用してはならない。

2 消防組合は、提供された名簿情報（複写を含む。以下同じ。）を、避難支援等の実施に必要な限度で名簿情報管理責任者及び名簿情報取扱者以外の消防組合内の避難支援等の実施に携わる者に提供できる。

（名簿情報の複写制限）

第5条 消防組合は、提供された名簿情報の複写について、避難支援等の実施に必要な限度を超えて行ってはならない。

（守秘義務）

第6条 名簿情報管理責任者、名簿情報取扱者その他の当該名簿情報を利用して避難支援等の実施に携わる者又はこれらの者であった者は、正当な理由がなく、当該名簿情報に係る要支援者に関して知り得た情報を漏らしてはならない。

(名簿情報の保管)

第7条 消防組合は、提供された名簿情報について、漏えい、紛失、滅失、き損又は改ざん（以下「漏えい等」という。）の防止のため、施錠可能な場所に保管する等、必要な措置を講じなければならない。

(第三者提供の禁止)

第8条 消防組合は、提供された名簿情報を、消防組合以外の第三者に提供してはならない。ただし、災害発生時に、要支援者の生命、身体又は財産の安全を守るため、緊急かつやむを得ないと認められるときは災害対策基本法に定める避難支援等関係者に該当する範囲内についてはこの限りではない。

(事故発生時の報告義務)

第9条 消防組合は、提供された名簿情報について、漏えい等が生じ、又はその恐れがあることを知ったときは、速やかに市に報告し、指示に従うものとする。

(名簿情報の返却義務)

第10条 消防組合は、名簿情報の提供を受ける必要がなくなったときには、速やかに市に対し名簿情報を返却するものとする。

(損害賠償)

第11条 消防組合の故意又は重大な過失により、名簿情報の漏えい等の事故が発生し、市が第三者から請求を受け、又は第三者との間で紛争があった場合は、市及び消防組合は誠意を持ってこれらに対処するものとする。この場合、損害を受けた第三者の求めに応じ、市が損害を賠償したときは、市は消防組合に対して求償権を有するものとする。

(補則)

第12条 その他、この覚書に定めのないこと、又は覚書の内容に疑義等が生じた場合には、市と消防組合が協議して定める。

この覚書を証するため、本書2通を作成し、双方記名押印のうえ、各自1通を保有する。

令和元年8月1日

向日市長 安 田 守

乙訓消防組合

管理者 中小路 健吾

様式第1号（第2条関係）

向日市避難行動要支援者名簿情報受領書

(宛先) 向日市長

様

私は、向日市避難行動要支援者名簿情報の提供に関する覚書第2条第1項の規定により、名簿情報を受領しました。

年 月 日

機関名

管理者名 印

連絡先

名簿情報管理責任者等登録届

年 月 日

（宛先） 向日市長 様

機関名

管理者名



向日市避難行動要支援者名簿情報の提供に関する覚書第 3 条第 1 項の規定により、名簿情報管理責任者並びに名簿情報の保管場所及び保管方法を次のとおり届け出ます。

1 名簿情報管理責任者

所 属	
役 職 ・ 氏 名	
住 所	
電 話 番 号	
F A X	
メー ル	

2 名簿情報の保管場所等

保 管 場 所	
保 管 方 法 ※	

※保管方法は、「〇〇課事務室のロッカー内に施錠して保管」など、詳細を記載してください。

(表)

様式第 3 号 (第 3 条関係)

名簿情報取扱者登録届

年 月 日

(宛先) 向日市長 様

機関名
管理者名

印

向日市避難行動要支援者名簿情報の提供に関する覚書第 3 条第 2 項の規定により、名簿情報取扱者を次のとおり届け出ます。

所属・役職	名簿情報取扱者氏名	所属・役職	名簿情報取扱者氏名

(裏)

名簿情報取扱者の方には、災害対策基本法第49条の13及び避難行動要支援者名簿情報の提供に関する覚書により守秘義務が課されます。

災害対策基本法第49条の13

第49条の11第2項若しくは第3項の規定により名簿情報の提供を受けた者（その者が法人である場合にあつては、その役員）若しくはその職員その他の当該名簿情報を利用して避難支援等の実施に携わる者又はこれらの者であつた者は、正当な理由がなく、当該名簿情報に係る避難行動要支援者に関して知り得た秘密を漏らしてはならない。

覚書内容（抜粋）

第4条第1項 提供された名簿情報を、要支援者の避難支援等以外の目的に利用してはならない。

第4条第2項 提供された名簿情報（複写を含む。以下同じ。）を、避難支援等の実施に必要な限度で名簿情報管理責任者及び名簿情報取扱者以外の消防組合内の避難支援等の実施に携わる者に提供できる。

第5条 提供された名簿情報の複写について、避難支援等の実施に必要な限度を超えて行つてはならない。

第6条 名簿情報管理責任者、名簿情報取扱者その他の当該名簿情報を利用して避難支援等の実施に携わる者又はこれらの者であつた者は、正当な理由がなく、当該名簿情報に係る要支援者に関して知り得た情報を漏らしてはならない。

第7条 提供された名簿情報について、漏えい、紛失、滅失、き損又は改ざん（以下「漏えい等」という。）の防止のため、紙に印字された文書の形式で提供された名簿は施錠可能な場所に保管する等、必要な措置を講じなければならない。

第8条 提供された名簿情報を、消防組合以外の第三者に提供してはならない。ただし、災害発生時に、要支援者の生命、身体又は財産の安全を守るため、緊急かつやむを得ないと認められるときは災害対策基本法に定める避難支援等関係者に該当する範囲内についてはこの限りではない。

名簿情報管理責任者等変更届

年 月 日

（宛先） 向日市長 様

機関名

管理者名



向日市避難行動要支援者名簿情報の提供に関する覚書第3条第3項の規定により、名簿情報管理責任者等の変更について、次のとおり届け出ます。

1 名簿情報管理責任者の変更

【変更前】	
所属	
役職・氏名	
住所	
電話番号	
FAX	
メール	
【変更後】	
所属	
役職・氏名	
住所	
電話番号	
FAX	
メール	

2 名簿情報の保管場所等の変更

【変更前】	
保 管 場 所	
保 管 方 法 ※	
【変更後】	
保 管 場 所	
保 管 方 法 ※	

※保管方法は、「〇〇課事務室のロッカー内に施錠して保管」など、詳細を記載してください。

3 名簿情報取扱者の変更

変更 内容	【変更前】		【変更後】	
	所属・役職	名簿情報取扱者氏名	所属・役職	名簿情報取扱者氏名
追加				
変更				
削除				
追加				
変更				
削除				
追加				
変更				
削除				
追加				
変更				
削除				

※変更内容は、該当する項目を○で囲んでください。

※対象人数が多い場合は、用紙を追加してください。

災害時における福祉用具等物資の供給等の協力に関する協定書

向日市（以下「甲」という。）と一般社団法人日本福祉用具供給協会（以下「乙」という。）とは、災害時における福祉用具等物資の供給に関し、次のとおり協定を締結する。

（目的）

第1条 この協定は地震、風水害その他の災害が発生し、又は発生するおそれがある場合（以下「災害」という。）に甲が避難所等において必要とされる介護用品、衛生用品等の福祉用具等物資（以下「物資」という。）の供給を、乙から受けることに関して必要な事項を定めるものとする。

（要請及び協力）

第2条 甲は、災害時において、緊急に物資確保を図る必要のあるときには、乙に対してその保有する物資の供給について協力を要請することができるものとする。

2 乙は、前項の要請を受けたときは、可能な限り甲に協力するものとする。

（物資の内容）

第3条 甲が乙に供給を要請する物資の範囲は、次に掲げるもののうち、乙が調達可能な物資とする。

(1) 別表に掲げる物資

(2) その他甲が指定する物資

2 乙は、甲の要請があったときは、前項により定めた物資以外の物資の供給についても可能な範囲で協力するものとする。

（物資の要請手続）

第4条 甲の乙に対する要請手続は、「物資供給要請書」（様式第1号）をもって行うものとする。ただし、文書により要請できない場合は、口頭又は電話等により要請し、その後速やかに文書を提出するものとする。

（供給）

第5条 乙は、物資の供給をレンタル又は販売によって行うものとし、いずれによるかは甲乙協議のうえ決定するものとする。

2 物資の引渡し場所は、甲が指定するものとし、その指定場所までの運搬は、原則として乙が行うものとする。ただし、乙が自ら運搬することができない場合は、甲が定める輸送手段により運搬するものとする。

3 甲は、当該場所において、甲又は甲が指定する者が物資を確認のうえ、受け取るものとする。

（物資の適合確認）

第6条 物資の適合確認は、甲の要請に対し、乙の福祉用具専門相談員が現地の状況や災害時要配慮者の状態を踏まえ必要に応じて行うものとする。

（車両の通行）

第7条 甲は、乙が物資を運搬又は供給する際には、警察等の関係機関への連絡を行い、乙の車両を緊急通行車両として通行できるように支援するものとする。また甲は、乙が燃料や車両等の輸送手段の確保が困難な場合には可能な限り協力を行うものとする。

（配慮事項）

第8条 甲は、乙に第2条の規定により協力要請を行う場合は、各種警報、避難勧告その他立入制限が出されている地域への要請を避けるなど、輸送業務従事者及び福祉用具等の設置に従事する乙の福祉用具専門相談員の生命・身体の安全に配慮するものとする。

(報告)

第9条 乙は、供給を実施したときは、「物資供給報告書」(様式第2号)により報告を行うものとする。ただし、文書により報告できない場合は、口頭により報告し、その後速やかに文書を提出するものとする。

(費用)

第10条 乙が甲に供給した物資及び乙が行った運搬等の費用については甲が負担するものとする。

2 前項に規定する費用は、災害時直前の平常時における適正な価格を基準とし、甲乙協議のうえ速やかに決定するものとする。

(損害の負担)

第11条 この協定に基づく供給の実施にあたり損害が生じたときは、その賠償の責について甲乙協議のうえ定めるものとする。

(費用の請求及び支払)

第12条 乙は、供給に要した費用について、第9条の規定による文書の提出後、甲に請求するものとする。

2 甲は、前項の規定による請求があったときは、30日以内にその代金を支払うものとする。ただし、支払期限については、甲乙協議の上、変更することができるものとする。

(連絡体制)

第13条 甲及び乙は、災害時における要請及び供給に関する事項の伝達を正確かつ円滑に行うため、毎年4月に連絡責任者名簿(様式第3号)を作成し、これを互いに通知して情報連絡体制を確認するものとする。

2 連絡責任者名簿に変更が生じた場合は、改正した名簿を相手先に速やかに提出するものとする。

(疑義の決定)

第14条 甲及び乙は、この協定に定める事項を円滑に推進するため、必要に応じ協議を行うものとする。

2 この協定に定めのない事項及びこの協定に疑義が生じたときは、その都度、甲乙協議のうえ決定するものとする。

(平常時の防災活動への協力)

第15条 乙は、次に掲げる甲の平常時における防災活動に対し協力するよう努めるものとする。

- (1) 甲が実施する防災啓発事業及び防災訓練への参加
- (2) その他甲の要請に基づく平常時の防災活動への協力

(協定書の有効期間)

第16条 この協定書は、協定締結の日から効力を有するものとし、甲又は乙が文書をもって協定の終了を通知しない限り継続するものとする。

この協定の締結を証するため、本書2通を作成し、甲乙記名押印のうえ、各1通を保有するものとする。

令和元年12月10日

甲 向日市長

乙 一般社団法人 日本福祉用具供給協会

別表様式（第3条関係）

福祉用具等物資の内容	介護用品、衛生用品、食事用品、トイレ・おむつ用品、特殊寝台及び付属品、車椅子及び付属品、床ずれ防止用具、体位変換器、手すり、スロープ、歩行器、歩行補助杖、移動用リフト等
------------	--

災害時等における無人航空機の運用に関する協定書

向日市（以下「甲」という）と株式会社 Fujitaka JUAVAC ドローンエキスパートアカデミー京都校（以下「乙」という）は、災害時等における無人航空機の運用に関し、次のとおり協定を締結する。

（趣旨）

第1条 この協定は、災害時等における無人航空機（航空法（昭和27年法律第231号）第2条第22号に規定する無人航空機をいう。以下同じ。）による災害情報の収集等の業務に関し、甲が乙に協力を要請する場合の必要な事項を定めるものとする。

第2条 甲は、災害時において情報収集等のため必要があると認める場合は、乙に対して協力を要請することができる。ただし、乙は、特別な理由があるときは、甲の要請に協力できないことがある。この場合において乙は、責任を負わないものとする。

（協力業務の範囲）

第3条 前条の規定による甲の要請により、乙が協力する業務（以下「協力業務」という）は次に掲げる業務とする。

- (1) 災害対応に必要な映像による情報収集に関する業務
- (2) 災害地図の作成支援に関する業務
- (3) その他甲が必要と認める業務

（協力要請書）

第4条 第2条の規定による甲の要請は、協力業務の内容、実施場所及び実施時期その他必要事項を明らかにした協力要請書（別記様式）を乙に交付することにより行うものとする。ただし、緊急を要するときは、電話等により要請し、事後において速やかに協力要請書を提出することにより当該要請をすることができるものとする。

（協力業務の実施）

第5条 乙は協力要請書の提出を受けた時は直ちに協力業務に必要な無人航空機及び資機材並びに人員を出動させ、甲が指定する指揮者の指示に従い協力業務を実施するものとする。

（安全の確保等）

第6条 甲が指定する指揮者は、乙の構成員に対し、協力業務の内容に応じ安全確保に十分配慮するものとする。

（業務報告）

第7条 乙が第5条の規定により協力業務を実施したときは、当該協力業務の完了後速やかに、その実施した協力業務の内容を甲に報告するものとする。

（映像等の所有権）

第8条 この協議に基づく協力業務による映像等の所有権は、甲に帰属するものとする。なお、乙は協力業務により撮影した映像等を、甲の許可なくインターネット、テレビ放送その他の特定の発信者から不特定多数の受け手へ向けての情報伝達手段で公開しないものとする。

（費用負担）

第9条 協力業務の実施に要する無人航空機及び資機材並びに人員にかかわる費用の負担については、乙が負担するものとし、特別な事案が発生した場合のみ、甲乙協議の上、決定するものとする。

(協力業務の責任負担)

第10条 協力業務の実施において発生した事故については、乙の責めに帰すべき事由に対してのみ、乙が責任を負い、乙の名において誠実に処理しなければならない。

2 乙は、収集した情報の正確さに最大限配慮するものとする。

3 収集した情報の要否については、甲が指定した指揮者がその判断を行うものとし、乙は責任を負わない。

(平常時の準備)

第11条 乙は無人航空機の運用方法をマニュアルに定めるとともに、平常時から乙の構成員の無人航空機の活用技術の維持向上に努め、災害時における緊急連絡体制を整備するものとする。

(訓練の参加)

第12条 乙は、この協定による協力業務が円滑に行われるよう、甲が行う防災訓練等への参加に努めるものとする。

(実施細目)

第13条 この協定の実施に関して必要な事項は、甲乙協議の上、別に定める。

(協議)

第14条 この協定に定めのない事項又はこの協定に疑義が生じた時は、その都度、甲乙協議の上、定めるものとする。

(有効期間)

第15条 この協定は、協定の締結の日からその効力を有するものとし、甲又は乙が文章で協定の解除をしない限り、その効力を継続するものとする。

この協定の締結を証するため、本書2通を作成し、甲乙記名押印の上、各1通を保有する。

令和2年1月9日

甲 京都府向日市寺戸町中野20番地

向日市長

乙 京都府京都市下京区東塩小路町606番地
三旺京都駅前ビル 7階
株式会社 Fujitaka
JUAVAC ドローンエキスパートアカデミー京都校
校長

年 月 日

株式会社 Fujitaka
JUAVAC ドローンエキスパートアカデミー京都校 様

向日市長

協 力 要 請 書

災害時等における無人航空機の運用に関する協定第2条の規定により、次のとおり協力を要請します。

要請担当者	所属	職名
	氏名	電話
電話・FAX 等による 要請日時	年 月 日	午前・午後 時 分頃
要 請 内 容		
出 動 場 所		
業 務 期 間	年 月 日 から 年 月 日	
備 考		

特設公衆電話の設置・利用に関する協定書

向日市（以下「甲」という。）と西日本電信電話株式会社（以下「乙」という。）は、大規模災害等が発生した際に乙の提供する非常用電話（以下「特設公衆電話」という。）の設置及び利用・管理等に関し、次のとおり協定を締結する。

（目的）

第1条 本協定は、災害の発生時において、甲乙協力の下、特設公衆電話を設置し、避難者等の通信の確保を目的とする。

（用語の定義）

第2条 本協定書に規定する「災害の発生」とは、災害発生時または、災害が発生するおそれがあり、甲において避難所開設を行う必要がある場合、または同様の事象の発生により社会の混乱が発生していることをいう。

2 本協定書に規定する「特設公衆電話」とは、甲乙協議のうえ定めた設置場所に電気通信回線及び電話機接続端子を設置し、災害の発生時に電話機を接続することで避難者等へ通信の提供を可能とするものをいう。

（通信機器の管理）

第3条 甲は、本協定書に基づき、災害発生時に速やかに利用が可能な状態となるよう電話機を適切な場所に保管の上、管理することとする。

（通信設備の管理及び破損）

第4条 甲は、特設公衆電話の配備に必要な設備（電話機、端子盤、配管、引込柱等）を整備し、乙が設置する通信設備（屋外線、保安器、屋内配線、モジュージャックを含む。以下同じ。）とともに、災害発生時に速やかに利用が可能な状態となるよう維持に努めることとする。

2 乙が設置する通信設備が甲の故意または重過失により破損した場合は、甲は乙に速やかに書面をもって報告することとする。なお、乙に対する修復に係る費用の支払については、原則、甲が負担するものとする。

（特設公衆電話の設置）

第5条 特設公衆電話の設置に係る電気通信回線数については、甲乙協議の上、乙が決定することとし、設置場所等の必要な情報は別記を作成し甲乙互いに保管するものとする。なお、保管にあたっては、甲乙互いに情報管理責任者を任命し、その氏名を別紙1に定める様式をもって相互に通知することとする。

2 前項に定める特設公衆電話の設置に係る経費は、乙が負担するものとする。ただし、設置に際して屋内配管等新たな設備の設置が必要な場合は、甲乙協議の上、甲が負担するものとする。

（移転、廃止等）

第6条 甲は、特設公衆電話の設置された場所の閉鎖、移転等の発生が明らかになった場合は、速やかにその旨を乙に書面をもって報告しなければならない。また、新たな設置場所を設ける場合は、甲は乙に対し報告することとする。

（定期試験の実施）

第7条 甲および乙は、年に1回を目安として、災害発生時に特設公衆電話が速やかに設置できるよう、別紙2に定める接続試験を実施することに努めるものとする。

（故障発見時の扱い）

第8条 甲および乙は、特設公衆電話を設置する電気通信回線について何らかの異常を発見した場合は、速やかに相互に確認しあい、故障回復に向け協力するものとする。

（特設公衆電話の開設）

第9条 特設公衆電話の開設が必要となった場合は、甲の判断により利用を開始することができるも

のとし、特設公衆電話の撤去後甲は乙に対し施設場所・期間について連絡を行うこととする。

- 2 前項の定めは、甲が実施する防災訓練等で甲が特設公衆電話を利用することを妨げるものではない。

(特設公衆電話の利用)

第10条 甲は、特設公衆電話を開設した場合、利用者の適切な利用が行われるよう努めるものとする。

- 2 特設公衆電話の利用に関する費用は、乙が負担する。ただし、甲が第14条に反して目的外利用を行った場合は、この限りでない。

(国際通話可能な回線の扱い)

第11条 国際通話可能な回線については、原則1避難所1台として設置する。

(特設公衆電話の利用の終了)

第12条 特設公衆電話の利用の終了については甲乙協議のうえ乙が決定するものとし、甲は特設公衆電話を速やかに撤去するものとする。ただし、乙が利用終了を通知する前に、避難所を閉鎖した場合においては、甲は速やかに特設公衆電話を撤去し、後日、甲は乙に対し撤去した施設場所の連絡を行うこととする。

(設置場所の公開)

第13条 乙は、災害時の通信確保のために、特設公衆電話の設置場所について、乙のホームページ上で公開するものとする。

(目的外利用の禁止)

第14条 甲は、第7条に規定する定期試験及び第9条に規定する開設を除き、特設公衆電話の利用を禁止するものとする。

- 2 乙は、特設公衆電話の利用状況について、定期的に検査することとする。

- 3 甲は、乙より目的外利用の実績の報告があった場合は、速やかに当該利用が発生しないよう措置を講じ、その旨を乙に報告するものとし、甲の目的外利用により発生した分の利用料は、甲が負担するものとする。

- 4 前項の措置にかかわらず、甲の目的外利用が継続する場合は、抜本的な措置を甲乙協議のうえ講ずるものとする。この場合において、特設公衆電話の撤去を行うこととなった場合の撤去に関する工事費用等は、甲が負担するものとする。

(有効期間)

第15条 この協定は、協定の締結の日からその効力を有するものとし、甲又は乙が文章で協定の解除をしない限り、その効力を継続するものとする。

(協議事項)

第16条 本協定書に定めのない事項又は本協定書の解釈に疑義が生じた場合は、甲乙誠意をもって協議のうえ定めるものとする。

本協定書を証するため、本書2通を作成し、甲乙記名・押印のうえ、各自がその1通を保有する。

令和2年3月24日

甲 京都府向日市寺戸町中野20番地
向日市長

乙 京都府京都市中京区烏丸三条上ル場之町604
西日本電信電話株式会社京都支店長

災害時における物資の供給に関する協定書

向日市（以下「甲」という）とフジカ株式会社（以下「乙」という）は災害時における支援協力に関し、次のとおり協定を締結する。

（趣旨）

第1条 この協定は、向日市内で地震、風水害その他の災害が発生し、又は発生する恐れがある場合に、甲が被災者等への物資供給と避難所における生活環境の整備を円滑に行うため、乙との協力について必要な事項を定めるものとする。

（物資の範囲）

第2条 甲が乙に対して供給を要請することができる物資は次のとおりとする。

- （1） 段ボールパーテーション
- （2） 段ボール簡易ベッド
- （3） 段ボールケース
- （4） テープ
- （5） ポリ袋
- （6） その他乙の取り扱う商品

（協力要請及び手続）

第3条 甲は災害時に、物資等を確保する必要があると認めたときは、乙に対し、前条に定める物資の供給を要請することができるものとする。

- 2 前項の要請は文書にて行うものとする。ただし、緊急を要する場合は口頭により要請し、その後速やかに文書を提出するものとする。
- 3 乙は、第1項の要請を受けたときには可能な範囲で応じるものとする。なお、当該の要請に応じることが困難な場合は、その旨を申し出るとともに、要請のあった物資の供給の見込みについて、甲に通知するものとする。

（物資の引渡し）

第4条 乙は前条第2項により甲が指定した場所に物資を運搬し、甲の職員に引き渡すものとする。

- 2 甲は、乙が物資の運搬に使用する車両が優先車両として通行できるよう配慮するものとする。
- 3 乙は、物資の引き渡し後、速やかに文書にて甲に報告するものとする。

（費用の負担）

第5条 乙の物資供給にかかる費用は無償とする。

（平時からの協力）

第6条 乙は、甲が実施する防災訓練等へ業務に支障をきたさない範囲で参加するなど、平時から協力体制を構築するものとする。

（期間及び改廃）

第7条 この協定は、協定締結の日から効力を有するものとし、甲又は乙が、この協定を改正し、または廃止しようとするときは、その3か月前までに相手方に文書をもって通知しなければならない。

- 2 協定の終了を通知しない限り、その効力は継続するものとする。

（協議）

第8条 この協定に定めのない事項及びこの協定に関し疑義が生じたときは、両者が協議し決定する。

この協定の締結を証するため、本書２通を作成し、甲乙両者記名押印の上、各１通を保有する。

令和２年７月２８日

甲 京都府向日市寺戸町中野２０番地

向日市長

乙 滋賀県大津市苗鹿１－１－１７

フジカ株式会社
代表取締役

災害発生時における福祉避難所の設置運営に関する協定書

向日市（以下「市」という。）と介護老人保健施設ケアセンター回生（以下「施設管理者」という。）は、福祉避難所の設置及び運営に係る協力について、次のとおり協定を締結する。

（目的）

第1条 この協定は、向日市内に災害対策基本法（昭和36年法律223号）第2条第1号の災害が発生した場合において、市が施設管理者に対して福祉避難所の設置運営に関する協力を要請するにあたり必要な事項を定めるものとする。

（福祉避難所）

第2条 福祉避難所とは、災害発生時において、通常の避難所では避難生活が困難な援護を要する状態にある者（以下「要援護者」という。）のために開設する避難所をいう。

2 福祉避難所の業務内容は、福祉避難所の設置及び運営並びに受け入れた要援護者に対する日常生活上の支援（相談等を含む。）とする。

（対象者）

第3条 この協定による援護の対象者は、福祉施設又は医療機関に入所又は入院するに至らない在宅の要援護者で、一般の避難所生活において何らかの特別な配慮を必要とする者とする。

（協力の要請）

第4条 市は、災害時において、対象者の存在を把握した場合は、施設管理者に対し、当該対象者の受入れを要請するものとする。

2 施設管理者は、市からの要請に可能な範囲内で応じるよう努めるものとする。

（要援護者等の受入れ等）

第5条 施設管理者は、前条の規定による市の要請を受け入れることが可能と判断したときは、速やかに要援護者の受入体制を整え、受け入れることができる要援護者の人数等を市に報告するものとする。

2 市は、前項の報告を受けた場合は、福祉避難所に避難させる要援護者を特定し、これを施設管理者に通知するものとする。

3 福祉避難所に受け入れた要援護者の状況報告、必要な処遇の協議等は、市及び施設管理者が連携して行うものとする。ただし、緊急の場合においては、この限りではない。

4 要援護者を介助する者については、当該要援護者とともに福祉避難所に避難させることができるものとする。

（開設期間等）

第6条 福祉避難所の開設期間は、災害発生の日から7日以内とする。ただし、期間の延長が必要な場合は市及び施設管理者は協議の上、延長することができるものとする。

2 施設管理者は、前項の開設期間中は、福祉避難所の施設管理のため可能な範囲で当直者を配置するものとする。

3 前項の当直者を施設管理者が配置できない場合については、市は適切な者を選定し、その職にあたらせるものとする。

(対象者の移送)

第7条 市の要請に基づき、施設管理者が受入れを了承した場合、福祉避難所への対象者の移送は、当該対象者の家族若しくは支援者が行い、又は当該福祉避難所の従事者が消防団、警察、福祉タクシー事業者等の協力を得て実施する。

(必要な物資の調達及び人的支援)

第8条 市は、避難した要援護者に係る必要な物資の調達に努めるものとする。

2 施設管理者は、前項に定める物資の調達について、市と連携の上、可能な範囲で協力するものとする。

3 施設管理者は、要援護者の生活支援、相談等を実施できるよう、介護支援者等の確保及び配置に努めるものとする。

4 市は、前項に定める介護支援者等の確保及び配置を支援するものとする。

(経費の負担)

第9条 市は、施設管理者に対し、福祉避難所の設置及び運営管理に係る経費について、災害救助法(昭和22年法律第118号)その他関連法令等の定めるところにより、所要の実費を負担するものとする。

(福祉避難所の早期閉鎖への努力)

第10条 市は、施設管理者が早期に本来目的の活動を再開できるよう配慮するとともに、福祉避難所の早期閉鎖に努めるものとする。

(個人情報の保護)

第11条 施設管理者は、福祉避難所の設置運営を行う場合において知り得た要援護者又はその家族等の固有の情報を第7条に規定する場合のほか、市以外の者に漏らしてはならない。

2 前項に規定する個人情報の取扱いについては、別記「個人情報取扱特記事項」を遵守しなければならない。

(権利義務の譲渡等の制限)

第12条 施設管理者は、この協定により生ずる権利又は義務を第三者に譲渡し、若しくは承継させ、又はその権利を担保に供してはならない。

(関係書類の保管)

第13条 施設管理者は、この協定に関する書類等を事業所に整備するほか、事業実施後5年間はこれを保管しなければならない。

(協定の解除)

第14条 市は、施設管理者がこの協定に基づく指示に違反したことにより、この協定の目的を達成することができないと認めるときは、これを解除できるものとする。

(協定締結期間)

第15条 この協定の締結期間は協定締結後1年間とし、市、施設管理者いずれかより異議の申し出がない限り、毎年自動更新されるものとする。

(協議)

第16条 この協定に定める事項その他業務上の必要な事項について疑義が生じた場合は、市と施設管理者が協議の上、解決に努めるものとする。

この協定の締結を証するため、本書2通を作成し、市、施設管理者双方記名押印の上、各自1通を保有するものとする。

令和2年8月1日

市 向日市寺戸町中野20番地

向日市長

施設管理者 向日市物集女町中海道19番地の5
介護老人保健施設ケアセンター回生
施設長

災害時における帰宅困難者の受入れ等に関する協定書

向日市（以下「甲」という。）と株式会社リヴ（以下「乙」という。）は、向日市地域防災計画に基づき、地震、風水害などの災害が発生した場合又は災害の発生するおそれがある場合（以下「災害時」という。）における帰宅困難者（他市から本市へ通勤若しくは通学している者又は観光その他の理由により本市を訪れている者で徒歩により容易に帰宅することが困難なものをいう。以下同じ。）の受入れ等について、次のとおり協定を締結する。

（趣旨）

第1条 この協定は、災害時に公共交通機関の運行が停止するなどの事由により発生した帰宅困難者に対し、甲が、第3条に規定する施設を帰宅困難者用の避難所（以下「避難所」という。）として利用することについて、必要な事項を定めるものとする。

（避難所開設の要請）

第2条 甲は、災害時において避難所を開設する必要があると認めるときは、事前に乙に対し、様式第1号により、避難所開設を要請するものとする。ただし、文書を持って要請することができない場合は、口頭により要請し、その後速やかに文書を提出するものとする。

（協力）

第3条 乙は、甲から前条の規定により避難所開設の要請があったときは、帰宅困難者の災害時等における一時的な避難所として可能な範囲で以下の施設を使用することを承認するものとする。

所 在 地 京都府向日市寺戸町七ノ坪1 4 1

施 設 名 S U ・ B A ・ C O（株式会社リヴ本社）

受入れ場所 1階フロア部分

（避難所の運営）

第4条 この協定に基づく避難所の運営は、次のとおりとする。

（1）避難所における帰宅困難者の生活は、甲が甲の現場責任者を通して支援するものとする。

（2）その他避難所の運営について必要な事項は、甲と乙が協議の上、甲が実施するものとする。

（開設期間）

第5条 避難所の開設期間は開設した日から3日以内とする。ただし、状況により期間を延長する必要がある場合、甲は乙と協議の上、その旨を決定するものとする。

（避難所解消への努力）

第6条 甲は、乙の業務に支障を来たさないようにするため、早期に乙の業務が再開できるよう、避難所の早期解消に努めるものとする。

（避難所の終了）

第7条 甲は、避難所の運営を終了するとき、乙に対し様式第2号により、その旨を報告するものとする。

（経費の負担）

第8条 この協定に基づく、避難所の管理運営に係る費用について、甲が負担することを原則として、甲乙協議により決定するものとする。

（損害賠償）

第9条 第4条の規定による避難所の開設、運営上において生じた施設、設備及び器物の破損等の損害は、乙の報告によりその損害に応じた費用を甲が負担するものとする。

(有効期間)

第10条 この協定の有効期間は、協定締結の日から令和3年3月31日までとする。ただし、有効期間終了の日の1箇月前までに、甲又は乙いずれからも何ら意思表示がないときは、有効期間終了の日の翌日から起算して1年間この協定は延長され、以後同様とする。

(その他)

第11条 この協定に定めのない事項又は疑義の生じた事項については、甲と乙が協議の上定めるものとする。

この協定の締結を証するため、正本2通を作成し、甲及び乙が署名の上、各自1通を保有する。

令和2年10月27日

甲 京都府向日市寺戸町中野20

向日市長

乙 京都府向日市寺戸町七ノ坪141

S U ・ B A ・ C O

株式会社 リヴ

代表取締役

災害時における情報発信等に関する協定書

向日市（以下「甲」という。）とヤフー株式会社（以下「乙」という。）は、地震、風水害などの災害が発生した場合又は発生するおそれがある場合（以下「災害時」という。）における情報発信等に関し、次のとおり協定を締結する。

（目的）

第1条 この協定は、災害時に甲が市民に対して必要な情報を迅速に提供し、かつ行政機能の低下を軽減させるため、乙と協力して様々な取組みを行うことを目的とする。

（取組み）

第2条 この協定における取組みの内容は次の中から、甲乙の協議により具体的な内容及び方法について合意が得られたものを実施するものとする。

- （1） 乙が、甲の運営するホームページの災害時のアクセス負荷の軽減を目的として、キャッシュサイトをヤフーサービス上に掲載し、一般の閲覧に供すること。
- （2） 甲が、市内の避難所等の防災情報を乙に提供し、乙が、これらの情報を平常時からヤフーサービス上に掲載するなどして、一般に広く周知すること。
- （3） 甲が、市内の避難勧告、避難指示等の緊急情報を乙に提供し、乙が、これらの情報をヤフーサービス上に掲載するなどして、一般に広く周知すること。
- （4） 甲が、災害発生時の市内の被害状況、ライフラインに関する情報及び避難所におけるボランティア受入れ情報を乙に提供し、乙が、これらの情報をヤフーサービス上に掲載するなどして、一般に広く周知すること。
- （5） 甲が、市内の避難所等における必要救援物資に関する情報を乙に提供し、乙が、この必要救援物資に関する情報をヤフーサービス上に掲載するなどして、一般に広く周知すること。
- （6） 甲が、市内の避難所に避難している避難者の名簿を作成する場合、乙が提示する所定のフォーマットを用いて名簿を作成すること。

2 甲及び乙は、前項各号の事項が円滑になされるよう、お互いの窓口となる連絡先およびその担当者名を相手方に連絡するものとし、これに変更があった場合、速やかに相手方に連絡するものとする。

3 第1項各号に関する事項及び同項に記載のない事項についても、甲乙で適宜協議を行い、決定した取組みを随時実施するものとする。

（費用）

第3条 前条に基づく甲及び乙の対応は別段の合意がない限り無償で行われる

ものとし、それぞれの対応にかかる旅費・通信費その他一切の経費は、各自が負担するものとする。

（情報の周知）

第4条 乙は、甲から提供を受ける情報について、甲が特段の留保を付さない

限り、この協定の目的を達成するため、乙が適切と判断する方法（提携先への提供、ヤフーサービス以外のサービス上での掲載等を含む）により、一般に広く周知することができる。ただし、乙は、この協定の目的以外のために二次利用をしてはならないものとする。

（公表）

第5条 この協定の締結の事実及び内容を公表する場合、甲及び乙は、その時期、方法及び内容について、両者で別途協議のうえ、決定するものとする。

（期間）

第6条 この協定の有効期間は、協定締結日から1年間とし、期間満了前までにいずれかの当事者から他の当事者に対し期間満了によって本協定を終了する旨の書面による通知がなされない限り、さらに1年間自動的に更新されるものとし、以後も同様とする。
(協議)

第7条 この協定に定めのない事項及び協定に関して疑義が生じた事項については、甲及び乙は、誠実に協議して解決を図る。

この協定締結の証として本書2通を作成し、甲と乙それぞれ記名押印のうえ、各1通を保有する。

令和2年12月21日

甲 京都府向日市寺戸町中野20番地

向日市長

乙 東京都千代田区紀尾井町1番3号
ヤフー株式会社
代表取締役

水害時における一時避難場所としての使用に関する協定書

向日市（以下「甲」という。）とアンダーツリー株式会社（以下「乙」という。）は、水害が発生した場合又は発生するおそれがある場合（以下、「水害時」という。）において、甲が乙の所有する施設を一時避難場所として使用することに関し、次のとおり協定を締結する。

（趣旨）

第1条 この協定は、水害時に避難が必要になった者に対し、市が次条に規定する施設を一時避難場所として利用することについて、必要な事項を定めるものとする。

（使用施設）

第2条 乙は、次に掲げる施設を一時避難場所（以下、「避難場所」という。）として、甲に使用させるものとする。

（1）所在地 向日市上植野町尻引1番1号

（2）所有者 アンダーツリー株式会社

（3）施設名称 キコーナ京都向日店

（4）受入場所 立体駐車場（鉄骨造 5階建）

（5）受入可能人数 約2,272名（1台当たり4名乗車計算）車両568台

（使用の期間）

第3条 避難場所としての使用期間は甲が避難情報を発令したときから解除するまでの期間とする。

（使用料等）

第4条 避難場所の使用料は、無料とする。

（施設破損時の対応）

第5条 施設が避難場所として使用された場合の施設の破損・汚損について、甲は原状に回復する義務を負う。ただし、地震、洪水等の災害により生じた部分の破損等についてはこの限りではない。

（使用中の事故に対する責任）

第6条 乙は、施設に地域住民等が避難した際に発生した事故等に対する責任を一切負わないものとする。ただし、乙の責に帰すべき事由による事故等については、この限りではない。

（施設の廃止又は変更等の届出）

第7条 乙は、施設を廃止し、又は改築その他の事由により避難場所の現状に重要な変更を加えようとするときは、甲に届出を行い、必要に応じて甲乙が協議し、協定内容を変更する。

（有効期限）

第8条 この協定の締結期間は、協定締結の日から令和3年3月31日までとする。ただし、有効期間終了の日の1か月前までに、甲乙いずれからも何ら意思表示がないときは、有効期間終了の日の翌日から起算して1年間この協定は延長され、以後同様とする。

（その他）

第9条 この協定に定めのない事項及びこの協定に関して疑義が生じた事項については、その都度、甲乙が協議して定めるものとする。

この協定の締結を証するため、この協定書2通を作成し、甲乙が記名押印のうえ、各自その1通を保有する。

令和3年2月5日

甲 京都府向日市寺戸町中野20番地

向日市長

乙 大阪市西区西本町一丁目2番8号

アンダーツリー株式会社

代表取締役

大規模災害時における災害査定業務支援に関する協定

京都府（以下「甲」という。）、別紙 1 に定める京都府内の 22 市町（以下「乙」という。）及び公益社団法人全国上下水道コンサルタント協会関西支部（以下「丙」という。）は、大規模災害等が発生した場合に甲又は乙が管理する下水道施設の災害査定支援に関する業務に関して、以下のとおり協定を締結する。

（目的）

第 1 条 この協定は、大規模災害等が発生した場合に、下水道施設の災害査定図書の作成等の災害査定支援に関する業務を行うことについて、甲及び乙が丙と協力し、府民の安心・安全を確保するため、迅速かつ的確に対応することを目的とする。

（定義）

第 2 条 この協定において「大規模災害等」とは、災害対策基本法に基づく京都府災害対策本部が設置された場合又は甲若しくは乙が特に必要と認めた場合の災害とする。

2 この協定において「下水道施設」とは、下水道法（昭和 33 年法律第 79 号）第 2 条第 3 号で定義される公共下水道、同条第 4 号で定義される流域下水道又は同条第 5 号で定義される都市下水路における同条第 2 号で定義される下水道の施設をいう。

（平常時の準備）

第 3 条 丙は、災害査定の支援業務を行うため、平常時から次の各号に掲げる項目について実施する。
なお、実施時期については、甲、乙及び丙の協議により定める。

- （1）大規模災害発生時における連絡体制の確認
- （2）甲、乙及び丙の情報伝達訓練等の合同訓練

（災害査定業務の要請）

第 4 条 甲又は乙は、大規模災害時において、下水道施設の災害査定に係る業務が必要と認めるときは、丙に対し災害査定業務の支援を要請することができる。

- 2 丙は、前項の要請があったときは、速やかに会員に連絡を行い、業務が可能な会員リストを甲又は乙に通知する。但し、災害の状況等やむを得ない事情により、会員が災害査定支援業務を実施できない場合においては、この限りではない。
- 3 甲又は乙は、前項により丙から通知された会員に対し、災害査定に係る業務を依頼することができる。
- 4 乙が丙に対し、復旧支援業務の要請を行う場合は、甲の事務局が乙の復旧支援業務の要請を取りまとめた上で、丙の連絡窓口へ要請する。

（活動に伴う費用）

第 5 条 この協定に基づく支援内容のうち、第 4 条第 2 項の業務が可能な会員リストの通知については丙の負担とし、第 4 条第 3 項で依頼した災害査定に係る業務については甲又は乙の負担とする。

（事務局及び連絡体制）

第 6 条 甲及び丙の復旧支援業務に係る事務局及び連絡体制は、次のとおりとする。

- （1）甲の事務局は、京都府建設交通部水環境対策課とする。
- （2）丙の連絡窓口は、公益社団法人全国上下水道コンサルタント協会関西支部とする。

（協定の期間及び更新）

第 7 条 この協定は、令和 3 年 4 月 1 日からその効力を有するものとし、有効期間は、令和 4 年 3 月 31 日までとする。

- 2 協定の有効期間が満了する 30 日前までに甲、乙又は丙から書面による協定終了の意思表示がない場合は、更に 1 年間その効力を継続することとし、その後においても同様とする。

(協議)

第8条 この協定に定めのない事項又は疑義を生じた事項については、その都度、甲、乙及び丙による協議のうえ解決する。

2 甲、乙及び丙がこの協定に違反した場合においては、甲、乙及び丙は、違反した相手方への書面による通告をもってこの協定を廃止することができる。

この協定の締結を証するため、この協定を2通作成し、甲及び丙がそれぞれ記名押印の上、各自1通を保有する。

また、乙は、甲及び丙に提出する記名押印された同意書をもって本協定の締結を証する。

令和3年3月25日

甲 京都府知事

丙 公益社団法人全国上下水道コンサルタント協会
関西支部長

別紙1 乙 京都府内22市町

福知山市長	大 橋 一 夫
舞鶴市長	多々見 良 三
綾部市長	山 崎 善 也
宇治市長	松 村 淳 子
宮津市長	城 崎 雅 文
亀岡市長	桂 川 孝 裕
城陽市長	奥 田 敏 晴
向日市長	安 田 守
長岡京市長	中小路 健 吾
八幡市長	堀 口 文 昭
京田辺市長	上 村 崇
京丹後市長	中 山 泰
南丹市長	西 村 良 平
木津川市長	河 井 規 子
大山崎町長	前 川 光
久御山町長	信 貴 康 孝
井手町長	汐 見 明 男
宇治田原町長	西 谷 信 夫
和束町長	堀 忠 雄
精華町長	杉 浦 正 省
京丹波町長	太 田 昇
与謝野町長	山 添 藤 真

同意書

向日市は、公益社団法人全国上下水道コンサルタント協会関西支部との「大規模災害時における災害査定業務支援に関する協定」を令和３年３月２５日をもって締結することに同意します。

令和３年３月１９日

向日市長 安 田 守

大規模災害時における災害復旧支援に関する協定

京都府（以下「甲」という。）、別紙 1 に定める京都府内の 22 市町（以下「乙」という。）及び公益社団法人日本下水道管路管理業協会（以下「丙」という。）は、大規模災害等が発生した場合に甲又は乙が管理する下水道管路施設の復旧支援に関する業務に関して、以下のとおり、下水道法（昭和 33 年法律第 79 号）第 15 条の 2 の規定に基づいた協定を締結する。

（目的）

第 1 条 この協定は、大規模災害等が発生した場合に、下水道管路施設の点検・調査等の復旧支援に関する業務を行うことについて、甲及び乙が丙と協力し、府民の安心・安全を確保するため、迅速かつ的確に対応することを目的とする。

（定義）

第 2 条 この協定において「大規模災害等」とは、災害対策基本法に基づく京都府災害対策本部が設置された場合又は甲若しくは乙が特に必要と認めた場合の災害とする。

2 この協定において「下水道管路施設」とは、下水道法（昭和 33 年法律第 79 号）第 2 条第 3 号で定義される公共下水道、同条第 4 号で定義される流域下水道又は同条第 5 号で定義される都市下水路における同条第 2 号で定義される下水を排除するために設けられる排水管、排水渠その他の排水施設をいう。

（復旧支援業務の要請）

第 3 条 甲又は乙は、大規模災害時において、下水道管路施設に「下水道事業における災害時支援に関するルールの解説（公益社団法人日本下水道協会 令和 2 年 12 月改定）」の「(4) 支援、応援、派遣の区分」（40 ページ）の中で定義される以下の業務が必要と認めるときは、丙に対し復旧支援業務を要請することができる。

- (1) 緊急点検
- (2) 緊急調査
- (3) 緊急措置
- (4) 一次調査（応急復旧のための調査）
- (5) 二次調査（本復旧のための調査）

2 乙が丙に対し、復旧支援業務の要請を行う場合は、甲の事務局が乙の復旧支援業務の要請を取りまとめた上で、丙の連絡窓口へ要請する。

（復旧支援業務に伴う費用）

第 4 条 この協定に基づく復旧支援業務は、丙の支援を受けた甲又は乙の負担とする。

（下水道台帳データの提供）

第 5 条 甲及び乙は、下水道管路施設の調査に必要な下水道台帳の図面等を PDF 等の電子データとして、丙に提供するものとする。

2 丙は甲及び乙から提供を受けた電子データを適切に保管しなければならない。

3 甲及び乙は、下水道台帳に大幅な変更があった場合など、適宜、最新の電子データを丙に提供するものとする。

（下水道台帳データの開示）

第 6 条 丙は、甲及び乙から支援要請があったとき、支援出動する丙の会員に対し、甲及び乙から提供を受けた電子データを開示することができる。

（事務局及び連絡体制）

第 7 条 甲及び丙の復旧支援業務に係る事務局及び連絡体制は、次のとおりとする。

- (1) 甲の事務局は、京都府建設交通部水環境対策課とする。
- (2) 丙の連絡窓口は、公益社団法人日本下水道管路管理業協会関西支部とする。

(協定の期間及び更新)

第8条 この協定は、令和3年4月1日からその効力を有するものとし、有効期間は、令和4年3月31日までとする。

2 協定の有効期間が満了する30日前までに甲、乙又は丙から書面による協定終了の意思表示がない場合は、更に1年間その効力を継続することとし、その後においても同様とする。

(協議)

第9条 この協定に定めのない事項又は疑義を生じた事項については、その都度、甲、乙及び丙による協議のうえ解決する。

2 甲、乙及び丙がこの協定に違反した場合においては、甲、乙及び丙は、違反した相手方への書面による通告をもってこの協定を廃止することができる。

この協定の締結を証するため、この協定を2通作成し、甲及び丙がそれぞれ記名押印の上、各自1通を保有する。

また、乙は、甲及び丙に提出する記名押印された同意書をもって本協定の締結を証する。

令和3年3月25日

甲 京都府知事

丙 公益社団法人日本下水道管路管理業協会
会長

別紙1 乙 京都府内22市町

福知山市長	大 橋 一 夫
舞鶴市長	多々見 良 三
綾部市長	山 崎 善 也
宇治市長	松 村 淳 子
宮津市長	城 崎 雅 文
亀岡市長	桂 川 孝 裕
城陽市長	奥 田 敏 晴
向日市長	安 田 守
長岡京市長	中小路 健 吾
八幡市長	堀 口 文 昭
京田辺市長	上 村 崇
京丹後市長	中 山 泰
南丹市長	西 村 良 平
木津川市長	河 井 規 子
大山崎町長	前 川 光
久御山町長	信 貴 康 孝
井手町長	汐 見 明 男
宇治田原町長	西 谷 信 夫
和束町長	堀 忠 雄
精華町長	杉 浦 正 省
京丹波町長	太 田 昇
与謝野町長	山 添 藤 真

同意書

向日市は、公益社団法人日本下水道管路管理業協会との「大規模災害時における災害復旧支援に関する協定」を令和３年３月２５日をもって締結することに同意します。

令和３年３月１９日

向日市長 安 田 守

災害時における放送等に関する協定

向日市(以下「甲」という。) と、株式会社ジェイコムウエスト(以下「乙」という。) は、災害および防災に関する情報(以下「災害情報」という。) の放送等に関して、次のとおり協定(以下「本協定」という。) を締結する。

(目的)

第1条 本協定は、向日市の区域内で災害対策基本法(昭和36年法律第223号)第2条第1号に規定する災害が発生した場合又は発生するおそれがある場合(以下「災害時」という。) において、市民に迅速かつ正確な情報を伝達するための災害情報の放送等について、必要な事項を定めることを目的とする。

(災害情報の提供及び要請)

第2条 甲は、災害時に乙に対して速やかに災害情報を提供し、放送を要請することができる。

(放送要請の通知)

第3条 甲は、前条に基づき災害情報の放送を要請する際は、次の各号に掲げる事項について、災害情報放送要請書(別記様式。以下「要請書」という。) により、乙に要請するものとする。

- (1) 希望する放送の日時
- (2) 依頼する放送の内容
- (3) 放送要請の理由
- (4) その他必要な事項

2 前項の要請は、メール及びファックスを用いて行う。ただし、これにより難しい場合は口頭、電話等にて要請し、その後速やかに要請書を提出するものとする。

(災害情報の放送)

第4条 乙は、第2条に定める要請を受けたときは、甲から依頼された事項に関して、放送の形式、内容、時刻をその都度決定し、可能な限り放送するものとする。

(情報の活用)

第5条 甲がインターネットや広報紙等で発信済の情報(コミュニティ情報、施設情報、安心安全情報等)及び第2条で乙に要請した情報について、緊急性の如何にかかわらず、乙は、自ら運営する放送やインターネット等を通じて伝えることができるものとする。

(協力体制の整備)

第6条 災害時における協力体制を整備するため、甲乙において必要に応じて情報の交換を行う。

(有効期間)

第7条 本協定の有効期間は、締結の日から令和5年3月31日までとする。ただし、期間満了の日の3ヶ月前までに甲乙いずれからも申し出がないときは、さらに、1年間延長するものとし、以後も同様とする。

(協議)

第8条 本協定に定めのない事項又は本協定に関し疑義が生じた場合は、甲乙協議のうえ決定する。

本協定書は、2通作成し甲乙がそれぞれ記名押印のうえ、各1通を保有する。

令和4年8月25日

甲 向日市寺戸町中野 20 番地
向日市長

乙 大阪府中央区谷町 2 丁目 3 番 12 号
マルイト谷町ビル
株式会社ジェイコムウエスト
代表取締役社長

大規模災害時における停電復旧の連携等に関する基本協定

向日市（以下「甲」という。）と関西電力送配電株式会社 京都支社 電力本部 京都配電営業所（以下「乙」という。）は、大規模災害時(阪神・淡路大震災<震度7相当>)のような地震、風水害、雪害等の自然災害により、広範囲に亘って長時間停電が発生し住民生活に大きな支障をきたしていること。以下「大規模災害」という。）に相互連携して災害対応にあたることとし、次のとおり連携に関する協定を締結する。

（目的）

第1条 この協定は、大規模災害が発生した場合や大規模災害に備えて平時から、甲及び乙が相互に連携し、迅速かつ的確に対応することにより、市民生活の早期復旧に資することを目的とする。

（適用範囲）

第2条 この協定の適用範囲は、向日市における乙の電力供給区域とする。

（連携内容）

第3条 甲及び乙がそれぞれ連携する内容は次の各号のとおりとする。

- （1） 甲乙相互に連絡体制を確立し、停電情報等必要な情報の共有に努めるものとする。
- （2） 甲及び乙は、大規模災害発生時に乙が所有する設備を原因として甲が管理する道路の通行に支障を来たした場合は、甲乙連携して通行の確保にあたるとともに、甲が管理する緊急輸送道路や被災時に孤立集落が発生する道路については、これを優先的に実施する。
- （3） 乙は、早期の停電復旧作業のため、甲に対して必要な箇所の道路上の障害物除去作業を要請できるものとする。甲は、甲が管理する道路については、道路上の障害物除去作業に協力するものとし、甲が管理しない道路については、当該道路管理者等関係機関へ協力を要請するものとする。なお、「道路上の障害物除去作業」とは、乙の停電復旧作業に伴う車両等の通行のため、最低限の障害物の除去及び簡易な段差修正等により通行を確保する作業をいう。
- （4） 乙は、停電の仮復旧のための電源車の使用にあたっては、復旧見通し及び仮復旧箇所の重要性・緊急性等を総合的に勘案してその配置先を決定するとともに、甲又は京都府と適宜協議を行うものとする。
- （5） 乙は、停電復旧作業に必要となる活動拠点の確保について、必要に応じて、甲又は甲を介して関係機関へ協力を要請できるものとし、甲はこれに協力する。
- （6） 甲及び乙は、双方が保有する連絡・通信手段等を利用し、市民に対して停電情報及び復旧見通し情報等を適時適切に発信する。
- （7） 甲及び乙は、病院、防災関連施設等の重要施設について、可能な限り自家発電設備の設置等の対策を促進するよう取り組むとともに、優先して停電復旧又は仮復旧すべき重要施設について、平時から確認・調整等情報を共有するものとする。
- （8） 甲及び乙は、倒木等による停電、道路の寸断等の発生を防止するため、京都府等と連携の上、事前対策について検討するものとする。
- （9） 甲及び乙は、この協定に基づく連携を円滑に実施するため、双方が実施する訓練等に積極的に協力するものとする。

（連携方法）

第4条 前条の連携内容の詳細、実施方法、役割分担その他必要となる事項については、甲乙協議の上、別途定めるものとする。

(費用負担)

第5条 この協定に基づいて実施した事項に要した甲又は乙の費用のうち、本来相手方が行うべき作業に係る費用について、甲乙協議の上、相手方へ請求できるものとする。

(秘密保持)

第6条 甲及び乙は、この協定に基づく活動を通じて知り得た業務遂行に関する秘密情報及び第三者の個人情報を他人（関西電力株式会社を除く。）に開示し、又は漏えいしてはならない。

(安全管理)

第7条 この協定の実施にあたっては、甲乙それぞれの責任において、安全の確保に万全を期して行うものとする。

(期間)

第8条 この協定は、令和5年3月31日までの間効力を有する。ただし、期間満了日までに甲又は乙から書面による終了の申し出がないときには、効力を有する期間を期間満了日の翌日から1年間延長することとし、以降も同様とする。

(協議)

第9条 この協定に定めのない事項又はこの協定に定める事項に関して疑義等が生じた場合は、甲乙協議の上、別途定めるものとする。

この協定の締結を相互に証するため、本書2通を作成し、甲乙それぞれ記名押印の上、各自1通を保有する。

以 上

令和4年12月1日

甲 京都府向日市寺戸町中野20番地
向日市長

乙 京都府京都市北区小山北上総町50-1
関西電力送配電株式会社 京都支社
電力本部 京都配電営業所
所長

災害時における物資の供給等に関する協定書

向日市（以下「甲」という）とロイヤルホームセンター株式会社（以下「乙」という）は災害時における物資の供給等の協力に関し、次のとおり協定を締結する。

（趣旨）

第1条 この協定は、向日市内で地震、風水害その他の災害が発生し、または発生する恐れがある場合に、甲が被災者等への物資供給や避難所における生活環境の整備等を円滑に行うため、乙との協力について必要な事項を定めるものとする。

（要請の範囲）

第2条 甲が乙に対して協力を要請することができる内容は次のとおりとする。

- （1）別表1に掲げる乙のロイヤルホームセンター物集女及びロイヤルプロ向日が取り扱う物資の供給
- （2）別表2に掲げる乙が管理・所有する施設の駐車場の使用
- （3）その他災害時の応急対策に関し、甲乙が協議し定める事項

（協力要請及び手続）

- 第3条 甲は災害時に、物資等を確保する必要があると認めたときは、乙に対し、前条に定める協力を要請することができるものとする。
- 2 前項の要請は文書にて行うものとする。ただし、緊急を要する場合は口頭により要請し、その後速やかに文書を提出するものとする。
 - 3 乙は、第1項の要請を受けたときには可能な範囲で応じるものとする。なお、当該の要請に応じることが困難な場合は、その旨を申し出るとともに、要請のあった協力の対応見込みについて、甲に通知するものとする。

（物資の引渡し）

- 第4条 乙は第2条第1項第1号の規定により甲が提供を受ける物資について、前条第2項により甲が指定した場所に物資を運搬し、甲の職員に引き渡すものとする。
- 2 甲は、乙が物資の運搬に使用する車両が優先車両として通行できるよう配慮するものとする。
 - 3 乙は、甲が指定した場所に運搬することが困難な場合は、その旨を申し出るとともに、甲と協議し引き渡し方法を決定する。
 - 4 乙は、物資の引き渡し後、速やかに文書にて甲に報告するものとする。

（費用の負担）

- 第5条 乙の協力にかかる費用は、甲が負担するものとし、内容は次のとおりとする。
- （1）第2条第1号の規定により甲が提供を受ける物資に係る対価は、災害発生の直前における価格を基準として、甲と乙が協議の上、算定するものとし、物資引き渡しまでの運搬にかかる費用その他の経費を含むものとする。
 - （2）第2条第2号の規定による施設駐車場の利用に係る対価は、無償とする。
 - （3）第2条第3号の規定による応急対策に係る対価は、甲乙が別途協議し定める。
- 2 甲は、第1項及び第3項の規定による請求があったときは、その日から起算して30日以内に乙

に対し、経費を支払わなければならない。ただし、経費の支払いに予算上の措置を必要とする場合は、この限りではない。

(平時からの協力)

第6条 乙は、甲が実施する防災訓練等へ業務に支障をきたさない範囲で参加するなど、平時から協力体制を構築するものとする。

(期間及び改廃)

第7条 この協定は、協定締結の日から効力を有するものとし、甲又は乙が、この協定を改正し、または廃止しようとするときは、その3か月前までに相手方に文書をもって通知しなければならない。

2 協定の終了を通知しない限り、その効力は継続するものとする。

(協議)

第8条 この協定に定めのない事項及びこの協定に関し疑義が生じたときは、両者が協議し決定する。

この協定の締結を証するため、本書2通を作成し、甲乙両者署名の上、各1通を保有する。

令和6年11月8日

甲 京都府向日市寺戸町中野20番地
向日市長 安田 守

乙 大阪府大阪市西区阿波座一丁目5番16号
ロイヤルホームセンター株式会社
代表取締役社長 中山 正明

(別表 1) 供給要請物資一覧表

食 料	非常食（缶詰等）
飲 料	長期保存水・水
衣 料 類	レインウェア（使い捨てカッパ・ヤッケ）
日 用 品 等	簡易トイレ・ガスボンベ・カセットコンロ・ウェットティッシュ・使い捨て手袋 ブルーシート等
燃 料 類	木炭・薪
そ の 他	ロイヤルホームセンター物集女及びロイヤルプロ向日で取り扱う商品

(別表 2) 使用要請施設一覧表

No.	名 称	所 在 地	使用可能区域	備考
1	ロイヤルホームセンター物集女	京都府向日市物集女町 北ノ口 16-3	駐車台数 1 5 1 台	駐車場のみ
2	ロイヤルプロ向日	京都府向日市上植野町 尻引 15 番	駐車台数 3 7 台	駐車場のみ

<様式第1号>

年 月 日

ロイヤルホームセンター株式会社 御中

物資供給等要請書

向日市長

災害時における物資等の供給に関する協定書第3条第2項に基づき、次のとおり要請します。

<物資の供給>

- ・品目
- ・数量
- ・引渡場所（納入場所）
- ・引渡日時（納期）

<施設の使用>

- ・使用場所

No.	名 称	所 在 地	使用区域
			駐車台数 台分
			駐車台数 台分

- ・使用期間

年 月 日 ～ 年 月 日

<備考欄>

＜様式第 2 号＞

年 月 日

向日市長 様

物資供給等報告書

ロイヤルホームセンター株式会社

災害時における物資の供給等に関する協定書第 4 条第 3 項に基づき、次のとおり報告します。

＜物資の供給＞

- ・ 品目
- ・ 数量
- ・ 引渡場所（納入場所）
- ・ 引渡日時（納期）

＜施設の使用＞

- ・ 使用場所

No.	名 称	所 在 地	使用区域
			駐車台数 台分
			駐車台数 台分

- ・ 使用期間

年 月 日 ～ 年 月 日

＜備考欄＞

損害調査結果の提供及び利用に関する協定書

向日市（以下「甲」という。）と三井住友海上火災保険株式会社（以下「乙」という。）は、乙の損害調査結果の提供及び利用について、以下の通り協定書（以下「本協定書」という。）を締結する。

第1条 （本協定書の目的）

甲及び乙は、水災害により生活基盤に被害を受けた住民（市外在住で向日市内に住家を所有する者を含みます。以下同様とします。）がその生活を早期に再建することができるようにするため、本協定書の規定に基づき、互いに協力するものとする。

第2条 （損害調査結果の提供及び利用）

- 1 前条の協力のため、乙は甲に対し、水災害による甲の住民の被害に関する以下の各号に定める事項（以下「本調査結果」という。）を提供する。ただし、提供の方法、時期その他必要な事項については、甲及び乙が別途協議の上、決定するものとする。
 - ① 住民から提供を受けたデータ及び情報
 - ② 乙が行った被害調査に関するデータ及び情報
 - ③ その他甲と乙が合意した事項
- 2 前項にかかわらず、乙は、住民から本調査結果の提供についての依頼及び承諾を得られない場合には、甲に対して本調査結果を提供する義務を負わないものとする。
- 3 甲は、乙の事前の同意がない限り、乙から提供された本調査結果を被災者支援（以下「本目的」という。）にのみ利用できるものとし、他の目的のために利用しないものとする。
- 4 甲は乙に対し、乙から甲への本調査結果の提供に関する対価の支払いを要しないものとする。本調査結果の提供及び利用に関して生じた費用は、各自が負担するものとする。

第3条 （法令の遵守）

- 1 甲及び乙は、本調査結果の提供及び利用に関し、個人情報の保護に関する法律その他一切の法令を遵守するものとする。
- 2 甲及び乙は、本調査結果の提供及び利用に関し、個人情報の保護に関する法律その他一切の法令で必要とされる手続きの履践並びに前条第 2 項の住民の依頼及び承諾の取得のため、相互に協力するものとする。

第4条 （被害認定の判断）

- 1 甲は、本調査結果の利用の有無にかかわらず、甲の判断により災害に係る住家の被害認定を行うものとする。
- 2 甲は、本調査結果の利用に関連して甲またはその住民に損害または損失が生じた場合であっても、乙に故意または重過失がない限り、乙に対して損害または損失の賠償または補償を求めないものとする。

第5条 （有効期間）

- 1 本協定書の有効期間は、2024 年 12 月 17 日から 2026 年 12 月 17 日までとする。
- 2 甲または乙から相手方に対し、前項に定める有効期間の満了日の 6 ヶ月前までに本協定書を終了させる旨の書面による通知がされない場合、本協定書は同じ条件でさらに 2 年間更新さ

れるものとし、その後も同様とする。

- 3 本協定書が終了（理由の如何を問わない。）した場合であっても、第3条、第4条、第6条、及び第7条の規定はなお効力を有するものとする。

第6条 （秘密保持）

- 1 甲及び乙は、本協定書に関連して知り得た相手方の情報（以下「秘密情報」という。）を厳に秘密として保持するものとする。甲及び乙は、法令に基づく場合を除き、秘密情報を第三者へ開示、提供、公表または漏洩等してはならないものとする。
- 2 甲または乙が法令に基づいて秘密情報を第三者に開示等した場合、相手方に対し、開示した内容及び被開示者その他必要な事項を通知するものとする。ただし、法令により相手方に通知することができない事項については、この限りではない。

第7条 （協議）

甲及び乙は、本協定書に定めのない事項または本協定書の解釈に関し疑義が生じた場合には、誠意をもって協議を行い、これを解決するものとする。

以上

本協定書の成立を証するため本書2通を作成し、各自記名押印の上、各1通を保有する。

令和6年12月17日

甲：京都府向日市寺戸町中野20番地
向日市長

乙：京都市下京区綾小路通烏丸東入竹屋之町266 三井住友海上京都ビル7F
三井住友海上火災保険株式会社
京都支店長

災害時における物資の供給に関する協定書

向日市（以下「甲」という。）と NPO 法人コメリ災害対策センター（以下「乙」という。）は、災害時における物資の供給に関し、次のとおり協定を締結する。

（趣旨）

第1条 この協定は、地震、風水害その他の災害が発生し、又は発生するおそれがある場合（以下「災害時」という。）において、甲が乙と協力して、物資を迅速かつ円滑に被災地へ供給するために必要な事項を定めるものとする。

（協定事項の発効）

第2条 この協定に定める災害時の協力事項は、原則として、甲が災害対策本部を設置し、乙に対して要請を行ったときをもって発動する。

（供給等の協力要請）

第3条 甲は、災害時において物資を調達する必要があると認めるときは、乙に調達可能な物資の供給を要請することができる。

（調達物資の範囲）

第4条 甲が、乙に供給を要請する物資の範囲は、次に掲げるもののうち、乙が調達可能な物資とする。

- (1) 別表に掲げる物資
- (2) その他甲が指定する物資

（要請の方法）

第5条 第3条の要請は、調達する物資名、数量、規格、引渡場所等を記載した文書をもって行うものとする。ただし、文書をもって要請するいとまがないときは、電話等で要請し、その後速やかに文書を交付するものとする。

（物資の供給の協力）

第6条 乙は、前条の規定により甲から要請を受けたときは、物資の優先供給に努めるものとする。

2 乙は、物資の供給を実施したときは、その供給の終了後速やかにその実施状況を報告書により甲に報告するものとする。

（引渡し等）

第7条 物資の引渡場所は、甲が指定するものとし、その指定地までの運搬は、原則として乙が行うものとする。ただし、乙が自ら運搬することができない場合は、甲が定める輸送手段により運搬するものとする。

2 甲は、乙が前項の規定により物資を運搬する車両を優先車両として通行できるよう配慮するものとする。

（費用の負担）

第8条 第6条の規定により、乙が供給した物資の代金及び乙が行った運搬等の経費は、甲が負担するものとする。

2 前項に規定する費用は、災害発生直前における小売価格等を基準とし、甲と乙が協議の上速やかに決定する。

(費用の支払い)

第9条 物資の供給に要した費用は、乙の請求により、甲が支払うものとする。

2 甲は、前項の請求があったときは、その内容を確認し、速やかに費用を乙に支払うものとする。

(情報交換)

第10条 甲と乙は、平常時から相互の連絡体制及び物資の供給等についての情報交換を行い、災害時に備えるものとする。

(協議)

第11条 この協定に定めのない事項及びこの協定に疑義が生じたときは、甲乙協議の上決定するものとする。

(有効期間)

第12条 この協定は、協定締結の日から効力を有するものとし、甲又は乙が文書をもって協定の終了を通知しない限り、その効力を有するものとする。

この協定の成立を証するため、本書2通を作成し、甲乙記名押印の上、各自1通を保有する。

令和6年12月27日

甲 京都府向日市寺戸町中野20番地
向日市長

乙 新潟県新潟市南区清水4501番地1
NPO法人 コメリ災害対策センター
理事長

別表

災害時における緊急対応可能な物資

大分類	主な品種
作業関係	作業シート、標識ロープ、 ヘルメット、防塵マスク、簡易マスク、 長靴、軍手、ゴム手袋、皮手袋、 雨具、土のう袋、ガラ袋、 スコップ、ホースリール
日用品等	毛布、タオル、 割箸、使い捨て食器、 ポリ袋、ホイル、ラップ、 ウェットティッシュ、マスク、衛生用ポリ手袋（使い捨て） バケツ、水モップ、デッキブラシ、雑巾、 簡易ライター、使い捨てカイロ
水関係	飲料水（ペットボトル）、生活用水用ポリタンク
冷暖房機器等	大型石油ストーブ、木炭、木炭コンロ
電気用品等	投光器、懐中電灯、乾電池、 カセットコンロ、カセットボンベ
トイレ関係等	救急ミニトイレ

災害時における物資の供給に関する協定書

向日市（以下「甲」という。）とスギホールディングス株式会社（以下「乙」という。）は、災害救助に必要な食糧、生活必需品等（以下「物資」という。）の調達、供給等について次のとおり締結する。

（趣旨）

第1条 この協定は、向日市において災害対策基本法（昭和36年法律第223号）第2条第1項に規定する災害（以下「災害」という。）が発生した場合、又は発生するおそれがある場合において、甲が乙の協力を得て行う物資の調達を円滑に実施するため、必要な事項を定めるものとする。

（協定要請）

第2条 甲は、災害時において物資を必要とするときは、乙に対して乙の保有する物資について調達の協力を要請することができる。

（調達物資の範囲）

第3条 甲が乙に発注する物資は、次に掲げるもののうち乙が保有する物資とする。

（1） 別表に掲げる物資

（2） その他甲が指定する物資

（発注）

第4条 甲の乙に対する発注は、向日市災害対策本部が文書により行うものとする。ただし、緊急を要するときは口頭で発注し、事後速やかに、文書を提出するものとする。

（協力の実施）

第5条 乙は、前条の発注を受けたときは、特別の理由がない限り、その発注事項を速やかに実施するとともに、その実施の状況を甲に連絡するものとする。ただし、乙が被災した場合はこの限りではない。

2 乙は、前条の発注に応じることが困難な場合は、その旨を甲に連絡するとともに、今後の出荷見通しを連絡するものとする。

（物資の引渡し）

第6条 物資の引渡し場所は、甲・乙協議して決定するものとし、甲は、当該場所に職員を派遣し、物資を確認のうえ、これを引き取るものとする。

2 甲は、乙又は乙があっせんする者が物資を運搬する車両を緊急通行車両として通行できるように支援するものとする。

（物資の価格）

第7条 乙が提供した物資の代金及び運搬に要した経費（以下「代金等」という。）は、災害時直前における価格を参考に、甲・乙協議して決定するものとする。

（代金等の請求及び支払い）

第8条 乙は、物資の提供後、前条で決定した価格に基づき、納品書及び請求書により代金等甲に請求するものとする。

2 甲は、前項の請求があったときは、内容の確認後、速やかにその代金等を支払うものとする。

（連絡責任者の選任及び報告）

第9条 この協定の円滑な実施を図るため、甲及び、乙に連絡責任者を選任するものとする。

2 甲及び乙は、連絡責任者の変更があった場合は、その都度相手方に連絡するものとする。

（有効期間）

第10条 この協定の有効期間は、この協定締結の日から1年とする。ただし、この協定の有効期間満了の日前1か月までに、甲、乙いずれからもこの協定の延長に対して異義の申立てがないときは、更に1年間有効期間を延長するものとし、以後この例による。

(事業所運営)

第11条 この協定に基づく甲の物資調達の要請に関しては、いかなる場合でも乙の事業所運営を阻害するものではない。

(協議)

第12条 この協定に定めのない事項及びこの協定に疑義が生じたときは、甲乙協議の上 決定するものとする。

この協定の成立を証するため、本書2通を作成し、甲乙記名押印の上、各自1通を保有する。

令和7年5月12日

甲 京都府向日市寺戸町中野20番地

向日市長

乙 愛知県大府市横根町新江62番地の1
スギホールディングス株式会社
代表取締役社長

別表（第3条関係）

種 類		主 な 品 種
調剤薬を除く医薬品	一般用医薬品	内服薬、外用薬、外用消炎鎮痛剤、目薬、鼻薬、座薬
医療用品	衛生用品	マスク、氷枕、ガーゼ、包帯、絆創膏、テープ、はさみ、ピンセット、体温計、とげぬき
	看護・介護用品	紙おむつ（成人用・乳児用）、紙パンツ、尿とりパット、生理用品
	洗浄・消毒・滅菌用品	哺乳びん消毒剤、防疫用消毒剤
	季節用品	医薬品殺虫剤、虫よけスプレー
日用品	飲食物	米、パン、缶詰、インスタント食品、レトルト食品、容器入飲料水、粉・液体ミルク、離乳食
	衣料類	下着類、タオル、軍手、靴下、雨具
	消耗品	トイレットペーパー、ティッシュペーパー、ポケットティッシュ、乾電池、ガムテープ、ライター、洗剤、ごみ袋、哺乳瓶、紙皿、紙コップ、懐中電灯、ローソク、歯ブラシ、歯磨き、ラップ、石鹸、マッチ、ライター
	その他	携帯トイレ、使い捨てカイロ、冷却商品

- (1) 物資は概ね上記の品目を基準とし、災害や緊急度の状況に合わせて指定する。
- (2) 品目は上記のほか、甲乙協議の上、その都度指定できるものとする。

災害時における応急対策業務に関する協定書

向日市（以下「甲」という。）と京都府板硝子商工業協同組合（以下「乙」という。）は、災害対策基本法(昭和 36 年法律第 223 号)第 2 条第 1 号に規定する災害が発生し、又は発生する恐れがある場合（以下「災害時」という。）における板硝子設備等の応急復旧作業（以下「復旧作業」という。）に関し、次のとおり協定を締結する。

（目的）

第 1 条 この協定は、災害時において、甲が管理する公共施設（以下、「公共施設」という。）の復旧作業のため、乙に協力を要請する必要が生じた際の手続きに関し、必要な事項を定めるものとする。

（協力の要請）

第 2 条 甲は、災害時において緊急に復旧作業を行う必要があると認める場合、乙に対し、応援要請書（別記様式第 1 号）により協力を要請できるものとする。ただし、緊急を要しやむを得ないときは、口頭により要請し、その後速やかに文書を送付するものとする。

2 前項の場合に甲が乙に要請できる復旧作業は、次のとおりとする。

- （1）公共施設の復旧作業に関すること
- （2）その他、甲が必要と認める復旧作業に関すること

（復旧作業の協力）

第 3 条 乙は、甲から前条の要請があったときは、特別の理由がある場合を除き、乙の構成員に指示し、復旧作業を行うものとする。

2 乙は、前項の復旧作業において、乙の構成員に対して本協定の内容を遵守させるものとする。

（緊急交通路の規制除外への協力）

第 4 条 甲は、乙又は乙の構成員の車両が、京都府公安委員会が一般車両の通行を禁止し又は制限する緊急交通路の通行が可能となるよう、規制除外車両に関する届出に協力するものとする。

（協力内容の報告）

第 5 条 乙は、復旧作業を実施したときは、甲に対し、随時、その経過について報告するとともに、復旧作業を完了したときは、現場写真を添えて、次の事項について業務完了報告書（別記様式第 2 号）により報告しなければならない。

- （1）復旧作業に従事した業者名及び人員数
- （2）作業内容及び場所
- （3）作業期間
- （4）その他必要事項

(費用負担)

第6条 第3条第1項の復旧作業に要した経費については、甲が負担するものとする。

2 前項の経費は、災害発生直前における適正価格を基準とし、甲乙協議の上決定する。

(第三者に対する損害)

第7条 乙又は乙の構成員が、第3条第1項の復旧作業を行ったことにより第三者に損害を与えた場合は、明らかに甲の責任に起因する場合を除き、乙の負担において補償するものとする。

(損害補償)

第8条 甲は、乙又は乙の構成員が、第3条第1項の協力に従事したことにより死亡し、若しくは負傷し、又は協力に従事したこと起因した疾病により死亡し、若しくは障害の状態となった場合は、次に掲げる場合を除き「向日市消防団員等公務災害補償条例」(昭和41年6月22日向日市条例第9号)の規定に準じてその損害を補償する。

(1) 協力に従事する者の故意又は重大な過失による場合

(2) 他の制度等により補償を受ける場合

(3) 当該災害等が第三者の行為によるものであって、当該第三者から損害賠償を受けることができる場合

(防災活動への協力)

第9条 乙は、平時における甲の防災啓発事業の推進に対し、次の各号に掲げる事項について可能な限り協力するものとする。

(1) 甲が実施する防災啓発事業

(2) 甲が実施する防災訓練

(3) その他、甲及び乙が共同で実施する防災啓発事業及び防災訓練

(要請の伝達及び連絡責任者)

第10条 第2条の規定による要請に関する事項の伝達及び連絡責任者として、甲においては向日市環境産業部防災安全課長、乙においては京都府板硝子商工業協同組合理事長をそれぞれ指定するものとする。

2 乙は災害時に備え、乙の構成員間の緊急連絡体制を整備するものとする。

(情報交換)

第11条 甲及び乙は、この協定の運用が円滑に行われるよう、適宜相互に情報交換し、必要に応じて資料の提供を行うものとする。また甲及び乙は、災害時の被害を最小限に抑えるため、平時においても防災・減災の対策について協議・検討することとする。

(協定書の有効期間)

第12条 この協定の有効期間は、協定締結日から当該年度の3月31日までとする。ただし、有効期間が満了する30日前までに甲乙いずれからも継続をしない旨の書面による通知がない場合は、この協定は自動的に1年間継続されたものとし、以降の期間満了時も同様とする。

(解除)

第 13 条 この協定を解除する場合は、甲乙いずれか一方が解除日の 30 日前までに、文書により相手方に通知するものとする。

(その他)

第 14 条 この協定について疑義が生じたとき、又はこの協定に定めのない事項については甲乙協議の上、これを定めるものとする。

この協定の成立を証するため、本書 2 通を作成し、甲乙記名押印の上、各自 1 通を保有する。

令和 7 年 11 月 19 日

甲 向日市寺戸町中野 20 番地

向日市長

乙 京都市上京区下長者町通智恵光院東入
西辰巳町 106 の 1
京都府板硝子商工業協同組合
理事長

(別記様式第 1 号)

第 号
年 月 日

京都府板硝子商工業協同組合
理事長 様

向日市長

災害時における板硝子設備等の応急復旧に係る応援要請書

災害時における応急対策業務に関する協定に基づき、下記のとおり応援を要請します。

記

区 分	内 容
施設名	 (所在地 :)
要請内容	☐ 現況調査 ☐ 応急修理 (備考)
その他応援に関して 参考となる事項	

(別記様式第2号)

第 号
年 月 日

向日市長 様

京都府板硝子商工業協同組合
理事長

災害時における板硝子設備等の応急復旧に係る業務完了報告書

災害時における応急対策業務に関する協定に基づく応援が、下記のとおり完了したので報告します。

記

区 分	内 容
復旧作業に従事した 業者名及び人員数	業者名： 人員数：
作業内容及び場所	作業内容 (作業場所：)
作業期間	年 月 日から 年 月 日まで
その他必要事項	

災害時における車両貸与等に関する応援協定書

向日市（以下「甲」という。）、株式会社スズキ自販京都（以下「乙」という。）、及びスズキ株式会社（以下「丙」という。）は、台風、地震等の大規模災害が発生した場合又は発生する恐れがある場合（併せて以下「災害時等」という。）、乙が、甲の要請を受けて、甲に車両の貸与等の応援（詳細は、第1条で定めるものとし、以下「本応援」という。）を実施するにあたり、以下の協定（以下「本協定」という。）を締結する。

（本応援の内容）

第1条 本応援の内容及び本応援の対象地域は、以下の通りとする。

【内容】

- ・軽商用車（キャリイ・エブリイとする。以下同じ。）の乙から甲への無償貸与
 - ・電気自動車（外部給電可能な車両を指す。以下同じ。）の乙から甲への無償貸与
- 当該軽商用車及び電気自動車を併せて、以下「本車両」という。なお、甲、乙及び丙は、電気自動車の無償貸与については、乙にて、外部給電可能な電気自動車の準備が完了した後に実施可能となることを確認する。

【対象地域】

向日市内

（技術活動サポート）

第2条 丙は、乙が本契約に則り甲に対して本応援を実施するにあたり適宜必要とするサポートを、乙に対して、丙の費用負担で行うものとする。当該サポートの詳細は、別途乙丙協議の上決定する。

（応援要請）

第3条 甲は、災害時等において本応援の実施が必要と判断した場合、乙に対し、本協定に添付する第1号様式「応援要請書兼回答書」により本応援を要請することができる。なお、緊急を要する場合は、甲の担当者からの電話等の口頭による要請も可とするが、後日文書をもって確認するものとする。

2 乙は、甲から、本応援の要請を受けた場合は、速やかに丙に通知するものとする。

（本車両の貸与）

第4条 乙は、甲から、本応援の要請を受けた場合は、その時点で乙が可能な範囲において、当該要請において指定される本車両を、乙の指定する日時・場所で甲に貸与することに努めるものとする。なお、「乙が可能な範囲」とは、甲からの要請時に、乙に貸出可能な車両があること、車両貸与に必要な人員が揃っていること、及び安全確保がなされた状態で車両の受け渡しが可能であることの全ての条件を満たすことを指すものとする。

2 本車両の貸与期間は、原則として1週間とし、甲が延長を希望する場合は、災害状況及び避難所等の閉鎖時期等を勘案の上、甲乙協議の上延長期間を決定するものとする。

3 甲は、乙から貸与を受ける本車両を善良なる管理者の注意をもって使用及び管理し、盗難等が発生しないように常に施錠するものとする。

4 甲は、本車両について、次の各号に掲げる行為をしてはならない。但し、前条第1項により提出する本協定に添付する第1号様式「応援要請書兼回答書」及び口頭による要請時を含め、甲乙間で

別段の合意がなされた場合は、当該合意に従うものとする。

- (1) 本車両の賃借権を第三者に譲渡し、又は担保に供すること。
- (2) 本車両の全部又は一部を第三者に運転させること。
- (3) 本車両を改造・改良等し原状から変更を加えること。

5 甲乙間で本車両の引渡し及び返却時、本車両の状態確認及び貸与期間等の情報共有は、本協定に添付する第1号様式「応援要請書兼回答書」のほか、乙が指定する帳票又は文書を取り交わして行う。

(本車両の用途)

第5条 本車両の甲による使用用途は、以下に限定するものとする。

- ・軽商用車：原則として、被災地における貨物の運搬
- ・電気自動車：避難所等における電源供給

なお、電源供給に関しては、本車両に備えるACコンセント又は乙・丙が推奨する外部給電器V2L/V2H機器により、当該外部給電器の製造者が発行する保証条件を都度確認の上、行うものとする。

- 2 前項の外部給電器の使用に起因する事由により、甲又は第三者が損害を被った場合であっても、乙及び丙は一切責任を負わないものとする。但し、乙・丙が指定する外部給電器V2L/V2H機器を使用した場合において、乙又は丙の責めに帰すべき事由があるときは、この限りでない。
- 3 甲から乙に対し、V2L等の外部給電機の貸出要請があった場合、乙は電気自動車と一緒に貸出可能な当該外部給電機の有無を確認し、甲に回答する。なお、当該外部給電機単独の貸出は行わないものとする。

(燃料の充填)

第6条 本車両の貸与中に甲が本車両の燃料等の充填を行う場合の費用については、甲の負担とする。但し、電気自動車に関して乙の管理する充電スタンドを使用する場合は、乙が当該使用に要する費用を負担する。

(本車両の運転者)

第7条 甲は、本車両の運転者について、次条第2項により本車両に対して甲が付保する保険の対象者に限定するものとする。

(貸出期間中の責任／保険の加入)

第8条 乙から甲への本車両の貸与期間中に、本車両の使用により甲又は第三者に生じた一切の損害及び紛争については、乙及び丙は一切責任を負わず、甲がその責任と費用負担で補償及び解決を図るものとする。但し、乙又は丙の責めに帰すべき事由がある場合は、この限りでない。

- 2 甲は、貸与期間中、本車両に関し甲の費用負担にて相応の保険に加入するものとする。当該保険の内容は、甲乙別途協議の上決定する。

(故障と紛失等)

第9条 甲は、自己の責めに帰すべき事由により本車両を故障又は毀損させた場合は、その修理費及び材料費を負担するものとし、本車両を紛失させた場合は、甲がこれを補償する。なお、修理・補償の方法等については、乙と協議の上、定めるものとする。

(返却)

第10条 貸出期間終了後、甲は、甲乙別途協議の上定める場所及び日時にて、本車両を原状回復（通常損耗及び経年劣化は除く。）の上、乙に返却する。

2 前項による本車両の返却にあたり甲に生じる費用は、甲の負担とする。

(連絡調整)

第11条 甲、乙及び丙は、本協定に定める事項を円滑に推進するため、本協定に添付する第2号様式「連絡責任者届」により、それぞれの連絡先及び連絡責任者を定めるものとし、当該「連絡責任者届」の内容に変更が生じた場合は、速やかに全ての他の当事者に変更内容を通知するものとする。

(定期協議)

第12条 本協定に定める事項を円滑に推進するため、また、各当事者の災害発生時の連携強化を継続的に行うため、甲、乙及び丙は、年1回以上、意見交換、協議等を行うよう努めるものとする。

(防災訓練)

第13条 甲が行う防災訓練等の災害発生に備えた各種イベントへの乙の参加を甲が要望した場合、乙は対応可能な範囲に限り当該イベントに参加することに努めるものとする。当該イベントの詳細については、甲乙別途協議の上決定する。

(公表)

第14条 甲、乙及び丙は、本協定の存在及び内容を外部に公表する場合、その取扱いについては、別途協議し合意の上決定する。

(協定期間)

第15条 本協定の有効期間は、本協定締結日から2026年3月31日までとする。但し、当該有効期間の満了する日の1ヵ月前までに、甲、乙又は丙から何らの意思表示がない場合は、本協定は更に1年間同一条件にて更新されるものとし、以後も同様とする。

(協議)

第16条 本協定に定めのない事項又は疑義が生じた事項については、その都度、甲、乙及び丙が協議して定めるものとする。

本協定の締結を証するため、本協定書3通を作成し、甲、乙、丙それぞれが記名押印の上、各自その1通を保有する。

令和 7 年 1 2 月 9 日

甲 京都府向日市寺戸町中野 2 0 番地

向日市長

乙 京都府向日市寺戸町寺田 5 0 - 2

株式会社スズキ自販京都

代表取締役社長

丙 静岡県浜松市中央区高塚町 3 0 0

スズキ株式会社

日本営業本部長

年 月 日

会社名：株式会社スズキ自販京都

向日市長

応援要請書兼回答書

「災害時における車両貸与等に関する協定書」第3条の規定に基づき、下記の通り要請します。

記

1 自治体記入欄：車両（電気自動車含む）の貸与要請

(1) 要請する車両等の情報

希望車種	使用用途	台数	貸与期間
電動車			自： 月 日 至： 月 日
軽商用車			自： 月 日 至： 月 日

(2) 要請に係る向日市の担当者・連絡先

所属名	
氏名	
連絡先	
加入保険	☐ 損保ジャパン 自治体向け災害活動時における自動車保険に加入済み ☐ 本貸与に適用されるその他の保険に加入済み →（共済/保険会社名： ） ☐ その他：

2 スズキ自販京都回答欄（※どちらか□にレ点チェックを入れてください。）

☐ 貸与不可

理由（貸与不可時記載）：

☐ 下記車両で対応します。（対応可時記載）

車種	台数	引渡場所

年 月 日

連絡責任者届

団体名【 】

連絡先（窓口責任者）

	第1 連絡先	
担当部署		
役職・氏名	(役職)	(氏名)
電話番号・FAX	(TEL)	(FAX)
Eメールアドレス		
備考		

	第2 連絡先	
担当部署		
役職・氏名	(役職)	(氏名)
電話番号・FAX	(TEL)	(FAX)
Eメールアドレス		
備考		

	第3 連絡先	
担当部署		
役職・氏名	(役職)	(氏名)
電話番号・FAX	(TEL)	(FAX)
Eメールアドレス		
備考		

事故受付窓口（向日市記入欄）

加入保険 /事故発生時の連絡先	☐ 損保ジャパン社-自治体向け災害活動時における自動車保険に加入 済み _____ ☐ 上記以外
事故発生時の連絡先	

(目的外使用禁止) 本協定に記載する事項以外には利用しないこと。

2 別 表

資料 2-1

向日市内官公署等所在地一覧表

名 称	所 在 地	電 話	備 考
向日市役所	寺戸町中野20	931-1111	
向日市役所東向日別館	寺戸町小佃5-1	931-1111	
乙訓消防組合向日消防署	寺戸町中ノ段17-1	934-0119	
永守重信市民会館	寺戸町中野20	874-2120	
向日市民体育館	森本町小柳23-1	932-5011	
向日市立図書館	寺戸町南垣内40-1	931-1181	
向日市文化資料館	寺戸町南垣内40-1	931-1182	
向日市天文館	向日町南山82-1	935-3800	
向日市福祉会館	寺戸町西野辺1-7	931-3322	
ゆめパレあむこう(健康増進センター)	鶏冠井町上古8-1	932-5122	
向日市老人福祉センター(桜の径)	上植野町南開66-1	934-1515	
向日市老人福祉センター(琴の橋)	寺戸町三ノ坪20	924-0800	
向日市保健センター	寺戸町東野辺31	933-2666	
向日市商工観光振興センター	寺戸町寺田64	921-2732	向日市商工会
向日市女性活躍センター	寺戸町中ノ段16-7	963-6532	
物集女公民館	物集女町中条26	921-0048	区事務所
寺戸公民館	寺戸町初田18	933-0031	
森本公民館	森本町前田6-7	931-1183	区事務所
鶏冠井公民館	鶏冠井町御屋敷26	921-0063	区事務所
上植野公民館	上植野町西小路15	921-0012	区事務所
西向日コミュニティーセンター	上植野町御塔道7-5	921-0066	区事務所
寺戸コミュニティーセンター	寺戸町山縄手11-3	933-8410	
向日コミュニティーセンター	向日町南山3-3	932-1826	区事務所
上植野コミュニティーセンター	上植野町桑原1-3	922-3580	
物集女コミュニティーセンター	物集女町北ノ口33	921-1514	
鶏冠井コミュニティーセンター	鶏冠井町上古8-8	931-4102	
寺戸町事務所	寺戸町北垣内3	921-0016	
向日台集会所	向日町北山74	931-9684	
物集女西浄水場	物集女町長野1	922-6646	
上植野浄水場	上植野町久我田17-1	931-1111	
向日市立向陽小学校	向日町南山3	921-0250	
向日市立第2向陽小学校	物集女町南条70	932-1002	
向日市立第3向陽小学校	森本町下森本30	932-1003	
向日市立第4向陽小学校	寺戸町三ノ坪20	933-3388	
向日市立第5向陽小学校	上植野町五ノ坪1	921-0001	

名 称	所 在 地	電 話	備 考
向日市立第6向陽小学校	寺戸町大牧24	934-0403	
向日市立勝山中学校	鶏冠井町楓畑24	921-1106	
向日市立西ノ岡中学校	物集女町吉田1	922-4000	
向日市立寺戸中学校	寺戸町蔵ノ町1	934-5311	
向日市学校給食センター	物集女町吉田1	925-6523	
京都府立向陽高校	上植野町西大田	922-4500	
京都西山高等学校	寺戸町西野辺25	934-2480	
向日市立第1保育所	向日町北山21	921-4416	
向日市立第5保育所	寺戸町三ノ坪14	932-1819	
向日市立第6保育所	上植野町地田5-3	933-1212	
旧上田家住宅	鶏冠井町東井戸64-2ほか	874-1023	
京都府山城広域振興局 乙訓地域総務防災課	上植野町馬立8	921-0183	
京都府乙訓保健所	上植野町馬立8	933-1151	
京都府乙訓土木事務所	上植野町馬立8	931-2155	
京都向日町競輪場	寺戸町西ノ段5	921-0321	
京都府乙訓教育局	上植野町馬立8	933-5130	
京都府埋蔵文化財事務所	寺戸町南垣内40-3	933-3877	
京都府向日町警察署	上植野町上川原5	921-0110	
向日町駅前交番	寺戸町久々相27	933-0265	
西向日交番	上植野町南開15-1	922-8880	
物集女交番	物集女町出口1-2	934-7533	
日本郵便(株)向日町郵便局	上植野町馬立6-1	921-0371	
N T T 西日本(株)京都支店	京都市中京区壬生東淵田町22	812-9836	京都市内
J R 向日町駅	寺戸町久々相	921-0244	
関西電力送配電(株)	京都市下京区塩小路通烏丸西入東塩小路町579	0800-777-3081 (送配電ダイヤル)	京都市内
大阪ガス(株)京滋導管部	京都市下京区中堂寺栗田町93	315-8942	京都市内
京都地方気象台	京都市中京区西ノ京笠殿町38	841-3006	京都市内

資料 2-2

府下市町村の所在地及び電話番号

市 町 村 名		所 在 地	電話番号
京 都 市		〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488	(075) 222-3111
福 知 山 市		〒620-8501 福知山市字内記13-1	(0773) 22-6111
舞 鶴 市		〒625-8555 舞鶴市字北吸1044	(0773) 62-2300
綾 部 市		〒623-8501 綾部市若竹町8-1	(0773) 42-3280
宇 治 市		〒611-8501 宇治市宇治琵琶33	(0774) 22-3141
宮 津 市		〒626-8501 宮津市字柳縄手345-1	(0772) 22-2121
亀 岡 市		〒621-8501 亀岡市安町野々神8	(0771) 22-3131
城 陽 市		〒610-0195 城陽市寺田東ノ口16・17	(0774) 52-1111
長 岡 京 市		〒617-8501 長岡京市開田1丁目1-1	(075) 951-2121
八 幡 市		〒614-8501 八幡市八幡園内75	(075) 983-1111
京 田 辺 市		〒610-0393 京田辺市田辺80	(0774) 63-1122
京 丹 後 市		〒627-8567 京丹後市峰山町杉谷889	(0772) 69-0001
南 丹 市		〒622-8651 南丹市園部町小桜町47	(0771) 68-0001
木 津 川 市		〒619-0286 木津川市木津南垣外110-9	(0774) 72-0501
乙訓郡	大 山 崎 町	〒618-8501 乙訓郡大山崎町字円明寺小字夏目3	(075) 956-2101
久世郡	久 御 山 町	〒613-8585 久世郡久御山町島田ミスノ38	(075) 631-6111
綴喜郡	井 手 町	〒610-0302 綴喜郡井手町大字井手小字南玉水67	(0774) 82-2001
	宇治田原町	〒610-0289 綴喜郡宇治田原町大字荒木小字西出10	(0774) 88-2250
相楽郡	笠 置 町	〒619-1393 相楽郡笠置町大字笠置小字西通90-1	(0743) 95-2301
	和 束 町	〒619-1295 相楽郡和束町大字釜塚小字生水14-2	(0774) 78-3001
	精 華 町	〒619-0285 相楽郡精華町大字南稻八妻小字北尻70	(0774) 94-2004
	南 山 城 村	〒619-1411 相楽郡南山城村大字北大河原小字久保14-1	(0743) 93-0101
船井郡	京 丹 波 町	〒622-0292 船井郡京丹波町蒲生八ツ谷62-6	(0771) 82-0200
与謝郡	伊 根 町	〒626-0493 与謝郡伊根町字日出651	(0772) 32-0501
	与 謝 野 町	〒629-2292 与謝郡与謝野町字岩滝1798-1	(0772) 46-3001

資料 2-3

消防本部の所在地及び電話番号

消 防 本 部 名	所 在 地	電 話 番 号
京都市消防局	〒604-0931 京都市中京区押小路通河原町西入榎木町450-2	(075) 231-5311
福知山市消防本部	〒620-0035 福知山市東羽合町46-1	(0773) 24-0119
舞鶴市消防本部	〒625-0080 舞鶴市字北吸1044	(0773) 66-0119
綾部市消防本部	〒623-0031 綾部市味方町アミダジ20-2	(0773) 42-0119
宇治市消防本部	〒611-0021 宇治市宇治下居13-2	(0774) 39-9400
城陽市消防本部	〒610-0111 城陽市富野東田部33	(0774) 54-0113
乙訓消防組合消防本部	〒617-0833 長岡京市神足芝本9	(075) 952-0119
向日消防署	〒617-0002 向日市寺戸町中ノ段17-1	(075) 934-0119
長岡京消防署	〒617-0824 長岡京市天神4丁目2-1	(075) 957-0119
大山崎消防署	〒618-0091 乙訓郡大山崎町字円明寺小字百々1	(075) 956-0119
八幡市消防本部	〒614-8076 八幡市八幡植松19-1	(075) 981-0223
久御山町消防本部	〒613-0043 久世郡久御山町島田ミスノ11	(075) 631-1515
京田辺市消防本部	〒610-0331 京田辺市田辺78	(0774) 63-7825
精華町消防本部	〒619-0244 相楽郡精華町大字北稲八間小字寄田長31	(0774) 94-4473
相楽中部消防組合	〒619-0214 木津市木津白口10-2	(0774) 75-1380
宮津与謝消防組合	〒629-2251 宮津市字須津413-26	(0772) 46-6124
京都中部広域消防組合	〒621-0851 亀岡市荒塚町1丁目9-1	(0771) 22-9580
京丹後市消防本部	〒627-0011 京丹後市峰山町丹波826-1	(0772) 62-0119

指定行政機関・指定公共機関等一覧表

指定行政機関	指定地方行政機関	指定公共機関	指定地方公共機関
内閣府	近畿管区警察局	N T T 西日本株式会社 (京都支店)	株式会社京都放送
国家公安委員会	近畿財務局	K D D I 株式会社	株式会社エフエム京都
警察庁	近畿厚生局	株式会社N T T トコモ関西支社	(一社)京都府医師会
金融庁	近畿農政局	ソフトバンク株式会社	関西鉄道協会
消費者庁	近畿中国森林管理局	エヌ・ティ・ティ・コミュニケーション株式会社	阪急電鉄株式会社
総務省	近畿経済産業局	日本赤十字社	(一社)京都府バス協会
消防庁	中部近畿産業保安監督部 (近畿支部)	(京都府支部)	(一社)京都府トラック協会
法務省	近畿運輸局	西日本旅客鉄道(株) (鉄道本部京都支社)	(一社)京都府L P ガス協会
外務省	近畿地方整備局	東海旅客鉄道株式会社 (関西支社)	(公社)京都府看護協会
財務省	大阪航空局大阪空港事務所	日本貨物鉄道株式会社	(一社)京都府薬剤師会
文部科学省	国土地理院近畿地方測量部	日本放送協会	(一社)京都府歯科医師会
文化庁	大阪管区气象台	(京都放送局)	
厚生労働省	第八管区海上保安本部	関西電力送配電株式会社 (京都本部)	
農林水産省	近畿総合通信局	日本銀行(京都支店)	
経済産業省	京都労働局	西日本高速道路(株) (大阪支社)	
資源エネルギー庁	近畿地方環境事務所	阪神高速道路株式会社	
中小企業庁	近畿中部防衛局	日本通運株式会社 (京都支店)	
国土交通省		福山通運株式会社	
国土地理院		佐川急便株式会社	
気象庁		ヤマト運輸株式会社	
海上保安庁		西濃運輸株式会社	
環境省	自衛隊 (陸上自衛隊第7普通科連隊)	(独)水資源機構 (関西吉野川支社)	
原子力規制委員会		大阪ガスネットワーク株式会社 (京滋事業部)	
防衛省		日本郵政株式会社 (向日町郵便局)	
		イオン株式会社	
		株式会社セブン-イレブン・ジャパン	
		株式会社ローソン	
		株式会社ファミリーマート	
			その他
			洛西土地改良区
			ガス会社
			鉄道・軌道機関
			自動車運送機関
			報道機関
			農業協同組合
			(一社)乙訓医師会
			病院経営者
			金融機関
			学校法人
			液化石油ガス取扱機関
			京都府石油商業組合組合員給油所
			商工業者等

○指定地方行政機関

機 関 名	住 所	電話番号
近 畿 管 区 警 察 局	大阪府中央区谷町2丁目1番17号	(06) 6944-1234
近畿財務局(京都財務事務所)	京都市左京区丸太町川端東入ル東丸太町34-12	(075) 572-1417
近 畿 厚 生 局	大阪府中央区大手前4丁目1番76号	(06) 6942-2241
近 畿 農 政 局	京都市上京区西洞院通下長者町下ル丁子風呂町	(075) 451-9161
近 畿 中 国 森 林 管 理 局	大阪府北区天満1丁目8番75号	(050) 3160-6700
近 畿 経 済 産 業 局	大阪府中央区大手前1丁目5番44号	(06) 6966-6000
中 部 近 畿 産 業 保 安 監 督 部 (近畿支部)	大阪府中央区大手前1丁目5番44号	(06) 6966-6000
近 畿 運 輸 局	大阪府中央区大手前4丁目1番76号	(06) 6949-6412
近 畿 地 方 整 備 局	大阪府中央区大手前1丁目5番44号	(06) 6942-1141
大阪航空局(大阪航空事務所)	豊中市蛍池西町3-371	(06) 6843-1121
国土地理院近畿地方測量部	大阪府中央区大手前4丁目1番76号	(06) 6941-4507
大 阪 管 区 気 象 台 (京都地方气象台)	京都市中京区西ノ京笠殿町38	(075) 841-3006
第 八 管 区 海 上 保 安 本 部	舞鶴市字下福井901	(0773) 76-4120
近 畿 総 合 通 信 局	大阪府中央区大手前1丁目5番44号	(06) 6942-8558
京 都 労 働 局	京都市中京区両替町通御池上ル金吹町451	(075) 241-3211
近 畿 地 方 環 境 事 務 所	大阪府中央区大手前1丁目7番31号	(06) 4792-0700
近畿中部防衛局京都防衛事務所	京都市中京区西ノ京笠殿町38	(075) 812-1887

○指定公共機関又は指定地方公共機関

機 関 名	住 所	電話番号
N T T 西 日 本 (株) 京 都 支 店	京都市中京区壬生東淵田町22	(075) 812-9836
K D D I 株 式 会 社	大阪市中央区城見2-2-72KDDI大阪ビル	
株式会社N T T ドコモ関西支社	大阪市北区梅田1丁目10番1号梅田DTタワー	(06) 6457-8950
ソ フ ト バ ン ク 株 式 会 社	大阪市中央区城見1丁目2番27号	
エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ株式会社	東京都千代田区大手前2丁目3番5号	
日 本 赤 十 字 社 京 都 府 支 部	京都市東山区三十三間堂廻り町644	(075) 541-9326
西 日 本 旅 客 鉄 道 株 式 会 社 (京都支社)	京都市南区西九条北ノ内町5番地5	(075) 682-8004
東海旅客鉄道株式会社関西支社	大阪市淀川区宮原1丁目1番1号	
日 本 放 送 協 会 京 都 放 送 局	京都市中京区烏丸御池下ル虎屋町576	(075) 251-1111
関 西 電 力 送 配 電 株 式 会 社	京都市下京区塩小路通烏丸西入東塩小路579	0800-777-3081 (送配電ダイヤル)
日 本 銀 行 (京 都 支 店)	京都市中京区河原町通二条下ル一之船入町535	(075) 212-5151
西日本高速道路(株)大阪支社	茨木市岩倉1-13	(06) 6344-8888
水資源機構関西吉野川支社	大阪市中央区上町A-12	(06) 6763-5182
大 阪 ガ ス (株) 京 滋 導 管 部	京都市下京区中堂寺栗田町93	(075) 315-8942
日本郵便株式会社向日町支店	向日市上植野町馬立6-1	(075) 921-0293
株 式 会 社 京 都 放 送	京都市上京区烏丸通一条下ル龍前町600-1	(075) 431-2160
(一 社) 京 都 府 医 師 会	京都市中京区西ノ京東梅尾町6	(075) 354-6101
株 式 会 社 エ フ エ ム 京 都	京都市下京区烏丸通下ル水銀屋町620	
関 西 鉄 道 協 会	大阪市北区堂島浜2丁目1-25	(06) 6341-1231
阪 急 電 鉄 株 式 会 社	大阪市北区芝田1丁目16番1号	(06) 6367-5165
(一 社) 京 都 府 バ ス 協 会	京都市伏見区竹田町向代町51-5	(075) 691-6517
(一 社) 京 都 府 ト ラ ッ ク 協 会	京都市伏見区竹田町向代町48-3	(075) 671-3175
(一 社) 京 都 府 L P ガ ス 協 会	京都市南区吉祥院宮ノ西町9-1KONAビル2階	(075) 314-6517
(公 社) 京 都 府 看 護 協 会	京都市左京区高野泉町40-5	(075) 723-7195
(一 社) 京 都 府 薬 剤 師 会	京都市東山区東大路五条下る梅林町563	(075) 551-0376
(一 社) 京 都 府 歯 科 医 師 会	京都市中京区西ノ京東梅尾町1	(075) 812-8020

災害対策本部の業務分掌

区分	担当課	事 務 分 掌
事務局	防災安全課	1 初動対応期 (1) 災害対策本部の設置及び閉鎖に関する事 (2) 災害対策本部の庶務（各対策部統轄調整）に関する事 (3) 災害対策本部長の命令・指示等の伝達に関する事 (4) 予・警報、特別警報、避難情報等の情報伝達に関する事 (5) 要員の動員配置及び服務規律に関する事 (6) 近隣市町、協定市及び自衛隊の派遣要請並びに関係機関への緊急連絡に関する事 2 応急活動期 (1) 生活支援情報、応急復旧情報の総括に関する事 (2) 被害状況の総括並びに関係機関への被害状況報告に関する事
ふるさと創生推進対策部	秘書課 企画広報課 広聴協働課 文化推進課 市民会館 財政課 会計課	1 初動対応期 (1) 本部長（市長）と対策本部との連絡調整に関する事 (2) 市民への広報に関する事 (3) 各種陳情者等の応対及び被災地慰問に関する事 (4) 情報収集・整理・伝達に関する事 2 応急活動期 (1) 報道機関の連絡・調整、記者会見に関する事 (2) 災害記録に関する事 (3) 被災者の相談に関する事 (4) 災害対策関係の資金計画に関する事
総務対策部	総務課 人事課 財産管理課 デジタル戦略課 議会事務局 監査事務局	1 初動対応期 (1) 災害時の住民の避難輸送に関する事 (2) 公用車両の確保に関する事 (3) 公共施設の応急対策に関する事 (4) 被害状況確認復旧 (5) 職員の安全に関する事 2 応急活動期 (1) り災証明等に関する事 (2) 公有財産、施設の被害調査に関する事 (3) 一般家屋等の被害調査に関する事 (4) 自治会及び自主防災組織等との避難所運営協議に関する事 (5) その他、他に属さない業務

区分	担当課	事 務 分 掌
環境産業対策部	防災安全課 衛生環境課 ゼロカーボン推進課 税務課 産業振興課 観光交流センター	1 初動対応期 (1) 消防団、女性防火推進員、自主防災組織に関すること (2) 消防水利に関すること (3) 仮設トイレに関すること (4) ため池等の管理者への指導指示に関すること (5) 防災協力農地の調整に関すること (6) 商工業者への支援協力に関すること (7) 米穀等の調達に関すること 2 応急活動期 (1) 清掃関係業務に必要な情報収集とじん芥の収集運搬処理に関すること (2) 乙訓環境衛生組合との連絡調整に関すること (3) 被災世帯の税の減免に関すること (4) 農林業対策、被害調査に関すること (5) 商工業対策、被害調査に関すること (6) 自治会及び自主防災組織等との避難所運営協議に関すること
	地域福祉課 福祉会館 健康増進センター 障がい者支援課 高齢介護課 老人福祉センター 子育て支援課 保育所 子ども家庭課 健康推進課 保健センター 医療保険課 市民課	1 初動対応期 (1) 救助物資の確保及び配分に関すること (2) 福祉施設の応急対策に関すること (3) 保育所入所者の安全対策に関すること (4) 避難所としての福祉施設の管理に関すること (5) 応急医療対策に関すること (6) 乙訓医師会その他福祉関係機関、施設との連絡及び出動要請に関すること (7) 要配慮者への支援に関すること (8) 遺体の搬送、安置に関すること (9) 避難対策・避難に関すること (10) 被害状況確認復旧 (11) 戸籍（埋火葬許可の特例措置等）に関すること 2 応急活動期 (1) 福祉施設の被害調査に関すること (2) 保育所給食施設での炊き出しに関すること (3) 遺体の埋火葬に関すること (4) 災害弔慰金の支給等に関すること (5) 寄付金(義援金)の受入れ及び配分に関すること (6) 災害ボランティアセンターに関すること (7) 市民の保健衛生に関すること (8) 感染症予防、防疫対策に関すること (9) 災害救助法の運用に関すること (10) 自治会及び自主防災組織等との避難所運営協議に関すること

区分	担当課	事 務 分 掌
都市整備対策部	都市計画課 公共建物整備課 道路整備課 まちづくり推進課 公営企業課 上下水道施設課 浄水場	1 初動対応期 (1) 道路、橋梁、小河川等の公共土木施設の被害調査並びに災害応急対策に関すること (2) 公園緑地及び公園施設の被害調査並びに応急修理に関すること (3) 宅地災害の危険防止、応急復旧等の指導に関すること (4) 土砂災害に関すること (5) 災害時の輸送経路の確保に関すること (6) 災害時の避難経路の確保に関すること (7) 避難所となる公園緑地の確保に関すること (8) 水道施設の緊急点検に関すること (9) 水道施設の災害応急対策に関すること (10) 向日市指定上下水道協同組合への協力要請に関すること (11) 下水道施設の緊急点検に関すること (12) 下水道施設の災害応急対策に関すること 2 応急活動期 (1) 市営住宅の被害調査並びに応急修理に関すること (2) 応急仮設住宅建設に関すること (3) 飲料水の確保及び給水に関すること (4) 応急復旧活動状況の広報に関すること
	文教課 生涯学習課 学校教育課	1 初動対応期 (1) 学校教育施設及び社会教育施設の緊急点検に関すること (2) 学校教育施設及び社会教育施設の災害応急対策に関すること (3) 学校教育施設及び社会教育施設の避難者への開放と管理に関すること (4) 児童生徒の安全対策に関すること (5) 学校給食施設での炊き出しに関すること (6) 府教委及び関係機関との連絡調整に関すること 2 応急活動期 (1) 教育の再開に関すること (2) 被災保護者及び児童生徒に対する援助措置等に関すること (3) 学校教育施設及び社会教育施設の被害調査及び応急復旧に関すること (4) 自治会及び自主防災組織等との避難所運営協議に関すること

資料 2-6

指定緊急避難場所・指定避難所・一時避難場所一覧

1 風水害時

() 内については、屋内収容予定人員

施設名	所在地	収容予定人員	電話番号	避難施設区分		
				指定緊急	指定	一時
物集女公民館	物集女町中条26	(130)	921-0048	○	○	
寺戸公民館	寺戸町初田18	(130)	933-0031	○	○	
寺戸町事務所	寺戸町北垣内3	(50)	921-0016	○	○	
森本公民館	森本町前田6-7	(110)	931-1183			
鶏冠井公民館	鶏冠井町御屋敷26	(100)	921-0063	○	○	
上植野公民館	上植野町西小路15	(140)	921-0012	○	○	
西向日コミュニティセンター	上植野町御塔道7-5	(50)	921-0066	○	○	
寺戸コミュニティセンター	寺戸町山縄手11-3	(60)	933-8410			
向日コミュニティセンター	向日町南山3-3	(50)	932-1826	○	○	
上植野コミュニティセンター	上植野桑原1-3	(50)	922-3580			
物集女コミュニティセンター	物集女町北ノ口33	(50)	921-1514	○	○	
鶏冠井コミュニティセンター	鶏冠井町上古8-8	(50)	931-4102			
向陽小学校	向日町南山3	4,500(260)	921-0250	○	○	
第2向陽小学校	物集女町南条70	4,500(190)	932-1002	○	○	
第3向陽小学校	森本町下森本30	2,300(200)	932-1003		△	
第4向陽小学校	寺戸町三ノ坪20	2,800(190)	933-3388	○	○	
第5向陽小学校	上植野町五ノ坪1	3,700(200)	921-0001		△	
第6向陽小学校	寺戸町大牧24	4,200(200)	934-0403	○	○	
勝山中学校	鶏冠井町楓畑24	4,600(310)	921-1106	○	○	
西ノ岡中学校	物集女町吉田1	5,500(250)	922-4000	○	○	
寺戸中学校	寺戸町蔵ノ町1	4,800(250)	934-5311	○	○	
第1保育所	向日町北山21	(50)	921-4416	○	○	
第5保育所	寺戸町三ノ坪14	(30)	932-1819		○	
第6保育所	上植野町地田5-3	(30)	933-1212			
向陽高校	上植野町西大田	8,500(210)	922-4500		△	
西山高校	寺戸町西野辺25	1,500(420)	934-2480	○	○	
京都向日町競輪場	寺戸町西ノ段5	7,500(1,000)	921-0317	○	○	○
老人福祉センター(桜の径)	上植野町南開66-1	(220)	934-1515	○	○	
老人福祉センター(琴の橋)	寺戸町三ノ坪20	(240)	924-0800	○	○	
永守重信市民会館	寺戸町中野20	(200)	874-2120	○	○	
市民体育館	森本町小柳23-1	2,700(1,670)	932-5011		△	
保健センター	寺戸町東野辺31	(190)	933-2666	○	○	
西向日公園	上植野町南開	1,100				○
大牧公園	寺戸町大牧1-194	540				○
芝山公園	寺戸町芝山	400				○
中条公園	物集女町中条	100				○
永田公園	寺戸町永田	200				○

施設名	所在地	収容予定人員	電話番号	避難施設区分		
				指定緊急	指定	一時
稲荷公園	寺戸町二枚田	250				
野辺公園	寺戸町東野辺	280				○
北大極殿公園	鶏冠井町大極殿	280				○
里垣内公園	寺戸町里垣内	210				○
深田川橋公園	寺戸町山縄手	600				
萩所公園	鶏冠井町萩所	750				○
大極殿公園	鶏冠井町大極殿	1,370				○
八反田公園	寺戸町八反田	190				○
内裏公園	鶏冠井町荒内	560				○
庄ノ内公園	上植野町庄ノ内	290				○
中福知公園	上植野町中福地	300				
十相公園	鶏冠井町十相	190				
北淀井公園	鶏冠井町北淀井	250				
ひまわり公園	寺戸町東野辺	500				○
市民ふれあい広場	鶏冠井町十相	3,500				
JR駅前ふれあい広場	寺戸町瓜生	500				
東院公園	鶏冠井町上古	1,140				
殿長公園	寺戸町殿長	210				○
鶏冠井かしの木公園	鶏冠井町北井戸	490				
朝堂院公園	鶏冠井町山畑	1,250				○
修理式ふれあい公園	寺戸町修理式	540				
寺田東公園	寺戸町寺田	2,510				
北部防災拠点	寺戸町寺田	100				
南部防災拠点	上植野町北小路	300				○
上植野城公園	上植野町北小路	350				○
洛西口つつじ公園	寺戸町七ノ坪	700				○
洛西口さくら公園	寺戸町八ノ坪	640				
物集女城公園	物集女町中条	320				○
森本東部ふれあい公園	森本町上町田	1,200				
森本東部どんぐり公園	森本町上町田	400				
寺戸北しらさぎ公園	寺戸町東御泥	1,200				○

○印は、「浸水想定区域外にある避難所」、△印は「浸水想定区域内にある3階建て以上の避難所であり、逃げ遅れた場合にのみ最上階に避難する施設」を意味する。

なお、西ノ岡中(5,500人)、向陽高校(8,500人)は、緊急ヘリポートとして指定しているため、使用時には避難施設から除外する。

総数	区 分	指定緊急避難場所	指定避難所	一時避難場所
	避難所箇所数	22箇所	27箇所	22箇所
	避難収容人数	39,900(4,670)人	57,100(6,980)人	18,600人

2 地震災害時

() 内については、屋内収容予定人員

施設名	所在地	収容予定人員	電話番号	避難施設区分		
				指定緊急	指定	一時
物集女公民館	物集女町中条26	(130)	921-0048	○	○	
寺戸公民館	寺戸町初田18	(130)	933-0031	○	○	
寺戸町事務所	寺戸町北垣内3	(50)	921-0016	○	○	
森本公民館	森本町前田6-7	(110)	931-1183	○	○	
鶏冠井公民館	鶏冠井町御屋敷26	(100)	921-0063	○	○	
上植野公民館	上植野町西小路15	(140)	921-0012	○	○	
西向日コミュニティセンター	上植野町御塔道7-5	(50)	921-0066	○	○	
寺戸コミュニティセンター	寺戸町山縄手11-3	(60)	933-8410	○	○	
向日コミュニティセンター	向日町南山3-3	(50)	932-1826	○	○	
上植野コミュニティセンター	上植野桑原1-3	(50)	922-3580	○	○	
物集女コミュニティセンター	物集女町北ノ口33	(50)	921-1514	○	○	
鶏冠井コミュニティセンター	鶏冠井町上古8-8	(50)	931-4102	○	○	
向陽小学校	向日町南山3	4,500(260)	921-0250	○	○	
第2向陽小学校	物集女町南条70	4,500(190)	932-1002	○	○	
第3向陽小学校	森本町下森本30	2,300(200)	932-1003	○	○	
第4向陽小学校	寺戸町三ノ坪20	2,800(190)	933-3388	○	○	
第5向陽小学校	上植野町五ノ坪1	3,700(200)	921-0001	○	○	
第6向陽小学校	寺戸町大牧24	4,200(200)	934-0403	○	○	
勝山中学校	鶏冠井町楓畑24	4,600(310)	921-1106	○	○	
西ノ岡中学校	物集女町吉田1	5,500(250)	922-4000	○	○	
寺戸中学校	寺戸町蔵ノ町1	4,800(250)	934-5311	○	○	
第1保育所	向日町北山21	(50)	921-4416	○	○	
第5保育所	寺戸町三ノ坪14	(30)	932-1819	○	○	
第6保育所	上植野町地田5-3	(30)	933-1212	○	○	
向陽高校	上植野町西大田	8,500(210)	922-4500		○	
西山高校	寺戸町西野辺25	1,500(420)	934-2480		○	
京都向日町競輪場	寺戸町西ノ段5	7,500(1,000)	921-0317	○	○	○
老人福祉センター(桜の径)	上植野町南開66-1	(220)	934-1515	○	○	
老人福祉センター(琴の橋)	寺戸町三ノ坪20	(240)	924-0800	○	○	
永守重信市民会館	寺戸町中野20	(200)	874-2120	○	○	
市民体育館	森本町小柳23-1	2,700(1,670)	932-5011	○	○	
保健センター	寺戸町東野辺31	(190)	933-2666	○	○	
西向日公園	上植野町南開	1,100				○
大牧公園	寺戸町大牧1-194	540				○
芝山公園	寺戸町芝山	400				○
中条公園	物集女町中条	100				○
永田公園	寺戸町永田	200				○
稲荷公園	寺戸町二枚田	250				○
野辺公園	寺戸町東野辺	280				○

施設名	所在地	収容予定人員	電話番号	避難施設区分		
				指定緊急	指定	一時
北大極殿公園	鶏冠井町大極殿	280				○
里垣内公園	寺戸町里垣内	210				○
深田川橋公園	寺戸町山縄手	600				○
萩所公園	鶏冠井町萩所	750				○
大極殿公園	鶏冠井町大極殿	1,370				○
八反田公園	寺戸町八反田	190				○
内裏公園	鶏冠井町荒内	560				○
庄ノ内公園	上植野町庄ノ内	290				○
中福知公園	上植野町中福地	300				○
十相公園	鶏冠井町十相	190				○
北淀井公園	鶏冠井町北淀井	250				○
ひまわり公園	寺戸町東野辺	500				○
市民ふれあい広場	鶏冠井町十相	3,500				○
JR 駅前ふれあい広場	寺戸町瓜生	500				○
東院公園	鶏冠井町上古	1,140				○
殿長公園	寺戸町殿長	210				○
鶏冠井かしの木公園	鶏冠井町北井戸	490				○
朝堂院公園	鶏冠井町山畑	1,250				○
修理式ふれあい公園	寺戸町修理式	540				○
寺田東公園	寺戸町寺田	2,510				○
北部防災拠点	寺戸町寺田	100				○
南部防災拠点	上植野町北小路	300				○
上植野城公園	上植野町北小路	350				○
洛西口つつじ公園	寺戸町七ノ坪	700				○
洛西口さくら公園	寺戸町八ノ坪	640				○
物集女城公園	物集女町中条	320				○
森本東部ふれあい公園	森本町上町田	1,200				○
森本東部どんぐり公園	森本町上町田	400				○
寺戸北しらさぎ公園	寺戸町東御泥	1,200				○

△印は、震災時には、ただちに利用できません。

なお、西ノ岡中(5,500人)、向陽高校(8,500人)は、緊急ヘリポートとして指定しているため、使用時には避難施設から除外する。

総 数	区 分	指定緊急避難場所	指定避難所	一時避難場所
	避難所箇所数	30箇所	32箇所	37箇所
	避難収容人数	47,100(6,650)人	57,100(7,280)人	31,210人

3 福祉避難所（二次的避難所）

市は、次の4施設と「災害発生時における福祉避難所の設置運営に関する協定」を締結し、さらに、乙訓福祉施設事務組合と「福祉避難所について申し合わせ」を行った。福祉避難所は、高齢者、障がいのある方など、災害時の避難生活において何らかの特別な配慮を必要とする方を対象とした避難施設であるため、災害発生時に必要に応じて開設される二次的避難所とする。

施 設 名	住 所
社会福祉法人 向陽福祉会 特別養護老人ホーム 向陽苑	向日市上植野町五ノ坪1-2
社会福祉法人 向日春秋会 特別養護老人ホーム サンフラワーガーデン	向日市物集女町森ノ下12-1
社会福祉法人 向陵会 乙訓ひまわり園	向日市上植野町五ノ坪11-1
介護老人保健施設ケアセンター回生	向日市物集女町中海道19-5
乙訓若竹苑	長岡京市井ノ内西ノ口17-8
乙訓ポニーの学校	長岡京市井ノ内西ノ口17-8

4 ペット同行避難所

災害発生時のペット同行避難については、必要に応じて開設される以下の施設を同行避難所とする。

永守重信市民会館・市民体育館・各小学校・各中学校・老人福祉センター桜の径

被害程度の認定基準

分類	用語	被害程度認定基準
人的被害	死者	当該災害が原因で死亡し、死体を確認した者、又は、死体は確認できないが死亡したことが確実な者。
	行方不明	当該災害が原因で所在不明となり、かつ、死亡の疑いのある者。
	重傷者	当該災害により負傷し、医師の治療を受け、又は、受ける必要のある者のうち、1か月以上の治療を要する見込みの者。
	軽傷者	当該災害により負傷し、医師の治療を受け、又は、受ける必要のある者のうち、1か月未満で治療できる見込みの者。
住家被害	住家	現実に居住のため使用している建物をいい、社会通念上の住家であるかどうかを問わない。
	世帯	生計を一つにしている実際の生活単位。
	全壊(焼) ・ 全流失	住家がその居住のための基本的機能を喪失したもの、すなわち、住家全部が倒壊、流失、埋没したもの、または住家の損壊(ここでいう「損壊」とは、住家が被災により損傷、劣化、傾斜等何らかの変化を生じることにより、補修しなければ元の機能を復元し得ない状況に至ったものをいう。以下同じ。)が甚だしく、補修により元通りに再使用することが困難なもので、具体的には住家の損壊、焼失若しくは流失した部分の床面積が、その住家の延床面積の70%以上に達したもの、又は、住家の主要構造部(ここでいう「主要構造部」とは、住家の構成要素のうち造作等を除いたものであって、住家の一部として固定された設備を含む。以下同じ。)の被害額がその住家の時価の50%以上に達した程度のものである。
	大規模半壊	居住する住宅が半壊し、構造耐力上主要な部分の補修を含む大規模な補修を行わなければ当該住宅に居住することが困難なものである。具体的には、損壊部分がその住家の延べ床面積50%以上70%未満のもの、または住家の主要な構成要素の経済的被害を住家全体に占める損害割合で表し、その住家の損害割合が40%以上50%未満のものとする。
	半壊(焼)	住家の損壊がはなはだしいが、補修すれば元どおりに使用できるもので、具体的には損壊部分が、その住家の延床面積の20%以上70%未満のもの、又は、住家の主要構造部の被害額がその住家の時価の20%以上50%未満のもの。
	準半壊	準半壊は、住家が半壊又は半焼に準ずる程度の損傷を受けたもので、具体的には、損壊部分がその住家の延べ床面積の10%以上20%未満のもの、または住家の主要な構成要素の経済的被害を住家全体に占める損害割合で表し、その住家の損害割合が10%以上20%未満のものとする。
	準半壊に至らない(一部損壊)	住家の損傷部分等が10%未満の場合を準半壊に至らない(一部損壊)と判定する。
	床上浸水	住家の床より上に浸水したもの、又は、全壊・半壊には該当しないが、土砂、竹木のたい積により、一時的に居住することができないもの。
	床下浸水	浸水が住家の床上以上に達しない程度のもの。
非住家被害	非住家	住家以外の建物で、全壊又は半壊の被害を受けたもの。 これらの施設に人が居住しているときは、当該部分は住家とする。 (解釈) 社会通念上住家と称せられるものであっても、現実に人が居住していない場合は非住家とする。
	公共建物	官公署庁舎、公民館、公立保育所等の公用又は、公共の用に供する建物。
	その他	公共建物以外の倉庫、土蔵、車庫等の建物。

分類	用 語		被 害 程 度 認 定 基 準
その他の被害	田	流 失・埋没冠水	田の耕土が流失し、又は、砂利等のたい積のため、耕作が不能となったもの。稲の先端が見えなくなる程度に水につかったもの。
	畑	流 失・埋没冠水	田に準ずる。
	文 教 施 設		小学校、中学校、高等学校、大学、高等専門学校、特別支援学校及び幼稚園における教育の用に供する施設。
	道 路		道路法（昭和27年法律第180号）第2条第1項に規定する道路のうち、橋りょうを除いたもの。
	橋 り よ う		道路を連結するために河川・運河等の上に架設された橋。
	河 川		河川法（昭和39年法律第167号）が適用され、若しくは準用される河川若しくはその他の河川又は、これらのものの維持管理上必要な堤防、護岸、水利、床上その他の施設若しくは、沿岸を保全するために防護することを必要とする河岸。
	砂 防		砂防法（明治30年法律第29号）第1条に規定する砂防施設、同法第3条の規定によって同法が準用される砂防のための施設又は、同法第3条の2の規定によって同法が準用される天然の河岸。
	崖 く ず れ		急傾斜地の崩壊による災害の防止に関する法律（昭和44年法律第57号）第2条に規定する急傾斜地崩壊防止施設及び、急傾斜地の崩壊（いわゆる崖くずれを含む。）による災害で人命、人家、公共的建物に被害があったもの。
	地 す べ り		地すべりによる被害で、地すべり等防止法（昭和33年法律第30号）第2条に規定する地すべり防止施設及び人命、人家、公共的建物に被害があったもの。
	土 石 流		土石流による災害で、人命、人家、公共的建物に被害があったもの。
	林 地 崩 壊		森林法（昭和26年法律第249号）第2条第1項に規定する土地の崩壊とし、山腹崩壊箇所数及び荒廃渓流数の合計数とする。
	清 掃 施 設		ゴミ処理及びし尿処理施設。
	鉄 道 不 通		列車、電車等の運行が不能となった程度の被害。
	被 害 船 舶		ろかいのみをもって運転する舟以外の舟で、船体が没し、航行不能になったもの及び流失し、所在が不明になったもの、並びに修理しなければ航行できない程度の被害を受けたもの。
	水 道		上水道又は簡易水道で断水している戸数のうち、最も多く断水した時点における戸数。
	電 話		災害により通話不能となった電話の回線数。
	電 気		災害により停電した戸数のうち最も多く停電した時点における戸数。
り災世帯等	ガ ス		一般ガス事業又は、簡易ガス事業で供給停止となっている戸数のうち最も多く供給停止となった時点における戸数。
	ブ ロ ッ ク 塀 等		倒壊したブロック塀又は石塀の箇所数。
	被 災 世 帯		災害により全壊、半壊及び床上浸水の被害を受け、通常の生活を維持できなくなった生計を一にしている世帯。 例えば寄宿舎、下宿その他これに類する施設に宿泊するもので共同生活を営んでいるものについては、これを一世帯として扱い、また、同一家屋の親子、夫婦であっても生活が別であれば分けて扱う。
被害金額	被 災 者		被災世帯の構成員とする。
	公 立 文 教 施 設		公立の文教施設とする。
	農 林 水 産 業 施 設		農林水産業施設災害復旧事業費国庫補助の暫定措置に関する法律（昭和25年法律 第169号）による補助対象となる施設をいい、具体的には農地、農業用施設、林業用施設、漁業用施設及び共同利用施設とする。

分類	用語	被害程度認定基準
被害金額	公共土木施設	公共土木施設災害復旧事業費国庫負担法(昭和26年法律第97号)による国庫負担の対象となる施設をいい、具体的には河川、海岸、砂防施設、林地荒廃防止施設、地すべり防止施設、急傾斜地崩壊防止施設、道路、港湾、漁港及び下水道とする。
	その他の公共施設	公共文教施設、農林水産業施設及び公共土木施設以外の公共施設をいい、たとえば庁舎、公民館、児童館、都市施設等の公用または公共の用に供する施設とする。
	その他	農産被害 農林水産業施設以外の農産被害をいい、例えばビニールハウス、農作物等の被害とする。
		林産被害 農林水産業施設以外の林産被害をいい、たとえば立木、苗木等の被害とする。
	商工被害	建物以外の商工被害で、たとえば、工業原材料、商品、生産機械機具等とする。

災害救助法による救助の方法、程度、期間等（災害救助法施行令第3条第1項及び第5条）

「災害救助法における救助の程度、方法及び期間並びに実費弁償の基準」

救助の種類	対象	費用の限度額	期間	備考
避難所の設置	災害により現に被害を受け、又は受けるおそれのある者に供与する	(基本額) 避難所設置費 1人 1日当たり 330円以内 高齢者等の要援護者等を収容する「福祉避難所」を設置した場合、当該地域における通常の実費を支出でき、上記を超える額を加算できる。	災害発生の日から7日以内	1 費用は、避難所の設置、維持及び管理のための賃金職員等雇上費、消耗器材費、建物等の使用謝金、借上費又は購入費、光熱水費並びに仮設便所等の設置費を含む。 2 避難に当たっての輸送費は別途計上 3 避難所での避難生活が長期にわたる場合等においては、避難所に避難生活している者の健康上の配慮等により、ホテル・旅館などの宿泊施設を借上げて実施することが可能。
応急仮設住宅の供与	住家が全壊、全焼又は流失し、居住する住家がない者であって、自らの資力では住宅を得ることができない者	○ 建設型応急住宅 1 規模 応急救助の趣旨を踏まえ、実施主体が地域の実情、世帯構成等に応じて設定 2 基本額 1戸当たり 5,714,000円以内 3 建設型応急住宅の供与終了に伴う解体撤去及び土地の原状回復のために支出できる費用は、当該地域における実費。	災害発生の日から20日以内着工	1 費用は設置にかかる原材料費、労務費、付帯設備工事費、輸送費及び建築事務費等の一切の経費として5,714,000円以内であればよい。 2 同一敷地内等に概ね50戸以上設置した場合は、集会等に利用するための施設を設置できる。(50戸未満であっても小規模な施設を設置できる) 3 高齢者等の要援護者等を数人以上収容する「福祉仮設住宅」を設置できる。 4 供与期間は2年以内
		○ 賃貸型応急住宅 1 規模 建設型応急住宅に準じる 2 基本額 地域の実情に応じた額		1 費用は、家賃、共益費、敷金、礼金、仲介手数料、火災保険等、民間賃貸住宅の貸主、仲介業者との契約に不可欠なものとして、地域の実情に応じた額とすること。 2 供与期間は建設型応急住宅と同様。
炊き出しその他による食品の給与	1 避難所に収容された者 2 住家に被害を受け、若しくは災害により現に炊事のでき	1人1日当たり 1,160円以内	災害発生の日から7日以内	食品給与のための総経費を延給食日数で除した金額が限度額以内であればよい。(1食は1/3日)

	ない者								
飲料水の供給	現に飲料水を得ることができない者(飲料水及び炊事のための水であること。)	当該地域における通常の実費	災害発生の日から7日以内	輸送費、人件費は別途計上					
被服、寝具その他生活必需品の給与又は貸与	全半壊(焼)、流失、床上浸水等により、生活上必要な被服、寝具、その他生活必需品を喪失、若しくは毀損等により使用することができず、直ちに日常生活を営むことが困難な者	1 夏季(4月～9月)冬季(10月～3月)の季別は災害発生の日をもって決定する。 2 下記金額の範囲内	災害発生の日から10日以内	1 備蓄物資の価格は年度当初の評価額 2 現物給付に限ること					
		区 分	1人世帯	2人世帯	3人世帯	4人世帯	5人世帯	6人以上1人増すごとに加算	
		全壊 全焼 流失	夏	18,800円	24,200円	35,800円	42,800円	54,200円	7,900円
			冬	31,200円	40,400円	56,200円	65,700円	82,700円	11,400円
		半壊 半焼 床上浸水	夏	6,100円	8,300円	12,400円	15,100円	19,000円	2,600円
			冬	10,000円	13,000円	18,400円	21,900円	27,600円	3,600円
医療	医療の途を失った者(応急的措置)	1 救護班・・・使用した薬剤、治療材料、医療器具破損等の実費 2 病院又は診療所・・・国民健康保険診療報酬の額以内 3 施術者協定料金の額以内	災害発生の日から14日以内	患者等の移送費は、別途計上					
助産	災害発生の日以前又は以後7日以内に分べんした者であって災害のため助産の途を失った者(出産のみならず、死産及び流産を含み現に助産を要する状態にある者)	1 救護班等による場合は、使用した衛生材料等の実費 2 助産師による場合は、慣行料金の100分80以内の額	分べんした日から7日以内	妊婦等の移送費は、別途計上					
被災者の救出	1 現に生命、身体が危険な状態にある者 2 生死不明な状態にある者	当該地域における通常の実費	災害発生の日から3日以内	1 期間内に生死が明らかにならない場合は、以後「死体の搜索」として取り扱う。 2 輸送費、人件費は、別途計上					
被災した住宅の応急処理	1 住家が半壊(焼)若しくはこれらに準ずる程度の損傷を受け、自らの資力により応急修理をすることができない者 2 大規模な補修を行わなければ居住	居室、炊事場及び便所等日常生活に必要最小限度の部分1世帯当たり <u>① 大規模半壊又は半壊若しくは半焼の被害を受けた世帯</u> 595,000円以内 <u>② 半壊又は半焼に準ずる</u>	災害発生の日から1か月以内						

	することが困難である程度に住家が半壊(焼)した者	<u>程度の損傷により被害を受けた世帯</u> <u>300,000円以内</u>		
学用品の給与	住家の全壊(焼) 流失半壊(焼) 又は床上浸水により学用品の喪失又は毀損等により使用することができず、就学上支障のある小学校児童、中学校生徒、義務教育学校生徒及び高等学校等生徒。	1 教科書及び教科書以外の教材で教育委員会に届出又はその承認を受けて使用している教材、又は正規の授業で使用している教材実費 2 文房具及び通学用品は、1人当たり次の金額以内 小学校児童 <u>4,500円</u> 中学校生徒 <u>4,800円</u> 高等学校等生徒 <u>5,200円</u>	災害発生の日から (教科書) 1か月以内 (文房具及び通学用品) 15日以内	1 備蓄物資は評価額 2 入進学時の場合は個々の実状に応じて支給する。
埋葬	災害の際死亡した者を対象にして実際に埋葬を実施する者に支給	1 体当たり 大人(12歳以上) <u>215,200円以内</u> 小人(12歳未満) <u>172,000円以内</u>	災害発生の日から10日以内	災害発生の日以前に死亡した者であっても対象となる。
死体の搜索	行方不明の状態にあり、かつ、四囲の事情によりすでに死亡していると推定される者	当該地域における通常の実費	災害発生の日から10日以内	1 輸送費、人件費は、別途計上 2 災害発生後3日を経過したものは一応死亡した者と推定している。
死体の処理	災害の際死亡した者について、死体に関する処理(埋葬を除く。)をする。	(洗浄、消毒等) 1 体当たり <u>3,500円以内</u> 一時保存 ・既存建物借上費 通常の実費 ・既存建物以外 1体当たり <u>5,400円以内</u> 検案 救護班以外は慣行料金	災害発生の日から10日以内	1 検案は原則として救護班 2 輸送費、人件費は、別途計上 3 死体の一時保存にドライアイスの購入費等が必要な場合は当該地域における通常の実費を加算できる。
障害物の除去	居室、炊事場、玄関等に障害物が運びこまれているため生活に支障をきたしている場合で自力では除去することができない者	市町村内において障害物の除去を行った一世帯当たりの平均 <u>137,900円以内</u>	災害発生の日から10日以内	
輸送費及び賃金 職員等雇上費	1 被災者の避難に係る支援 2 医療及び助産 3 被災者の救出 4 飲料水の供給 5 死体の搜索 6 死体の処理 7 救済用物資の整理配分	当該地域における通常の実費	救助の実施が認められる期間以内	

実費弁償	災害救助法施行令第4条第1号から第4号までに規定する者	災害救助法第7条第1項の規定により救助に関する業務に従事させた都道府県知事等の総括する都道府県等の常勤の職員で当該業務に従事した者に相当するものの給与を考慮して定める	救助の実施が認められる期間以内	時間外勤務手当及び旅費は別途に定める額
救助の事務を行うのに必要な費用	1 時間外勤務手当 2 賃金職員等雇上費 3 旅費 4 需用費(消耗品費、燃料費、食糧費、印刷製本費、光熱水費、修繕料) 5 使用料及び賃借料 6 通信運搬費 7 委託費	救助事務費に支出できる費用は、法第21条に定める国庫負担を行う年度(以下「国庫負担対象年度」という。)における各災害に係る左記1から7までに掲げる費用について、地方自治法施行令(昭和22年政令第16号)第143条に定める会計年度所属区分により当該年度の歳出に区分される額を合算し、各災害の当該合算した額の合計額が、国庫負担対象年度に支出した救助事務費以外の費用の額の合算額に、次のイからトまでに掲げる区分に応じ、それぞれイからトまでに定める割合を乗じて得た額の合計額以内とすること。 イ 3千万円以下の部分の金額については100分の10 ロ 3千万円を超え6千万円以下の部分の金額については100分の9 ハ 6千万円を超え1億円以下の部分の金額については100分の8 ニ 1億円を超え2億円以下の部分の金額については100分の7 ホ 2億円を超え3億円以下の部分の金額については100分の6 ヘ 3億円を超え5億円以下の部分の金額については100分の5 ト 5億円を超える部分の金額については100分の4	救助の実施が認められる期間及び災害救助費の精算する事務を行う期間以内	災害救助費の精算事務を行うのに要した経費も含む。

※ この基準によつては救助の適切な実施が困難な場合には、都道府県知事等は、内閣総理大臣に協議し、その同意を得た上で、救助の程度、方法及び期間を定めることができる。

乙訓消防組合職員動員計画

平成18年 5月26日 全部改正
最新改正 令和7年 4月 1日 一部改正

第1 計画の趣旨

この計画は、消防組織法第1条に規定する水火災又は地震等の災害又は武力攻撃災害で大規模かつ広範囲に及ぶ災害等（以下「非常災害」という。）の発生又は発生の恐れがあるときの警防態勢を確保するため、乙訓消防組合警防規程第28条に基づき、職員の動員について定める。

第2 警防態勢の原則

乙訓消防組合における警防態勢は、構成市町における地域防災計画に基づく災害警戒本部又は災害対策本部の設置、国民保護計画等の対応に基づき、平常時における消防体制から災害の発生予測及び災害規模と態様に応じた必要な消防力の増強を図り、非常災害の発生時に即応する警防態勢を確保するものとする。ただし、消防長は、交通機関等による大規模な災害、その他の特殊災害が発生したときは、本計画による動員を発令することができるものとする。

第3 非常災害における動員計画

1 警備体制の基準

警備体制の種類	発 令 の 基 準 ※構成市町のいずれかにおいて、次に示す項目のいずれかに該当した場合
警防警戒態勢	・京都地方気象台により大雨・洪水・暴風・暴風雪警報に関する気象警報が発令された場合 ・国民保護計画に基づく「情報連絡体制」が執られたとき ＜平常警備体制＞
警防1号態勢	・警戒本部が設置されて、かつ災害の発生が予測される場合 ・対策本部が設置された場合 ・震度4が観測された場合 ・国民保護計画に基づく「緊急事態連絡室」が設置されたとき ＜平常警備体制＞
警防2号態勢	・局地的に小規模な水災等が発生したときで、部隊の増強が必要と認められる場合 ・国民保護計画に基づく「対策本部」が設置されたとき ＜本部1/2招集・各消防署（分署を含む）1隊増強＞
警防3号態勢	・局地的に災害が発生し、拡大する恐れがあるときで、更に部隊の増強が必要と認められる場合 ・国民保護計画に基づく武力攻撃災害が発生し、拡大する恐れがあるときで、更に部隊の増強が必要と認められる場合 ・震度5弱・強が観測された場合 ＜本部2/3招集・消防署2/3招集＞
警防4号態勢	・消防の総力をもって非常災害への対応が必要と認められる場合 ・震度6弱以上が観測された場合 ＜全員招集＞＜通常業務停止＞

(注) 消防長は、災害の規模又は態様等の状況により、警備体制の基準によらない招集を発令することができるものとする。

2 動員計画

(単位：人)

	消 防 本 部					消 防 署			合 計
	総 数 (注 1)	内 訳				向 日	長 岡 京	大 山 崎	
		総 務	予 防	警 防	救 急				
警防警戒態勢	10	10 (注 2)				14 (注 3)	18 (注 3)	9 (注 3)	51
警防 1 号態勢	19	2	3	12	2	15	20	10	64
警防 2 号態勢	34	5	5	21	3	22 (注 4)	31 (注 4)	17 (注 4)	104
警防 3 号態勢	40	8	7	22	3	30	39	20	129
警防 4 号態勢	全 員								

注 1 消防本部総数のうち、警防警戒態勢は消防長を除いた人員とし、警防 1 号態勢以降は消防長を含めた人員数を示す。

注 2 消防本部の警防警戒態勢の表中内訳は指揮隊 3 名及び指令係 5 名の当務人員数と別に定める「乙訓消防組合消防本部職員動員計画の運用」に基づく 2 名の計 10 名を示す。

注 3 各消防署の警防警戒態勢の表中の数は、署長、副署長等 1 名と当務人員数を示す。

注 4 警防 2 号態勢は、消防署の日勤者全員と 1 隊の消防隊を確保する。

(1) 消防本部における各課動員数の内訳

警防警戒態勢 10 名 (注 2 のとおり、当務指揮隊・指令係及び下記 8 名のうち 2 名動員)				
	総務課	予防課	警防課	救急課
	課長	次長兼課長	課長	課長
		主幹	担当課長	主幹
			主幹	
			当務指揮隊 3 名	
			当務指令係 5 名	
警防 1 号態勢 19 名 (消防長＋警防警戒態勢で動員されていない職員)				
	総務課 (2 名)	予防課 (3 名)	警防課 (12 名)	救急課 (2 名)
	課長	次長兼課長	課長	課長

消防長	課長補佐	主幹	担当課長	主幹
		課長補佐	主幹	
			課長補佐	
警防 2 号態勢 34 名 (消防長＋警防 1 号態勢で動員されていない職員)				
消防長	総務課 (5 名)	予防課 (5 名)	警防課 (21 名)	救急課 (3 名)
	係長	係長	係長	係長
	係長	係長	非番指揮隊 3 名	
	係長		非番指令係 5 名	
警防 3 号態勢 40 名 (消防長＋警防 2 号態勢で動員されていない職員)				
消防長	総務課 (8 名)	予防課 (7 名)	警防課 (22 名)	救急課 (3 名)
	主査	主査	主査	2 号態勢と同じ
	主任	主査		
	主任			
警防 4 号態勢 全員				

(2) 各消防署における各動員数の内訳

① 警防警戒態勢

- ア 向日消防署 14 名 (署長若しくは副署長と当務員 13 名)
- イ 長岡京消防署 18 名 (署長若しくは副署長と東分署を含む当務員 17 名)
- ウ 大山崎消防署 9 名 (署長若しくは副署長と当務員 8 名)

② 警防 1 号態勢

- ア 向日消防署 15 名 (警防警戒態勢 14 名＋署長若しくは副署長 1 名)
- イ 長岡京消防署 20 名 (警防警戒態勢 18 名＋署長若しくは副署長 1 名と東分署長)
- ウ 大山崎消防署 10 名 (警防警戒態勢 9 名＋署長若しくは副署長 1 名)

③ 警防 2 号態勢

- ア 向日消防署 22 名 (警防 1 号態勢 15 名＋庶務予防課 2 名、消防隊等 5 名)
- イ 長岡京消防署 31 名 (警防 1 号態勢 20 名＋庶務予防課 2 名、東分署を含む消防隊等 9 名)
- ウ 大山崎消防署 17 名 (警防 1 号態勢 10 名＋庶務予防課 2 名、消防隊等 5 名)

④ 警防 3 号態勢

- ア 向日消防署 30 名 (警防 2 号態勢 22 名＋消防隊等 8 名)
- イ 長岡京消防署 39 名 (警防 2 号態勢 31 名＋消防隊等 8 名)
- ウ 大山崎消防署 20 名 (警防 2 号態勢 17 名＋救急隊 3 名)

⑤ 警防 4 号態勢

- ア 向日消防署 全員
- イ 長岡京消防署 全員
- ウ 大山崎消防署 全員

3 消防部隊の編成基準

警防態勢	本部	向日消防署	長岡京消防署	東分署	大山崎消防署
警防 1 号態勢	警防規程第 8 条第 2 項（別表第 3）に規定する消防隊等の数				
警防 2 号態勢	指揮 2	消防 3・救急 1	消防 1・救助 1・梯子 1・救急 1	消防 1・救急 1	消防 2・救急 1
警防 3 号態勢	指揮 2	消防 3・救急 2	消防 2・救助 1・梯子 1・救急 1	消防 1・救急 1	消防 2・救急 1
警防 4 号態勢	指揮 3	消防 3・救急 2	消防 3・救助 2・梯子 1・救急 1	消防 1・救急 1	消防 2・救急 1

（注）本部指揮隊は、警防 2 号態勢で 2 隊、警防 4 号態勢で 3 隊編成するものとする。

4 動員計画及び消防部隊の編成基準に基づく報告

各消防署、本部課長は動員計画に基づく動員状況及び消防部隊の編成基準に基づく部隊の編成状況について通信指令室に速報するものとする。

第 4 警防態勢の発令と解除

- 1 警防態勢の発令及び解除は、その都度一斉指令（無線連動）、Eメール送出により伝達するものとする。
- 2 災害及び活動の状況により、警防態勢による対処が必要でないと判断したときは、解除するものとする。

第 5 時間外における動員方法

- 1 警防課指令係員は、警防警戒態勢「発令の基準」の項目に該当した場合、第 3 の 2 の「動員計画」に基づき、警防課長等に対し、警防警戒体制が発令された旨を連絡するものとする。
- 2 職員は、警防警戒態勢「発令の基準」の項目に該当した場合又は地震等の災害が発生し、テレビ・ラジオ等のメディアで第 3 の 1 「警備体制の基準」に該当すると認めたときは、警防態勢の発令の有無に係わらず自主的に参集するものとする。
- 3 職員は、警防警戒態勢が発令された場合は、特別の事情がある場合を除き自宅待機（動員された職員を除く。）とする。

第 6 動員された職員の任務

- 1 警防警戒態勢により動員された警防課員は、構成市町の情報収集（各署経由）にあたり、第 3 の動員計画に基づき適切な措置を行うものとする。
- 2 本部職員の任務は、別添の「任務分担基準表」に基づき、消防長（警防本部長）が編成するものとし、警防 2 号態勢の発令に基づき、必要により「警防作戦室」を設置運用するものとする。
- 3 各消防署における消防部隊等は、第 3 の 3 の「部隊編成基準」及び別添の「任務分担基準表」により、署長が編成するものとし、警防 3 号態勢及び警防 4 号態勢で消防車両による編成ができない場合は、その他の車両による隊の編成又は要員の編成を行うものとする。
- 4 警防 3 号態勢以上の動員が発令され、現に災害が発生している場合は、消防署に本部員を派遣し、情報収集並びに連絡調整等の支援活動にあたるものとする。

第 7 その他

- 1 この計画に定めるもののほか、必要な事項は別に定める。

別 添 任務分担基準表

1 警防本部長等

職 名	任 務
警防本部長	消防長
警防副本部長	次 長
班 長	課 長
	非常災害時の消防事務を統括する。
	本部長を補佐し、本部長に事故あるときは、その任務を代理する。
	主管事務を処理し、所属職員を指揮監督する。

2 警防本部各班の任務

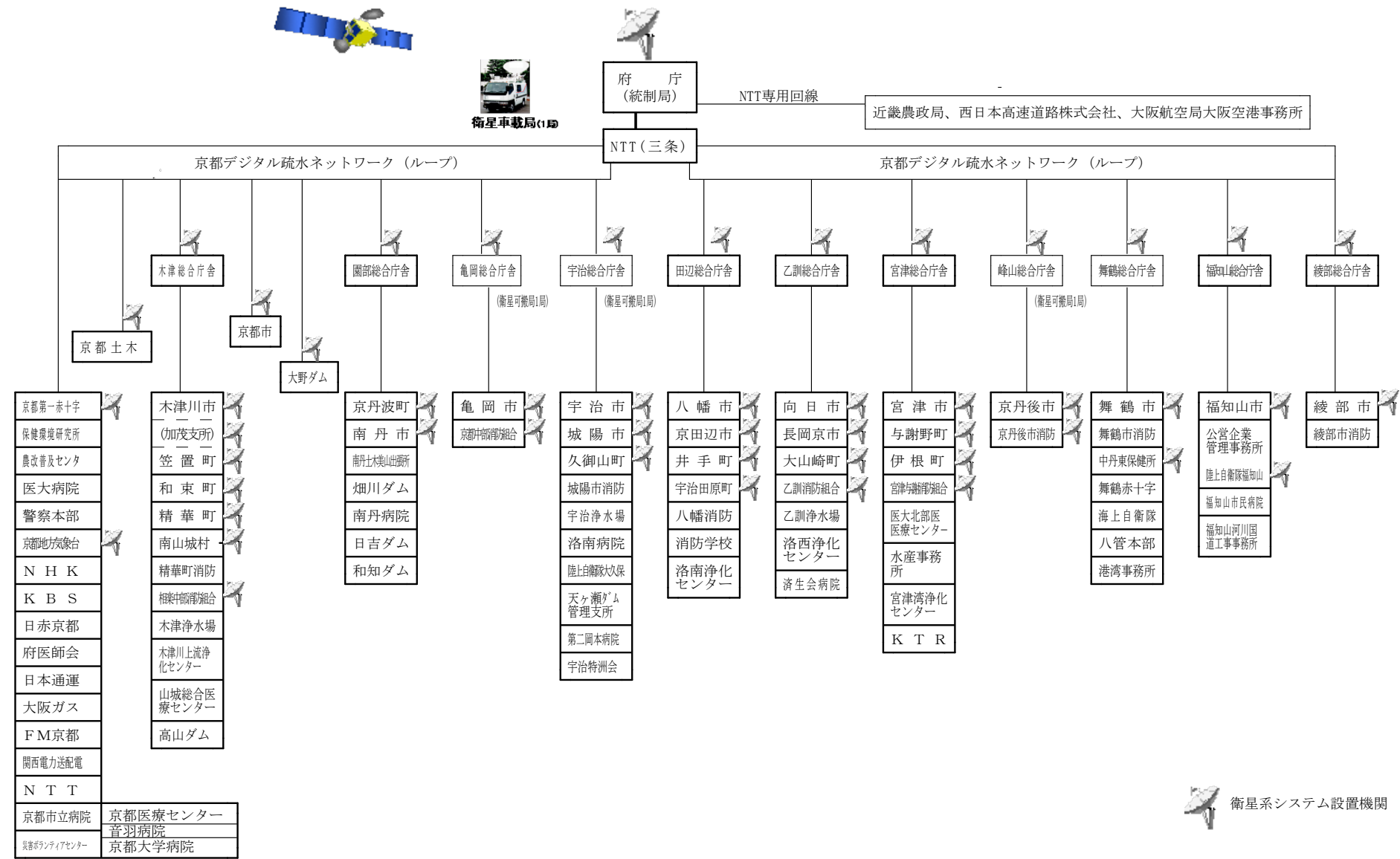
班 名	任 務
総務班	1 関係機関との連絡、調整に関する事 2 安全、衛生及び労務管理に関する事 3 他の班に属さない事
予防班	1 被害状況の調査及び集計に関する事 2 広報及び記録写真に関する事 3 防火対象物及び危険物施設等の指導に関する事
警防班	1 災害防御対策に関する事 2 部隊の統括運用に関する事 3 資器材の調達に関する事 4 災害情報の受理及び出場指令に関する事 5 気象注意報、警報等の伝達に関する事 6 被害情報の収集、伝達、報告に関する事 7 非常招集の伝達に関する事 8 災害現場での指揮活動に関する事
救急班	1 応急救護所の開設に関する事 2 医療機関等の調査に関する事 3 必要な調査及び情報収集に関する事

3 消防署の組織編成及び任務

署統括者	班	責任者	任 務
署 長 (副署長)	庶 務 情報班	庶務予防課長	1 構成市町との連絡、調整に関する事 2 現場活動の指揮に関する事 3 応招職員の応急編成に関する事 4 災害情報の収集、記録、報告に関する事 5 消防団の活動に関する事
	警備班	当務警備課長	1 災害防ぎょ及び救急活動に関する事 2 人命救助及び避難誘導に関する事 3 人員及び資器材の搬送に関する事 4 管内の被害状況調査に関する事

資料 2-10 京都府衛星通信系防災情報システム構成図

平成 16 年 5 月現在



防災系非常通信経路

総合信頼度	非常通信経路
A	向日市役所 ————— 京都府(災害対策課)
A	向日市役所 $\cdots\cdots\cdots$ 向日町警察署 ——— 警察本部 $\sim\sim\sim$ 京都府(災害対策課)
B	向日市役所 $\cdots\cdots\cdots$ J R向日町駅 $\sim\sim\sim$ J R二条駅 $\cdots\cdots\cdots$ 京都府(災害対策課)
A	向日市役所 $\cdots\cdots\cdots$ 乙訓消防組合向日消防署 — 乙訓消防組合 — 京都府(災害対策課)

凡例 $\cdots\cdots\cdots$ 使送区間 ——— 無線区間 $\sim\sim\sim$ 有線区間

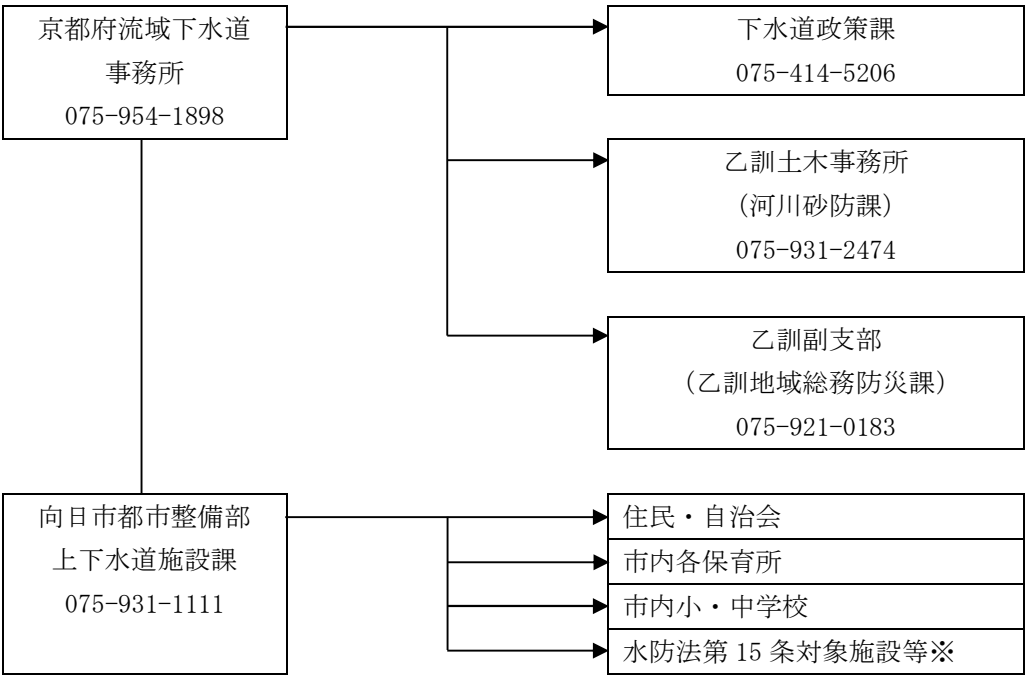
総合信頼度については、近畿地方非常通信協議会の定めるところによる。

参考ー通信経路の総合信頼度（経路の格別基準）

全中継回数	A級（高度信頼度）	B級
新規連絡設定	3以下	4以上
停電時の運用	無	有
通信担当者の配置	可 能	不可能
有線区間	常時配置（又は非常の際30分以内に配置）	左記以外

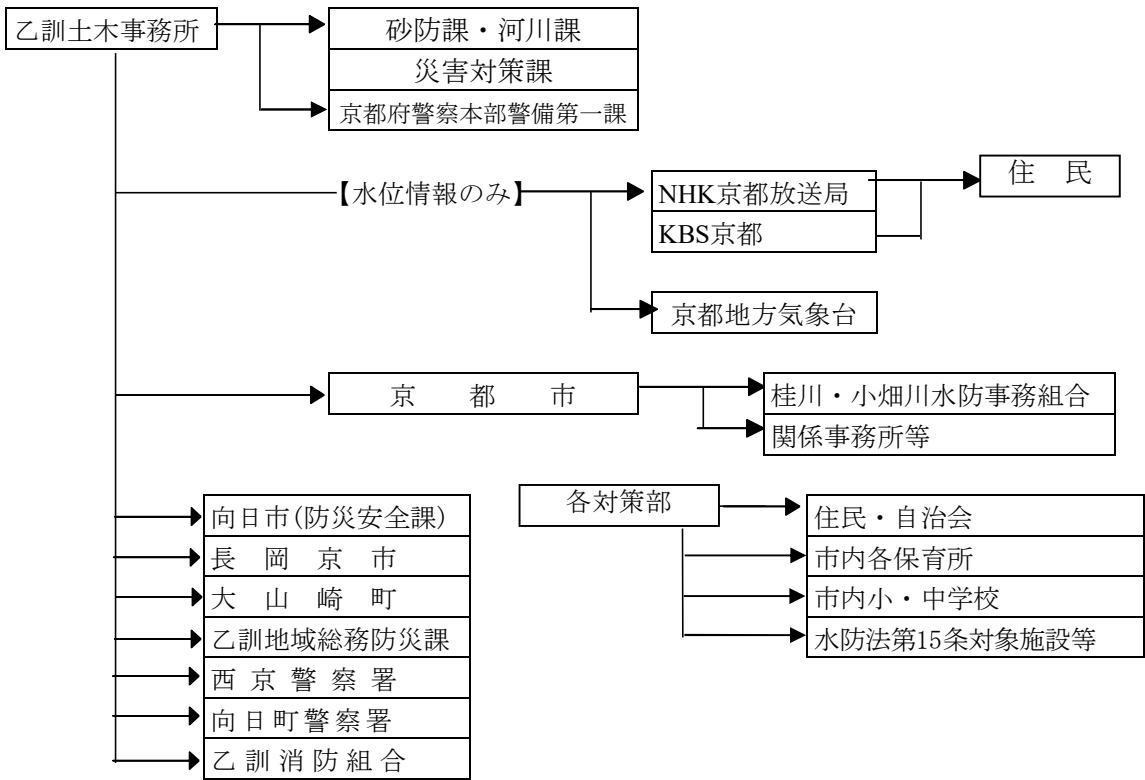
資料 2-12

「いろは呑龍トンネル」貯留管情報連絡系統図



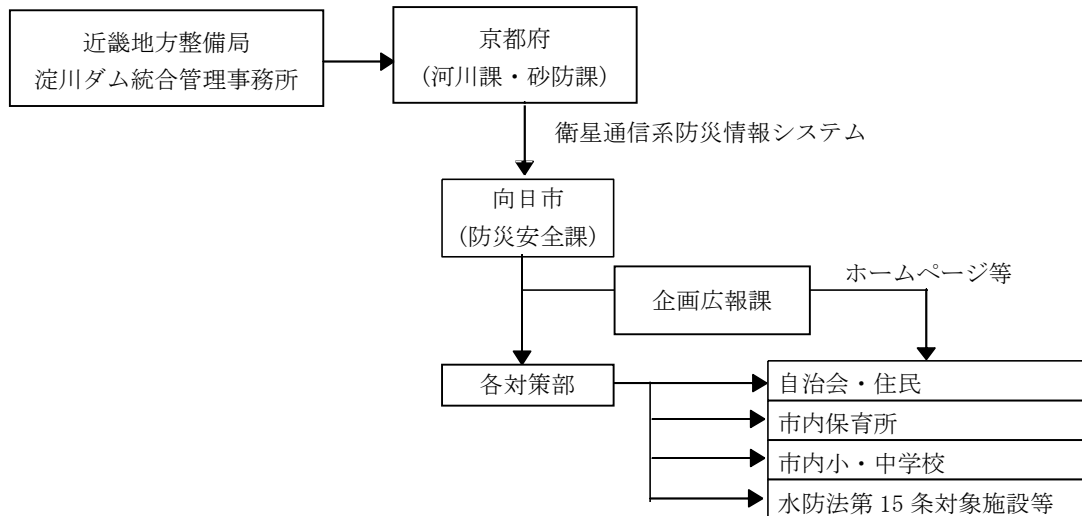
資料 2-13

小畑川水防警報・水位情報の連絡系統図

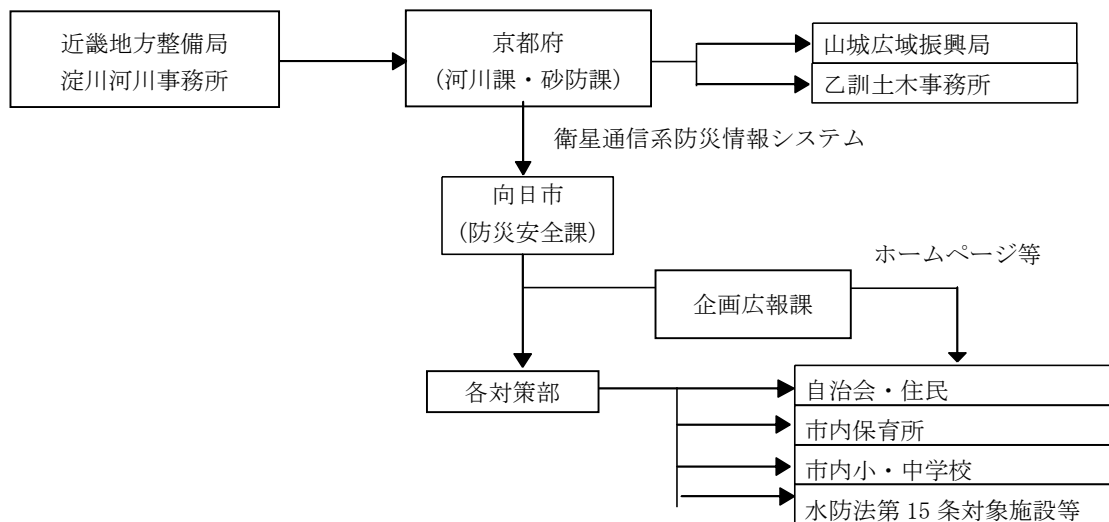


桂川下流洪水予報・桂川水防警報・日吉ダム放流情報の連絡系統図

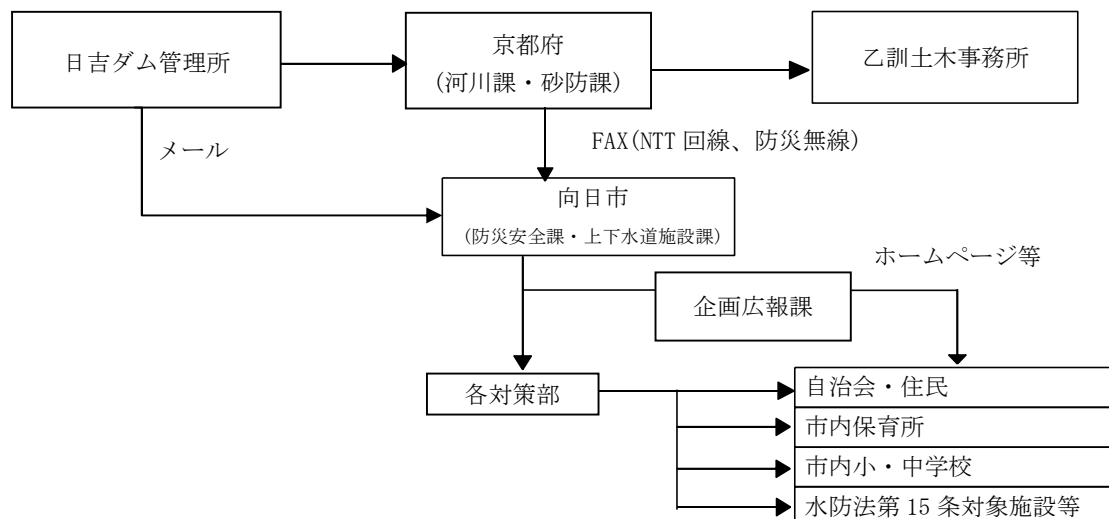
○桂川下流洪水予報の連絡系統図



○桂川水防警報の連絡系統図



○日吉ダム放流情報の連絡系統図



資料 2-15

主な災害用備蓄物資

令和 7 年 2 月 1 日 現在

食料品	アルファ化米	9,740 食	生活用品	炊事器具セット	10 セット
	その他食料（ゼリー・ジュース等）	440 食		卓上コンロ	21 台
	ビスケット・クラッカー	3,028 食		カセットボンベ	903 本
	保存パン	3,190 食		ほ乳瓶	591 個
	ミルク	462 食		仮設トイレ（ドントコイ）	43 台
資機材	発電機	36 台		マンホールトイレ用便座	14 台
	投光機	66 台		オストメイト用トイレ	6 台
	防災行政無線	23 台		トイレットペーパー	196 ロール
	救助工具セット	26 セット		トイレ用プライバシーハウス	109 張
	脚立	35 台		紙おむつ（子供用）	6,999 枚
	トランジスタメガホン	40 台		紙おむつ（大人用）	954 枚
	折畳式リヤカー	33 台		衛生用品	8,105 個
	コードリール	59 台		毛布	3,842 枚
	簡易担架	21 台		ワンタッチパーテーション	474 張
				懐中電灯	60 個
				簡易ベッド	25 台
				簡易テント	3 帳
				ラジオ	6 台
				赤外線ヒーター	26 台
				扇風機	23 台
				スポットクーラー	47 台

資料 2-16 向日市指定上下水道協同組合加盟業者

※令和 7 年 1 0 月 1 日 現在

業 者 名	住 所	電 話
(有)向日水道	向日市寺戸町小佃10-9	934-2035
(有)富安水工店	向日市森本町下森本15-20	921-4820
向日太成工業(株)	向日市寺戸町二ノ坪8-115	933-2392
(株)小原工業所	向日市鶏冠井町北井戸39	933-7201
(株)水道センター	向日市寺戸町南垣内24-1	932-2681

資料 2-17 向日市財政援助団体

※令和 7 年 1 0 月 1 日 現在

業 者 名	住 所	電 話
向日市水道メンテナンス(株)	向日市上植野町久我田17-1	921-3030

資料 2-18 応急復旧工事用備蓄資材

※令和 7 年 1 0 月 1 日 現在

品 名	寸法・口径		数 量
継手用漏水金具	40他	フクロジョイント	47個
铸铁管補修金具	75他	ヤノジョイント	18個
付属品（押輪他）	75他	押輪 継輪	69個

資料 2-19 じん芥収集車台数

※令和 7 年 4 月 1 日 現在

車 種 名	t	台 数	管 理 者
機 械 車	2	5	向 日 市
ダ ンプ	2	2	〃
〃	2	4	(株)京都衛生開発公社
機 械 車	2	6	〃
〃	3	3	〃
〃	2	2	(有) GREEN WORKS
〃	2	1	(株) タカノ

資料 2-20 し尿収集車業者保有台数

※令和 7 年 4 月 1 日 現在

業 者 名	所 在 地	電 話	車 種 t	保有台数
(株)京都衛生開発公社	向日市森本町高田 3 1	922-1340	2 t バキューム	2
〃	〃	〃	4 t バキューム	1

資料 2-21 乙訓環境衛生組合処理施設の現況

※令和 7 年 4 月 1 日 現在

区分	名 称	所 在 地	処理対象	処理方法	処理能力
し尿	乙訓環境衛生組合	大山崎町字下植野小字南牧方32	し尿 及び 浄化槽汚泥	希釈投入方式	20 kℓ／日
ごみ	乙訓環境衛生組合	大山崎町字下植野小字南牧方32	可燃ごみ	連続燃焼式	75t/日×3基
			粗大ごみ	破砕・選別	32 t／5h
			資源ごみ(カン)	選別・圧縮	14 t／5h
			資源ごみ(ビン)	選別	
	勝竜寺埋立地	長岡京市勝竜寺下長黒1-1	プラスチック製 容器包装廃棄物	選別・圧縮・梱包	9.3／5 h
			ペットボトル	選別・圧縮・梱包	1.81 t／5 h
			側溝清掃汚泥等	最終処分	—

資料 2-22 消防職員

※令和 7 年 4 月 1 日 現在

	消防監	消 防 司令長	消 防 司 令	消 防 司令補	消 防 士 長	消 防 副士長	消防士	合計
消 防 本 部	1	5	18	20	6	4	5	59
向 日 消 防 署		1	8	14	4	10	5	42
長岡京消防署		2	7	13	8	9	4	43
東 分 署			3	5	2	2	1	13
大山崎消防署		2	7	7	6	4	2	28
合 計	1	10	43	59	26	29	17	185

資料 2-23 向日市消防団

※令和 7 年 4 月 1 日 現在

	団 長	副団長	分団長	副分団長	班 長	団 員	合 計
団 本 部	1	2					3
第 1 分 団			1	1	3	19	24
第 2 分 団			1	1	3	20	25
第 3 分 団			1	1	3	19	24
第 4 分 団			1	1	3	14	19
第 5 分 団			1	1	3	17	22
第 6 分 団			1	1	3	17	22
合 計	1	2	6	6	18	106	139

資料 2-24 消防車両

※令和 7 年 4 月 1 日 現在

車両 配置 場所	普通 消防 ポン プ自 動車	水槽 付消 防ポン プ自 動車	化学 消防車	救助 工作車	はし こ自動車	救急 自動車	非常 用消 防ポン プ自 動車	非常 用救 助工作 車	非常 用救 急自 動車	指揮 車	司令 車	救急 指導車	防災 指導車	資材 搬送車	査察 車広 報車	支援 車連 絡車	人員 輸送車	作業 車	査察 用バイク	合 計
消防本部										1			1		2	4	1		1	10
向日消防署	2					1	1		1		1	1		1	1				1	10
長岡京消防署	1	1		1	1	1	1		1		1			1	1				1	11
東分署	1					1										1				3
大山崎消防署	1		1			1					1			1	1				1	7
合 計	5	1	1	1	1	4	2		2	1	3	1	1	3	5	5	1		4	41

資料 2-25 公用車保有状況

※令和 7 年 4 月 1 日 現在

部・課名	乗用車				貨物車						特殊車			計	自動二輪	原付	計
	バス		乗用車	軽乗用	ダンプ・トラック				バン		大型	普通	小型				
	大型	マイクロ			大型	普通	小型	軽	小型	軽							
ふるさと創造推進部			2											2			
総務部		1	1	15			1	2	2	9				31		2	2
環境産業部				1			3					4		8			
市民サービス部		1												1		12	12
都市整備部				3			2	4		2		1		12			
教育委員会			1	1										2		11	11
議会事務局			1											1			
消防団												6		6			
計		2	5	20			6	6	2	11		11		63		25	25

備考 1 EV車：23 台、ガソリン車：40 台

2 代替可能な電動車が無いダンプ・トラック等については、ガソリン車を継続して使用する。

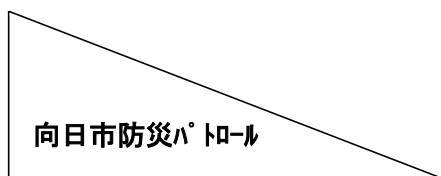
災害応急対策関係の標識等

災害対策本部が設置されたとき、又は、警戒体制等の業務に従事するときは、おおむね次のような腕章及び標識を着用又は掲げるものとする。

1 警戒等に従事するものが着用する腕章

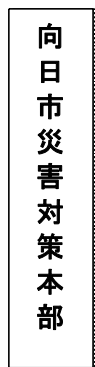


2 車両又は機械等の標識

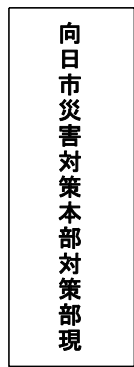


3 災害対策本部

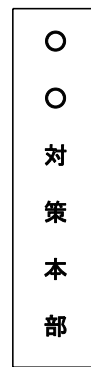
(1) 本部看板



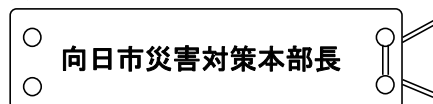
(2) 対策部看板



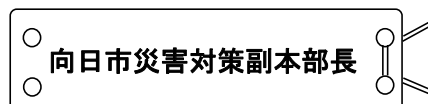
(3) その他



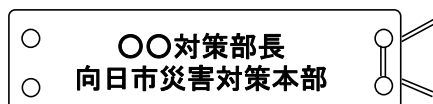
(4) 本部長が着用する腕章



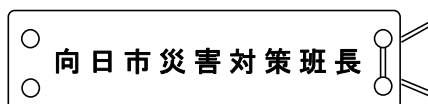
(5) 副本部長が着用する腕章



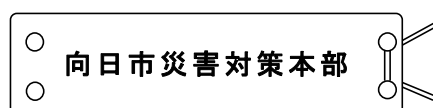
(6) 対策部長が着用する腕章



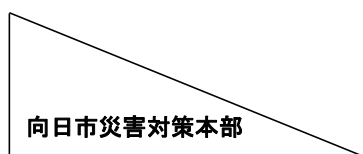
(7) 班長が着用する腕章



(8) その他のものが着用する腕章



(9) 車両又は応急機械標識





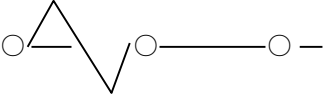
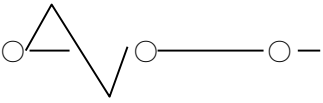
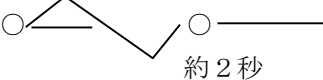
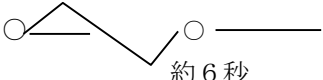
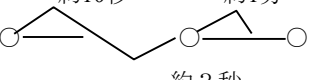
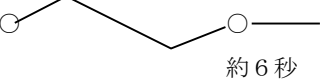
道路標識に次の事項を明示する。

- (1) 禁止制限の対象
- (2) 規制する区間
- (3) 規制する期間
- (4) 規制する理由

4 道路の形状又は交通の状況により特別の必要がある場合にあっては、図示の寸法の2倍まで拡大し、又は図示の寸法の2分の1まで縮小することができる。

消防警鐘信号

災害における信号区分は、次のとおりである。

	種 別	打 鐘 信 号	余いん防止 サイレン信号	その他の信号
火 災 信 号	近火信号 800m以内の とき	○—○—○—○—○ (連 点)	約 3 秒  約 2 秒(短声連点)	
	出場信号	○—○—○ ○—○—○ (三 点)	約 5 秒 	
	応援信号	○—○ ○—○ ○—○ (二 点)	約 6 秒(短声連点)	
	報知信号	○ ○ ○ ○ ○ (一 点)		
	鎮火信号	○ ○—○ ○ ○—○ (一点と二点の斑打)		
山 林 火 災 信 号	出場信号	○—○—○ ○—○ (三点と二点の斑打)	約10秒  約 2 秒	
	応援信号	同 上	同 上	
火 災 警 報 信 号	火災警報 発令信号	○ ○—○—○—○ ○ ○—○—○—○ (一点と四点の斑打)	約30秒  約 6 秒	(図アリ)
	火災警報 解除信号	○ ○ ○—○ ○ ○ ○—○ (一点二個と二点との斑打)	約10秒  約 3 秒	口頭伝達、掲示板の撤 去吹流し及び旗の降下
演 習 召 集 信 号	演習召集信号	○ ○—○—○ ○ ○—○—○ (一点と三点の斑打)	約15秒  約 6 秒	

資料 2-29

水防信号

水防法第 20 条の規定による水防信号は、次のとおりとする。

区分・方法	目 的	警 鐘 信 号	サイレン信号
第 1 信号	警戒水位に達したことを知らせるもの。	○休止 ○休止 ○休止	○ー休止 ○ー休止 ○ー休止 約5秒 約15秒 約5秒 約15秒 約5秒
第 2 信号	水防団員及び消防機関に属する者の全員が出動すべきことを知らせるもの。	○-○-○ ○-○-○ ○-○-○	○ー休止○ー休止○ー休止ー○休止 約5秒 約6秒 約5秒 約6秒 約5秒
第 3 信号	当該水防管理団体の区域内に居住する者が出動すべきことを知らせるもの。	○-○-○-○ ○-○-○-○ ○-○-○-○	○ー休止○ー休止○ー休止ー○休止 約10秒 約5秒 約10秒 約5秒 約10秒
第 4 信号	必要と認められる区域内の居住者に避難のため立ち退くべきことを知らせるもの。	乱 打	○ー休止 ○ー休止 約 1 分 約 5 秒 約 1 分

- 備 考
- 1 信号は適宜の時間継続すること。
 - 2 必要があれば警鐘信号及びサイレン信号を併用することを妨げないこと。
 - 3 危険が去った時は口頭伝達により周知させるものとする。

3 様 式

資料 3-1 概略情報報告書

様式 1 (参集時情報)

概 略 情 報 報 告 書									
本部受付		号		受付時間		月 日 () 時 分		受付者	
報 告 者	課 名				発(受)信時刻		月 日 () 時 分		
	氏 名								
通 報 者	氏 名					年 齡		(推・実)	
	住 所					連 絡 先		— —	
被害発生時刻			年 月 日 () 時 分						
人 的 被 害	死 者		①		人		(人的建物被害の参考情報)		
	行方不明者		②		〃				
	負 傷	重 傷	③		〃				
		軽 傷	④		〃				
建 物 被 害	全 壊 (焼)		⑤		件				
	流 出		⑥		〃				
	半 壊 (焼)		⑦		〃				
	浸 水	床 上	⑧		〃				
		床 下	⑨		〃				
	一 部 損 壊		⑩		〃				
非 住 家		⑪		〃					
要 望 等									
対 応									
指 示 内 容									

資料 3-2 災害報告及び対策処理票

様式 2

災害報告及び対策処理票

向日市災害対策本部

災害名				処理票番号	(職員番号)	(枝番号)	
				—			
受 付 者 記 入	受付年月日	年 月 日 午前・午後 時 分					
	受付手段	電話 ・ 無線 ・ 口頭 ・ 伝言 ・ 目視 ・ その他 ()					
	受付担当者	氏名					
	通 報 者	氏名					
		住所 向日市 電話 () —					
	被 災 者 又は 災害発生場所	氏名				位 置 図	有 ・ 無
		住所 (被災箇所) 向日市 電話 () —					
	情 報 種 別	①被害発生 ②被害切迫 (拡大可能性大) ③恐れ (拡大可能性小) ④要望 ⑤相談 ※いずれかに○					
状況・程度							
処理経過報告	否・要 (連絡先)	処理依頼	課	へ依頼済			
※ 応急対策 (応急措置) が完了した場合、対策部は担当課記入欄に記入し、写しを本部に送付する。							
担 当 対 策 部 記 入 欄	現場確認者	所属 氏名 ほか 名					
	確認した現場 の状況						
	応急対策 (応急措置) の内容						
本 部 使用欄	整理番号			入力担当者	(1 報)		
	報告種別	重要 京都府への報告 (要 ・ 否)			(続報)		

※ 被害 1 件につき 1 枚作成し、直ちに担当課に送付するとともに、写しを本部に送付する。

※ 整理番号には、職員番号と枝番号 (任意) を記載する。

資料 3-3 災害概況即報書（災害対策本部用）

様式 3

災害概況即報書							
向日市災害対策本部長 様							年 月 日
所 属							
職氏名							
即 報 要 旨							
即 報 内 容							
応 急 措 置							
本部長の意見							
本部長 (市 長)	副本部長 (副市長)	副本部長 (教育長)					所属課長

資料 3-4 災害概況即報書（京都府提出用）

第 4 号様式（その 1）

(災害概況即報)	報告日時	年 月 日 時 分
消防庁受信者氏名	都道府県	京 都 府
	市 町 村	向 日 市
	(消防本部名)	(乙訓消防組合消防本部)
災害名 (第 報)	報告者名	

災 害 の 概 況	発生場所				発生日時	年 月 日 時 分				
被 害 の 状 況	死者数	死 者	人	不明	人	住 家	全壊	棟	一部破損	棟
		負傷者	人	計	人		半壊	棟	床上浸水	棟
応 急 対 策 の 状 況	災害対策本部等の設置状況	(都道府県)				(市町村)				

(注) 第一報については、原則として、覚知後 3 0 分以内で可能な限り早く、分かる範囲で記載して報告すること。（確認がとれていない事項については、確認がとれていない旨（「未確認」等）を記入して報告すれば足りること。

第4号様式（その2）

（被害状況即報）

都道府県		京 都 府		区 分			被 害		
被 害 名 ・ 報告番号	災害名 第 報 (月 日 時現在)			田 畑 そ の 他	流 失 ・ 埋 没	ha			
					冠	水		ha	
					流 失 ・ 埋 没	ha			
					冠	水		ha	
報告者名					文 教 施 設	箇所			
					病 院	箇所			
区 分		被 害			道 路	箇所			
人 的 被 害	死 者		人		橋 り よ う	箇所			
	行 方 不 明 者		人		河 川	箇所			
		重 傷		人		港 湾	箇所		
		軽 傷		人		砂 防	箇所		
住 家 被 害	全 壊		棟		の 他	清 掃 施 設	箇所		
			世帯			崖 く ず れ	箇所		
			人			鉄 道 不 通	箇所		
	半 壊		棟			被 害 船 舶	隻		
			世帯			水 道	戸		
			人			電 話	回線		
	一 部 破 損		棟			電 気	戸		
			世帯			ガ ス	戸		
			人			ブ ロ ッ ク 塀 等	箇所		
	床 上 浸 水		棟						
			世帯						
			人						
	床 下 浸 水		棟			り 災 世 帯 数		世帯	
			世帯					人	
			人						
		公 共 建 物		棟			建 物	件	
そ の 他		棟		危 険 物	件				
				そ の 他	件				

区 分		被 害		災 害 等 の 対 策 置 本 状 部 況	都 道 府 県 市 町 村			
公 立 文 教 施 設		千円						
農 林 水 産 業 施 設		千円						
公 共 土 木 施 設		千円						
そ の 他 の 公 共 施 設		千円						
小 計		千円						
公共施設被害市町村数		団体						
そ の 他	農 業 被 害	千円		災 害 適 用 救 市 助 法 村 名				
	林 業 被 害	千円						
	畜 産 被 害	千円						
	水 産 被 害	千円						
	商 工 被 害	千円						
	そ の 他	千円		消 防 職 員 出 動 延 人 数		人		
被 害 総 額		千円		消 防 団 員 出 動 延 人 数		人		
備 考	災害発生場所							
	災害発生日月日							
	災害の種類状況							
	応急対策の状況							
	119番通報件数							
	・ 消防、水防、救急・球状等消防機関の活動状況							
	・ 避難の勧告・指示の状況							
	・ 避難所の設置状況							
	・ 他の地方公共団体への応援要請、応援活動の状況							
	・ 自衛隊の派遣要請、出動状況							
・ 災害ボランティアの活動状況								

※1 被害額は省略できるものとする。

※2 119番通報の件数は、10件単位で、例えば約10件、30件、50件（50件を超える場合は多数）と記入すること。

資料 3-5 被害状況報告(1)

被害状況報告(1)

災害名：向 日 市

第 報		対策本部 支部		月 日 時現在		受信時刻		月 日 時現在		発信者 受信者		
市町村名				向日市								
発生年月日				単位	符号	・ ・	・ ・	・ ・	・ ・	・ ・	・ ・	
項 目						・ ・	・ ・	・ ・	・ ・	・ ・	・ ・	
人的 被害	死 者		人	(1)								
	行方不明者		人	(2)								
	負傷者	重傷	人	(3)								
		軽傷	人	(4)								
住 家 被 害	全 壊 (焼)		棟	(5)								
			世帯	(6)								
			人	(7)								
	半 壊 (焼)		棟	(8)								
			世帯	(9)								
			人	(10)								
	一 部 破 損		棟	(11)								
			世帯	(12)								
			人	(13)								
	浸 水	床 上	棟	(14)								
			世帯	(15)								
			人	(16)								
		床 下	棟	(17)								
			世帯	(18)								
人			(19)									
非住宅 被害	公共建物		棟	(20)								
	その他		棟	(21)								
そ の 他 の 被 害	田	流出埋没冠水	ha	(22)								
		冠 水	ha	(23)								
	畑	流出埋没冠水	ha	(24)								
		冠 水	ha	(25)								
	文教施設		箇所	(26)								
	病院		箇所	(27)								
	道 路	冠 水	箇所	(28)								
		崩 壊	箇所	(29)								
		その他	箇所	(30)								
	橋りょう		箇所	(31)								
	河 川		箇所	(32)								
	港湾		箇所	(33)								
	砂防		箇所	(34)								
	崖くずれ		箇所	(35)								
	地すべり		箇所	(36)								
	土石流		箇所	(37)								
	林地崩壊		箇所	(38)								
	清掃施設		箇所	(39)								
	鉄道不通		箇所	(40)								
	被害船舶		隻	(41)								
	水道		戸	(42)								
	電話		回線	(43)								
	電気		戸	(44)								
	ガス		戸	(45)								
	ブロック塀等		箇所	(46)								
	ビニールハウス等		棟	(47)								
	農道		箇所	(48)								
	農林水産業施設		箇所	(49)								
	畦畔崩壊		箇所	(50)								
	農作物 ()		ha	(51)								
	地下道冠水		箇所									
火災発生		建 物	件	(52)								
		危 険 物	件	(53)								
		そ の 他	件	(54)								
り災世帯数 (全・半壊・床上浸水)		世帯	(55)									
り 災 者 数 (全・半壊・床上浸水)		人	(56)									

資料 3-6 被害状況報告(2)

被害状況報告(2)

災害名：向 日 市

市町村名 発生年月日									
項 目		単位	符号				..	..	..
公 共 文 教 施 設		千円	a						
農 林 水 産 業 施 設		千円	b						
公 共 土 木 施 設		千円	c						
その他の公共施設		千円	d						
小 計		千円	e						
公共施設被害市町村		千円	f						
そ の 他	農 産 被 害	千円	g						
	林 産 被 害	千円	h						
	畜 産 被 害	千円	i						
	水 産 被 害	千円	j						
	商 工 被 害	千円	k						
	林 地 被 害	千円	l						
	そ の 他	千円	m						
	小 計	千円	n						
被 害 総 額		千円	o						
災害対策本部	設置	年月日	p						
	解散	年月日	q						
災害警戒本部	設置	年月日	r						
	解散	年月日	s						
消防職員出動延人数		人	t						
消防団員出動延人数		人	u						
市町村職員出勤人数		人	v						
その他出勤延人数		人	w						
出勤人数合計		人	x						

資料 3-7

災害危険箇所調査票

番号	危険度	災害種別	所在地	被災予想		過去の被災	避難所等	現状及び対策等
				世帯	人口			

1 調査票の記入要領

(1) 番号

通し番号を記入し、危険箇所地図に表示する番号と同一とする。

(2) 危険度

危険度は、次により区分する。

A ランク……人命、住家等に多大なる被害を与えることが予想される著しく危険な箇所

B ランク……人命、住家又は公共施設等に被害を与えることが予想される危険な箇所

C ランク……急迫の被害は予想されないが、現状のままに放置しておけば、人命、住家又は公共施設等に被害を与えることが予想される危険な箇所

D ランク……急迫の被害は予想されないが、現状のままに放置しておけば、人命、住家に影響がなくとも、公共施設又は田畑、山林等に被害を与えることが予想される危険な箇所

(3) 災害の種別

① 河 川（記入例－〇〇川溢水による床上床下浸水、〇〇川堤防決壊による…等）

② ため池（記入例－〇〇池決壊による、〇〇池漏水による…等）

③ 道 路（記入例－〇〇山崩土、落石による〇〇道不通、〇〇道路冠水による不通…等）

④ 危険宅地、造成地（記入例－擁壁亀裂、裏山崩壊…等）

⑤ 採石、山砂利採取場（記入例－山腹崩壊、土砂流出、道路河川への影響…等）

⑥ 地すべり（記入例－隆起、滑動…等）

⑦ 急傾斜地（記入例－亀裂、崖面崩壊…等）

⑧ 低地浸水（記入例－床上床下浸水…等）

⑨ その他

(4) 過去の被災

過去の主要災害を記入する。

(5) 現況及び対策その他

現況及び対策その他は、おおむね次のとおり区分される。

① 応急措置…災害期を前に実施する応急措置を記入

② 当面の措置…応急措置とともに住民の生命と財産を守るため、事前に連絡体制、避難計画、活動体制等の計画を記入

③ 恒久対策…防災工事、河川改修事業等長期対策を記入

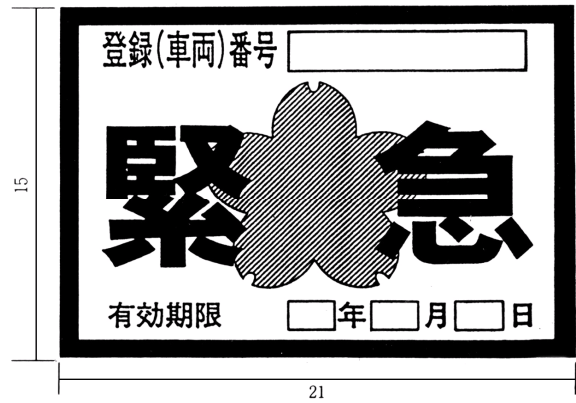
④ 問 題 点…措置不能等の理由を記入

⑤ そ の 他…業者に対する指示、指導の方法、内容等を記入

災 害 緊急事態応急対策用 地震防災 国民保護措置用			
緊急通行車両等確認申請書			
年 月 日			
京都府公安委員会 殿			
申請者 住 所 電 話 氏 名 印			
事前届出の有無	有 （届出済証番号 ） 無		
指定行政機関等	1 指定行政機関 2 指定地方行政機関 3 地方公共団体（執行機関を含む。） 4 指定公共機関 5 指定地方公共機関 6 関係機関・団体 7 その他		
番号標に表示されている番号			
災害・緊急事態・地震防災応急対策又は国民保護措置の内容	1 警報の発令等 2 消防、水防等応急措置 3 救難・救助・保護 4 児童・生徒の応急の教育 5 施設・設備の応急の復旧等 6 清掃、防疫等保健衛生 7 犯罪の予防、交通の規制等社会秩序の維持 8 緊急輸送の確保 9 災害の発生の防御、拡大の防止 10 食糧、医薬品その他の物資の確保 11 放射線量の測定、放射性物質による汚染 12 輸送及び通信の措置 13 国民生活安定の措置 14 被害の復旧		
車両の用途（緊急輸送を行う車両にあつては、輸送人員又は品名）			
使 用 者	住所		
	氏名	電話	
通行（輸送）日時			
通行（輸送）経路	出 発 地	目 的 地	
注 1 届出済証の交付を受けている車両については、この確認申請書を2通作成し、当該届出済証を添付の上、最寄の警察本部（交通規制課）、警察署、交通検問所等に提出してください。 2 届出済証の交付を受けていない車両については、この確認申請書を2通作成し、それぞれに、輸送協定書等の当該車両を使用して行なう業務の内容を疎明する書類（輸送協定書等がない場合にあっては、指定行政機関等の上申書等）の写しを添付の上、最寄の警察本部（交通規制課）、警察署、交通検問所等に提出してください。			

資料 3-9 標章及び緊急通行車両確認証明書

緊急通行車両を示す標章



- 備考 1 色彩は、記号を黄色、縁及び「緊急」の文字を赤色、「登録（車両）番号」、「有効期限」、「年」、「月」及び「日」の文字を黒色、登録（車両）番号並びに年、月及び日を表示する部分を白色、地を銀色とする。
- 2 記号の部分に、表面の画像が光の反射角度に応じて変化する措置を施すものとする。
- 3 図示の長さの単位は、センチメートルとする。

緊急通行車両確認証明証

第 号		年 月 日
緊急通行車両確認証明書		
公安委員会印		
番号表に標示されている番号		
車両の用途（緊急輸送を行う車両にあっては、輸送人員又は品名）		
使用者	住 所	() 局 番
	氏 名	
通行日時		
通行経路	出 発 地	目 的 地
備 考		

備考 用紙は、日本工業規格 A 5 とする。

資料 3-10 緊急通行車両等事前届出書

記号及び受理番号	京 事前第 号	受理年月日	年 月 日	京 事前第 号
災 害 緊急事態応急対策用 地震防災 国民保護措置用 緊急通行車両等事前届け出書 年 月 日 京都府公安委員会 殿 申請者 住所 電話 氏名 印				災 害 緊急事態応急対策用 地震防災 国民保護措置用 緊急通行車両等事前届出済書 左記のとおり事前届出を受理したことを証明する。 年 月 日 京都府公安委員会 印
指定行政機関	1 指定行政機関 2 指定地方行政機関 3 地方公共団体（執行機関を含む。） 4 指定公共期間 5 指定地方公共機関 6 関係機関・団体 7 その他 名称			注 1 警戒宣言発令時又は災害発生時には、この届出済所を最寄りの警察本部（交通規制課）、警察署、交通検問所等に提出し、所要の手続きを受けてください。 2 この届出済証を亡失し、滅失し、汚損し、若しくは破損したとき又は記載事項に変更が生じたときは、事前届出を行った警察署に申し出て再交付又は記載事項の変更を受けてください。 3 届出済証に係る車両が次のいずれかに該当するときは、速やかに事前届出を行った警察署にこの届出済証を返納してください。 (1) 緊急通行車両等該当しなくなったとき。 (2) 廃車となったとき。 (3) 緊急通行車両等として必要なくなったとき。
番号票に表示されている番号				
災害・緊急事態・地震防災応急対策又は国民保護措置の内容				
車両の用途（緊急通行車両にあつては、輸送人員又は品名）	1 警報の発令 2 消防、水防等応急措置 3 救難・救助・保護 4 児童・生徒の応急の教育 5 施設・設備の応急の復旧等 6 清掃、防疫等保健衛生 7 犯罪の予防 8 緊急輸送の確保 9 災害の発生の防御、拡大の防止 10 食糧、医薬品その他の物資の確保 11 放射線量の測定、放射性物質による汚染の除去 12 輸送及び通信の措置 13 国民生活安定の措置 14 被害の復旧			
車両の用途（緊急通行車両にあつては、輸送人員又は品名）				
使用者	住所	電話		
	氏名			
出発地				

資料 3-11 自衛隊災害派遣要請様式

		年	月	日
		(	時	分)
京都府知事 様				
向日市長				
災害派遣要請の要求について				
上記のことについて、下記のとおり、自衛隊法第 8 3 条の規定により自衛隊の派遣要請を要求します。				
記				
1 災害の状況及び派遣を要請する事由				
2 派遣を希望する期間				
年 月 日 (時 分) から派遣の必要がなくなる時期まで				
3 派遣を希望する区域及び活動内容				
4 その他参考になるべき事項				

※京都府防災情報システム（各種様式＞自衛隊要請＞派遣要請）

資料 3-12 自衛隊災害撤収要請様式

		年 月 日 (時 分)
京都府知事 様		
		向日市長
災害撤収要請の要求について		
上記のことについて、下記のとおり、自衛隊の撤収を要求します。		
記		
1	撤収要請する事由	
2	任務完了（予定）日時 年 月 日（ 時 分）	
3	撤収要請日時 年 月 日（ 時 分）	
4	その他参考になるべき事項	

※京都府防災情報システム（各種様式＞自衛隊要請＞撤収要請）

資料 3-13 土砂災害等の被害状況報告

災 害 名						
報 告 日 時	年 月 日 時 分					
報 告 機 関	向日市					
被 害 項 目	崖崩れ・地滑り・土石流					
土木事務所名						
発 生 災 害						
被災所在地						
被 災 日 時	年 月 日 時 分					
人 的 被 害	死者	人	行方不明	人	負傷者	人
家屋損壊数	全壊流出	棟	半壊	棟	一部損壊	棟
公共土木施設損壊	有 ・ 無					
被 害 状 況						
避 難 状 況						
今後の対応						
危険箇所リスト	ランク		箇所名			

資料 3-14 河川災害状況報告

災 害 名								
報 告 日 時	年 月 日 時 分							
報 告 機 関	向日市							
被 害 項 目	河川							
事 務 所 名								
水 系 名								
種 別	一 級 ・ 二 級							
河 川 名								
種 別	一 級 ・ 二 級							
被災箇所名								
被 災 日 時	年 月 日 時 分							
被 害 状 況								
浸水面積(㎡)	宅地その他	㎡	農地	㎡				
被害家屋(戸)	床下	戸	床上	戸	半壊	戸	全壊	戸
現 場 状 況								
今後の対応								

資料 3-15 通行規制報告

災 害 名						
報 告 日 時	年 月 日 時 分					
報 告 機 関	向日市					
被 害 項 目	道路、冠水・道路、崩壊・道路、その他					
事 務 所 名						
道 路 種 別	国 ・ 主 ・ 一					
路 線 番 号						
路 線 名						
箇 所 名						
規 制 区 間	内 ・ 外					
規 制 内 容						
規制開始日時	年 月 日 時 分					
規制終了日時	年 月 日 時 分					
被害状況等						
全面通行止め箇所のみ	12h交通量		迂 回 路		孤立集落	
備 考						

第 1 票

被災宅地危険度判定 支援要請書

年 月 日

京都府知事 様

被災市町村長

月 日の 地震 ・ 大雨（台風 号）により、下記のとおり被災宅地危険度判定を実施しますので、被災宅地危険度判定士の派遣を要請します。

記

<判定区域>

<実施期間>

月 日 ～ 月 日

<派遣要請判定士数> (第 次)

月	日	人
月	日	人
月	日	人
月	日	人
月	日	人
月	日	人
月	日	人
月	日	人

<担当> 担当部課名
担当者名
電話番号
FAX番号
メールアドレス

被災宅地危険度判定 出動準備依頼書

年 月 日

各市町村被災宅地危険度判定担当部（課）長 様

京都府建設交通部建築指導課長

月 日の 地震 ・ 大雨（台風 号）により、 地域
で甚大な被害が発生しました。

現在、被災 市町村長 ・ 都道府県知事から被災宅地危険度判定士の派遣要請はありませんが、派遣要請があった場合に備え、 月 日から 月 日までの間に出動できる判定士数の把握を行いたいので、出動可能な貴市町村所属の公務員判定士を別添「第2の2票」によりFAX及びメールにて 月 日 時 分までに報告願います。

<担当> 京都府建設交通部建築指導課開発指導係

電話 075-414-5311 又は 5347

FAX 075-451-1991

E-MAIL kenchiku@pref.kyoto.lg.jp

京都府建設交通部建築指導課長 宛

(FAX : 075-451-1991、E-MAIL : kenchiku@pref.kyoto.lg.jp)

被災宅地危険度判定 出動可能人数報告書

市町村名

地域で実施が検討されている被災宅地危険度判定に出動可能な本市・町・村 所属
公務員判定士の人数は、下記のとおりです。

記

判定実施予定日	出動可能人数	うち宿泊可能人数	特 記 事 項
月 日	人	人	
月 日	人	人	
月 日	人	人	
月 日	人	人	
月 日	人	人	
月 日	人	人	
月 日	人	人	
月 日	人	人	
月 日	人	人	
月 日	人	人	

※「出動可能人数」は現地に出動できる実人員を記載してください。（現段階で現地への交通手段、宿泊施設等は検討不要です。）

被災宅地危険度判定 応援要請書

年 月 日

支援市町村長 様

京都府知事

月 日の 地震 ・ 大雨（台風 号）により、 地
域で宅地に甚大な被害が発生し、被災宅地危険度判定が実施されます。

ついては、貴市町村所属公務員判定士の出動について、下記のとおり御協力願います。

記

<判定区域>

<出動要請日時、人数等>

出動要請日時	人数	集 合 時 間	集 合 場 所
月 日	人	午前・後 時 分	
月 日	人	午前・後 時 分	
月 日	人	午前・後 時 分	
月 日	人	午前・後 時 分	
月 日	人	午前・後 時 分	
月 日	人	午前・後 時 分	
月 日	人	午前・後 時 分	

<担当> 京都府建設交通部建築指導課開発指導係

電話 075-414-5344 又は 5347

FAX 075-451-1991

E-MAIL kenchiku@pref.kyoto.lg.jp

被災宅地危険度判定 出動可能日照会書

年 月 日

京都府被災宅地危険度判定士 各位

京都府建設交通部建築指導課長

月 日発生した 地震 ・ 月 日の大雨(台風 号)により、 地域で甚大な被害が発生し、被災宅地危険度判定が実施されます。

ついては、京都府被災宅地危険度判定士のあなた様に、判定士として出動いただける日程についてお伺いしますので、下表により出動可能日を 月 日午前・後時までにFAXで回答願います。

記

<判定区域>

<出動要請期間> 月 日 ~ 月 日

<出動時の持参品> 判定士登録証、ヘルメット、筆記用具、コンベックス、雨具、軍手他

<担当> 京都府建設交通部建築指導課開発指導係

電話：075-414-5344 又は 5347、FAX：075-451-1991

出動可能日回答票

年 月 日

京都府建設交通部建築指導課長 宛 (FAX：075-451-1991)

発信者(判定士)氏名・性別

電話番号

FAX 番号

※終日可能かつ宿泊可能な方は◎、終日可能で宿泊不可の方は○を記載してください。

月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日

正式な出動要請は後日行いますが、出動可能とされた方でも出動依頼しないことがあります。

被災宅地危険度判定士 出動要請書

年 月 日

京都府被災宅地危険度判定士 各位

京都府知事

被災宅地危険度判定士のあなた様に 都道府県 区市町村で
実施される被災宅地危険度判定に出動を要請します。ついては、下記により出動
してください。

記

出動要請日時		集 合 時 間		集 合 場 所	受付担当者
月	日	午前・後	時 分		
月	日	午前・後	時 分		
月	日	午前・後	時 分		
月	日	午前・後	時 分		
月	日	午前・後	時 分		
月	日	午前・後	時 分		
月	日	午前・後	時 分		

集合場所へ到着したら、必ず受付担当者に到着を報告してください。

災害補償等の関係上、帰宅後は別添「帰宅届」を速やかに京都府建築指導課に
提出してください。

判定活動参加への準備物品

(1) 必ず用意するもの

- | | | |
|-----------------------------------|---------------------------------|--------------------------------|
| ☐ 被災地までの食料 | ☐ 判定士登録証 | ☐ ヘルメット |
| ☐ 筆記用具 | ☐ コンベックス | ☐ 雨具・軍手 |

(2) 用意が望ましいもの

- | | | |
|-------------------------------------|-------------------------------|-----------------------------------|
| ☐ 防寒具・水筒・マスク | ☐ 携帯電話 | ☐ 健康保険証の写し |
|-------------------------------------|-------------------------------|-----------------------------------|

注) 出動要請日に出動できない場合は、京都府建築指導課に御連絡ください。

<担当> 京都府建設交通部建築指導課開発指導係

電話：075-414-5344 又は 5347、FAX：075-451-1991

年 月 日

京都府建設交通部建築指導課長 宛
(FAX : 075-451-1991)

発信者(判定士)氏名
電話・FAX 番号

京都府被災宅地危険度判定士 帰宅届

私は、この度実施された被災宅地危険度判定活動に参加し、下記のとおり帰宅したので報告します。

記

出動した場所

出動した日 月 日 ～ 月 日

帰宅した日時 月 日 午前・後 時頃

自宅を出発してから帰宅するまでに身体に負ったけが、病気等の有無（該当個所に○印を付けるとともに、「有」の場合は具体的な状態を記載してください。）

あり ・ なし

<担当> 京都府建設交通部建築指導課開発指導係

電話 075-414-5344 又は 5347

FAX 075-451-1991

別紙様式

災害等廃棄物処理事業及び廃棄物処理施設の被害状況について

市町村等名: 部署名: 担当者名: 連絡先:
年 月 日:現在

1. 災害等廃棄物処理事業

被害をもたらした災害等 (災害等の名称、日付)	市町村名	事業区分 (ごみ処理、し尿処理、漂着ごみ)	災害廃棄物 集積所数	仮置き場数	仮置き場所在地名称	災害等廃棄物量(m3、kl)	事業費見込額 (単位:千円)	被害及び処理の状況

2. 廃棄物処理施設の被害

被害をもたらした災害等 (災害等の名称、日付)	設置主体名	施設名	規模	建設年度	復旧見込額 (単位:千円)	稼働状況	人的・物的被害及び復旧の状況等

3. 浄化槽(市町村設置型)の被害

被害をもたらした災害等 (災害等の名称、日付)	市町村名	施設名	規模	建設年度	復旧見込額 (単位:千円)	稼働状況	人的・物的被害及び復旧の状況等

- 1 報告期限
事案発生日の午後3時(被害が進行中の場合は毎日)
- 2 報告先及び方法
循環型社会推進課及び所管保健所あて、電子メール又はFAXで別紙様式を送信。送信後、電話で送信した旨を連絡。
(電話番号:075-414-4719、4718 FAX番号:075-414-4710 電子メールアドレス:junkan@pref.kyoto.lg.jp)
- 3 その他
(1) コミュニティ・プラント又は浄化槽で被害があった場合は、必要に応じて、本府水環境対策課(075-414-5209)にも連絡のこと。
(2) 報告したものであっても、環境省の補助事業(災害等廃棄物処理事業費補助金等)とならないことがあります。
(3) 環境省の補助事業としないものについては、本事務連絡による報告は不要です。

り災証明書交付願

年 月 日

向日市長 様

願出人 現住所 向日市 町 番地
氏 名
電話番号

世帯主住所	
世帯主氏名	
り災原因	年 月 日の による
被災住家※の 所在地	向日市 町 番地
提出先	(例 〇〇会社、〇〇税務署 など)
目 的	(例 固定資産税減免申請の為、保険金の請求の為 など)

※ 住家とは、現実に住居（世帯が生活の本拠として日常的に使用していることをいう。）のために使用している建物のこと。（被災者生活再建支援金や災害救助法による住宅の応急修理等の対象となる住家）

※ 必ず写真を添付してください。

自己判定方式の実施について

☐ 「準半壊に至らない」（損害割合 10%未満）という調査結果に同意します。

※ 自己判定方式で実施される場合、持参いただいた写真による被害認定を行い、職員による家屋の被害調査は行いません。

り災証明書

世帯主住所	
世帯主氏名	

り災原因	年 月 日の による
------	------------

被災住家※の 所在地	向日市 町 番地
住家※の被害の 程度	☐ 全壊 ☐ 大規模半壊 ☐ 中規模半壊 ☐ 半壊 ☐ 準半壊 ☐ 準半壊に至らない（一部損壊）
浸水区分	

※ 住家とは、現実に居住（世帯が生活の本拠として日常的に使用していることをいう。）のために使用している建物のこと。（被災者生活再建支援金や災害救助法による住宅の応急修理等の対象となる住家）

住宅以外の被害	
---------	--

上記のとおり、相違ないことを証明します。

向証第 号
年 月 日

向日市長

印

り災申し出証明書交付願																													
																				年 月 日									
(宛先) 向 日 市 長																													
															願 出 人					現 住 所					向日市				
																				氏 名									
																				電話番号									
り災日時					年 月 日 時 分頃																								
り災場所					☐ 願出人と同じ(記載の必要はありません。)																								
					☐ 向日市																								
り災原因					暴風・竜巻・豪雨・豪雪・洪水・がけ崩れ・土石流・地震																								
					その他()																								
り災対象					☐ 住家 ☐ 非住家 ☐ 付帯工作物 ☐ 自動車 ☐ 家財道具等の動産																								
					☐ その他()																								
り災内容																													
提 出 先																													
目 的																													
り災申し出証明書																													
上記のとおり、り災申し出を受理したことを証明します。																													
向証第 一 号																													
令和 年 月 日																													
向日市長 安 田 守																													
この証明書は、り災の状況を市に届け出たことを証明するものです。																													
この証明書は、民事上の権利義務関係に効力を有するものではありません。																													

証 明 書

向日市第 年 月 日 号

現 住 所
氏 名

向日市長

下記のとおり、申し出があったことを証明する。

記

日 時	年 月 日 午前・午後 時 分ごろ
場 所	向日市 町 番地
申 出 内 容	

救援物資管理表

物 品 名				
避難所名		住 所		
連 絡 先	TEL			担当者
	FAX			

	日 時	受け数	配布数	残 数
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				

緊急

			第 号
自治体名	発表日時	送信者の所属・氏名	報道機関への送信日時
向日市	年 月 日		年 月 日
	午前 午後 時 分		午前 午後 時 分
確認用電話番号	075-931-1111	緊急用携帯番号	

分類（該当するものに○印）

新規 地域拡大 種別変更 解除

自治体名以外の地名には全て「ふりがな」をつけること。
枠内におさまらない場合は枠を下へ拡大してください。
このために2ページ3ページにわたることになってかまいません。

発表の内容	
事 由	
対象地域（対象世帯数・人数）	避難の確認ができていない世帯数・人数
対象世帯数 人数 総計	避難の確認ができていない世帯数・人数 総計
付加情報（注意事項など特に住民に伝えたい情報）	

資料 3-21 避難情報伝達様式

住民避難に関する指示等の連絡 宛先 ()			第 号
自治体名	発表日時	送信者の所属・氏名	報道機関への送信日時
	平成 年 月 日		年 月 日
	午前 午後 時 分		午前 午後 時 分
確認用電話番号		緊急用携帯番号	

自治体名以外の地名には全て「ふりがな」をつけること。
枠内におさまらない場合は枠を下へ拡大してください。
このために2ページ3ページにわたることになってかまいません。

分類（該当するものに○印）	
新規 地域拡大 種別変更 解除	
発表の内容	
対象地域（対象世帯数・人数）	避難の確認ができている世帯数・人数
対象世帯数 人数 総計	避難の確認ができている世帯数・人数 総計
付加情報（注意事項など特に住民に伝えたい情報）	